

飯 塚 病 院 年 報

Annual Report of ASO IIZUKA HOSPITAL
2 0 2 1

第34号 (令和3年)

WE DELIVER THE BEST

～まごころ医療、まごころサービス

それが私たちの目標です～



飯塚病院



COVID-19 陽性患者入院病床



新型コロナウイルス感染症対策本部



手術支援ロボット「ダビンチ Xi」を使用した手術の様子

序

飯塚病院院長 増本陽秀



飯塚病院の2021年の活動を記録した飯塚病院年報第34号をお届けします。

1年延期となった東京オリンピックが開催されて、日本は過去最多58個のメダルを獲得し、パラリンピックでも史上2番目となる51個のメダルを獲得しました。コロナ禍において賛否両論の中での開催でしたが、テレビ中継につい引き込まれ、無心に戦う選手たちの姿に感動を覚えた方は多かったことと思います。世界各地でも、テニス全豪オープンで大坂なおみ選手が2度目の優勝、ゴルフのマスターズ・トーナメントで松山英樹選手が優勝、ゴルフ全米女子オープンで19歳の笹生優花選手が大会最年少優勝、米大リーグで大谷翔平選手が年間最優秀選手とア・リーグ最優秀野手のダブル受賞など、日本人の活躍が目立ちました。学術分野では、米プリンストン大学の真鍋淑郎博士がノーベル物理学賞を受賞されました。

世界を震撼させているコロナ禍は、ワクチン接種の推進による感染拡大の収束が期待されましたが、獲得抗体価の経時的な低下と、変異株ウイルスのあいつぐ出現により、事態は容易ならざる展開となりました。当院は、職員の安全を守り、地域における使命を果たす基本方針のもと、COVID-19患者対応では呼吸管理の必要な重症者と、血液透析中の感染者や妊産婦の感染者などの特殊症例を中心に診療してきました（前頁中段左の写真）。一般の救急医療や専門医療は可能な限り継続してきましたが、COVID-19対応病床確保のため、一般入院や救急車の受け入れ制限を余儀なくされた時期もあり、域内外の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、お力添えに深く感謝するところです。

当院の新型コロナウイルス感染症対策本部は、COVID-19対策での功績により、麻生グループ社員表彰において経営功労賞を受賞しました（前頁中段右の写真）。オンラインでの歓送迎会や、30年来の歴史を持つTQM活動発表大会のハイブリッド形式での開催など、ウィズコロナ時代の新たな工夫もみられました。今後も新しい発想やITの活用により、希薄になりつつあるコミュニケーションの活性化、一層の業務の効率化と医療の質の向上、そして健全経営の実現に取り組むたいと考えます。

待望の手術支援ロボット「ダビンチXi」が導入され、前立腺がん手術を中心に活用件数が急速に伸びています（前頁下段の写真）。保険適用の拡大とともに、各科手術領域での今後の展開が期待されます。当院職員一同、理念に謳う「まごころ医療」の実現のためさらに力を合わせて参ります。何卒ご支援の程お願い申し上げます。

最後に、本誌の編纂にあたり多大な労力を惜しまず、「日本一のまごころ病院」を目指す飯塚病院のこの1年の歩みを形にいただいた、広報課の皆さんに深甚なる謝意を表します。

目 次

〔I〕 院内の動き

2021年 この1年の歩み	1
COVID-19：対策本部としての対応について	2
COVID-19：入院患者受け入れへの取り組み	4
手術支援ロボット「ダヴィンチXi」の導入について	5
副院長就任にあたって	6
呼吸器外科部長就任にあたって	7
呼吸器腫瘍外科部長就任にあたって	8
呼吸器腫瘍内科部長就任にあたって	9
内分泌・糖尿病内科部長就任にあたって	10
耳鼻咽喉科部長代行就任にあたって	11
眼科部長就任にあたって	12

〔II〕 各部門業績

1. 肝臓内科	13
2. 呼吸器病センター呼吸器内科	14
3. 呼吸器病センター呼吸器外科	16
4. 心療内科	17
5. 内分泌・糖尿病内科	18
6. 消化器内科	19
7. 血液内科	21
8. 総合診療科	22
9. 膠原病・リウマチ内科	23
10. 連携医療・緩和ケア科	24
11. 画像診療科	26
12. 放射線治療科	27
13. リエゾン精神科	28
14. 小児科	30
15. 腎臓内科	31
16. 循環器内科	33
17. 心不全ケア科	35
18. 外科	36
19. 臨床腫瘍科	39
20. 消化管・内視鏡外科	40
21. 肝胆膵外科	42
22. 小児外科	44
23. 整形外科	45
24. 皮膚科	46
25. 泌尿器科	47
26. 産婦人科	48
27. 眼科	50
28. 耳鼻咽喉科	51
29. 脳神経外科	52

30. 歯科口腔外科	53
31. 心臓血管外科	54
32. 血管外科	55
33. 脳神経内科	56
34. 漢方診療科	57
35. 救急科	58
36. 集中治療科	59
37. 形成外科	60
38. リハビリテーション科	61
39. 麻酔科	62
40. 病理科	64
41. 感染症科	65
42. 予防医学センター	66
43. 看護部門	67
44. 医療技術部門	69
45. 経営管理部門	71

〔III〕 診療統計

1. 退院患者統計	73
2. 科別統計表	74
3. 最近5年間の患者数推移	75
4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移	75
5. 最近5年間の年間手術件数の推移	75
6. 科別・年齢別・性別 退院患者数	76
7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数	78
8. 市町村別診療科別紹介件数	80
9. 病理解剖件数内訳	81
10. 手術に関する施設基準および手術件数	82

〔IV〕 執筆業績

1. 発表論文・著書	83
2. 学会発表	93
3. 講演	108

〔V〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録	125
2. 看護部	126
3. 医療安全研修	128
4. 改善勉強会	129
5. 学会を除く学術研修会・勉強会	130

〔VI〕委員会活動報告	37. 臨床検査適正化委員会	173
業務安全ブロック	38. がん診療連携委員会	174
1. 医療ガス安全管理委員会	39. がん集学治療委員会	175
2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会	40. 緩和ケア委員会	176
3. 感染管理委員会		
4. 労働安全衛生委員会	〔VII〕院内報告	
5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会	1. 飯塚病院住民医療協議会活動報告	177
物品購入ブロック	2. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告	178
6. 薬事委員会	3. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告	179
7. 資材委員会	4. 改善活動報告	180
医療の質のモニターブロック	5. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS) 活動報告	182
8. ISO 委員会	6. イノベーション活動報告	183
9. TQM 活動推進委員会	7. 地域包括ケア推進本部活動報告	185
10. クリニカルパス委員会	8. 医学研究推進本部活動報告	187
11. QI 委員会	9. 治験推進本部活動報告	189
12. CS・ES 委員会	10. 当院における分離菌と薬剤感受性	192
医療の安全管理ブロック	11. 研修スケジュール	197
13. 急変対応委員会	12. 研修医募集の記録	198
14. MRM 委員会	13. ファシリティ本部活動報告	200
15. 透析機器安全管理委員会		
16. 病院食サービス委員会	〔VIII〕医師部門および主要職員名簿	
情報管理ブロック	1. 医師名簿	201
17. 情報システム委員会	2. 医師異動	213
18. 診療情報管理委員会	3. 看護師長・主任名簿	216
教育・研修ブロック	4. 医療技術部門役職者名簿	217
19. 研修管理委員会	5. 経営管理部門等役職者名簿	218
20. 図書委員会	6. 主要委員会	219
21. クレデンシャル委員会	①常設委員会	219
22. 手術室業務改善委員会	②看護部常設委員会	220
23. 内視鏡センター業務改善委員会	③医局会 (医局会役員)	220
24. 地域医療支援病院研修委員会		
倫理ブロック	〔IX〕飯塚病院概況 他	
25. 倫理委員会	1. 飯塚病院組織図	221
26. 臨床研究管理委員会	2. 概要	226
27. 治験審査委員会	3. 各学会の認定状況一覧	230
28. 脳死判定委員会	4. 私たちの理念・方針	231
29. 小児虐待防止委員会		
30. 患者行動制限最小化委員会	編集後記	
31. 個人情報保護委員会		
診療の適正化ブロック	※2021年年報に掲載中の組織・役職名等については、	
32. 呼吸管理委員会	2021年12月31日時点のものです。	
33. 褥瘡管理委員会		
34. 栄養管理委員会		
35. 輸血療法委員会		
36. 診療報酬適正管理委員会		

〔 I 〕 院 内 の 動 き

2021年 この1年の歩み

- 1月1日 呼吸器病センター長就任 : 飛野和則 (呼吸器内科部長)
- 1月1日 部長就任 : 安田 学 (呼吸器外科)
- 1月1日 部長就任 : 岩浪崇嗣 (呼吸器腫瘍外科)
- 1月13日 院内成人式
- 2月1日 副院長就任: 中島雄一 (泌尿器科)
- 3月2日 2020年度医師評価表彰式
- 3月12日 2020年度初期研修医修了式
- 3月15日 当院スタッフへのワクチンの先行接種開始
- 3月15日 2020年度後期研修医修了式
- 4月1日 部長就任 : 中間崇仁 (眼科)
- 4月1日 部長就任 : 井上智彰 (内分泌・糖尿病内科)
- 4月1日 入社式
- 4月12日 第29回TQMキックオフ大会
- 5月1日 市町村実施の集団ワクチン接種へのスタッフ派遣
- 5月7日 手術支援ロボット「ダビンチ Xi」運用開始 (泌尿器科)
- 5月12日 Nurse of the Year 2020表彰式
- 6月1日 式典伝達式 (麻生グループ社員表彰)
- 6月30日 学術奨励賞授賞式
- 8月10日 筑豊地域医療連携特別講演会
- 8月15日 土砂災害現場へのドクターカー出動
- 10月15日 新型コロナウイルス感染症治療薬の治験開始
- 10月16日 第29回TQM発表大会
- 11月6日 第30回飯塚病院慰霊祭
- 12月13日 2021年度永年勤続者表彰式
- 12月15日 第32回住民医療協議会
- 12月23日 福岡ソフトバンクホークス 長谷川勇也さんトークショー

COVID-19 ～対策本部としての対応について～

新型コロナウイルス感染症対策本部

本部長 福村文雄

2021年は、1月の緊急事態宣言に始まって、3波、4波、5波を乗り越え、3ヶ月ほどの小休止を挟んで、オミクロン株拡大中で終わりました。

この1年間、特に陽性患者へ直接の診療・ケアに当たっていただいているスタッフの皆さんには特にストレスフルな1年だったと思います。ありがとうございました。また間接的にご支援していただいた皆さんにも感謝いたします。2021年の対応を以下にまとめました。

図1. 2021年の福岡県発生状況

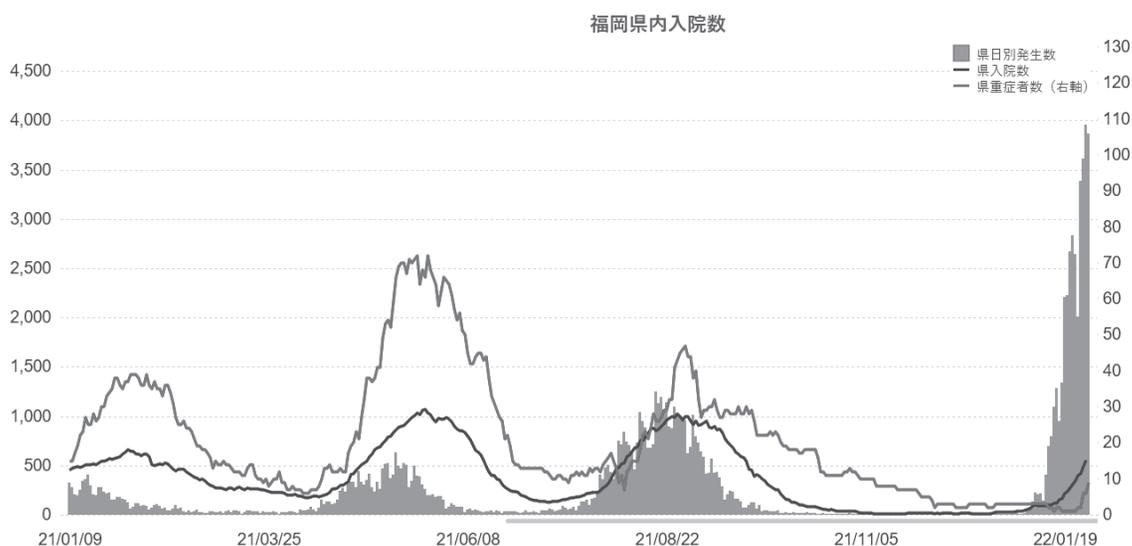


表1. 新型コロナウイルス陽性入院患者集計

	陽性患者 受入総数	重症 (人工 呼吸)	中等症 (酸素)	軽症	うち特殊疾患			
					透析	妊産	小児	精神
第1波 (4月～5月)	2	1	0	1	0	0	0	0
第2波 (7月～9月)	10	4	2	4	0	1	1	0
第3波 (12月～3月)	40	18	20	2	4	0	0	2
第4波 (4月～7月)	36	29	4	3	0	3	0	1
第5波 (7月～10月)	25	13	9	3	0	4	0	0
計	113	65	35	13	4	8	1	3

第3波（12月～3月）

12月にH2救急Bゾーンを4床から6床へ増床し、当院の役割である地域の重症患者を受け入れることとした。人工呼吸器を必要とする重症患者を呼吸器内科、中等症および他疾患合併患者を感染症科に主に担当していただくこととした。また、救急部では陽性重症者の気管挿管を行っているが、交通事故搬送での紛れ込み陽性患者のため濃厚接触職員多数発生し、一時的に救急受入制限が必要となった。そのため緊急入院患者へのPPE対応やPCR検査を整備した。また、高齢コロナ患者の回復には欠かせないリハビリテーションも専従体制を作って積極的に行っていたこととなった。透析患者の受入も必要となり、腎臓内科・看護師・臨床工学技士を加えた連携で対応していただいた。

第4波（4月～6月）

4月下旬から急激な重症陽性患者増加のため、H2救急BゾーンをH2フロア全体に拡大、換気・ゾーニングの改修を行った。H2救急運営のための特に看護人員確保のために、60床の休床を設けました。このため多くの予約入院を制限する措置を執りました。入院患者数は重症を中心に3波のほぼ倍となり最大で14人（うち人工呼吸器7人）が在院する状態となった。呼吸器内科は土日の院内待機を2人に、感染症科はオンコールから院内待機体制へ変更し対応いただいた。一般病棟から多くの応援看護師を派遣し陽性患者対応にあたっていただいた。全入院患者のPCR検査を行うこととし、検査部には夜間当直を増やして対応いただいた。

第5波（7月～10月）

県内陽性患者発生数は4波の2倍であったが、高齢者を中心にワクチン接種が進んだため、重症患者は4波の半数にとどまり、4波と同様の体制で。若い層への感染が多かったため、妊産婦の感染受入が4件ありうち2件は帝王切開が行われましたが、産婦人科、感染症科、病棟、手術室、麻酔科と連携よく対応いただいた。

ワクチン接種

3月より、薬剤部・医務室と連携し、当院で働くスタッフ約2500人への2回の新型コロナワクチン接種を、12月に3回目追加接種を行いました。問診医、実施看護師、薬剤師、事務職の皆さんのご協力のおかげで順調に行うことができました。

面会制限（禁止）や行動規範などを感染流行に合わせて院内規定を変更して参りましたが、職員の皆さんの感染対策のおかげで、幸いにも院内クラスターを一度も起こさずに多くの陽性患者を受け入れることができました。

2022年も新型コロナウイルス感染症の波は、変異株とともに性質を変えながら続いていきそうですが、対策本部としても臨機応変に活動を続けて参ります。

COVID-19 入院患者受け入れへの取り組み

看護管理師長兼救命救急センター師長 渡 邊 恵里子

H2 救急師長 長 田 孝 幸

【経緯】

2020年1月14日に新型コロナウイルス感染者1例目が報道され、同年3月には当院にも対策本部が設置された。「高度医療と3次救急を維持しつつ、重症及び特殊疾患の陽性患者を中心に受け入れ、病院全体で取り組んでいく」という方針のもと、H2救急でのCOVID-19陽性及び疑似症患者入院受け入れが決定した。早急に陰圧部屋、空調設備、透析配管の工事を進めた。その間、病棟看護師は感染管理認定看護師よりPPE（個人防護具）の装着やゾーニングなど感染予防に関する訓練を行った。第1波から第3波ではCOVID-19患者数に応じ救急病床数を調整してきたが、第4波ではCOVID-19患者が爆発的に増加し、H2救急すべての病床を感染症病棟として使用した。

【サポート体制】

第1波ではH2救急・E4救急病棟看護師で対応した。第2波からは救急フィールドだけでは対応できず、看護部全体で協力体制を整え、ICUや一般病棟からの応援看護師と共にケアを行った。理学療法士による呼吸器リハビリでは、呼吸器装着中患者にも腹臥位を積極的に取り入れ、看護師・理学療法士の連携により夜間も継続したリハビリを実施した。

第4波では透析患者でCOVID-19に罹患した患者の受け入れも行った。透析管理では、血液浄化センターより看護師、臨床工学技士の支援を受け安全な透析を行うことができた。

【スタッフの気持ちの変化】

H2救急での受け入れが決定した当初は、未知なるウイルスに対し不安や恐怖を抱いていた。中には家族を守るため車中泊をしたスタッフもいた。しかし、苦しんでいる患者を目の前にすると、不安よりも「看護師として何かできることはないか」という気持ちに変化していった。気持ちの変化と同時にCOVID-19標準予防策の情報が共有されると、PPE装着をしていれば今までと同じケアができるという考えが変わった。

【家族への対応】

患者の中には家族全員が濃厚接触者や他施設に入院しているケースも多く、患者・家族のつながりが断たれた状況だった。当初は面会全面禁止だったが、患者・家族のつながりが維持できるように、FaceTimeやZoomを使用し、画面上でお互いの顔が見えるようなツールを導入した。さらに、患者の状態や入院状況によっては、看護師指導のもと家族がPPE装着を行い直接触れ合える面会も実施した。直接触れ、声をかけることで、家族からは「会うことができてよかった」と言われ、患者・家族だけではなく、看護師にとっても価値あるものとなった。

【おわりに】

現在もCOVID-19患者の対応は継続しており、新種によるパンデミックが起こる可能性も秘めている。H2救急での2年間の経験を元に、病院全体として対応していき、地域の救急医療を担う病院としての役割を行っていきたい。

手術支援ロボット「ダビンチ Xi」の導入について

副院長 中 島 雄 一

ロボット手術は2012年に前立腺がんに対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術が保険適応になったのをきっかけに日本国内で多くの施設に広まりました。その後2016年に腎癌に対する腎部分切除、2018年に縦隔腫瘍、肺がん、食道がん、胃がん、直腸がん、膀胱がん、子宮がん、2020年には心臓の弁形成、膵臓がん、腎盂形成、仙骨腔固定に対する適応が広がり、多くの施設・科で各種手術が施行されています。ロボット手術は日本で導入当初から合併症が少ないと評判で当院でも数年前から導入の検討がなされておりました。

ロボット手術に使用される機械は、手術支援ロボットという位置付けになっており、ロボットが自律して動くわけではなく、ラジコンのように執刀医（コンソールサージョンと呼ばれる）が、遠隔でアームを動かして手術を行います。手術としては腹腔鏡（あるいは胸腔鏡）手術をロボットアームで行うとイメージいただくと良いと思います。実際には術者がサージョンコンソールと呼ばれる操作機器に座り、マニピュレーターと言われる機械を手に装着し、これと両足のペダルを用いて、1本のカメラと3本のロボットアームを操作して手術を行います。カメラは複眼式になっており自然な3D画面が表示され、またロボットアームの鉗子先端部分が360°回転するため、通常の人間の手や鏡視下手術の鉗子と比べ通常では不可能な動きが可能となり、また手振れ補正にて手技が正確に行うことが出来ます。これらの技術によって患者さんにとっては小さな創で合併症を減らした手術を行うことが出来るようになり、外科医にとっても手術ストレスを軽減させ、安全・正確な手術を行う事が出来るようになり、患者さん外科医いずれにおいてもメリットの多い手術となります。

現在この手術支援ロボットはダビンチと国産のもの大きく2つがありますが、当院には2021年5月に念願の最新式のダビンチ Xiが導入されることになり稼働開始いたしました。福岡県は国内でもロボットの数が多く2021年9月現在で16台が稼働していますが、当院に導入されたものが最後でかつ筑豊地区では初めてとなっています。

運用状況としては、導入後現在は泌尿器科の前立腺がん、腎がんの部分切除のみの施行となっていますが、12月までに前立腺がん20件、腎がん6件の手術を施行しており、いずれも7～10日程度の入院期間で退院されており、大きな合併症なく順調な状況で、2022年は新たに呼吸器外科の使用開始がすでに決まっており、時期をみて他の科でも利用した手術を開始してゆくこととなります。手術適応や手技については多少の施設差もありますので適応をお考えの場合は、該当科にご相談いただきますようよろしくお願いいたします。

副院長就任にあたって

副院長 中 島 雄 一

2021年2月1日付けで副院長を拝命いたしました。また同時に手術フィールド長、外科入院フィールド長、医療の質モニターブロック長を梶山前副院長から、改善推進本部長を福村特任副院長から引き継いで担当させて頂く事となりました。

私は平成元年に福岡大学医学部を卒業後、同泌尿器科学教室に入局しました。院外研修期間には田川にいたこともあり、飯塚病院にはその当時から患者さんの紹介や抄読会、カンファレンス等お世話になっておりました。2007年1月に医局人事にて急遽飯塚病院の部長として派遣されることとなり、大学時代には小児泌尿器科中心の診療を行ってきた私には、成人症例が豊富でかつ重症例も多い当院へ就任させていただくことは非常な重責と感じたことを今でも覚えております。今回、副院長を拝命し、ほぼ未知の分野である管理・経営というところへ足を踏み入れることになったことは、ここに来た時以上に重く大きな責任を痛感させられることとなりました。

泌尿器科は外科系の中でも後で分かれて出来た科であり、その守備範囲が非常に広いことが特徴です。癌、排尿障害、尿路感染などがメジャーですが、小児・形成手術や不妊医療、腎移植、透析etc.と非常に多岐にわたるため、新しいものを取り入れる傾向が強く、私が入局した平成以降は特に大きな変革を遂げています。手術ではESWLが登場し、開腹手術であったものが現在はロボット手術が中心となっています。やっとなんか抗がん剤治療の走りであったものが、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬併用へと変わり、当時の知識が役に立たない状態になっているところか、2.3年でおいて行かれてしまうような状況になっているのが現状です。そんな泌尿器科診療を行いつつも飯塚病院に来て出会ったものがKAIZEN活動、TQM活動で2013年から8年を超えてTQM委員長をさせていただいており、やっとなんかPDCAを回すことや活動自体が人材育成になることが、少し分かりかけてきた気分になってきたところです。今回このTQM活動推進委員会を含む医療の質モニターブロック、及びこの活動をバックアップする改善推進本部長を任されたことは、当院の伝統となりつつあるKAIZENに更に注力し、目指す“日本一のまごころ病院”に近づけるように努力をする所存です。

また手術フィールド・外科フィールドの非常に大きな分野のサポートを行う任も仰せつかりました。ここについては外科系の皆様の負担が少しでも解消できるよう、また時代の流れに置いて行かれないように精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

呼吸器外科部長就任にあたって

呼吸器外科部長 安田 学

2021年より呼吸器外科部長に就任致しました安田 学と申します。私は1995年に産業医科大学を卒業し、第2外科（現呼吸器・胸部外科）に入局、研鑽を積んでまいりました。私が呼吸器外科医として働き始めた1990年代当時の呼吸器外科は、拡大手術全盛の時代でした。手術操作のため創部はなるべく大きく広げ、可能な限り病変を切除するのが基本でした。その後、2000年代からは低侵襲手術の時代へと変遷していきました。手術アプローチは創部を広げる（開胸）手術から内視鏡（胸腔鏡）手術へ、切除範囲は肺葉切除から区域切除へと変化していき、今や高齢者でも術後1週間程度で歩いて退院できる時代となりました。

当院ではさらに低侵襲手術を推進しており、2018年10月より小型肺病変に対しハイブリッド手術室でコーンビームCT撮影併用胸腔鏡手術を始めました。さらに2021年1月からはロボット支援手術も開始し、常に時代の低侵襲化を意識した手術を行っています。また総合病院の強みを活かし、他科と連携した拡大手術や周術期治療・管理を行うことで、多様な疾患に対応しています。

今後は手術を中心とした臨床研究や臨床試験にも積極的に取り組んでいくことで、新規治療の機会が筑豊地域に増えるよう、また患者さんが安心して地元で治療を完結できるよう、尽力していきたいと考えます。

これからも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

呼吸器腫瘍外科部長就任にあたって

呼吸器腫瘍外科部長 近石 泰弘

2021年10月より呼吸器腫瘍外科部長に就任致しました近石泰弘と申します。香川県の丸亀高校という地方の公立高校出身であり、2004年に産業医科大学を卒業後、母校の第2外科（現呼吸器・胸部外科）に入局、研鑽を積んでまいりました。また、個人的な話になりますが、小、中、高、大学と野球に勤しんでおり、現在はマラソンで外科に必要な体力を養っております。

さて、私は、長く肺癌治療の手術療法に携わっておりますが、医師として働き始めた頃は開胸手術から、低侵襲手術への移行期でありました。医師になった当初は、20cm以上の皮膚切開のもと、筋肉、肋骨を切断する開胸手術が主流であり、呼吸器外科の手術は患者さんにとって非常に大きな侵襲を伴うものでした。それが、テレホンカードサイズの創で胸腔鏡と直視を併用で行う、胸腔鏡補助下の手術（hybrid手術）、さらに現在では約4cmの皮膚切開と2カ所の穴を用いた完全鏡視下の手術が主流となり、より低侵襲な手術へ進化しております。それに伴い、最近では80歳以上の高齢者であっても術後4日程度での退院なども珍しくなくなりました。また、今年からはダヴィンチというロボット支援下の胸腔鏡手術を行うようになり、飯塚病院呼吸器外科の肺癌手術は新たな領域に向かっていると感じています。

進行肺癌における薬物治療は、この20年近くの間分子標的薬、さらには免疫チェックポイント阻害剤が登場し、進行肺癌の治療成績は目覚ましい進歩を遂げております。一昔前であれば手術が困難な患者さんも、薬物治療の併用で手術可能となり、根治が得られるケースも珍しくなくなりました。当院においても、呼吸器病センターの同志である呼吸器内科、呼吸器腫瘍内科と連携し、集学的治療を積極的に行っております。さらに、最近の臨床研究において、手術可能な患者さんに対して、周術期に分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を使用し、良好な治療成績が得られており、今後数年で周術期薬物療法も大きく変化を遂げる可能性があります。

ここ十数年、日本人の癌死因原因は肺癌がトップであり、年間7万人を超える患者さんが肺癌でお亡くなりになっているのが現実であります。ただし、それに抗うべく、肺癌の治療も日々進歩しており、当科からも手術を中心とした臨床研究に積極的に取り組むことにより肺癌治療の進歩に貢献していきたいと考えております。これからも、筑豊地区の肺癌患者さんに最先端の治療を届けられるように、日々尽力していく所存です。

皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

呼吸器腫瘍内科部長就任にあたって

呼吸器腫瘍内科部長 靄野 広介

昨今、進行肺癌における治療として、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、多数の新規薬剤の開発が進み、生活の質を維持しながら5年以上の生存が得られる患者さんもみられるようになりました。ただ、依然として、本邦における癌の部位別死亡数、ならびに罹患数では、男女ともに肺癌が上位の状況が続いています。そのような背景のもと、より質の高い肺癌診療を実現すべく、2013年10月に呼吸器病センターが開設され、呼吸器腫瘍外科とともに呼吸器腫瘍内科を立ち上げ、今回2021年9月より、呼吸器腫瘍内科部長に就任させていただくこととなりました。

呼吸器腫瘍内科の目標・理念は、複雑化した肺癌診療を円滑に進め、より満足度、質の高い診療を患者さんへ届けるとともに、肺癌診療に携わる現場のスタッフが無理なくやりがいを持って働けるような環境作りをしていくことです。

肺癌診療は個別化医療が進み、個々の患者さんを遺伝子レベルで評価し、最適な治療を提示させていただきますが、そのためには肺癌病変から評価に値する十分量の組織検体を採取する必要があります。当科では一般的に広く行われている気管支鏡下の生検に加え、超音波ガイド下の気管支鏡下生検や経皮的生検、さらに局所麻酔下胸腔鏡検査なども行っており、安全に適切な組織を採取するよう心がけています。また、毎週キャンサーボード形式でカンファレンスを行い、組織や遺伝子など諸々の検査結果に加え、患者さんの生活背景や価値観なども踏まえ、治療方針に関する検討を行っています。治療に際しては、標準治療以外にも臨床試験や治験にも積極的に参加するよう心がけており、筑豊地域から肺癌診療の向上に少しでも貢献できればと思っています。

また、治療の複雑化に際して、人的ミスの予防や副作用マネジメント、他診療科とのスムーズな連携も重要です。院内勉強会などを通してスタッフへの教育、情報共有を継続していきたいと思っています。さらに、看護師や薬剤師ら他職種とのカンファレンスも定期的に行い、肺癌診療の現場における問題点を抽出し改善、解決し、スタッフがより満足度が高く、働きがいのある環境作りにも協力していければと思っています。

筑豊地域における肺癌診療の中心的な病院であることを心に留め、より良い肺癌診療を実践していけるよう尽力してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

内分泌・糖尿病内科部長就任にあたって

内分泌・糖尿病内科 井上 智 彰

この度、2021年4月1日付けで前部長である堀内俊博先生の後任で内分泌・糖尿病内科部長として赴任致しました。昨年までは、九州大学大学院医学研究院病態制御内科学講座で糖尿病の臨床研究・基礎研究に携わっておりました。これまでの経験を飯塚病院での診療に活かしていきたいと思っております。

糖尿病患者数は年々増加の一途を辿っており、2016年に発表された国民健康・栄養調査では『糖尿病が強く疑われる者』、『糖尿病の可能性が否定できない者』はいずれも1000万人と推計されています。糖尿病が強く疑われる者の人口に対する割合は男性16.3%、女性9.3%であり、年齢が高いほど糖尿病患者の割合が高くなる傾向にあります。糖尿病は自覚症状がなくても、血糖コントロールが不良のまま経過すると、網膜症、腎症、神経障害、心筋梗塞、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症等の主に血管障害を中心としたさまざまな合併症を生じます。当院では、他の診療科とも連携しながら、医師、糖尿病療養指導士、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士らとともに一丸となった「チーム医療」を実践しております。血糖コントロールが不良な患者さんはもちろんのこと、糖尿病の教育を行いたい患者さん、合併症でお困りの患者さん等いらっしゃいましたら、ご紹介していただければ幸いです。

内分泌疾患に関しましては、頸部エコーを施行することが増加していることもあり、甲状腺腫瘍や甲状腺機能異常（バセドウ病・橋本病）の検出率が増加しています。甲状腺腫瘍に関しては週1回、木曜日午後に穿刺吸引細胞診を施行し診断確定を行っております。また、高血圧の5-15%を原発性高アルドステロン症が占めると言われており、二次性高血圧のスクリーニングで、副腎ホルモンの異常が発見される患者さんが増加しております。当科では画像検査・各種負荷試験を行い二次性高血圧の診断を行い、内服加療や泌尿器科と連携し手術（副腎摘出術）による加療を行っております。その他の内分泌疾患（副甲状腺、下垂体など）についても負荷試験などの精査を積極的に行っておりますので、内分泌疾患でお困りの症例がございましたら、是非、ご紹介をお願いいたします。

今後筑豊地区の糖尿病・内分泌疾患の医療発展のために、精一杯尽力するつもりでありますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

耳鼻咽喉科部長代行就任にあたって

耳鼻咽喉科部長代行 佐藤文彦

この度、麻生丈一朗前部長の退職に伴い、2021年5月より耳鼻咽喉科部長代行を拝命致しました。私は2013年に久留米大学を卒業し、聖マリア病院で初期臨床研修を終えた後、久留米大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座に入局しました。久留米大学大学院医学研究科（病理学）を卒業後、久留米大学病院での診療を経て、2020年4月に飯塚病院に出向となりました。

耳鼻咽喉科では、中島格久留米大学名誉教授・当院顧問にもご協力いただき毎日の午前中の外来診療と、月・水・金曜日の終日に手術を行っています。扁桃周囲膿瘍、急性喉頭蓋炎などの急性炎症性疾患、突発性難聴などの急性感音性難聴といった緊急入院が必要な症例から、鼻・副鼻腔疾患、頭頸部腫瘍、中耳疾患などで手術が必要な症例、頸部膿瘍など緊急手術を要する症例など多岐に渡って診療を行っています。他科の先生方には、嚥下障害診療や呼吸不全患者に対する気管切開術などを中心とし、多くの症例をご紹介いただいております。入院患者の7割程度は悪性腫瘍の患者です。地元で治療を行いたいという患者さんのニーズにも答えるべく、人員不足ではありますが、可能な限り当院での治療を心がけています。形成外科・消化器外科・脳神経外科などと合同で行う再建手術を必要とする症例は他院へ紹介せざるを得ない状況ですが、耳鼻咽喉科のみで完結できる手術や化学放射線療法、再発・転移に対する化学療法などは積極的に行っています。2021年度より免疫チェックポイント阻害薬や分子標的治療薬などのレジメンを追加し、当院で治療を行った頭頸部癌患者数は増加傾向にあります。今後も、更なる頭頸部癌治療の充実を図って参りたいと思います。

筑豊地域で入院および手術が行える数少ない耳鼻咽喉科として、今後も治療の質を向上させていきたいと考えています。皆様にご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

眼科部長就任にあたって

眼科部長 中間 崇 仁

2021年度より飯塚病院眼科部長を拝命いたしました中間崇仁と申します。

2008年に九州大学を卒業、松山赤十字病院と九州大学病院で初期研修を行い、2010年に九州大学眼科に入局しました。2012年には大学院へ進学し、増殖硝子体網膜症や糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症など眼内線維血管増殖に関する基礎研究を行い、学位を取得しました。大学院修了後、2016年から2年間飯塚病院で勤務し、その後九州大学での病棟主任などを経て2021年度から飯塚病院へ戻って参りました。

当院は筑豊地区の基幹病院として、眼外傷や網膜剥離、緑内障発作、動脈閉塞症などの急性疾患から糖尿病網膜症や緑内障、加齢黄斑変性症などの慢性疾患まで幅広く診療出来るような体制を整えております。手術に関しても、眼腫瘍手術や涙道鼻腔吻合術など一部を除いて当院で対応出来る状態です。内科的疾患として、ぶどう膜炎や視神経疾患などの精査も行えますし、NICUでの未熟児網膜症の診断・治療も行っております。総合病院の利点を活かして、随時他科と連携しながら、他疾患を合併しクリニックでは治療が難しいような症例にも対応致します。

近年の眼科治療の変遷は激しいため、常にアンテナを張り、院内外で情報のアップデートを図って最新の治療を提供出来るように体制を維持していく所存です。また、若手医師の教育も当院の責務と考えており、研修医から眼科専攻医まで、眼科診療の考え方から手術手技まで、患者さんにご迷惑をおかけしない範囲内で少しでも多く身につけてもらえるように努めております。

眼科は2021年度、常勤医が総入れ替えとなり、加えて人数も5名から4名へと減員となりました。そのため、近隣の先生方にはご迷惑をおかけした部分も多分にあったと存じますが、マンパワーは減った中でも2021年の年間手術件数は2020年とほぼ同様とすることが出来ました。新型コロナウイルス感染症の影響も残る中でこのような1年にすることが出来たのも、近隣の先生方のご協力のおかげかと存じます。今後はさらに病診連携を深めて、筑豊地区の基幹病院として求められる機能をしっかりと果たせるよう努力していく所存です。特に以前より問題となっている手術待機期間や外来待ち時間の長期化などに関しては、積極的に対策を講じていく所存ですので今後ともご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

〔Ⅱ〕各部門業績

1. 肝臓内科

肝臓内科部長 本村健太

2021年も2020年同様、当院の通常診療機能は維持できたため、肝疾患診療への大きな影響はなく、例年とほぼ同等の診療内容が継続できました。今年新しいトピックと言えるような事項はないのですが、昨年トピックとして挙げた、手術不能肝細胞癌に対する新しい全身化学療法として2020年11月から保険適応となった「アテゾリズマブ・ベバシズマブ」併用療法がすでに50例近くの症例に導入され、十分な臨床経験を積むことができています。また、CT撮影可能な血管造影室で施行する経皮的ラジオ波焼灼療法も当科の看板ですが、週刊朝日MOOK「手術数でわかるいい病院2021」によると、ラジオ波焼灼療法の件数は95件で九州・沖縄では1位でした。

1) 疾患別内訳（重複あり）

病名	件数	男	女	平均年齢
肝細胞癌	334	253	81	73.9
肝硬変	422	316	106	68.1
アルコール性肝障害	22	17	5	58.1
胆管癌	52	27	25	73.2
胆嚢癌	14	5	9	77.7
胆管細胞癌（肝内胆管癌）	34	21	13	73.3
急性胆嚢炎・胆管炎	200	110	90	72.3
肝膿瘍	10	7	3	73.4
消化管出血	11	6	5	64.4

2) 検査・治療件数

処置	患者数
経皮的ラジオ波焼灼療法	86
肝動注塞栓術	90
分子標的薬新規導入	61
インターフェロンフリー治療新規導入	41
PTGBD、PTCD	73
腹水濃縮再静注法（CART）	103
ERCP・IDUS・胆道内視鏡	69

総退院患者数	817人
男	544人
女	273人
急患入院数	357人
（内救急車数）	90人
予約入院数	460人
平均在科日数	13.1日
平均年齢	69.6歳

3) 死亡例内訳

死因	患者数
原発性肝癌	25
（肝細胞癌 21）	
（肝内胆管癌 4）	
肝硬変	8
胆管癌	3
胆嚢癌	1
アルコール性肝不全	1
自己免疫性肝炎	1
肝膿瘍＋膿胸	1
その他	6
計	46

その他の内訳：胃癌、肺小細胞癌、
軽鎖沈着症、誤嚥性肺炎、消化管出血

2. 呼吸器病センター 呼吸器内科

呼吸器内科部長 飛野和則

2021年は、12名のスタッフと6名の専攻医で診療にあたりました。また、2021年12月末でスタッフである吉松が英国留学のため退職いたしました。吉松へのこれまでのご厚情、誠にありがとうございました。当科から直接の海外留学は初めてであり、スタッフ一同誇らしく思っております。

皆様ご存知の通り、今年もCOVID-19の対応に追われた1年間でした。総合診療科と協力の上、細菌性肺炎は総合診療科で担当し、当科では最前線でCOVID-19の診断・治療に当たる、という役割分担を行っております。ご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

入院を要した疾患の最多は肺癌でしたが、間質性肺疾患が肺炎を初めて超えて2位となりました。コロナ禍の中でも、肺癌、喘息、COPDについてはそれぞれ新薬が登場し、間質性肺炎の診断法は徐々に新技術であるクライオバイオプシーに移行するなど、目まぐるしい進化が起きています。我々は常に知識と技術のアップデートを行い、最新の診療を提供できるよう努力してまいり所存です。学会発表、論文発表のアクティビティも2020年同様保っており、2021年も10本以上の原著論文・症例報告を英文で発表することができました。

2021年はコロナ禍のため、「筑豊呼吸器RENKEIの会」を開催することができませんでした。ぜひ2022年こそは、と考えておりますので、感染状況が安定次第またFace to Faceでお話させていただきたいと考えております。今後もこれらの活動を通じ、新型コロナウイルス感染症診療を含めた診療の質の向上、地域医療の発展、飯塚発のエビデンス構築につなげてまいります。

1) 入院患者疾患別内訳（2021年）

疾患	延べ症例数	疾患	延べ症例数
総数	1,478	間質性肺疾患	178
腫瘍性疾患	773	(内訳) 特発性・膠原病関連・薬剤性	166
(内訳) 肺癌	760	放射線肺炎	3
転移性肺腫瘍	4	その他	9
胸腺悪性腫瘍	6	気道疾患	106
胸膜中皮腫	3	(内訳) 喘息	32
感染症	256	COPD	73
(内訳) 肺炎／肺化膿症	152	気管支拡張症	1
胸膜炎／膿胸	22	気胸	43
気管支炎	5	胸水	20
結核	2	喀血・血痰	20
COVID-19	57	睡眠時無呼吸	24
その他の感染症	18	その他	58

内視鏡検査（気管支鏡、胸腔鏡）実績表				
	2018年	2019年	2020年	2021年
総件数	438	454	334	366
観察、痰吸引、気管洗浄	427	434	321	350
直視下生検	26	27	17	7
末梢擦過及び生検	310	317	219	183
BAL	80	70	46	53
胸腔鏡	9	9	9	40
EBUS-TBNA	28	23	31	24
EBUS-GS	71	38	45	53
EWS 充鎮	4	2	2	17
マイクロ波凝固術	1	0	0	0
サーモプラスティ	3	1	0	0
クライオバイオプシー	10	24	24	36
バルーン拡張術/ ステント留置	2	0	1	0
悪性腫瘍に対する 気管支鏡での診断率	86% (170/197)	84.6% (187/221)	85.6% (185/216)	87.4% (195/222)

3. 呼吸器病センター 呼吸器外科

呼吸器外科部長 安田 学

2021年は安田 学、西澤夏將、苗代詢子および呼吸器腫瘍外科の岩浪崇嗣の4名のスタッフで診療を開始しました。3月に西澤夏將先生が退職（産業医科大学大学院に）、産業医科大学外科専門研修プログラム苗代詢子先生が退職（産業医科大学病院に）、4月に呼吸器外科スタッフとして近石泰弘先生が赴任（下関市立市民病院から）、産業医科大学外科専門研修プログラム楫山健太先生が赴任（北九州総合病院から）・7月に退職（産業医科大学病院に）、10月に呼吸器腫瘍外科の岩浪崇嗣先生が退職（北九州総合病院へ）、呼吸器外科スタッフとして篠原伸二先生が赴任（産業医科大学病院から）しました。

2021年の手術数は297例（2020年230例）、うち肺癌手術は154例（2020年129例）でした。研究業績は論文発表1題、学会発表9題（上級演題2題）でした。

本年はスタッフ減員・新型コロナウイルス感染症拡大による手術延期等、苦難続きの1年でしたが、呼吸器内科の先生方や各部署（外来・病棟・手術室）の皆さんに支援して頂き、従前の手術数および肺癌切除件数に戻すことができました。2022年はロボット支援手術を含め、さらに頑張っていきたいと思います。

1) 手術件数（2021年1-12月）

疾患名		術式（カッコ内は胸腔鏡手術件数）	
原発性肺癌	154	肺部分切除術	41 (36)
		肺区域切除術	15 (11)
		肺葉切除術（二葉切除も含む）	94 (70)
		気管支形成を伴う肺葉切除	2
		肺全摘術	1
		審査開胸など	1 (1)
転移性肺腫瘍	19		
縦隔腫瘍	17		
気胸	27		
膿胸	23		
その他	57		
総数	297		

4. 心療内科

心療内科部長 木附 康

2021年も常勤医は1名体制のままでしたが、橋口医師には非常勤医師として引き続き週2回の外来をご担当いただき、大学医局から須藤教授と吉原医師にも引き続き月1回ずつ来ていただきました。新患数は、2020年が169名でしたが、2021年は187名と増加しました。新型コロナウイルス感染症の影響はあったと思われまます。疾患（第一病名のみ）の内訳は、狭義の心身症の割合が14%とここ数年は低めで推移しています。心身症であっても有効な薬が開発され、専門科において各々心身症を診る傾向があるためと思われまます。うつ病・うつ状態の割合が36%とここ数年は増加傾向です。不安に伴う疾患の割合は20%と2020年の18%からやや増加しています。今後も引き続きチーム医療・最適医療を推進し、診療の質の向上に努めたいと思ひまます。

1) 外来新患内訳 (2021年1月～2021年12月)

病 名	計	男性	女性
心身症	26	9	17
循環器心身症	0	0	0
呼吸器心身症	4	1	3
消化器心身症	7	3	4
内分泌系心身症	0	0	0
その他心身症	15	5	10
自律神経失調症	9	3	6
摂食障害	1	1	0
頭痛	2	0	2
その他	3	1	2
うつ病・うつ状態	69	16	53
不安に伴う疾患	37	10	27
パニック障害	6	2	4
不安障害	24	5	19
社交不安障害	6	3	3
強迫性障害	1	0	1
疼痛性障害	2	1	1
不眠症	2	0	2
その他	51	17	34
更年期症候群	0	0	0
適応障害	20	7	13
身体表現性障害	13	1	12
その他の精神疾患	16	8	8
その他の身体疾患	2	1	1
総計	187	53	134

5. 内分泌・糖尿病内科

内分泌・糖尿病内科部長 井上智彰

2021年は常勤医師5名で糖尿病及び内分泌疾患の診療を行っております。昨年度より内分泌学会認定教育施設と認定され、内分泌を専門とする医師も引き続き常勤しており、内分泌診療も充実してきております。

糖尿病の分野では大規模臨床試験の結果から、腎保護及び心保護目的にSGLT2阻害薬やGLP-1受容体作動薬が使用される頻度が増えてきております。SGLT2阻害薬は、昨年度より慢性心不全の適応、今年度より慢性腎臓病・糖尿病性腎症の適応が追加され、また経口GLP-1受容体作動薬も長期処方が可能となりました。当科でも合併症予防のエビデンスのある薬剤を積極的に使用しつつ、透析予防外来や栄養指導・看護外来など多職種で連携しながら合併症予防に努めております。

今後も医師、看護師、管理栄養士、薬剤師によるチーム医療を充実させ、筑豊地区の医療に貢献して参りたいと思っております。

1) 入院患者疾患別内訳（2021年）

病名	総計	急患	性別		年齢 (平均値)	在科日数 (平均値)
			男	女		
糖尿病	237	23	133	104	63.4	9.8
2型糖尿病	203	14	116	87	65.0	9.7
1型糖尿病	25	8	9	16	51.6	9.9
膵性糖尿病	6	0	5	1	63.7	10.3
その他の糖尿病	3	1	3	0	56.7	12.7
内分泌疾患	28	3	10	18	59.1	5.3
副腎皮質機能低下症	9	2	3	6	54.0	4.8
副腎腫瘍	5	0	1	4	66.4	4.2
原発性副甲状腺機能亢進症	4	0	2	2	61.8	5.0
バセドウ病	3	1	1	2	53.3	8.0
下垂体腫瘍	3	0	0	3	63.7	5.0
原発性アルドステロン症	2	0	1	1	59.5	7.0
副甲状腺機能低下症	1	0	1	0	72.0	4.0
中枢性尿崩症	1	0	1	0	47.0	8.0
その他	11	5	1	10	59.7	7.6
その他	11	5	1	10	59.7	7.6
総計	276	31	144	132	62.9	9.3

6. 消化器内科

消化器内科部長 久保川 賢

2020年に引き続き、2021年も新型コロナウイルス感染拡大の影響を非常に多く受けた年となりました。

2020年度の経験を下に、外来・病棟・内視鏡センターいずれにおいても、引き続き嚴重な感染対策を継続し、診療を行ってまいりました。幸い、これまで内視鏡検査を介した感染の波及や外来・病棟におけるクラスター発生などもみられておりません。

2020年前半に比べると増加傾向となりましたが、内視鏡検査件数は、まだコロナ感染拡大が起こる前までは回復していないのが現状です。内視鏡検査数はまだ完全には回復していませんが、早期消化管癌に対する安全で確実な内視鏡手術（切開剥離術：ESD）、緊急処置や術後胃などの高度な技術を要する胆膵内視鏡治療、食道・胃のみならず、十二指腸や直腸など異所性静脈瘤を含めた専門医による静脈瘤治療などはこれまで同様、充実した内視鏡専門医の下、さらなるレベルアップを図ってきており、最近増加傾向にある潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患の診療にも力を入れ、診療を行っています。

2022年度もまだまだ続くと思われるコロナ禍の中、徹底した感染防護の下、安全でより充実した消化器診療を患者さんに提供できるよう消化器内科全員で尽力してまいります。

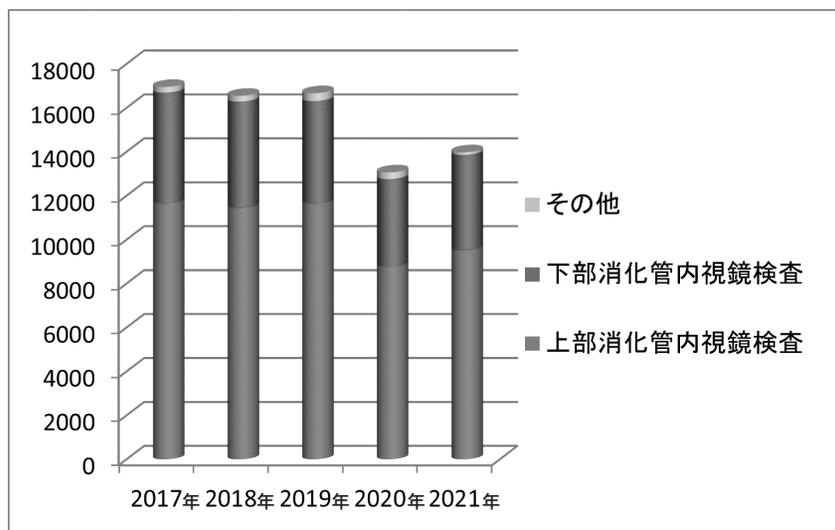
1) 入院患者疾患別内訳（2021年）

病名	計	病名	計
悪性腫瘍	480	良性腫瘍・ポリープ	614
肝・胆・膵悪性腫瘍	208	その他の部位	8
大腸悪性腫瘍	120	胃・十二指腸ポリープ	4
胃悪性腫瘍	103	胃良性腫瘍	8
食道悪性腫瘍	29	小腸良性腫瘍	5
その他の部位	9	食道良性腫瘍	3
悪性リンパ腫	7	大腸良性腫瘍	539
小腸悪性腫瘍	4	腸のその他の疾患	45
静脈瘤	66	膵臓良性腫瘍	2
食道静脈瘤	57	その他	559
胃静脈瘤	8	胆嚢・胆管結石	193
その他	1	腸のその他の疾患	183
腸炎	42	その他	51
潰瘍性大腸炎	27	膵炎	36
クローン病	10	胆嚢・胆管炎	31
感染性腸炎	3	胃・十二指腸その他の疾患	13
その他の非感染性腸炎	2	逆流性食道炎	10
潰瘍	83	肝・胆・膵その他の疾患	8
胃潰瘍	46	消化器系のその他の疾患	8
十二指腸潰瘍	25	貧血	8
腸潰瘍	6	痔核	5
その他	6	マロリー・ワイス症候群	4
良悪不詳の腫瘍	26	食道のその他の疾患	3
胃腫瘍	14	ヘルニア	2
肝・胆・膵腫瘍	6	炎症性肝疾患	2
小腸腫瘍	3	腹膜の疾患	2
大腸腫瘍	3	総計	1,870

2) 最近5年間の消化器内視鏡検査件数

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
上部消化管内視鏡検査	11,667	11,458	11,658	8,780	9,525
下部消化管内視鏡検査	5,031	4,831	4,656	3,983	4,335
その他	260	262	358	304	122
総件数	17,040	16,658	16,767	13,140	13,672

3) 最近5年間の内視鏡検査件数の推移



2021年消化器内視鏡検査数(内訳)

診療内容	件数
総数	13,672
上部内視鏡検査(総数)	9,647
下部内視鏡検査(総数)	4,335
EUS(上部)	1,242
EUS(下部)	355
EUS-FNA	128
EMR(上部)	4
EMR(下部)	485
ESD(上部)	91
ESD(下部)	51
ポリペクトミー(上部)	0
ポリペクトミー(下部)	461
緊急内視鏡検査	363
内視鏡的食道静脈瘤治療	140
内視鏡的止血術	329
内視鏡的異物摘出術	32
内視鏡的消化管狭窄拡張術	72
経皮内視鏡的胃瘻造設術	8
経皮内視鏡的胃瘻交換(抜去)	26
ERCP・EST	645
小腸内視鏡	31
カプセル内視鏡	23
経鼻内視鏡検査	142
その他の内視鏡	122

7. 血液内科

血液内科部長 白土基明

2021年は4月から常勤医6名（育児中時短勤務、専攻医含む）、非常勤2名になり2020年度よりも体制が強化されました。2020年にスタッフ数の減少と新型コロナウイルスの流行によって減少した患者数はこの1年で回復し、特に外来新患数は過去最高を記録しましたが、入院、外来ともスタッフの層が厚くなり対応力も増しました。人員の増加により交代で休みが取りやすくなり、働き方改革の実践にもつながっています。また、ローテーターなどの若手教育にも益々力を入れるとともに、治療薬が増えて複雑になっている血液疾患診療のレベルアップのため、抄読会やカンファレンスを通じて最新の知識を共有するよう心がけ、充実した医療を提供できるよう努めて参ります。

総退院患者数：545 件

外来新患数：668 件

診 断 名	新患 入院数	退院 患者数	平均 在院 日数	平均 年齢	男	女
急性骨髄性白血病	23	91	36.5	64.2	70	21
急性リンパ性白血病	2	4	26.8	58.3	3	1
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法あり）	11	53	17.6	73.5	34	19
骨髄異形成症候群（経過中に化学療法なし）	5	8	14.4	86.8	5	3
慢性骨髄性白血病	7	11	18.0	63.3	4	7
その他の骨髄増殖性疾患	1	1	13.0	71.0	1	0
非ホジキンリンパ腫	71	218	27.2	70.7	118	100
ホジキンリンパ腫	5	13	31.2	60.3	6	7
多発性骨髄腫	22	64	26.9	73.0	37	27
成人T細胞性白血病・リンパ腫	8	28	25.3	75.5	18	10
その他のリンパ増殖性疾患（CLL など）	3	5	28.6	65.4	4	1
再生不良性貧血	6	15	27.5	71.4	6	9
溶血性貧血	1	1	43.0	73.0	0	1
特発性血小板減少性紫斑病	13	18	34.4	75.1	10	8
その他	11	15	16.6	62.3	7	8
合 計	189	545	27.4	70.0	323	222

骨髄穿刺件数（2021年）：524 件

8. 総合診療科

総合診療科部長 井村 洋

1. コロナ禍にありながら例年よりも入院数を増やし、新入患者数は平均241名/日（最大260名）であり、入院患者数は平均で130名/日（最大150台）であった。
2. 病院総合医コースに9名、家庭医コースに5名の新規専攻医・後期研修医が加わった。
3. 家庭医グループの在宅診療数は、2020年同様に当地域で最大のものであった。
4. 連携医療・緩和ケア科との連携の結果、在院日数を従来より2日短縮できた。
5. 夜間の病棟コール制度を拡張した。夜間の病棟診療の安全、および、過度の超過勤務抑制に効果的であり、休祝日の勤務状況の改善にも取り組んだ。
6. カンファレンスやレクチャーなどの教育的取り組みを全てリモートに移行して、より効果的に行った。（県外連携施設研修者も受講が可能になった）
7. 質向上の取り組みとして、入院患者の夜間急変時のシミュレーション教育を制度化した。
8. 整形外科の入院患者におけるポリファーマシー対応を請け負うことを開始した。

2021年1月～12月

外来初診における頻度の高い主訴

順位	コード	件数
1	A03 発熱	610
2	B29 血液と免疫機能の症状/愁訴	285
3	N01 頭痛	263
4	A04 全身脱力/倦怠感	236
5	N17 めまい/めまい感	231
6	D06 その他の限局性腹痛	221
7	L14 下腿/大腿部の症状/愁訴	216
8	D01 腹部全体の疼痛/激痛	199
9	T03 食欲不振	176
10	N29 その他の神経の症状/愁訴	172
11	D09 嘔気	169
12	N06 その他の知覚障害	147
13	D10 嘔吐	144
14	L03 腰部の症状/愁訴	137
15	D29 消化器のその他の症状/愁訴	133
16	L02 背部の症状/愁訴	130
17	D02 心窩部痛	125
18	R02 息切れ/呼吸困難	119
19	D11 下痢	115
20	A29 全身症状/愁訴、その他	106

外来初診患者数 延べ人数 4,023人

入院・最終診断名

順位	疾患名	合計
1	インスリン非依存型糖尿病 (合併症を伴わない)	317
2	本態性高血圧症	273
3	尿路感染症, 部位不明	231
4	誤嚥性肺炎	214
5	慢性腎不全 (非透析状態)	162
6	慢性心不全・詳細不明	153
7	腎障害, 詳細不明	140
8	心房細動	123
9	低ナトリウム血症	111
10	索状物, 癒着性イレウス・ 腸閉塞	104
11	大腿骨頸部骨折 (閉鎖性)	101
12	詳細不明の認知症	90
13	大腿骨転子部骨折 (閉鎖性)	89
14	低カリウム血症	89
15	肺炎, 病原体不明, 詳細不明	86
16	慢性腎不全 (透析状態)	83
17	敗血症性ショック	81
18	急性腎盂腎炎	79
19	食思不振・食欲不振	76
20	脳梗塞後遺症・陳旧性脳梗塞	75

入院患者 延べ患者数 3,089人

9. 膠原病・リウマチ内科

膠原病・リウマチ内科部長 内野愛弓

当科は、2020年と同様、スタッフ2名と専攻医1名の計3名体制で診療にあたっております。コロナ禍に入院診療は縮小傾向となった一方、外来患者数は、引続き多くの御紹介を賜ったことを受けて増加の一途であり、2,500名に迫る状況となって参りました。この慢性的な外来の逼迫や、新規患者待機期間の解消を目指すべく、昨年からは連携診療推進にも取り組み始めておりますが、医師会のお力添えのもと、予想を超える多くの先生方に支えていただくことができ、本当にありがたく感じました。この場を借りて深謝申し上げます。今後も、勉強会等の機会を通じて御意見をお聞かせいただき、より良い連携につなげて参りたく存じます。御指導のほど宜しくお願い申し上げます。

入院患者疾患別内訳（2021年）

病名	外来		入院					
	総数	新患	総数	急患	性別		年齢 (中央値)	在科日数 (中央値)
					男	女		
関節リウマチ	1131	136	51	7	17	34	74	3
結節性多発性動脈炎	7	1	22	2	12	10	73	3
血清反応陽性関節リウマチ			21	0	10	11	74	3
成人発症スチル病	20	6	16	3	14	2	61	3
リウマチ性多発筋痛症	85	12	6	1	2	4	74	8.5
全身性エリテマトーデス	124	14	6	2	3	3	53.5	13.5
全身性硬化症	115	12	5	0	2	3	72	36
多発血管炎性肉芽腫症	10	0	5	0	1	4	79	18
ベーチェット病	37	4	4	1	4	0	49.5	8
関節炎	21	10	3	0	1	2	61	5
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	50	9	3	0	2	1	62	32
ANCA関連血管炎	50	7	2	0	0	2	81	42
巨細胞性動脈炎	21	3	2	0	1	1	68.5	30
シェーグレン症候群	234	33	1	0	0	1	74	5
混合性結合組織病 (MCTD)	29	1	1	1	1	0	69	8
その他	531	237	39	21	11	28	73	12
総計	2465	485	187	38	81	106	72	8

10. 連携医療・緩和ケア科

連携医療・緩和ケア科部長 柏木秀行

2021年度は新たなメンバーを迎え、これまで以上に多様な疾患を有する患者さんの移行期ケア、そして終末期ケアにチャレンジした1年間でした。7名の当科関係者が緩和医療専門医を取得し、これは全国の研修施設で最多の合格者数となります。今後も「病気になっても過ごしたい過ごし方を、過ごしたい場所でできる地域づくりに貢献する」というミッションを胸に、院内外の関係各所と連携して取り組んでまいります。

< 2021年1月～12月 依頼状況 >

診療科	疾患	症例数	診療科	疾患	症例数	
総合診療科	心不全	24	救急外来	膵癌	17	
	胃癌	11		心不全	16	
	肺癌	11		肺癌	16	
	原発不明癌	8		子宮頸癌	5	
	肝癌	7		直腸癌	5	
	乳癌	7		乳癌	5	
	膵癌	7		胃癌	4	
	大腸癌	6		肝癌	4	
	卵巣癌	5		食道癌	4	
	S状結腸癌	4		胆管癌	4	
	食道癌	4		S状結腸癌	3	
	腎癌	4		多発性骨髄腫	3	
	DLBCL	3		子宮体癌	2	
	悪性リンパ腫	3		腎癌	2	
	横行結腸癌	3		卵巣癌	2	
	後腹膜腫瘍	3		膀胱癌	2	
	直腸癌	3		その他	13	
	膀胱癌	3		合計	107	
	咽頭癌	2		消化器内科	膵癌	46
	子宮体癌	2			胆管癌	15
	胆管癌	2			食道癌	9
	尿管癌	2			胃癌	8
	その他	40			大腸癌	7
	合計	164			上行結腸癌	4
婦人科	卵巣癌	59	その他		8	
	子宮頸癌	25	合計		97	
	腹膜癌	13	外科	直腸癌	19	
	子宮体癌	9		胃癌	15	
	卵巣癌	2		下行結腸癌	7	
子宮肉腫	1	食道癌		7		
合計	109	乳癌		7		
血液内科	悪性リンパ腫	19	横行結腸癌	6		
	急性骨髄性白血病	6	胆管癌	6		
	多発性骨髄腫	5	S状結腸癌	5		
	成人T細胞白血病リンパ腫	4	上行結腸癌	3		
	DLBCL	3	肛門部癌	3		
	骨髄異形成症候群	3	食道胃接合部癌	2		
	血管内型B細胞性リンパ腫	2	胆のう癌	2		
	その他	6	その他	7		
合計	48	合計	89			
肝臓内科	肝癌	9	循環器内科	心不全	49	
	胆管癌	6		その他	16	
	その他	4		合計	65	
合計	19	呼吸器内科	肺癌	37		
耳鼻科	咽頭癌		7	その他	10	
	喉頭癌	2	合計	47		
	その他	2	呼吸器外科	肺癌	7	
合計	11	合計		7		
形成外科	非癌	2	泌尿器科	膀胱癌	11	
	合計	2		前立腺癌	10	
内分泌・糖尿病内科	乳癌	1		腎癌	8	
	合計	1		尿管癌	1	
	合計	1	合計	30		

< 2021年1月～12月 依頼状況 >

診療科	疾患	症例数
腎臓内科	大腸癌	2
	その他	6
	合計	8
脳神経外科	悪性神経膠腫	2
	膠芽腫	2
	直腸癌	1
	非癌	2
	合計	7
脳神経内科	胃癌	1
	胆管癌	1
	原発不明癌	1
	脾癌	1
	合計	4
膠原病・リウマチ内科	後腹膜腫瘍	1
	非癌	4
	合計	5
感染症科	乳癌	1
	非癌	2
	合計	3
皮膚科	悪性リンパ腫	1
	メルケル細胞癌	1
	非癌	1
	合計	3
心臓血管外科	非癌	2
	合計	2
歯科口腔外科	口腔癌	1
	舌癌	1
	合計	2
連携医療・緩和ケア科	脾癌	22
	食道癌	19
	肺癌	15
	胃癌	11
	子宮頸癌	10
	前立腺癌	10
	直腸癌	10
	S状結腸癌	9
	乳癌	9
	胆管癌	8
	心不全	7
	卵巣癌	5
	肝癌	3
	咽頭癌	3
	横行結腸癌	3
	腎癌	3
	胆のう癌	3
	悪性リンパ腫	2
	上行結腸癌	2
	大腸癌	2
	腹膜癌	2
	膀胱癌	2
	その他	14
	合計	174

★病棟

入棟患者数 262人 (新規：245人)

<平均在院日数>

死亡	全体
16.9	16.1

<転帰>

死亡	在宅	転院	継続
148	80	23	11

<在宅後転帰>

死亡	再入院	療養中
34	29	17

★チーム

介入患者数 989人 (新規：681人)

<平均在院日数>

死亡	全体
14.8	16.7

<転帰>

死亡	自宅退院	継続	転院	緩和ケア病棟	施設入所	介入終了
184	490	38	87	129	53	8

<在宅診療導入数>

137

11. 画像診療科

画像診療科部長 三浦亘智

2021年に引き続き新型コロナウイルス感染症流行に振り回された1年でした。緊急事態宣言と解除の繰り返しでしたが、解除されても直ぐには通常体制に戻せず、ほぼ1年間宣言下での医療体制を維持していた感覚です。

2021年3月に64列のCTが増設され、検査の精度、件数は増加しましたが、読影スタッフの減少により一人あたりの読影件数は増加しています。また対面会話の制限によるカンファレンスや勉強会のリモート化によって主治医との意思疎通が十分に行えない事が診断の質の低下の原因となっていたように感じています。

病院の構造的な問題から機器が広範囲に分散している状態は、感染予防の点では有効に機能した反面、患者さんの移動や機械の効率的な利用という点ではマイナス面が多く機器を集約した放射線部の新設が待ち望まれます。現状多くの機器を導入していますが、必要な台数とスペックが現在の病院に求められている数とマッチしていないと感じています。

補助金交付により病院経営は黒字ですが、入院患者さんに対するCT、MRI、ポータブル撮影件数が多く、非効率な医療が行われていることも問題視しています。

新型コロナウイルス感染症後の病院のあり方については多角的な議論が必要ですが、コロナ前の状態に戻すだけにはならないよう注意していきたいと考えています。

2021年診療実績

1) 診療実績（画像診療科で検査、報告書作成、及び治療を施行した件数・症例数）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
CT	41,946	45,038	43,932	40,744	41,151
MR	10,565	11,105	10,907	9,835	10,690
マンモグラフィ総検査件数	3,560	3,658	3,811	3,353	3,731
マンモグラフィ検査件数（ドック以外）	1,330	1,343	1,443	1,300	1,225
当科医師によるマンモグラフィ読影件数 ^{※1}	395	62	37	10	0
尿路造影検査	31	44	172	178	151
PET-CT	1,025	1,037	1,054	980	953
核医学検査（PET-CT以外）	1,510	1,351	1,387	1,188	1,142
IVR・血管造影	559	499	487	402	374

※1 外科依頼における報告書作成は2017年4月まで

2) IVR・血管造影の内訳

	2021年
肝細胞癌の肝動脈化学塞栓術	98
出血性病変の止血術	57
気管支動脈塞栓術（BAE）	13
リンパ管造影	2
CTガイド下生検・ドレナージ	10
頭部血管造影 ^{※1}	101
肝ラジオ波焼灼術（RFA） ^{※2}	86
その他	7
合計	374
緊急血管造影 ^{※3}	16.80%

※1 脳神経外科施行

※2 肝臓内科施行

※3 脳神経外科施行分を含まない

12. 放射線治療科

放射線治療科部長 久賀元兆

2010年以降、当科の放射線治療の年間症例数は300例を超えています。その後も増加が続き、ここ数年では年間400例弱となっています。筑豊地域の人口を考えると、今後も放射線治療の症例数は増加するものと予想されます。

当科では増加する症例数に対応するとともに治療の質を向上させるため、2017年に2台目の治療機であるVersa HDを増設しました。また旧機が寿命を迎えたため(部品供給の停止による)、2018年より更新計画を進め、本年度ついに予算が付きまして、2022年度より更新機の稼働を開始する予定です。

Versa HDにおいては、「搭載X-ray Volume Imaging装置(XVI)を用いた画像誘導下放射線治療(Image Guided Radiotherapy: IGRT)」、「外付け機器(アブチェス)を用いた呼吸性移動対策」を行っています。また泌尿器科の協力のもと、前立腺癌症例に対しては直腸前立腺間スパーサーおよび前立腺内マーカーを留置し、治療における効果および安全性の向上を図っています。

来年度(2022年度)より稼働開始予定の更新機はCyberknifeです。Cyberknifeは病巣を多方向から狙い、放射線を集中照射する定位放射線治療機です。治療機2台体制(Versa HD / Cyberknife)となることにより、筑豊地域に提供できる医療が更に向上すること期待しています。

1) 診療実績

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
放射線治療件数(照射件数)	8,047	9,147	9,526	9,537	8,329	8,501	9,085	8,801	9,697	7,908
放射線治療										
新規患者数(新患実人数)	291	328	315	339	302	340	343	328	350	296
患者実人数(新患+再患)	332	365	358	380	335	374	392	361	375	336
原発巣別新規患者数(新患実人数)										
脳・脊髄	2	5	4	1	7	1	9	3	5	11
頭頸部(甲状腺を含む)	28	25	14	7	6	15	15	21	26	27
食道	19	14	7	20	16	17	15	15	12	20
肺・気管・縦隔	47	73	54	95	75	92	84	72	87	75
(うち肺)	46	70	50	92	72	88	81	72	80	75
乳腺	56	73	86	83	81	72	71	57	77	43
肝・胆・膵	22	28	32	24	25	33	26	32	31	28
胃・小腸・結腸・大腸	24	20	22	18	21	16	16	31	32	14
婦人科	24	27	33	26	21	18	31	33	24	22
泌尿器系	44	47	44	43	32	43	53	42	33	36
(うち前立腺)	21	26	23	25	19	33	37	27	24	21
造血器リンパ系	18	15	16	15	9	24	14	12	16	15
皮膚・骨・軟骨	4	0	0	2	5	1	4	1	0	2
その他(悪性)	2	1	2	5	4	6	3	3	2	3
良性	1	0	1	0	0	2	2	6	5	0
(15歳以下の小児例)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※ 2016年分より国際疾病分類腫瘍学 ICD-O (International Classification of Diseases for Oncology) 第3版の分類に合わせております。

2020年の一部数値と分類を修正しております。

13. リエゾン精神科

リエゾン精神科部長 光安博志

精神科リエゾンチームは、せん妄、認知症（BPSD）、うつ、不眠、精神病症状、精神疾患を背景にした自殺未遂などの患者さんや、身体疾患治療で入院された精神疾患患者さんへの精神科的介入をしております。水曜日午後にリエゾンチーム回診（COVID-19感染対策としてカルテ回診）、金曜日にチーム・カンファレンスを実施しています。2021年からは、せん妄の診療には、ローテートの初期研修医がリエゾンチームの一員として参加するようになりました。

外来診療： 新患は院内他科からの紹介（予約制〔火・木〕）で診療しています。

入院診療： 精神科閉鎖病棟（西1階）の入院診療は、当科外来の患者さんのみならず、リエゾンで対応している患者さんも受け入れを増やしています。

デイケア・センター「エスポワール」ではCOVID-19感染対策として、午前のみでデイケアを継続しています。通常プログラム活動とは別に、「マインドフルネス・プログラム」を実施しております。

引き続き、2022年度も身体疾患と精神疾患を合併する患者さんの診療に取り組んでいきたいと存じます。

(1) 2021年1月～12月のリエゾン紹介新患数

1) 精神医学的診断別

ICD Fコード	件数
F0 器質性	383
F1 精神作用物質	14
F2 統合失調症	59
F3 気分障害	66
F4 神経症性障害	62
F5 生理的障害	45
F6 パーソナリティ障害	3
F7 知的障害	15
F8 心理的発達の障害	0
F9 小児期・青年期発症の障害	0
G2 アカシジア、レストレスレッグス症候群	1
G4 てんかん、睡眠障害	2
R4 意識障害、精神運動興奮、昏迷状態	3
F99 他に特定できないもの	1
なし	18
総計	672

2) 依頼診療科別

診療科	件数
総合診療科	248
連携医療・緩和ケア科	52
整形外科	49
呼吸器内科	48
外科	45
循環器内科	33
腎臓内科	32
呼吸器外科	30
脳神経内科	21
血液内科	20
脳神経外科	16
心臓血管外科	15
肝臓内科	15
消化器内科	12
皮膚科	7
膠原病・リウマチ内科	4
耳鼻咽喉科	4
内分泌・糖尿病内科	3
産科	3
泌尿器科	3
小児科	3
救急科	3
婦人科	2
形成外科	2
眼科	1
感染症科	1
集中治療科	0
漢方診療科	0
歯科口腔外科	0
総計	672

(2) 2021年1月～12月 外来新患数

ICD Fコード	件数
F0 器質性	12
F1 精神作用物質	1
F2 統合失調症	5
F3 気分障害	15
F4 神経症性障害	17
F5 生理的障害	5
F6 パーソナリティ障害	0
F7 知的障害	8
F8 心理的発達の障害	1
F9 小児期・青年期発症の障害	2
G4 睡眠障害	1
F99 他に特定できないもの	0
総計	67

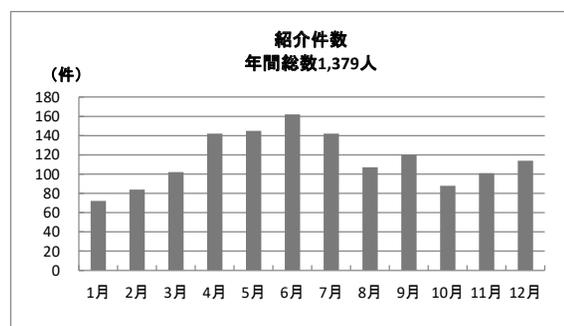
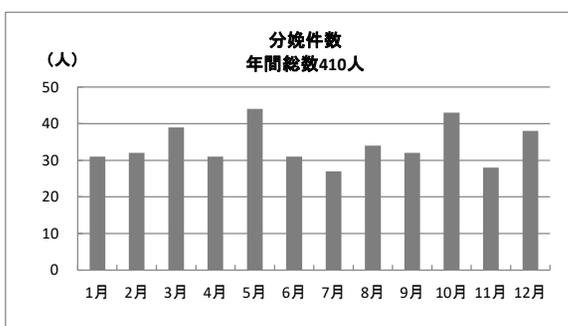
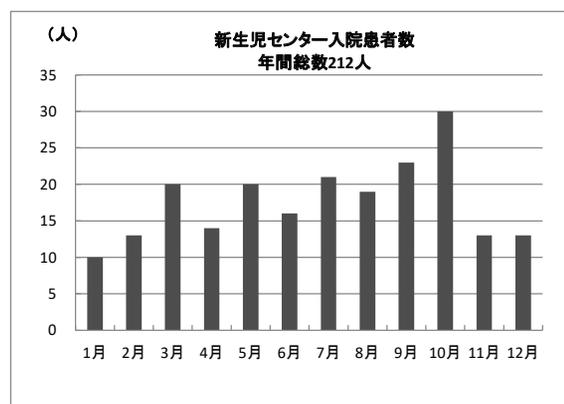
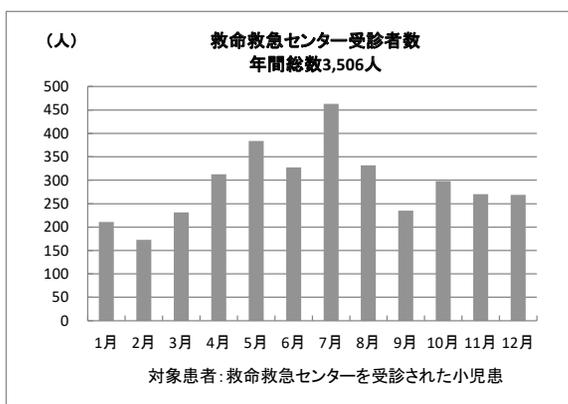
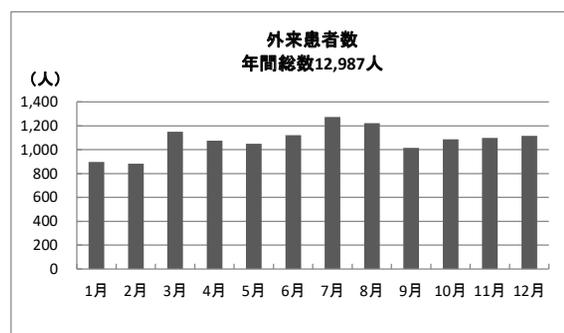
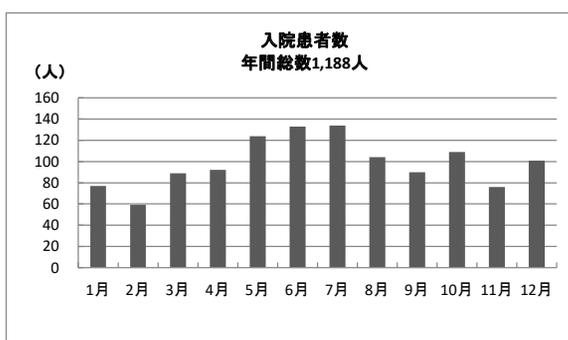
(3) 西1階病棟入院患者疾患別内訳

病名	統計	急患	性別		年齢	在科日数
			男	女	(平均)	(平均)
F0 症状性を含む器質性精神障害	4	2	3	1	67.8	169.3
脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害	2	0	2	0	59.0	257.5
アルツハイマー病型認知症	1	1	0	1	71.0	67.0
パーキンソン病型認知症	1	1	1	0	82.0	95.0
F2 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	11	5	3	8	53.5	125.0
統合失調症	7	3	3	4	48.6	141.9
妄想性障害	2	2	0	2	67.0	91.0
急性一過性精神病性障害	1	0	0	1	37.0	38.0
統合失調感情障害	1	0	0	1	78.0	162.0
F3 気分障害	21	9	11	10	67.4	119.1
うつ病	12	3	7	5	64.7	171.4
双極性感情障害	8	6	4	4	64.9	62.1
抑うつ神経症	1	0	0	1	74.0	53.0
F4 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	7	3	4	3	34.9	28.1
適応障害	4	1	2	2	38.3	39.8
身体表現性障害	2	2	2	0	34.0	18.0
心的外傷後ストレス障害	1	0	0	1	23.0	2.0
F5 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	1	1	0	1	20.0	144.0
摂食障害	1	1	0	1	20.0	144.0
F6 成人のパーソナリティおよび行動の障害	1	0	1	0	70.0	58.0
病的窃盗	1	0	1	0	70.0	58.0
総計	45	20	22	23	58.0	110.0

14. 小児科

小児科部長 岡松由記

小児混合病床と母子総合医療センターの新生児部門を、北第五病棟ワンフロアに併設しています。病棟には保育士を配置し入院生活のサポート向上を図っております。小児科・小児外科外来を統合した小児センターでは、一般診療とともに、神経、内分泌、アレルギー、循環器、腎臓、新生児の専門外来を設置しております。出生時から成人するまで、切れ目のない医療を提供いたします。小児医療の課題である在宅医療、虐待防止に、拠点病院として多職種・多機関と連携して取り組んでおります。これからも筑豊地域のすべての子どもたちと、かかりつけ医療機関のご要望に応じていきます。



15. 腎臓内科

腎臓内科部長 藤崎毅一郎

2021年4月に佐藤医師が加わり、8月に服部医師が退職しました。近年、新規紹介患者数が漸増してはいましたが、本年もその傾向は持続しております。透析導入数は過去最高数となり、近隣地域からの高度腎不全患者のご紹介が増加していることが要因の一つと考えております。今後も近隣施設との連携をより一層深める診療を進める方針です。

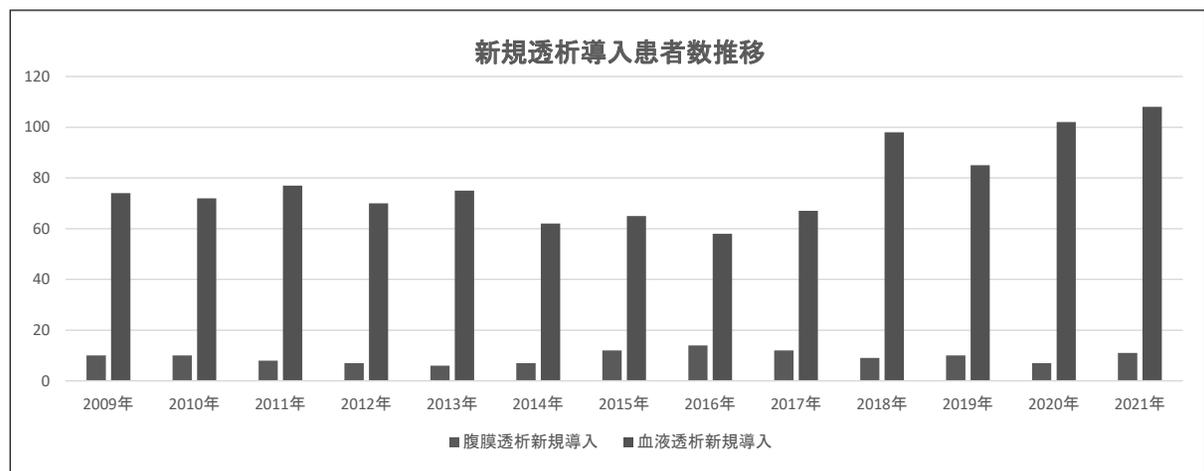
2019年度より入院患者の血液透析ベッドを4床増床しました。これにより血液透析患者の入院受け入れ患者数は増加しました。緊急入院や手術適応のある血液透析患者の緊急入院は昨年も多く、透析延べ件数は過去最高となりました。より良好な入院透析管理を目指したいと思っております。また、2019年度の当院の集中治療科変革に伴い、ICUにおける急性血液浄化療法および血液透析は本年度も当科が引き続きバックアップしております。これにより重症患者のICUから病棟透析室への円滑な連携を継続する方針です。

◆腎臓内科 診療実績データ (2021年1～12月)

項目	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1 外来実患者数	12,930	12,907	12,806	13,149	12,842	12,580	13,058	11,316	10,941
2 入院患者数	657	559	555	565	600	639	609	713	826
3 新患紹介数	231	206	185	231	200	249	262	220	237
4 入院透析実患者数 (腎臓内科)	201	164	182	180	165	219	195	229	250
” (他科依頼)	214	253	242	253	288	318	314	335	377
5 入院透析延べ件数 (腎臓内科)	2,246	1,737	2,090	1,594	1,257	1,672	2,227	2,227	2,460
” (他科依頼)	2,448	2,657	2,339	2,564	3,189	3,284	3,278	3,787	3,919
6 院内新患紹介数 (紹介状があるもの)	284	303	335	250	255	263	273	280	292
7 内シャント術、PDカテーテル留置術	128	98	93	111	123	175	142	151	146
8 PTA (血管内形成術)	93	62	123	106	109	159	191	233	368
9 年間死亡患者数	19	10	17	18	6	15	12	23	15
10 腎生検	43	45	34	34	50	43	39	41	49

◆新規透析導入患者数推移

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
腹膜透析新規導入	10	8	7	6	7	12	14	12	9	10	7	11
血液透析新規導入	72	77	70	75	62	65	58	67	98	85	102	108



◆ 2021年 地域別新規透析導入者数



◆ 専門医、認定の修得件数

1	日本内科学会認定内科医	4
2	日本内科学会総合内科専門医	3
3	日本透析医学会専門医	3
4	日本透析医学会指導医	1
5	日本腎臓学会腎臓専門医	3
6	日本腎臓学会指導医	1

16. 循環器内科

循環器内科部長 井上修二郎

2021年も新型コロナウイルス感染症への対策をしつつ、循環器疾患の急性期診療にあたりました。循環器診療に特化出来たのも、新型コロナウイルス感染症対策本部を始めとした院内の診療チームやコメディカルスタッフのおかげと深謝しております。全ての循環器疾患をバランス良く高いレベルでこなせるよう、さらに科内の仕組み作りや教育にも力を入れていく所存です。2019年よりICU体制変更とともに当科の循環器集中治療体制も変更し、補助循環導入数は増加し死亡率は低下しています。2022年には僧帽弁膜症のカテーテル治療にも取り組みます。新たな専攻医も加わり医師の人数も増えますが、2022年も高い目標を持ち当センターの発展に努めたいと思います。

1) 2021年入院主病名(循環器主要疾患): 例数

総入院患者数: 1,796人 平均年齢: 72.5歳 急患数: 781人 (43%)
死亡: 36人 (2.0%) 平均在院日数: 10.2日

<疾患内訳>

心不全・肺水腫: 338	心房細動: 233
心臓弁膜症: 42	心房粗動・心房頻拍: 24
肥大型心筋症: 5	洞不全症候群: 53
心筋症・拡張型心筋症: 3	房室ブロック: 56
心アミロイドーシス: 4	WPW症候群: 1
心サルコイドーシス: 4	発作性上室頻拍: 22
たこつぼ心筋症: 9	心室性期外収縮: 5
先天性心臓病: 1	心室頻拍・心室細動: 23
急性心筋梗塞: 265	ブルガダ症候群: 2
陳旧性心筋梗塞・虚血性心筋症: 16	失神発作: 6
不安定狭心症: 43	心筋炎: 4
安定狭心症: 154	心膜炎・心外膜炎: 3
冠攣縮性狭心症: 19	収縮性心膜炎: 0
無症候性心筋虚血: 161	感染性心内膜炎: 1
その他の虚血性心疾患: 3	心タンポナーデ・心のう液貯留: 3
急性大動脈・動脈解離: 17	睡眠時無呼吸症候群: 14
動脈瘤・大動脈瘤: 0	腎不全: 4
閉塞性動脈硬化症: 97	消化管出血: 1
急性動脈閉塞: 0	脳血管障害: 4
鎖骨下動脈閉塞: 1	異物遺残: 0
肺動脈血栓塞栓症: 18	悪性腫瘍: 1
深部静脈血栓症: 1	敗血症性ショック: 3
肺高血圧: 7	心停止・蘇生に成功した心停止: 17
高血圧性心疾患: 2	その他: 23
肺炎・気管支炎: 9	
COVID-19感染症: 1	

- 2) 心臓カテーテル検査総数：1,809 (緊急カテ 430：23.8%)
- 冠動脈インターベンション (PCI)：500 (緊急 PCI：299 (59.8%))
 - バルーン拡張術 (POBA) のみ：28
 - ステント：447
 - 方向性冠動脈粥腫切除術 (DCA)：8
 - ロータブレータ：22
 - (プレッシャーワイヤー：90、血管内超音波 (IVUS)：611、OCT：33)
 - 末梢血管インターベンション (EVT)：143
 - カテーテルアブレーション：284
 - 心室頻拍 9
 - 心室細動 2
 - 心室期外収縮 3
 - 心房細動 195 (発作性 92、持続性 91、長期持続性 30)
 - 発作性上室性頻拍 18
 - 心房粗動・心房頻拍 30
 - 構造的疾患インターベンション
 - 経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSMA)：0
 - 経皮的経静脈的僧帽弁交連裂開術 (PTMC)：0
 - 経皮的大動脈弁形成術 (PTAV)：3
 - 経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)：21 (*循環器病センター成績)
 - 心筋生検：57
 - その他
 - 下大静脈フィルター：2

17. 心不全ケア科

心不全ケア科部長 井上修二郎

高齢化率の高い筑豊地域において、医学的・社会的問題を複数抱え併存疾患の多い高齢心不全患者がますます増加しています。急性期病院として疾患急性期の管理を行った後は、今後の再入院予防のための治療の最適化、教育、環境調整、アドバンストケアプランニング(ACP)など多面的なアプローチが必要になります。心不全ケア科は、多職種よりなるHST(ハートサポートチーム)によってこれらの問題に取り組み、総合診療科や連携医療・緩和ケア科と連携し慢性期心不全患者を診るための仕組み作りを行います。2022年には麻生情報システムと連携し、地域の循環器内科実地医家の先生方とオンラインで患者情報を共有するアプリケーションを作成し運用を開始する予定です。

18. 外科

外科部長代行 古賀 聡

2021年早々に人事の大幅な変更と減少がわかったことから、2021年度に向けて大きな変化の年でした。コロナ禍含めその影響をいかにバランスよく安全に運営するかがポイントで、手術症例数の維持、質の維持が目標でした。また、数年後に控えている働き方改革への調整も意識しました。手術全体の症例数は2020年よりやや減少したものの緊急手術数は増加、悪性疾患を含めたメジャー手術は、疾患毎の増減はあるものの2020年と比較してやや増加傾向で、大きな減少は見られませんでした。化学療法は増加を予測しましたがやや減少、しかしBSC症例が増えた印象でした。悪性疾患の早期発見がもとに戻り、早期手術による治癒例増加となるよう世の中が安定することを願います。皆様には、温かいご声援とご協力をよろしくお願いいたします。

1. 外科（消化管、内視鏡外科、肝胆膵外科、臨床腫瘍科を含む）全体の手術症例数



2. 手術内容

表1

2021年 消化器・乳腺・一般外科 手術内容 (抜粋)

(呼吸器外科、小児外科、心臓血管外科症例は含まない)

総手術数(手術室内施行) 1062例 ↓ うち急患手術 222例 ↑ (20.9%)

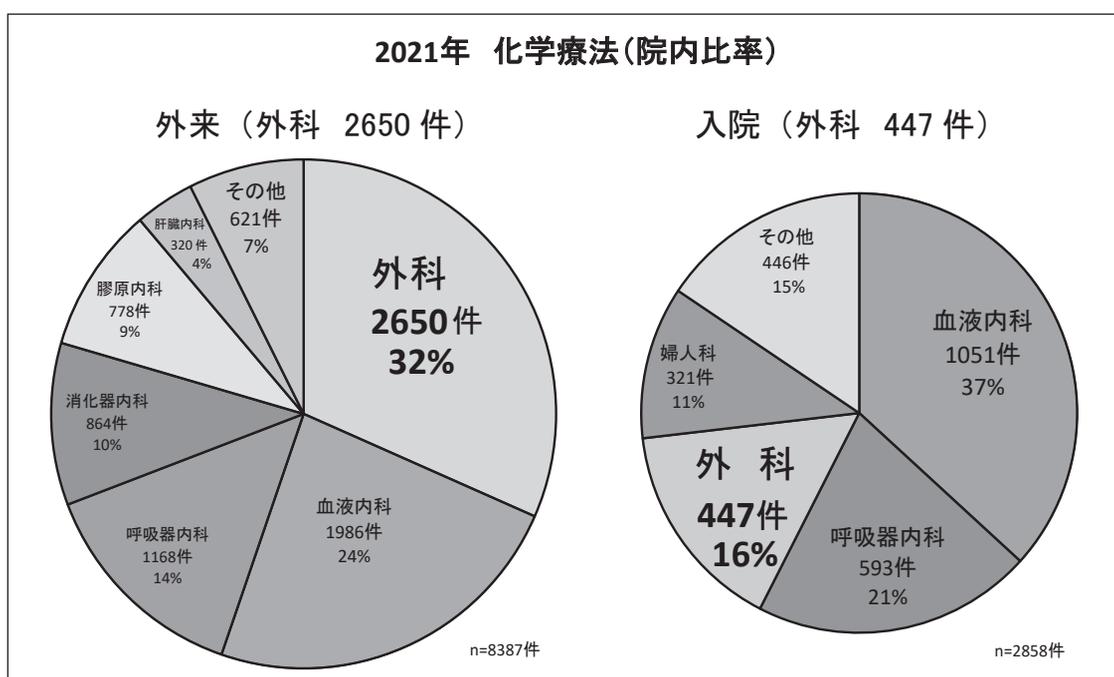
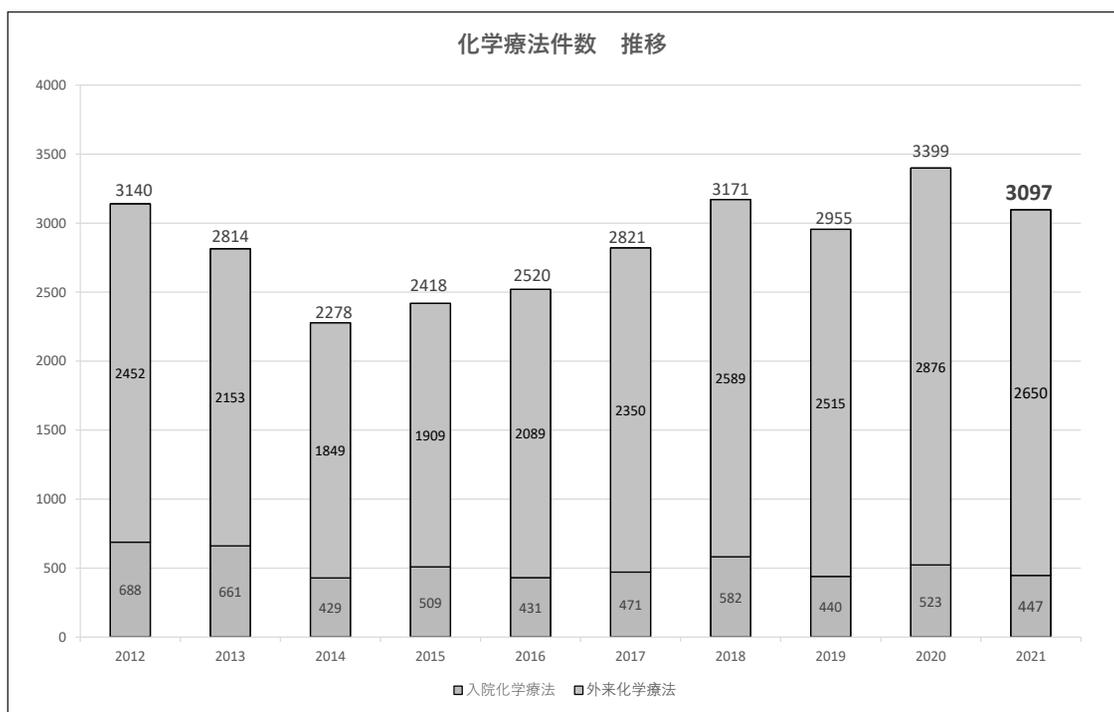
手術術式	症例数	疾患	症例数	術式	症例数	[鏡視下]
乳腺手術	154	乳がん	135	乳房切除	133	
食道手術	8	食道がん	7	食道切除	7	[6]
胃十二指腸手術	113	胃がん	95	胃全摘	22	[3]
				胃部分切除	62	[44]
				その他	29	
小腸・大腸・直腸手術	389	結腸がん	165	結腸切除術	155	[122]
				直腸がん	47	直腸切除術
				腹会陰式切断術	12	[12]
				虫垂切除術	56	[55]
肝臓手術	63	原発性肝がん	40	肝切除術	67	[12]
		転移性肝がん	16	拡大胆嚢摘出術	5	
胆道手術	149	胆道腫瘍	35	膵切除	44	[4]
		胆嚢結石症	114	PD	30	
膵切除	44	膵がん	28	体尾部切除	13	[4]
				胆嚢摘出術	120	[97]
脾	4			脾臓摘出術	4	[4]
ヘルニア手術	80	鼠径ヘルニア	57	鼠径ヘルニア根治術	57	[5]

(疾患数、手術術式数に重複あり)

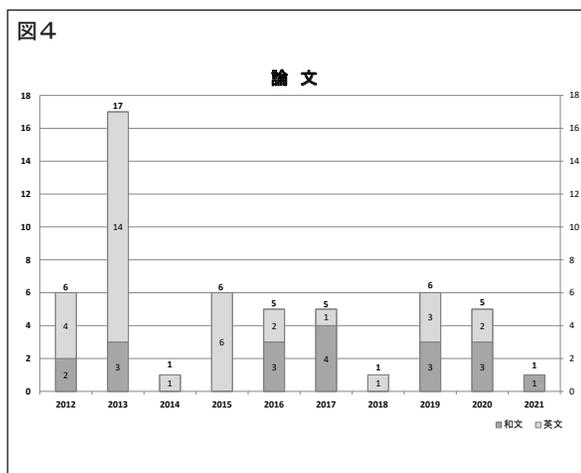
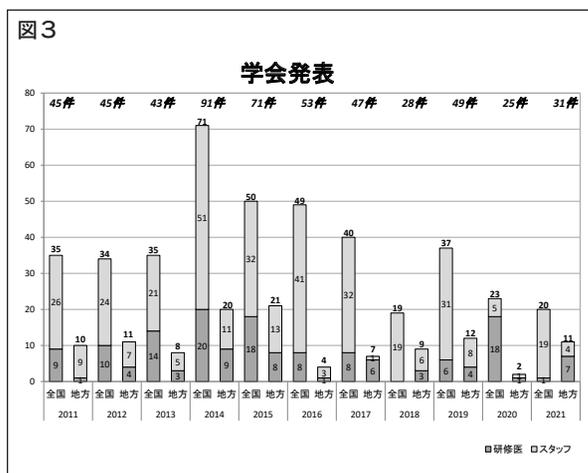
3. 乳腺外科



4. 化学療法



5. 学術活動



19. 臨床腫瘍科

臨床腫瘍科部長 甲斐正徳

臨床腫瘍科では当院の消化器がん診療の質の向上に取り組んでいます。

地域がん診療連携拠点病院である当院は、5大癌の術後地域連携に取り組んでいますが、2020年同様2021年もがん拠点病院会議はWEB開催となっていて、現在はWEBで定着した様に思います。

消化管cancer boardの内容を充実・向上させる点においても、2020年同様3密回避のためカンファレンスが中断した時期もあり、開催の方法や意味を検討する時期に来ているのかもしれませんが。

Medical staffのがん診療レベル向上のためのがんチーム医療推進勉強会も、同様に開催中断があり、現在は再開しておりますが、更に内容の充実を図っている状況です。

診療面においては、化学療法の症例数は、2020年までと比較して大きな変化はありませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響は2020年に比べると少なかったと考えられました。

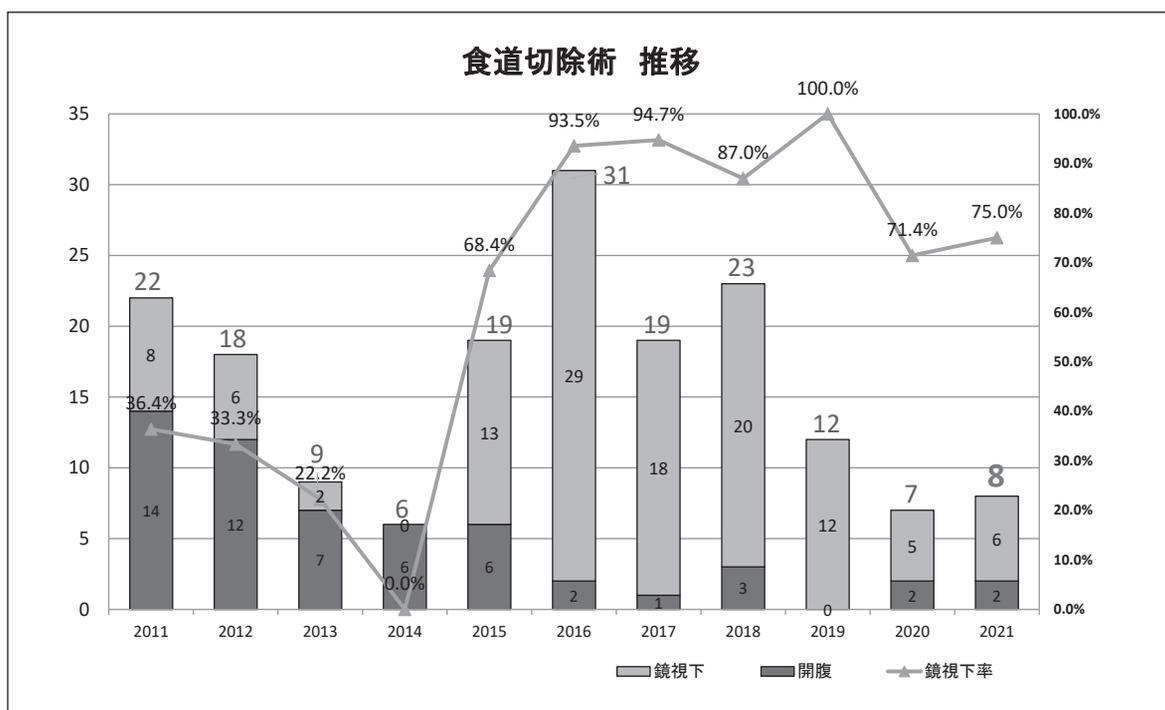
がんの診療も with CORONA となっていかなるを得ないのかもしれませんが。

20. 消化管・内視鏡外科

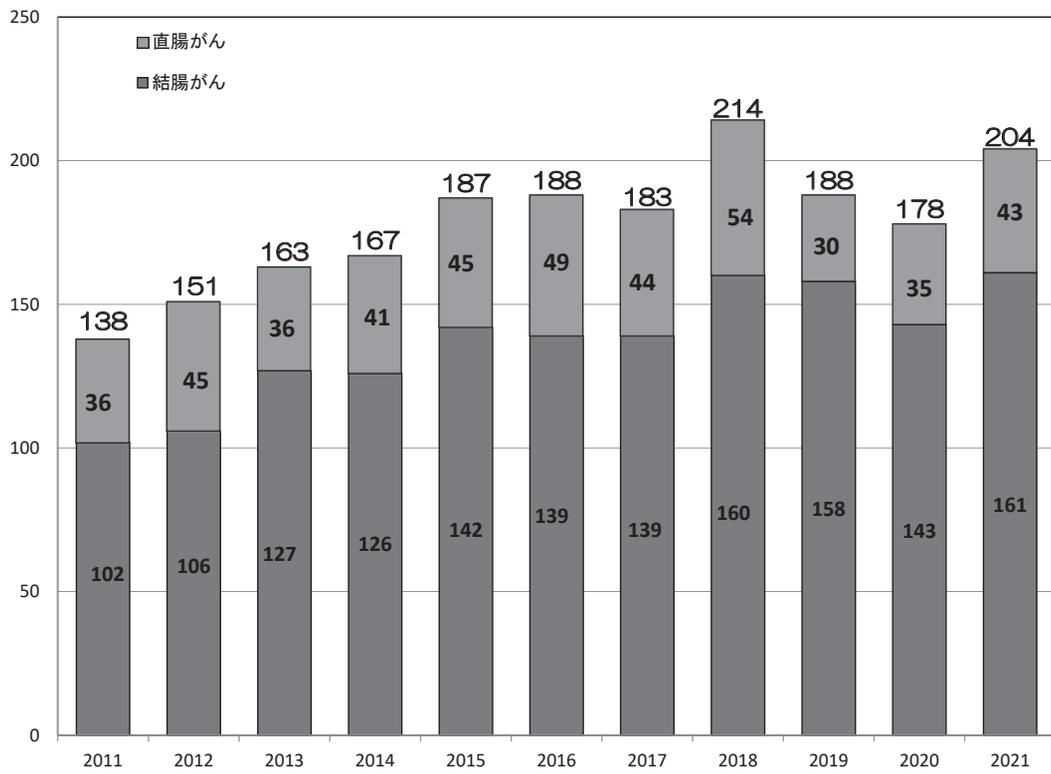
消化管・内視鏡外科部長 古賀 聡

2021年早々に人事の大幅な変更と減少がわかったことから、2021年度に向けて大きな変化の年でした。また、コロナ禍の中、その影響をいかにバランスよく安全に運営するかがポイントで、手術症例数の維持、質の維持を目標としました。食道手術は、大学からの専門医応援継続で8例と維持できました。

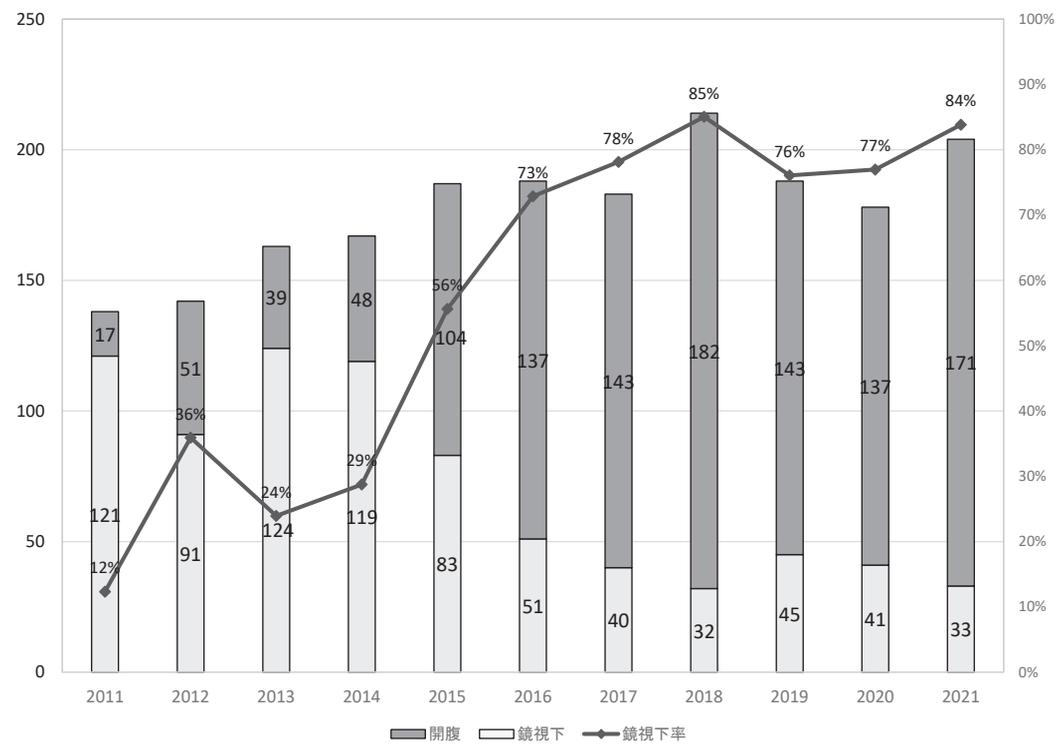
胃がん手術数は95例で9例増、結腸/直腸手術は204例と26例増で過去10年間では2位の症例数でした。また、専攻医が2人と激減したこと、2020年に続きコロナ禍で、カンファ制限など各チーム内での教育が中心となりました。一方、ロボット手術支援装置の導入は泌尿器科のみであったため、当科ではまだ実現できていません。来年度こそ本格始動の予定です。今後とも関係各機関の皆様には、温かいご声援とご協力をよろしくお願いいたします。



大腸がん切除数推移



直腸・結腸がん切除数推移

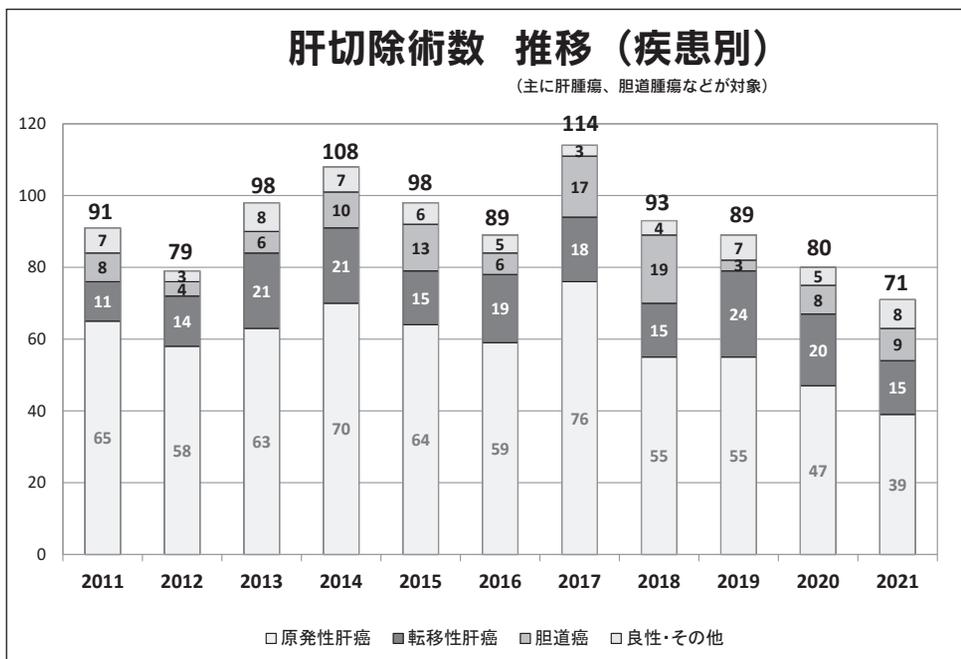


21. 肝胆膵外科

肝胆膵外科部長 萱島寛人

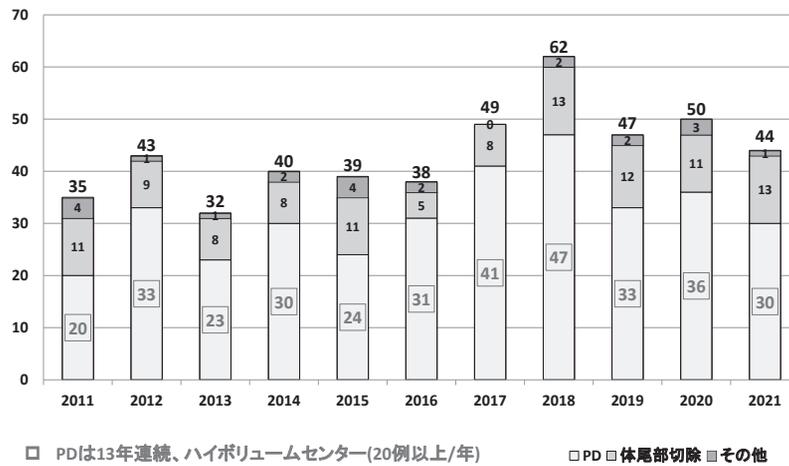
2021年は肝胆膵外科を含む外科全体にとって苦難の1年だったと言えます。2021年3月に筑豊において長年肝胆膵外科を牽引されてきた梶山潔前副院長並びに外科統括部長が退職され、日本肝胆膵外科学会の定める肝胆膵外科領域の外科専門医（高度技能専門医）がさらに減少して1人になってしまいました。また、外科全体の人員が15人から11人と大きく減少し、肝胆膵外科を含む外科全体の手術枠を減少せざるを得ない状況となってしまいました。このため、当院における肝胆膵領域の診療のあり方は大きく改変を余儀なくされましたが、当院肝臓内科や消化器内科胆膵グループの協力もあり、2021年も肝胆膵領域の外科手術に専念することが可能でした。2020年と比較して、肝切除術件数は71例と9例減少し、膵切除術件数は44例と6例減少はしましたが、手術枠の制限、マンパワーの減少の影響を考えると例年と遜色のない結果であったと考えます。

肝胆膵領域の外科手術症例数は例年より減少しましたが、昨年同様NCDのフィードバック機能を利用した当院における肝胆膵外科の術後合併症発生率は全国の予測発生率よりも常に良い結果を維持しており、診療の質は維持し続けています。今後も肝胆膵外科領域の専攻医への指導は勿論ですが、看護師、薬剤師、栄養士、MEなどとの多職種でのチーム医療の連携強化を推進しながら、臨床診療を継続していきたいと思います。

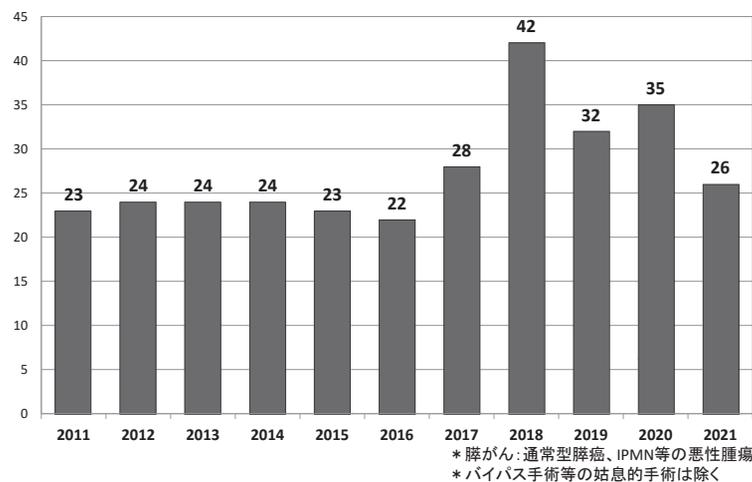


飯塚病院外科 膵切除症例数 推移（術式別）

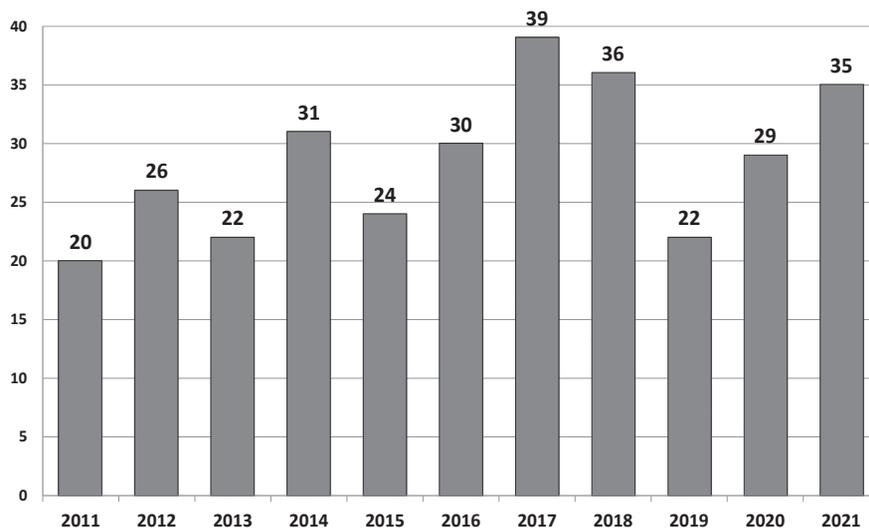
（膵腫瘍、胆道腫瘍などが対象）



膵がん切除症例数 推移



胆道腫瘍切除術数 推移



22. 小児外科

小児外科部長 田口匠平

2021年の手術数、入院数ともに微減となりました。2020年同様、新生児症例や小児外科重症疾患の手術は少なく、残念な一年でした。これは新型コロナウイルス感染症の影響だけではなく、筑豊地域の少子化も少なからず影響しており、当科だけでなく当院小児センター全体の問題と考えます。若い小児外科医の教育という面からも、これ以上診療内容が維持できなくなれば、現在の体制を維持することが困難になることが危惧されます。今後、小児センターとして対象年齢や対応疾患の範囲、新生児症例や重症疾患に対する診療体制などの見直しや、地域の先生方への情報発信がより重要になっていくと思われまます。

入院・手術症例の年齢・性別内訳

		男			女			計		
		入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)	入院	手術	(緊急)
新生児	(0-30 生日)	1	1	(1)	0	0	(0)	1	1	(1)
乳児	(1-11 生月)	17	18	(6)	4	5	(3)	21	23	(2)
幼児	(1-5 歳)	41	36	(2)	14	15	(1)	55	51	(4)
学童	(6-12 歳)	27	22	(7)	11	10	(4)	38	32	(5)
思春期	(13-15 歳)	11	9	(8)	4	5	(3)	15	14	(4)
成人	(16 歳-)	1	1	(0)	0	0	(0)	1	1	(0)
	計	98	87	(24)	33	35	(11)	131	122	(16)

主要手術症例

症 例	疾 患	手 術
1	1 生日 男児 高位鎖肛	人工肛門造設術
2	1 生月 男児 肥厚性幽門狭窄症	粘膜外幽門筋切開術 (Ramstedt 法)
3	3 生月 女児 肛門狭窄	cut back 法
4	3 生月 女児 尿管管遺残	尿管管摘出術
5	4 生月 男児 高位鎖肛	腹腔鏡補助下仙骨会陰式肛門形成術
6	9 生月 男児 腸重積、悪性リンパ腫疑い	回盲部切除術
7	2 歳 女児 甲状舌管嚢胞	甲状舌管嚢胞・瘻管摘出術、舌骨部分合併切除 (Sistrunk 手術)
8	2 歳 女児 左鼠径ヘルニア 右腹膜鞘状突起開存	腹腔鏡下左鼠径ヘルニア手術・右腹膜鞘状突起結紮術 (LPEC)
9	10 歳 男児 盲腸捻転、腸回転異常症、Cornelia de Lange 症候群	捻転解除術、Ladd 手術

23. 整形外科

整形外科部長 原 俊彦

2022年度も筑豊地域の整形外科的な急性疾患・慢性疾患に対応すべく、万全の体制で臨みたいと考えております。2021年度は、2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症流行と混乱により振り回された一年でした。5月は感染患者数の拡大により急患患者を除く手術は延期する体制をとりました。その様な中で当院整形外科では1,166件の手術が行われ、その内320件が急患手術でした。2020年の夏から始まった大腿骨近位部骨折症例への総合診療科の介入は様々な効果を生んでいます。整形外科では手術に向けた準備により時間を割ける体制となり、カンファレンスでの手術症例毎の充実した検討がなされるようになりました。また、病棟でも患者さんに対して迅速で専門的な対応が可能となりました。合併症を抱える高齢者の骨折治療において本邦でも先進的なシステムであり、全国の病院に先駆けたモデルになればと考えております。

飯塚病院では慢性疾患も多数治療しています。人工股関節、人工膝関節、股関節関節温存術、膝関節関節温存術で症例数を伸ばしております。脊椎外科疾患・手外科疾患についても、現在では総合せき損センター・原三信病院・溝口外科整形外科病院の協力により週一回の専門外来を行っております。筑豊地区の整形外科医療の発展のために今後とも連携構築・システムの拡充を図って参りたいと存じます。

【手術実績】

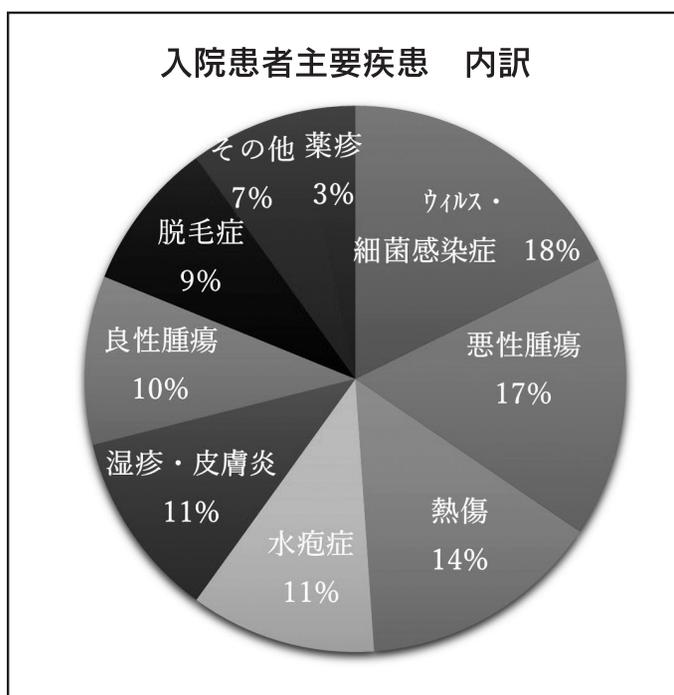
	当科分類	2021年	2020年	2019年	2018年
1	頸部骨折 - 骨接合	137	131	144	152
2	人工骨頭	57	52	64	51
3	人工膝関節置換術	69	47	53	42
4	人工股関節 / その他の人工関節	152	138	117	107
5	関節鏡視下手術	34	43	47	44
6	脊椎手術	2	11	3	11
7	手の外科（顎部以下の骨折含む）	381	446	523	513
8	骨折・脱臼	157	162	179	194
9	抜釘	77	70	105	105
10	関節形成術（骨切り他）	26	25	35	49
11	切断	9	10	11	24
12	骨・軟部腫瘍	11	13	17	6
13	外傷（その他）アキレス腱含む	6	30	17	21
14	関節外科（その他）	21	10	15	8
15	神経・骨軟部組織	0	2	2	5
16	その他	27	28	18	22
	合計	1,166	1,218	1,350	1,354
	内急患手術	320	341	375	323

24. 皮膚科

皮膚科部長 幸田 太

2021年はこれまでの5人体制から、1名減の4人体制となりました。さらに7月から1名が産休に入ったため、3人体制での診療となりました。人数の減少により大幅な診療体制の変更を強いられ、外来診療枠も縮小しましたが、結果としては外来患者数、手術症例数はこれまでと大きく変わらない結果を維持することができました。トピックスとしてはこれまで治療法が少なかった多汗症や掌蹠膿疱症、乾癬性関節炎、重症のアトピー性皮膚炎等に新薬が上市され、良好な治療結果がでています。前年に引き続き新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でしたが、筑豊臨床皮膚研究会も中断することなくWeb開催しております。

2022年はスタッフも増員予定で、今後も勉強を怠ることなく、地域医療に貢献できるよう、診療の質の向上に努めてまいります。



外来手術件数

1月	70	7月	57
2月	57	8月	76
3月	79	9月	65
4月	81	10月	68
5月	70	11月	70
6月	74	12月	59

計 826 件

うち、バイオプシー件数

1月	38	7月	23
2月	38	8月	28
3月	31	9月	24
4月	38	10月	25
5月	30	11月	27
6月	32	12月	23

計 357 件

手術室手術件数

1月	9	7月	7
2月	10	8月	10
3月	14	9月	10
4月	11	10月	10
5月	10	11月	8
6月	8	12月	10

計 118 件

うち

外来日帰り OP	85
OP 室 OP	33

うち、悪性腫瘍手術

基底細胞癌	19
ボーエン病	10
有棘細胞癌	8
リンパ腫	4
日光角化症	3
ケラトアカントーマ	1
悪性黒色腫	1
悪性腫瘍	1
ケイラー紅色肥厚症	1

計 48 件

25. 泌尿器科

泌尿器科部長 中島雄一

2021年も常勤は4名のままですが、スタッフ2名が変更となりました。非常勤は火曜・木曜に各1名（結石破碎）、金曜に排尿障害外来1名と増員いたしました。外来数はCOVID-19の影響はそこまで受けませんでした。ダビンチ導入に伴い院外紹介を行ったため多少減少しております。2021年の最大変更点はダビンチ導入で、金曜の手術枠で施行するようになり、半年で10例を目指して開始しましたが、予定を上回る状況になっております。また腹腔鏡手術数の増加が見られ手術枠がタイトになっています。薬物治療では免疫チェックポイント阻害薬と分子標的薬の併用などが出てきて治療法的大幅な変更がみられ非常に忙しい状況でした。2022年はこれまで以上に地域連携を図り手術例数の増加を目標にしてゆきたいと考えています。

総手術件数 374 例

尿路腫瘍	(開放手術)	30 例	(内視鏡手術他)	344 例
副腎			腹腔鏡下副腎摘除術	5
上部尿路	根治的腎摘除術	2	ロボット支援腎部分切除術	6
			腹腔鏡下腎摘除術	6
	尿管皮膚瘻造設術	1	HAL s 腎摘	4
			腹腔鏡下腎部分切除	1
			後腹膜鏡下腎摘除術	11
			後腹膜鏡下腎尿管全摘	8
		後腹膜鏡下リンパ節生検	3	
		尿管鏡下止血・レーザー凝固	3	
下部尿路	膀胱全摘+尿管皮膚瘻造設術	2	ロボット支援前立腺全摘除術	20
	膀胱全摘+回腸導管造設術	1	TURBT (経尿道的膀胱腫瘍切除術)	110
	尿管摘除術	1	TU 凝固術 (血腫除去、止血)	5
	尿管膀胱新吻合	1	TURP (経尿道的前立腺切除術)	1
			TUI(経尿道的直視下切開術)	1
		HoLEP	1	
		尿管異物摘除	3	
泌尿生殖器	高位精巣摘除術	5		
尿路結石			TUL (経尿道的尿管結石碎石術)	77
			膀胱碎石術	6
その他	精索捻転手術 (固定)	3	尿管鏡検査	7
	停留精巣手術	1	尿管拡張術	4
	精巣摘除	1	腎瘻造設	4
	陰嚢水腫根治術 (成人)	3	膀胱瘻造設	3
	亀頭部生検	1	尿管ステント留置	43
	真性包茎手術 (背面切開)	1	膀胱異物摘除	1
	真性包茎手術 (環状切除)	3	SpaceOAR 挿入	11
	フルニエ切除	1		
	陰嚢生検	1		
	尿道外傷修復	1		
	カルンクル切除	1		

ESWL (体外衝撃波結石破碎術) : 施行件数	107 件	入院患者中パス適応者	348 件
前立腺生検	138 例	前立腺生検	138
		TURBT	107
		TUL	78
		GC療法	24
		TURP	1

26. 産婦人科

産婦人科部長 辻岡 寛

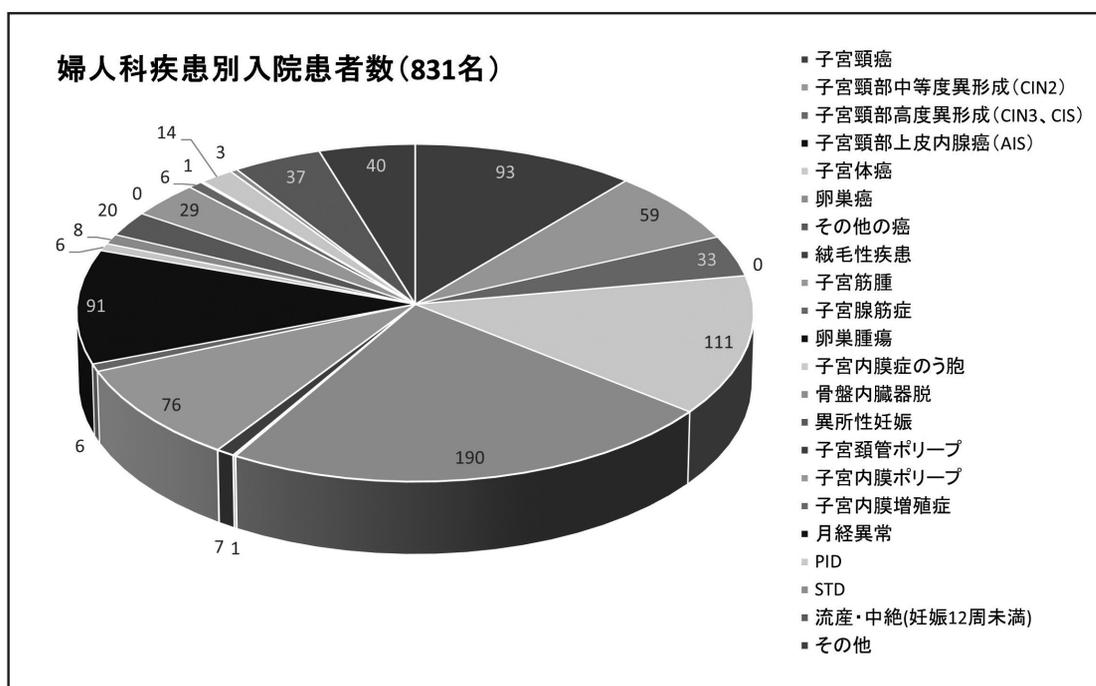
本邦の出生数は毎年3%以上の減少を続けており、2021年の出生数は81万人程度と推計されています。当院の分娩数も10年前の約2/3程度にまで減少していますが、その多くはハイリスク症例で、2021年も100件以上の母体搬送に対応しています。分娩数の減少と裏腹に、ハイリスク症例の比率は高まっていることを実感しています。また新型コロナウイルス感染症妊婦の分娩に対応できる筑豊地域唯一の施設として、スタッフ一同がんばった一年でした。

婦人科領域につきましては堅調ではありましたが、コロナの影響による受診控えのためか、悪性腫瘍領域で進行症例が目立っていました。手術数も例年を下回りましたが、分娩件数減少に伴う帝王切開の減少が手術数減少の大きな要因となりました。

いずれにしても2020年に引き続きコロナに振り回された一年でした。

婦人科入院統計

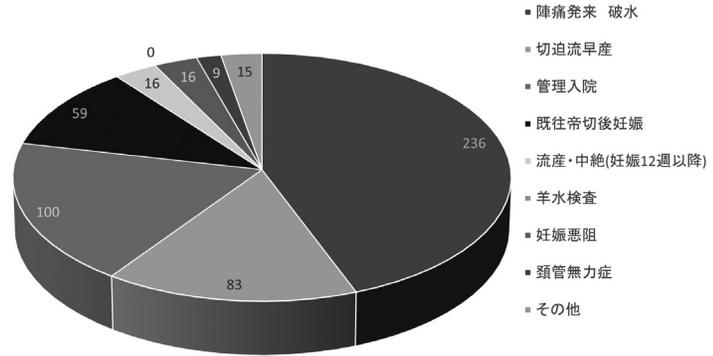
疾患	数
子宮頸癌	93
子宮頸部中等度異形成 (CIN2)	59
子宮頸部高度異形成 (CIN3、CIS)	33
子宮頸部上皮内腺癌 (AIS)	0
子宮体癌	111
卵巣癌	190
その他の癌	1
絨毛性疾患	7
子宮筋腫	76
子宮腺筋症	6
卵巣腫瘍	91
子宮内膜症のう胞	6
骨盤内臓器脱	8
異所性妊娠	20
子宮頸管ポリープ	0
子宮内膜ポリープ	29
子宮内膜増殖症	6
月経異常	1
PID	14
STD	3
流産・中絶(妊娠12周末満)	37
その他	40
計	831



産科入院統計

疾患	数
陣痛発来 破水	236
切迫流早産	83
管理入院	100
既往帝切後妊娠	59
流産・中絶(妊娠12週以降)	16
羊水検査	0
妊娠悪阻	16
頸管無力症	9
その他	15
計	534

産科疾患別入院患者数(534名)



産科統計

疾患	数
総分娩数	411
経膈分娩	227
帝王切開	144(35.0%)
多胎妊娠	20
中期分娩	18
早産症例	71(17.3%)
NICU入院	99(24.1%)
母体搬送受け入れ	109
母体搬送依頼	6

産婦人科手術統計

疾患	数
子宮頸癌(広汎子宮全摘術)	8
子宮体癌根治術(開腹)	16
子宮体癌根治術(腹腔鏡)	9
卵巢癌根治術	19
試験開腹	2
腹式単純子宮全摘術(ATH)	55(60%)
全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)	31(34%)
腔式子宮全摘術(VTH)	6(7%)
腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術(LAVH)	0
腹式子宮筋腫核出術	9(75%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術(LM)	3(25%)
腹式付属器手術(付切、核出術含む)	26(30%)
腹腔鏡下付属器手術(付切、核出術含む)	62(70%)
膈閉鎖術	8
異所性妊娠(開腹)	1(7%)
異所性妊娠(腹腔鏡)	14(93%)
帝王切開術	144
子宮鏡下切除(子宮筋腫)	19
子宮鏡下切除(子宮内膜ポリープ)	26
子宮鏡下切除(子宮頸管ポリープ)	0
子宮鏡下子宮内膜焼灼術	0
子宮鏡検査	15
LASER蒸散術	18
子宮頸部円錐切除術	67
子宮内容除去術	45
子宮頸管縫縮術	9
その他	27
計	639(月平均53.2)

婦人科悪性腫瘍統計

疾患	数
子宮頸癌	22
子宮頸部上皮内腫瘍(CIN3・CIS)	47
子宮頸部上皮内腺癌(AIS)	1
子宮体癌(子宮癌肉腫含む)	24
子宮内膜異型増殖症	3
子宮肉腫	0
卵巢癌	15
腹膜癌	1
卵管癌	0
卵巢境界悪性腫瘍	5
腹膜癌肉腫	0
膈癌	0
高度膈上皮内腫瘍	1
外陰癌	0
胞状奇胎	3
臨床的侵入奇胎	1
原発不明癌	1
転移性子宮体癌	0
転移性子宮卵巢癌	3
計	127

27. 眼科

眼科部長 中間崇仁

2021年は3月で前任部長の吉山慶三先生が退職となり、4月から私が部長を拝命いたしました。常勤医総入れ替え、加えて人数も5名から4名へと減員となりマンパワーは減ったのですが、年間手術件数は2020年とほぼ同様とすることが出来ました。新型コロナウイルス感染症の影響も残る中でこのような1年にすることが出来たのも、外来・病棟を始め関わってくださるスタッフのおかげかと存じます。この場を借りて感謝申し上げます。

今後はこれまで以上に病診連携、院内スタッフとの連携、双方を深めて、以前より問題となっている手術待機期間や外来待ち時間の長期化などの対策を講じていく所存です。

入院患者疾患別内訳（2021年）

病名	総計	急患	性別		年齢 (平均)	在科日数 (平均)
			男	女		
白内障	317	1	136	181	75.2	3.4
網脈絡膜疾患	123	21	69	54	64.6	7.8
緑内障疾患	59	3	28	31	72.8	6.7
硝子体疾患	14	0	7	7	65.0	7.2
眼内レンズトラブル	11	1	8	3	73.5	7.0
その他	11	2	3	8	53.3	11.3
角膜疾患	4	4	3	1	71.0	13.5
視神経炎	1	0	1	0	78.0	14.0
水晶体疾患	3	0	1	2	75.3	7.3
翼状片	3	0	3	0	72.0	2.0
外傷性疾患	7	5	6	1	44.4	7.5
結膜の障害	1	0	1	0	85.0	6.0
総計	554	37	266	288	71.5	5.2

手術室での総手術件数 [772件]

手術（内訳）	件数
水晶体再建術	595
緑内障手術	45
硝子体手術（網膜剥離）	111(43)
その他	21

（重複を含む）

28. 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長代行 佐藤文彦

2021年度は、麻生前部長の退職に伴い、4～10月までは常勤2人体制でしたが、10月半ばより再度3人体制となりました。その中でも、COVID-19感染症により一時入院・手術を制限した時期もありましたが、全体の手術件数はほぼ横ばいで維持することができました。また、免疫チェックポイント阻害薬や分子標的治療薬などのレジメン追加に伴い、頭頸部悪性腫瘍患者は昨年度より増加しました。中でも、COVID-19感染症の感染拡大に伴う病院への受診自粛の影響からか、進行癌が多く見受けられました。今後も頭頸部癌治療の充実を図って参りたいと思います。

2022年も地域医療に貢献できるよう、診療の質の向上に努めて参りますので、何卒よろしくお願いたします。

入院患者疾患別内訳（2021年）

病名	総数	急患	手術件数	性別	
				男	女
悪性腫瘍	133	5	64	98	35
咽頭悪性腫瘍	50	3	9	42	8
喉頭悪性腫瘍	20	0	5	19	1
甲状腺悪性腫瘍	18	1	18	5	13
悪性リンパ腫	17	0	17	9	8
舌	12	1	3	11	1
転移性リンパ節	5	0	4	2	3
副鼻腔	5	0	3	5	0
口腔	3	0	2	3	0
耳下腺悪性腫瘍	1	0	1	0	1
口蓋	1	0	1	1	0
大唾液腺	1	0	1	1	0
咽頭・扁桃・喉頭疾患	129	42	87	75	54
慢性扁桃炎	47	3	45	18	29
扁桃周囲膿瘍	32	31	0	22	10
扁桃肥大	29	0	29	23	6
声帯ポリープ	7	0	7	4	3
急性喉頭蓋炎	5	5	0	3	2
声帯嚢胞	4	0	4	3	1
急性扁桃炎	2	2	0	0	2
喉頭嚢胞	2	0	2	1	1
急性咽頭炎	1	1	0	1	0
外耳・中耳・内耳疾患	30	2	26	20	10
中耳炎	12	0	12	6	6
中耳真珠腫	9	0	9	7	2
外耳炎	4	1	2	4	0
その他	5	1	3	3	2
口腔・唾液腺・顎	9	3	6	3	6
唾石症	4	0	4	1	3
急性化膿性耳下腺炎	3	3	0	2	1
その他	2	0	2	0	2
神経麻痺	11	5	0	7	4
顔面神経麻痺	11	5	0	7	4
鼻・副鼻腔疾患	47	1	45	29	18
慢性副鼻腔炎	30	1	28	17	13
鼻中隔彎曲症	12	0	12	8	4
嚢胞	5	0	5	4	1
良悪不詳の腫瘍	2	0	2	0	2
良悪不詳の腫瘍	2	0	2	0	2
良性腫瘍	34	0	34	11	23
甲状腺・副甲状腺良性腫瘍	11	0	11	1	10
耳下腺良性腫瘍	10	0	10	4	6
口腔及び咽頭	2	0	2	1	1
鼻腔・副鼻腔良性腫瘍	2	0	2	1	1
喉頭良性腫瘍	1	0	1	0	1
その他	8	0	8	4	4
その他	46	20	19	28	18
突発性難聴	17	8	0	6	11
その他	29	12	19	22	7
総計	441	78	283	271	170

29. 脳神経外科

脳神経外科部長 名取良弘

2019年に全世界的に始まったコロナ禍は、2020年春から当院の臨床活動に影響を及ぼしました。2021年は1月初めから9月末まで直接的な影響が出ました。新型コロナウイルス感染症の流行前（3年間）と比べて、入院患者数は6.8%減少し、手術数も9.5%減少しました。全国的にも、人流減少により頭部外傷患者の減少と、虚血性脳卒中患者の減少が言われていますが、当院では頭部外傷とくも膜下出血が減少していました。強い衝撃による頭部外傷（急性硬膜外血腫・急性硬膜下血腫）の手術例は4割減少し、くも膜下出血の原因の破裂脳動脈瘤への手術も約3割減少していました。一方、虚血性脳卒中への急性期の脳血栓回収術は、約3割増加していました。これは関連各部署（特に脳神経内科）との連携の賜と思われまます。

人事では、3月末に桶谷英司先生が下関市立中央病院へ、5月末に村田秀樹先生が九州医療センターへ異動され、4月1日より高原健太先生が下関市立中央病院から、6月1日より井上大輔先生が九州労災病院から赴任されました。

2021年に高原健太先生が日本脳神経血管内治療学会専門医、林大輔先生が日本脳神経外科学会専門医を取得されました。現在当院は、脳神経外科専門医7名、血管内治療専門医2名を擁する体制となり、病床が許す限り24時間365日対応することが盤石となりました。今後とも、地域に貢献する脳神経外科医療の実践に励む所存です。

総退院患者数 556 名 急患者数 339 名

1. 日本脳神経外科学会 研修施設
2. 脳神経外科の病床数：30～60床
3. 年間入院症例数：593名
4. 専従脳神経外科医数：専門医7名
5. 年間手術総数：283件

脳腫瘍	a. 脳腫瘍摘出術	19
	b. 脳腫瘍生検術	10
	c. 経蝶形骨洞手術	0
脳血管障害	a. 破裂動脈瘤	17
	b. 未破裂動脈瘤	6
	c. 脳動静脈瘤奇形	2
	d. 血管吻合術	1
	e. CEA	5
	f. 高血圧性脳出血 開頭血腫除去術	16
	定位（穿頭・内視鏡）手術 穿頭ドレナージ術 その他	7 5 1
外傷	a. 急性硬膜外血腫	2
	b. 急性硬膜下血腫	9
	c. 減圧開頭術	1
	d. 慢性硬膜下血腫	87
	e. その他	3
水頭症	a. 脳室シャント術	9
	b. 内視鏡手術	1
	c. その他	1
奇形	a. 頭蓋・脳	0
機能的手術	a. 脳神経血管減圧術	0
血管内手術	a. 動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	8
	（未破裂動脈瘤）	4
	b. 動脈奇形（脳）	2
	（脊髄）	
	c. 閉塞性脳血管障害の総数	31
	（上記の内ステント使用例）	5
d. その他	7	
その他		29

30. 歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 中松耕治

2021年は引き続き新型コロナウイルス感染症への対策で大わらわであったが、前年と比べると対応策に慣れ、過度の診療制限は行わずに済んだ。4月の人事異動では、石井広太郎先生が診療部長として、また秋山史織先生が後期研修医として九州大学から着任し、歯科初期研修医として松澤鎮史先生を迎えた。残留した澁谷先生も含めて非常にパワフルな布陣となった。薬剤性顎骨壊死に対する手術や、石井先生が専門医を取得した顎関節症に対する診断、治療など新たな風を吹き入れ、手術件数前年比4割増しというアクティビティの高い年となった。コロナ禍にもかかわらず外来患者さんも非常に多く大忙しではあったが、大変充実した1年であった。しかし、それに伴い全員の残業時間も激増し、働き方改革の観点からは課題を残した。次年は業務の一層の効率化を念頭に置きつつも、顎関節内視鏡手術という新たな技術の導入を目指してさらなる飛躍を遂げるべく、バックで支えてくれている歯科衛生士たちとも一丸となって努力していくつもりである。

2021年 診療実績

手術症例	件数
抜歯（正中埋伏過剰歯、埋伏智歯等）	147
嚢胞（含歯性嚢胞、歯根嚢胞等）	56
外傷	17
良性腫瘍	10
悪性腫瘍	5
炎症（顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎等）	18
骨整形・サイナスリフト	5
インプラント埋入	6
全麻/静脈鎮静下歯科治療	27
唾液腺	9
顎関節疾患	4
その他	19
計	323

31. 心臓血管外科

心臓血管外科部長 内田孝之

2021年は“新型コロナウイルス感染症”（以下、コロナ）に振り回され続けた一年でありました。特に新規術式導入の際には症例見学、実施時の指導医招聘が必須となりますが、コロナによる移動制限で大きく制約を受けてしまいました。

ただ、コロナ禍にあっても経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を始めとする諸手術件数は、TAVI22件を含め人工心肺、心臓手術が145件、非開心術、大動脈ステントグラフトまで含めた心臓大血管手術が275件、末梢血管、不整脈デバイス手術を加えると500例以上と2020年と同様の症例をご紹介いただき感謝しております。

コロナの影響を感じた点としては動脈瘤の破裂症例が若干増加したことです。これについては患者さんの早期受診、健診控えによる可能性もあるのではと思っています。しかし、大動脈瘤破裂は未破裂症例に比較して治療成績も悪化し、高い死亡率となってしまうことは事実ですのでコロナ禍においても早期発見への取り組みは強化し続ける必要があると痛感しております。現在、循環器内科と共同で地域の先生方とのオンライン症例相談などができるコミュニケーションシステム開発を行っているのもその取り組みの一環です。

症例について、TAVIに関しては小開胸心尖部アプローチ、新機種を導入、指導医資格を取得、と少しずつ、より複雑で難易度の高い症例へ挑戦しつつ、独自にできる症例範囲を拡大し、尚且つ全例が重大合併症なく無事退院となりました。今後も一例一例丁寧に治療を行っていきたいと思います。

低侵襲心臓手術術式では、右側胸部の小さな創から手術を行うMICS（低侵襲小切開）僧帽弁手術の症例を重ねつつ、心房中隔欠損症、三尖弁手術など対象症例を増やしています。2022年はコロナの影響で滞っていた大動脈弁置換術への導入開始を目標に、さらなる進化を目指して技術研鑽を重ねたいと考えています。

最後に2021年に念願の2台目の人工心肺を導入させていただきました。これにより、人工心肺手術施行中でも緊急手術（大動脈解離など）症例の受け入れが可能となりました。もちろん麻酔医師不足や手術室不足など常にハードルはありますが、関係各方面と今後も継続的に協議しつつ工夫を重ね、救急不応需ゼロへ向けてさらに前進できればと思っています。

我々の目標としては、よりよい手術、治療の提供、その質の向上こそが常に最重要と考えます。今後も一層の低侵襲化、救命率向上を目指して技術向上を図っていきたいと思います。

1) 2021年 診療実績

手術症例数

- CABG：30（OPCAB:2）
- VHD：72（+CABG:10、MICS:5、TAVI:22）
- TAA：58（+VHD:4、+CABG:2、TEVAR:21）
- その他の開心術：7

心臓＋胸部大動脈手術：167

- AAA：68（EVAR:42）、追加治療：10
- ペースメーカ 新規：109、交換：39、リード：5
- ICD 新規：13（s-ICD 6例含む） 交換：5
- CRTD 新規：2、CRTP 新規：5、CRT 交換：5
- その他：60

※下肢血管手術は血管外科に記載

32. 血管外科

血管外科部長 松元 崇

飯塚病院血管外科は、開設2年目を迎えました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一時的に待機可能な手術の制限などありましたが、最終的にはほぼ例年並の手術を行うことができました。

末梢動脈疾患においては、包括的下肢慢性虚血に対する血行再建（バイパス手術・EVT・ハイブリッド）を中心に診療を行っております。

下肢静脈瘤については、血管内レーザー焼灼術に加えて今期から接着剤による血管内治療（グルー治療）を導入しました。術中の大量局所麻酔が不要で、周囲の神経等の損傷がない等のメリットがある治療です。1泊2日ないし日帰りでの治療も選ぶことができ、治療選択肢の幅がさらに広がっております。

今後も一層のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。

2021 年診療実績

手術症例数

末梢動脈疾患

バイパス移植術：20、EVT：21（含むハイブリッド手術3）

動脈血栓内膜摘出術：5、動脈塞栓除去：5

末梢動脈瘤手術：4、血管吻合術：26

静脈疾患

下肢静脈瘤血管内焼灼術：62、下肢静脈瘤グルー治療：5例

腹部大動脈瘤・腸骨動脈瘤（心臓血管外科と重複あり）

人工血管置換：26、EVAR：42

その他：4

総手術数 220 例

33. 脳神経内科

脳神経内科部長 高瀬敬一郎

飯塚病院脳神経内科は例年脳神経救急疾患が診療の主軸であり、この1年もその傾向は同様です。脳神経内科では入院患者の8割が急患入院です。なかでも最も多いのが脳梗塞で、年間450人前後が脳梗塞で入院されます。2021年は2020年に比べ40人程度減少していますが、ほぼ横ばいと言えます。超急性期血栓溶解療法（t-PA療法）も積極的に行っています。2021年には計25人に行い、患者数は例年並でした。また脳神経外科の協力の下、カテーテルを用いた超急性期血栓回収療法も計16人に行いました。また脳梗塞、てんかん重積状態、髄膜炎・脳炎などの救急神経疾患以外にも、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病などの神経変性疾患や、多発性硬化症、重症筋無力症などの神経免疫疾患なども、筑豊地域唯一の神経難病専門病院として、引き続き数多く診療しております。認知症は外来で「物忘れ外来」として診断を中心とした診療をしています。てんかん専門外来や片側顔面けいれん等へのボトックス治療も行っております。

1) 2021年 入院患者内訳

総退院患者数	770件
急患数	604件
死亡数	29件
剖検数	1件

疾患名	件数
脳血管障害	455
脳梗塞	430
脳出血	1
TIA	24
意識障害	0
脳症	1
感染症・炎症	10
髄膜炎	5
脳炎	4
クロイツフェルト・ヤコブ病	1
神経梅毒	0
変性疾患	52
パーキンソン病	11
パーキンソン症候群	11
脊髄小脳変性症	0
筋萎縮性側索硬化症	25
その他の変性疾患	5

疾患名	件数
多発性硬化症／急性散在性脳脊髄	4
重症筋無力症	20
筋疾患	4
脊髄疾患	4
髄膜炎	2
頸椎症・腰椎症	1
脊髄血管障害	0
痙性脊髄麻痺	0
その他の脊髄症	1
末梢神経障害	55
てんかん／けいれん	97
認知症／健忘症	5
中毒	2
代謝性疾患	2
腫瘍性疾患	3
心因性疾患	1
その他	55

34. 漢方診療科

漢方診療科部長 田原英一

2021年の漢方診療科は新型コロナウイルス感染症の影響で受診患者数は減少しましたが、入院では小児科からのご紹介もあり、小児～青年期の心と体の不均衡および自律神経の不安定な症例を多く経験しております。外来ではやはり新型コロナウイルス感染症に関する不安などを訴える患者さんが増加し、漢方医学的に気うつなどに相当する病態が多い様です。漢方薬によるCOVID-19の予防効果に関する研究も始まりました。学生および研修医等の実習も減少しましたが、実習内容の見直しを行っています。対外的に行ってきた様々な勉強会、研究会はWebでの開催に切り替えが進み、以前と同じように定期的開催するとともに、これまで近隣地域が対象であったものが全国からアクセスをいただいております。

2021年診療実績

1) 入院患者疾患別内訳

病名	総数	急患	性別		年齢 (中央値)	在科日数 (中央値)
			男	女		
その他	3	2	1	2	45	22
COVID-19	1	1	1	0	21	22
倦怠感	1	0	0	1	45	24
熱疲労, 一過性	1	1	0	1	73	16
筋骨格・結合組織疾患	4	0	0	4	72	20
関節リウマチ, 詳細不明(部位不明)	1	0	0	1	73	10
関節痛(多部位)	1	0	0	1	57	15
頸椎椎間板障害(脊髄症を伴う)	1	0	0	1	71	25
皮下脂肪組織炎, 詳細不明(下腿)	1	0	0	1	75	43
呼吸器疾患	5	5	3	2	86	11
誤嚥性肺炎	2	2	1	1	83.5	17
気管支拡張症	1	1	0	1	89	11
細菌性肺炎, 詳細不明(他に分類されてない)	1	1	1	0	78	8
肺炎, 病原体不明, 詳細不明	1	1	1	0	96	19
循環器疾患	6	0	3	3	14	10
起立性調節障害	6	0	3	3	14	10
消化器疾患	7	2	2	5	60	14
過敏性腸症候群(下痢を伴う)	2	0	1	1	38	26
ディスペプシア	1	0	0	1	68	20
過敏性腸症候群(下痢を伴わない)	1	0	1	0	15	14
肝硬変	1	0	0	1	66	5
肝障害・詳細不明	1	1	0	1	42	5
食道裂孔ヘルニア	1	1	0	1	86	11
神経系疾患	1	0	1	0	14	15
慢性疲労症候群	1	0	1	0	14	15
精神疾患	4	1	1	3	43.5	16.5
疲労症候群	2	1	1	1	33	15.5
心臓神経症	1	0	0	1	67	11
双極性感状障害・躁うつ病・詳細不明	1	0	0	1	38	26
内分泌・栄養・代謝疾患	3	2	1	2	74	17
インスリン非依存型糖尿病(合併症を伴わない)	1	0	0	1	77	10
ビタミンB12欠乏症	1	1	1	0	47	17
亜鉛欠乏症	1	1	0	1	74	17
尿路性器系疾患	2	2	1	1	94.5	6
尿路感染症, 部位不明	2	2	1	1	94.5	6
皮膚疾患	1	0	0	1	41	15
アトピー性皮膚炎, 詳細不明	1	0	0	1	41	15
総計	36	14	13	23	58.5	13.5

35. 救急科

救急科部長 山田哲久

「救急科この一年」

当院は、人口およそ40万人の筑豊地域唯一の三次救急施設です。筑豊地域最後の砦としての役割を担うために、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）が365日24時間救急患者に対応しています。従って、一次二次症例は積極的に受け入れをお断りしています。一次二次医療機関からの紹介や救急隊からの受け入れも、三次症例でなければ基本的にお断りしています。当院でなければ受け入れが困難な症例を厳選して受け入れることを目指しています。

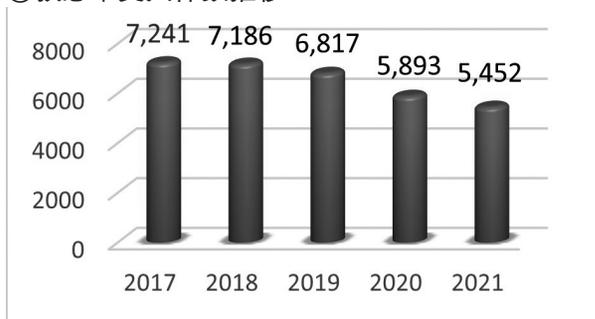
救急科医師は搬送患者の状態を迅速に安定化させ、各専門科医師に引き継ぐ役割を担っております。当科の特色の一つに、病院車運用方式でラピッドレスポンスカーによるドクターカーの運用があります。現場から傷病者に対する診断、処置を開始します。本事業は筑豊地域の救命体制の中心的役割を果たしていると考えています。

教育面では、当院は臨床研修指定病院であり、初期研修医および院外からの後期研修医・専攻医は救急科をローテーションすることを必須としています。救命救急センターでは、救急科医師（スタッフ・後期研修医・専攻医）のバックアップのもと、研修医が初期診療を行います。当院の救命救急センターでは、症例数が豊富であり、研修医にとって修練の場として最適な環境となっています。従って初期診療は専門科ではなく研修医が行います。

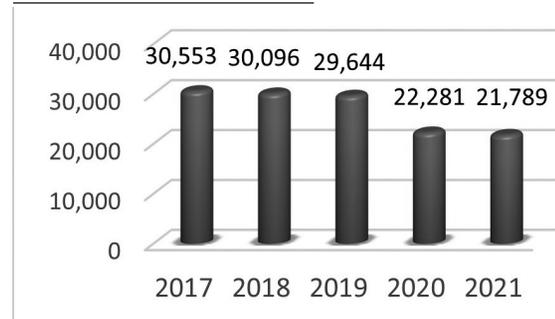
以上、今後も筑豊地域の救急医療に貢献させていただくことが出来ましたら幸いです。

1) 救命救急センター統計

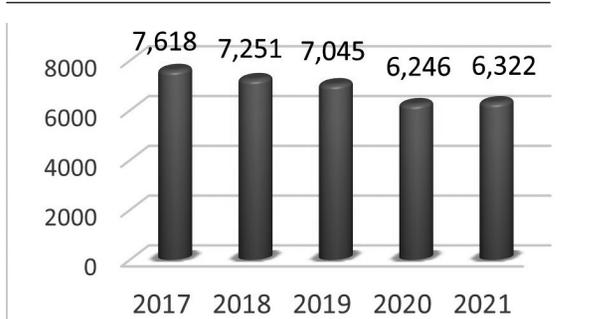
①救急車受入件数推移



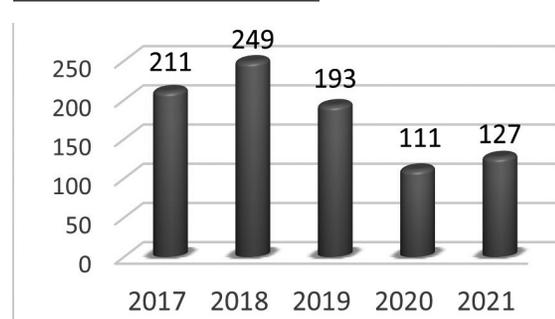
②センター受診患者数推移



③センター経由入院患者数推移（全診療科）



④ドクターカー出動件数



2) 主な症例別件数

・外傷	301例	・脳卒中	565例
AIS ≥3	206例	脳梗塞	319例
ISS ≥16	95例	くも膜下出血	53例
・CPA	305例	脳出血	193例
救外死亡	212例	・急性冠症候群	306例
入院	93例	心筋梗塞	281例
転医	0例	狭心症	25例
帰宅	0例	・急性大動脈解離	81例
(入院後転帰)		・敗血症	122例
死亡	61例		
帰宅	21例		
転医	9例		
入院中	2例		

36. 集中治療科

集中治療科部長 吉野俊平

12床で構成される集中治療室（以下、ICU）は、集中治療を専門とするスタッフにより院内急変や救急搬送された重症患者に対する集中治療管理、および外科系患者の周術期管理などを行っています。現在、集中治療専門医3名と集中ケア認定看護師1名を含む多職種が、主科と密に連携を取りながらクローズドICU（すべてのICU患者に対して集中治療医が診療に携わり、他の主治医がいたとしてもその主治医とともに患者に対しての責任を共有しているICU）として運営しています。

2021年の入院患者数は648名、疾患別順位は心・血管疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、代謝性疾患で、同年の生命維持装置の装着患者は人工呼吸器410名、血液浄化療法130名、経皮的心補助装置26名でした。人事関連では専攻医8名、初期研修医3名がローテイトしてくれました。今後とも診療の質や安全性の更なる向上を目指して努力して参ります。

2021年 ICU入室患者

全入室患者数	648名
平均年齢	71.2（15～98）歳

入院経路	
緊急	205名（31.7%）
予定	443名（68.3%）

性 別	
男性	415名（64.0%）
女性	233名（36.0%）

平均在室日数	4.5日
ICU内死亡	36名（5.6%）

疾患別		
心血管	計	370
	手術後	234
	心停止	62
	急性心筋梗塞	23
	その他	51
呼吸器	計	99
	ウィルス性肺炎	25
	誤嚥性肺炎	17
	手術後	16
	その他	41
消化器	計	79
	手術後	35
	消化管出血	18
	消化器の炎症 / 感染	15
	その他	11
神経系	計	6
	てんかん / 痙攣	3
	破傷風	2
	手術後	1
敗血症	計	21
	敗血症性ショック*臓器分類不明	9
	尿路感染症による敗血症性ショック	10
	敗血症 * 臓器分類不明	1
	尿路感染による敗血症	1

外傷	計	15
	手術後	7
	頭部を含まない外傷	4
	頭部を含む外傷	2
	熱傷	2
代謝性	計	39
	糖尿病性ケトアシドーシス	9
	薬物中毒	9
	その他	21
血液疾患	計	3
	手術後	2
	腫瘍崩壊症候群	1
泌尿生殖器	計	3
	泌尿器疾患	2
	手術後	1
産婦人科	計	3
	妊娠関連疾患	2
	子宮摘出術	1
筋骨皮膚	計	10
	蜂窩織炎 / 軟部組織感染症	5
	手術後	5

37. 形成外科

形成外科部長 橋口晋一郎

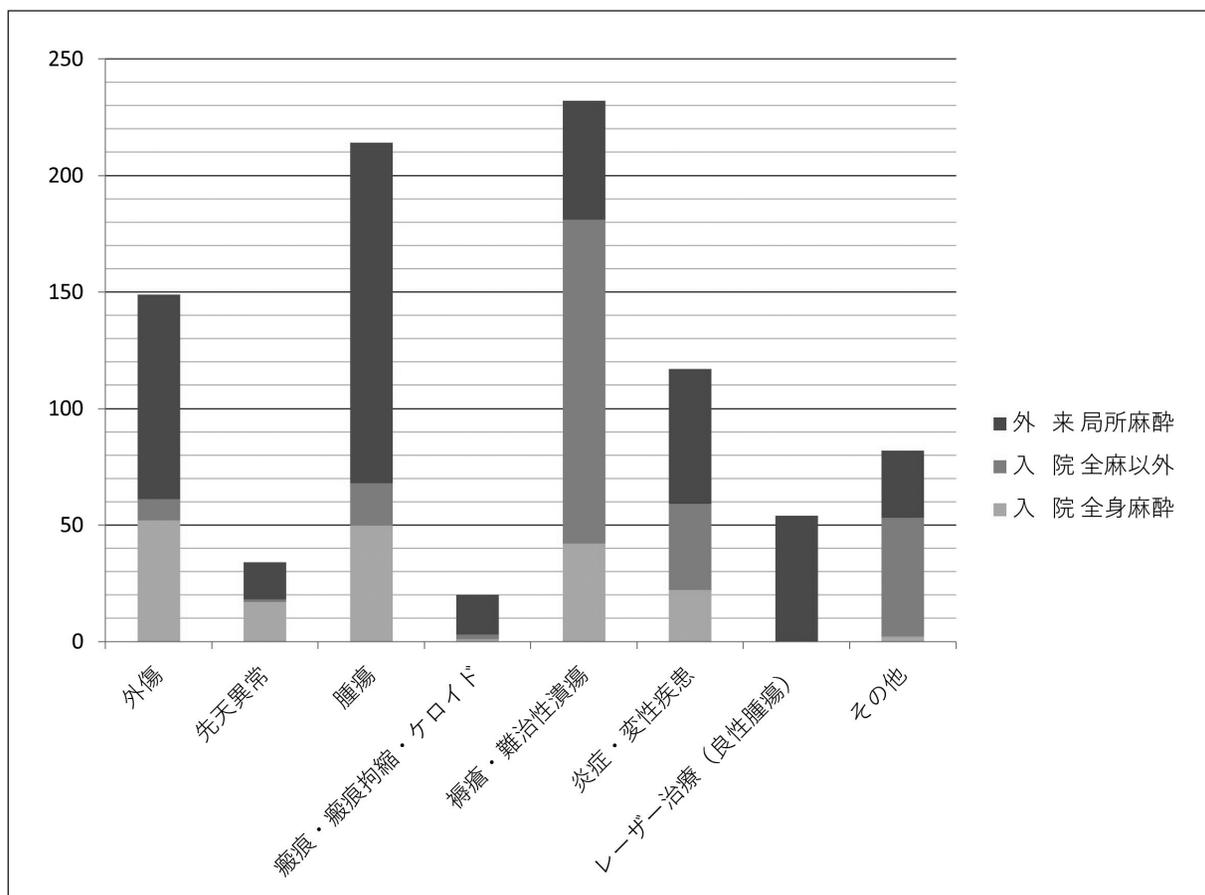
現在、飯塚病院形成外科は橋口晋一郎、小山麻衣の常勤2名と、非常勤として前川絵美、清川兼輔（久留米大学形成外科・顎顔面外科学講座 主任教授）の、常勤2名・非常勤2名体制で診療を行っております。

顔面骨骨折や皮膚腫瘍、難治性潰瘍などを主体に診療を行っておりますが、近年では眼瞼下垂症や先天異常の患者さんも増加しています。他科との合同手術も多く行っており、特に血管外科（虚血肢の治療）、耳鼻咽喉科（頭頸部再建）、乳腺外科（乳房再建）、整形外科（開放骨折）とのチーム医療を積極的に行っております。

今後も筑豊地区の基幹病院に所属する一員として、より一層充実した医療を地域の皆様に、ご提供できればと考えておりますのでよろしくごお願いいたします。

1) 手術件数内訳

区 分	入院		外来		計
	全身麻酔	全麻以外	全身麻酔	局所麻酔	
外傷	52	9	0	88	149
先天異常	17	1	0	16	34
腫瘍	50	18	0	146	214
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1	2	0	17	20
褥瘡・難治性潰瘍	42	139	0	51	232
炎症・変性疾患	22	37	0	58	117
レーザー治療（良性腫瘍）	0	0	0	54	54
その他	2	51	0	29	82
合計	186	257	0	459	902



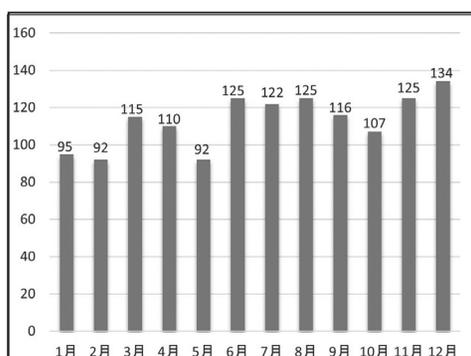
38. リハビリテーション科

リハビリテーション科部長 山下智弘

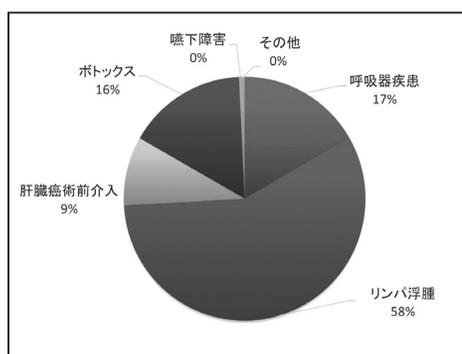
2021年は連携医療・緩和ケア科と連携し、脳卒中後遺症患者の上下肢痙縮に対するボトックス療法+集中的リハビリテーションを入院で開始する事としました。しかし、COVID-19の感染拡大の影響で、入院予定であった治療対象患者の半数以上が外来での治療を希望したため、計画通りできませんでした。少し方向転換し、入院できなかった患者さんに対し、外来リハビリテーションを積極的に行う事で、入院とほぼ同等な効果を得る事ができました。

また、2020年4月に導入した歩行解析器での治療効果（歩行の改善度）を患者さん・家族に提示することで更なるモチベーションの向上に寄与することができました。肝臓癌患者に対して行っているサルコペニア・フレイル対策を、各疾患にも派生させリハビリテーション治療を行い、退院後のスムーズな社会復帰に繋げられるよう工夫しています。呼吸器外科患者に対する呼吸リハビリテーション、乳腺外科患者に対するリンパ浮腫の指導・介入は継続して行っています。2022年は地域連携を強化し急性期のみならず生活期におけるリハビリテーション治療について発信していきます。

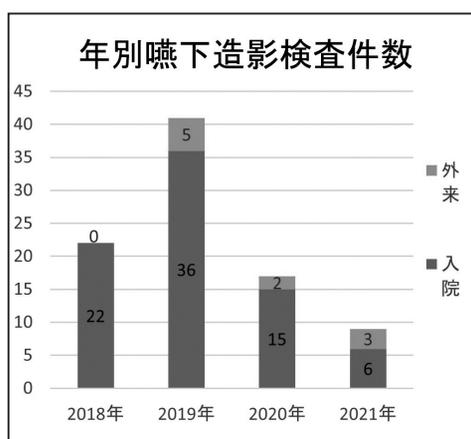
1) 月別延べ患者数



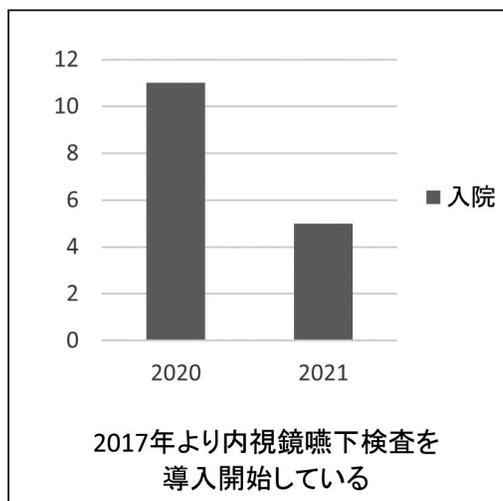
2) 年間外来患者疾患別内訳



3) VF 実施件数 (リハ医担当分のみ)



4) VE 実施件数



39. 麻酔科

麻酔科部長 尾崎実展

2021年度は麻酔科認定医1名が集中治療部へ異動し、麻酔科常勤医は専門医6名と歯科麻酔科専攻医1名の7名体制でのスタートとなりました。ソルブ社製薬液認識システムIMRSが全手術室で運用開始となりました。誤薬防止と記録・請求入力の省力化に貢献すべくシステム改良を続けています。COVID-19蔓延に対応し、麻酔導入・挿管・抜管時にスタッフのN95マスクとアイシールド装着を義務化し、非装着者はこの間手術室から待避することとしています。12月に麻酔科専門医／ペインクリニック科部長の小畑が定年退職し専門医が5名となりました。スタッフの献身的な働きと、非常勤応援医師の増員、集中治療部・救急部応援医師や研修医の力を借りてかろうじて手術症例に対応していますが、院内待機業務や準夜帯の対応は限界を超えた感があり、常勤麻酔科医の確保が最重要課題と思われまます。

1) 麻酔方法

2021年度もCOVID-19による入院制限や手術延期などの影響が続き麻酔科管理症例数は4,467例で、麻酔科管理症例数が大きく減少した2020年の4,422例と比べ45例の増加にとどまりました。日本麻酔科学会の分類法に基づく麻酔方法の内訳は次の通りです。

麻酔法	2021年	2020年	2019年
全身麻酔（吸入麻酔）	1,884例（42.2%）	（41.6%）	（39.5%）
全身麻酔（静脈麻酔）	404例（9%）	（9.3%）	（10.1%）
全身麻酔（吸入＋硬膜・脊椎・伝達）	1,442例（32.2%）	（30.2%）	（29.9%）
全身麻酔（静脈＋硬膜・脊椎・伝達）	95例（2.1%）	（1.9%）	（2.1%）
脊椎＋硬膜外	476例（10.6%）	（12.8%）	（13.9%）
硬膜外麻酔	5例（0.1%）	（0.1%）	（0.1%）
脊椎麻酔	97例（2.1%）	（2.5%）	（2.5%）
伝達麻酔	22例（0.5%）	（0.8%）	（0.8%）
その他	42例（0.9%）	（0.7%）	（0.6%）

2021年の例数と（ ）内に比率を示します。2020、2019年分は比率だけ示します。全身麻酔では吸入麻酔の増加と静脈麻酔の減少がさらに進んでいます。覚醒の速やかなDesfluraneの使用頻度が増加したためと思われまます。周術期抗凝固療法普及の影響もあり、超音波ガイド下神経ブロックを併用した全身麻酔の施行も増加しています。

2) 手術症例の年齢分布

年齢分布（学会による分類法に基づく）は次のようになっています。

年齢区分	2021年	2020年	2019年
～1ヶ月	1例（0.02%）	（0.07%）	（0.1%）
～12ヶ月	22例（0.49%）	（0.8%）	（0.3%）
～5歳	111例（2.5%）	（3.1%）	（2.5%）
～18歳	235例（5.2%）	（5.2%）	（4.8%）
～65歳	1,808例（40.7%）	（41%）	（43.1%）
～85歳	1,979例（44.3%）	（43.5%）	（41.8%）
86歳以上	311例（6.9%）	（6.7%）	（7.0%）

2020年度65歳以上の高齢患者さんが全体の50%を越えましたが、この傾向はさらに進行し2021年度は51.2%となりました。

3) 偶発症

麻酔学会の定義する偶発症とは、原因（麻酔、手術、患者さんの病態による理由）の如何を問わず、手術中に起きた危機的状态とされます。偶発症は1. 危機的偶発症 2. 神経系偶発症 3. その他の神経系偶発症 4. その他と4つに分類されています。

2021年に当院で報告した偶発症は6例です。その内訳は

分類	2021年	2020年	2019年
1. 危機的偶発症			
心停止	0例 (0)	(4.5)	(6.4)
高度低血圧	1例 (2.2)	(4.5)	(2.1)
高度低酸素血症	3例 (6.7)	(2.3)	(0)
高度不整脈	1例 (2.2)	(0)	(0)
その他	0例 (0)	(0)	(2.1)
2. 神経学的偶発症	1例 (2.2)	(0)	(8.6)
3. その他の神経学的偶発症	0例 (0)	(0)	(0)
4. その他	0例 (0)	(2.3)	(2.1)
合計	6例 (13.3)	(13.6)	(21.3)

() は1万人当たりの発生人数を示しています。つまり、偶発症発合計は1万人あたり13.3人となります。

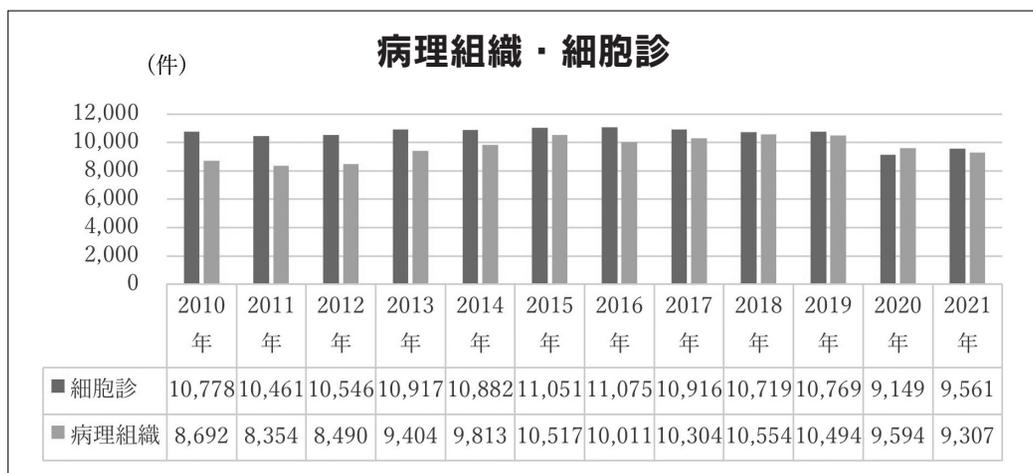
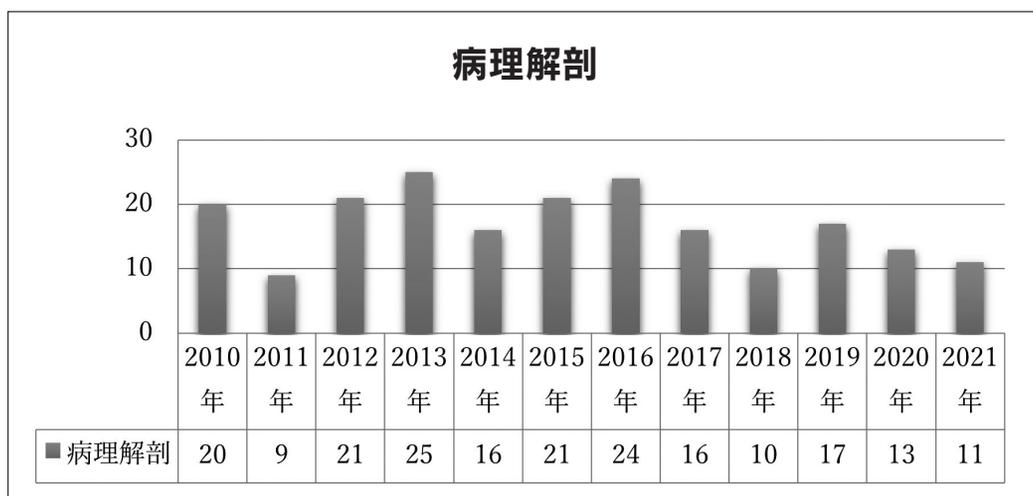
40. 病理科

病理科部長 大石善丈

大石善丈、平木由佳医師、成富文哉医師の3人体制で生検、組織診、術中迅速診断、細胞診、病理解剖、CPC等のカンファランスに対応した。4月から赴任した後期研修医は7月から産休に入り、12月から育休中ながら業務可能な時間帯のみ勤務した。九州大学病理学教室員や、福岡山王病院の大屋前部長に週1回ずつ診断応援をいただいた。血液疾患はこれまで同様、久留米大学病理学教室の大島教授に御高診いただいた。病理組織診、細胞診の総数は1万件弱に達した。

< 2021 年中央検査部病理 診療業績 >

1. 病理組織診断 9,307 件 (特染 1,962 件、免疫染色 1,741 件)
(癌 1,915 件 肉腫 2 件 リンパ腫 150 件 黒色腫 4 件)
2. 術中迅速診断 390 件
3. 細胞診 9,561 件
4. 遺伝子診断 35 件
ISH 法による EBER-1 の解析
(検体は胃切除標本など)
5. 血球細胞機能検査 456 件
(フローサイトメトリーによる造血器腫瘍の診断など)
検体は末梢血、骨髄、リンパ節等の新鮮材料
6. 腎生検 47 件
7. 蛍光抗体検査 72 件
8. 剖検 11 件



41. 感染症科

感染症科部長 的野多加志

感染症科は2019年4月に新設され、病棟業務として主に①感染症コンサルテーション、②血液培養陽性患者のフォローアップ、③抗菌薬適正使用支援を行っています。さらに2019年7月からワクチン・トラベル外来（完全予約制の専門外来）を開始しています。2021年は新型コロナウイルス感染症における診療・感染対策など院内の中心的な役割を果たすとともに、筑豊地域ならびに県下の各医療機関や介護・福祉施設などに対する感染対策支援を行いました。また、専門家として正しい情報を県民に伝えるべく、マスコミなどを通じた情報発信も積極的に行っています。

外来延べ患者数：1,696名

自由診療	1,238	保険診療	355	針刺し	96
新規	733	新規	120	新規	45
再診	505	再診	235	再診	51

治験	7
新規	3
再診	4

抗菌薬適正使用支援	69	血液培養	1,049
-----------	----	------	-------

1) 入院患者疾患別内訳

病名	計
呼吸器感染症	28
抗酸菌感染症	2
腸管感染症	1
皮膚軟部組織感染症	1
その他（非感染症）	3
総計	35

2) 新規外来患者（保険診療）疾患別内訳

病名	計
肝・胆道系感染症	1
呼吸器感染症	13
抗酸菌感染症	3
骨・関節感染症	4
性器・性感染症	17
腸管感染症	4
皮膚軟部組織感染症	1
その他感染症	5
その他（非感染症）	32
ワクチン接種（保険適応）	40
総計	120

3) 感染症コンサルト疾患別内訳

病名	計
感染性心内膜炎	16
肝・胆道系感染症	25
呼吸器感染症	119
骨・関節感染症	52
耳鼻科感染症	4
性器・性感染症	11
中枢神経系感染症	4
腸管感染症	25
尿路感染症	33
皮膚軟部組織感染症	58
腹腔内感染症	36
その他感染症	48
敗血症	64
その他（非感染症）	60
総計	555

42. 予防医学センター

予防医学センター長 矢野博美

2021年は、2月に予防医学本部長は名取良弘医師（副院長・脳神経外科部長）から本村健太医師（副院長、肝臓内科部長）に交代しました。予防医学センター長 矢野博美（漢方診療科診療部長）、保健師3名、看護師5名、事務4名、パート1名、DS2名の体制（2021年12月現在）でした。他に看護師1名育休を取得しています。

2021年は、新型コロナウイルス感染症対策としていわゆる「3密」（密閉・密集・密接）を避けることとされており、予防医学センターでは、従来の検査枠数を1割減とし、3つの密のそれぞれを可能な限り回避することにより、受診環境の確保に努め、健診を休止せずに運用いたしました。胃X線または鎮静剤を使用した胃内視鏡検査のみ行いました。鎮静剤使用7枠/日まで拡大し、12月より鎮静剤なしの経鼻を3枠/日より開始しました。

12月8日、人間ドック健診施設機能評価更新のため書面審査・訪問審査を受け、承認されました。

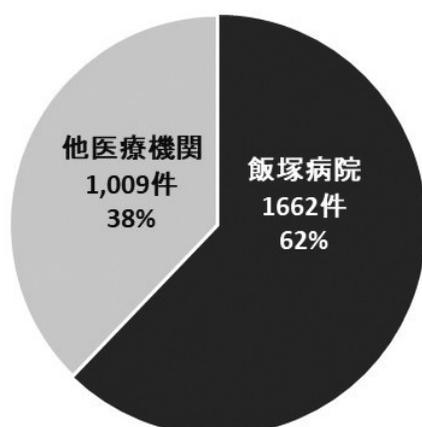
1) 受診者数（人）

健診区分	受診者数
日帰りドック	2653
健診（企業）	1653
全国健康保険協会	1301
特定健診	484
乳がんドック	468
レディースドック	408
婦人検診	245
脳ドック	232
健診（個人）	156
がんPET検診	64
婦人検診（協会けんぽ）	40
消化器がんドック	39
消化器がんドック（膵臓）	16
心臓・肺がんドック	16
被爆検診	9
大腸がんドック	6
胃検診	6
漢方いきいきドック	4
計	7,800

2) 紹介状発行件数（件）

紹介目的	総件数
上部消化管X線	289
上部消化管内視鏡	284
婦人科	259
心電図	236
眼科疾患	186
便検査	162
乳腺	151
肝機能異常	145
脂質異常	139
胸部X線	96
腹部超音波検査	88
尿検査	87
高血圧	76
糖尿病	72
診察異常所見	51
貧血	44
ピロリ・除菌治療	31
耳鼻咽喉疾患	30
腎機能異常	22
腫瘍マーカー	17
PET-CT検査	15
MR検査（脳ドック）	13
高尿酸血症	9
睡眠時無呼吸	6
漢方適応症状	5
下部内視鏡	3
動脈硬化	2
その他	153
計	2,671

3) 紹介状依頼先



43. 看護部門

看護部門長 森山由香

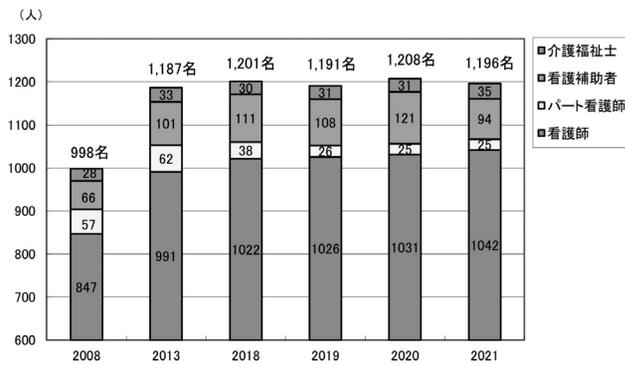
2021年（令和3年）は、2020オリンピック、一年遅れでの開催という年ではありましたが、日本勢の活躍もめざましく、多くの感動をいただきました。その一方で、今般の新型コロナウイルス感染拡大におきまして、各施設での多大なる影響に、一方ならぬご心痛やご心配があったかとお察し申し上げます。数々のイベントの開催中止や自粛などは、健康的な社会を取り戻し、平穏な暮らしを保障していくためにはやむを得ません。感染症被害にあわれた皆様へお見舞い申し上げ、この困難とも言える事態が一日も早く収束することを願うばかりです。

新型コロナウイルス感染症が流行してから今日まで、様々な感染対策が実施されてきましたが、想定外の事態が続き、看護管理者としてその対応に頭を悩ませることが多くありました。また、このコロナ禍の影響により、職員やその家族のメンタル不調が生じてしまった、収益が激減してしまった、看護師をはじめとする医療従事者への差別や偏見など感染対策以外の看護管理の部分でも数々の想定外の対応を迫られた一年でもありました。そんな中、医療者だけでなく院内全職員が、ERやICU、新型コロナ専用病棟の負担を減らそうと力を貸してくれて、徹底的に支えてくださったおかげで、対応する看護師も体調を崩すことなく現場を維持できています。特に、新型コロナ病棟の看護師たちは、感染拡大の中で、飯塚病院らしい看護を提供すべく様々なアイデアや工夫点を出し合っって新たな看護の形を構築し続けてきました。コロナ禍だからこそやれる看護を実践し続けている姿には感心すると同時に頭が下がる思いでもあります。師長会議などを活用して、「まごころフォトコンテスト」の開催や「コロナ禍だからこそ見えてきたこと、それぞれが頑張っていること」を発表し、感謝し合う、励まし合い承認する場を設けてきました。看護師たちは、自律性を持って行動できること、看護ができていく達成感があることなどからモチベーションを維持しています。これからも、おのこの看護師が目指す飯塚病院らしい看護が実践できるように承認し、支援していきたいと思ひます。

さて、2019年4月に飯塚病院内に「セル看護推進研究会」を立ち上げ、その活動のひとつであります「セル看護推進研究会」も、今年で第3回目を開催することができました。このプログラムの中では、セル看護の動画を配信させていただきました。この動画は、2020年度麻生グループ社員表彰において、セル看護の取り組みが認められ『社長賞』をいただき、その表彰金で作成したものです。コロナ禍の中では、全国の皆様からご依頼の見学がなかなか実現できない中、どのように「現場のリアル」を表現できるのかを思案した結果、飯塚病院のセル看護を動画でお伝えしたいという強い想いで作成いたしました。皆様にとって、セル看護をすすめていくうえでのヒントになる内容であれば嬉しく思ひます。

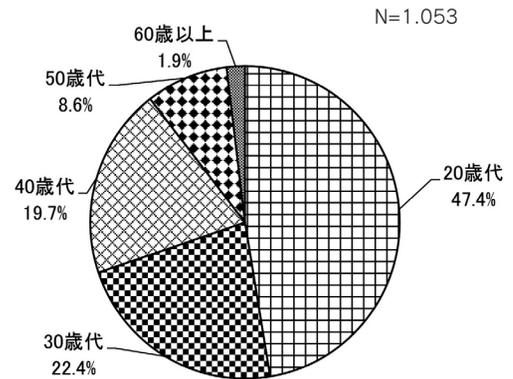
この一年をとおして感じたことは、リーダーシップが発揮された組織力と感染対策がうまく融合し、今あるサービスの質を維持しながらも、病院規模に見合った今できることを最大限に挑戦できたということです。その結果、今日まで院内でのクラスター発生もなく、感染対策を推進することができました。患者さんのためにできることを求め続け、いろいろな気持ちが交錯する中でも、職種間を超えた協力体制を構築し、ONEチームとして感染対策に取り組み、そのノウハウが得られたことは何物にも代え難い経験であったといえます。いまだ収束は見えてきませんが、今後もONEチームとして力を集結し、地域医療の一翼を担い続けながら貢献していきたいと思ひます。

看護スタッフ数 (2021年4月30日現在)



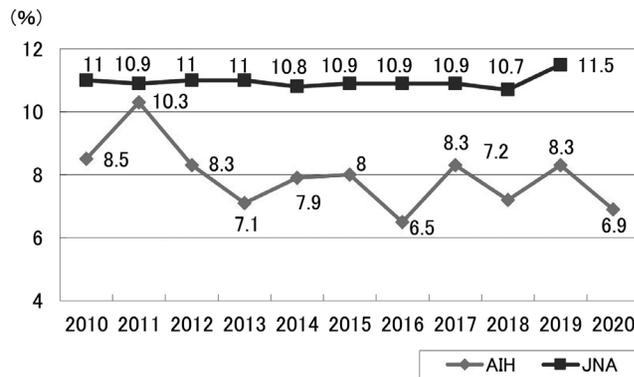
* データ：看護部長室「月間看護職員動向」より
産休育休者含む、退職者・出向者除く
2021年度より中央材料室除く

看護師の年齢構成 (2021年4月30日現在)



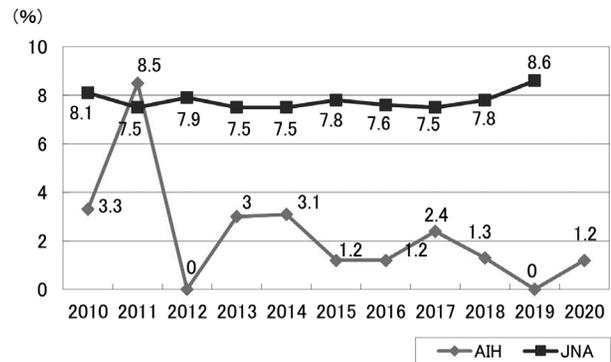
* 産休・育休：常に60名前後
* 看護師平均年齢：33.7才
* 勤続年数：9.7年

常勤看護職員離職率の推移



※パート看護師除く、定年退職者含む

新人看護職員離職率の推移



専門・認定看護師資格取得者数、看護師特定行為研修修了者数 (2021年12月31日現在)

【認定看護管理者】 5名

専門分野	人数
認定看護管理者	5

【専門看護師】 3名

専門分野	人数
慢性疾患看護専門看護師	1
精神看護専門看護師	1
急性・重症患者看護専門看護師	1

【WOCN】 1名 (海外で取得)

専門分野	人数
WOCN	1

【看護師特定行為研修修了者】 2名

専門分野	人数
術中麻酔管理領域(6区分8行為)	1
集中治療領域(5区分14行為)	1

【認定看護師】 21名

専門分野	人数
集中ケア認定看護師	2
感染管理認定看護師	2
皮膚・排泄ケア認定看護師	2
糖尿病看護認定看護師	1
手術看護認定看護師	1
救急看護認定看護師	1
乳がん看護認定看護師	1
摂食・嚥下障害看護認定看護師	1
緩和ケア認定看護師	4
慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1
小児救急看護認定看護師	1
がん化学療法看護認定看護師	2
慢性心不全看護認定看護師	1
認知症看護認定看護師	1

44. 医療技術部門

医療技術部門長 金澤康範

医療技術部門は、中央放射線部、臨床工学部、リハビリテーション部、栄養部、薬剤部、中央検査部、医療福祉室、歯科衛生室、臨床心理室の9部署で構成され、所属するスタッフ数は550名以上となっている。

事業目標としては、①QI (Quality Indicator) の測定体制の整備、②地域の専門職に対する勉強会の実施、③重点項目からの目標設定の3項目について取り組んだ。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、医療技術部門合同勉強会は実施することができなかった。また、各部署の人材交流の場として例年6月に開催している「合同懇親会」も中止となった。2021年度も継続して感染対策として、業務中のマスクの着用、休憩時間の分散化、食事中の会話禁止等の感染対策の徹底を行った。

なお、各部署の活動については概略を下記に示す。

【中央放射線部】 2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策を徹底し放射線検査・放射線治療を受けられる患者さん・従事する職員への感染防止に努めた。3月にCT装置(64列)1台増設、立位・臥位撮影装置(FPD)1台(3月)、乳房用X線撮影装置1台(5月)、回診用X線撮影装置(FPD)1台(6月)を更新した。CT装置が4台体制となったため、緊急検査等に迅速に対応可能となった。また、乳房用撮影装置更新によって従来より高画質・低線量での検査を患者さんに提供できるようになった。放射線治療品質管理士1名(山野正起)・放射線治療専門放射線技師1名(若杉拓矢)・胃X線検診読影補助認定技師1名(川原善行)が認定資格を取得し実業務へと反映した。現在、4月の電離則改正により、放射線業務従事者の水晶体の被ばく限度が引下げられたため、IVRを中心に術者の水晶体の被ばく線量低減への取り組みを行っている。

【臨床工学部】 2021年は5月稼働開始のロボット(ダヴィンチ)手術への対応を重視した人材育成に注力した。手術室スタッフはもちろんだが、洗浄・滅菌に携わる中央材料室スタッフの教育も並行して行った。ロボット手術件数は12月末までに25件を数え、ロボット手術を導入する診療科も今後増加すると思われる。また、透析患者さんの「PTA前シャント血流量測定」の臨床工学技士施行、NICUでのエコー画像の電子カルテ自動転送の整備等、医師の負担軽減にも尽力した。高流量鼻カニューラ療法(NHFC)装置増設に伴う看護師対象の安全使用説明会を開催するなど、新規導入機器をはじめとする医療機器の安全使用に関する研修会開催等の活動も行った。院内初となる「手術関連専門臨床工学技士」や「高気圧酸素治療専門技師」の認定取得など資格取得にも積極的に取り組んでおり、今後も技術力の強化は継続していく。

【リハビリテーション部】 2021年は新型コロナウイルス感染症患者が急増し、緊急事態宣言が発令される中でリハビリテーション部は感染対策を徹底してリハビリを提供した。新型コロナ陽性患者に対してはピーク時に2名のレッドゾーン専従理学療法士と看護師・医師とで積極的に腹臥位療法を実施し呼吸器機能の改善に努めた。重症虚血肢患者に対しては医師の指示の元簡易的な靴型免荷装具を理学療法士が作成し、荷重時の疼痛を緩和することで歩行が可能となる取り組みを開始し、その結果、有意に歩行能力が改善しQOLの向上に繋がった。

【栄養部】 2021年は、栄養情報提供加算の対象とならないが、転院先で栄養情報の提供が必要な患者さんへ栄養情報提供書を発行する仕組みづくりを行った。また、栄養スクリーニング方法について現在見直しを行っており、カルテの情報から自動でスクリーニングできるシステムを構築中で、そのシステムの運用が開始となれば、スクリーニングの手間が省け、また低栄養患者の抽出漏れも無くすることが可能となる予定。給食部門では、新型コロナウイルス感

感染症が拡大し、スタッフの確保が困難になった緊急時の対応について検討している。

【薬剤部】 2021年は事業目標として、QI (Quality Indicator) の測定体制の整備、地域の薬剤師に向けた研修会の企画・実施、薬剤管理指導料の算定金額増の3項目に取り組んだ。後発医薬品使用率は、外来使用医薬品数量も含め約75%以上となり、目標の80%以上の達成を目指し取り組んだが、後発医薬品を中心に製薬会社の製造法違反などにより出荷停止や出荷調整の医薬品が多数発生し安定供給を目的として先発医薬品への切り替え等を行った結果、後発医薬品使用率は約72%へ減少した。先発医薬品を含め医薬品の安定供給に苦勞した1年であった。

【中央検査部】 2021年は、年間を通してCOVID-19 PCR検査を中心とした運営となった。人員の増員なく、部署内で業務の効率化を図りながら、1日100件を超すPCR検査をスタッフ一丸となって実施できたことは、他の活動にも大きな財産となった。また、近隣病院でのクラスター発生時には大量検体を検査、感染者の分離に寄与し、地域で活用できる検査室として認識していただいた。外来患者の採血待合室では、密を避けるため、患者待ち時間を更に短縮するためのスタッフ配置を実施、10分以内に採血終了を心がけたため、患者さんからの密に対する苦情は1件もなかった。TQM活動では、エコー検査待ち患者の密を避けるための対策を実施し、最優秀賞を受賞した。今後はエコー検査の予約枠の設定の見直し、事前に予約が可能となるように増枠する。医師のタスクシフトについては、病理医の負担軽減を目的とし一部の病理組織の切り出しを技師がおこなうようになった。来年も組織内のベクトルを合わせ、活動を継続していく。

【医療福祉室】 2021年は、入院患者相談件数が4,518件(対前年比131件増)、外来患者相談件数が1,133件(対前年比97件)であった。外来相談は輪番で対応しているが、年々相談が増加している。年度途中で育休や退職により人員が一時的に減少もあり、相談体制の在り方について検討が必要な時期と言える。地域連携を評価する、介護支援等連携指導料は339件(前年比7件減)、退院時共同指導料2の件数は132件(前年比12件増)であった。退院時共同指導料の多職種加算が伸び悩み、点数は99,700点(前年比15,200点減)であった。情報システム室とRPAやオンラインを活用する「地域情報共有システムこまめる」を開発し、颯田病院と退院前カンファレンスや転院相談で使用を開始した。

【歯科衛生室】 2021年も前年に引き続き口腔内細菌由来の術後感染症合併症を予防する目的で、医科歯科連携のもと周術期口腔機能管理(口腔ケア)に積極的に取り組んだ。2020年の周術期口腔機能管理介入患者数は過去最多の868件であったが、2021年は昨年をも上回る970件であった。口腔ケアはCOVID-19の感染リスクの高いエアロゾルが発生しやすい処置であるため、標準予防策の徹底に加え感染経路別予防策も付加し感染対策に注力した。また2月に開催されたPHIJ(Perio Health Institute Japan) UPDATE MEETINGにて「周術期口腔機能管理における医科歯科連携、病診連携において歯科衛生士が担う重要な役割」について当院での取り組みを報告した。さらに5月には地域住民に向け周術期口腔機能管理の有効性に関する記事の新聞投稿を行い、口腔ケアの重要性について広報した。

【臨床心理室】 2021年は、事業目標としてQI(Quality Indicator)測定を開始した。指標はカウンセリング計画書を作成し、「所定期限内に新患カンファレンスを実施できた割合」である。結果、半期毎の実施率は外来87.5%から95%、入院90%から100%に上昇した。また、人材育成として日本サイコオンコロジー学会、日本周産期精神保健研究会の発表を行い、日本総合病院精神医学会では優秀演題にノミネートされる等臨床心理士/公認心理師として専門性の向上に努めた。第29回日本臨床動作学会では実行委員として大会をオーガナイズし、INFECTIONCONTROL他22雑誌で「医療者のためのメンタルヘルス講座」(メディカ出版)連載執筆、大阪府看護部長会「コロナ禍におけるメンタルヘルス」Web講演を行い、新型コロナウイルス感染状況下での社会的貢献に注力した。

45. 経営管理部門

経営管理部門 特任副院長 岩佐紀輝

2021年は、2020年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の中で過ごす1年になりました。福岡県の病床確保計画のフェーズ5からフェーズ1まですべてを経験しました。

第3波初期	(2020年12月12日)～1月7日	フェーズ2	新型コロナウイルス感染症即応病床6床
第3波	1月8日～5月10日	フェーズ3	同上8床
第4波前半	5月11日～5月20日	フェーズ4	同上16床
第4波前半	5月21日～5月30日	フェーズ4	同上18床
第4波後半	5月31日～6月26日	フェーズ5	同上20床
第5波前半	6月27日～8月9日	フェーズ4	同上20床
第5波ピーク	8月10日～9月30日	フェーズ5	同上20床
第5波後半	10月1日～10月14日	フェーズ4	同上20床
	10月15日～10月25日	フェーズ3	同上8床
	10月26日～12月1日	フェーズ2	同上6床
	12月2日～(2022年1月11日)	フェーズ1	同上5床

上記の期間、病床確保料を含む新型コロナウイルス感染症関連補助金の申請が重要な業務となりました。一般診療に使用しうる病床やマンパワー、材料といった医療資源を、重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症診療に充当した場合は、それに見合う正当な対価を、定められたルールに従って、申請すべきものと考えます。また、現状、営業損益が大きく痛んだ本院の経営は、このコロナ補助金がなければ成立しません。

現在進行形で、新型コロナウイルス感染症という大きな災害に見舞われているとも言えるわけですが、災害はこれだけではありません。2021年も地震が頻発し、集中豪雨が各地に大きな被害をもたらしました。7月1日から3日にかけて、静岡県や神奈川県を中心に大雨が降り、箱根市では48時間雨量が689ミリを記録、熱海市では土石流災害が発生し、20名を超える方の命を飲み込みました※①。8月11日から16日には、九州でも大雨が続き、嬉野市で48時間雨量が773ミリ、鳥栖市670ミリ、久留米市572ミリ、飯塚市411ミリを記録しました※②。年々、激しさを増すゲリラ豪雨に備えて、2021年、当院では大規模な浸水対策工事に着手しました。2018年7月に飯塚市が経験した48時間雨量457ミリ相当の雨量にも、飯塚病院のインフラを守るためのものです。ブロック壁工事14ヶ所、ポンプ新設6台、脱着式止水板設置工事6ヶ所の工事を、2021年7月から2022年3月の期間をかけて行います。

2021年は飯塚病院の建物に関する新しい基本計画（マスタープラン）が策定されました。そこで指摘された問題点も踏まえて、次の新しい建物を計画していくこととなりますが、それを可能にする損益を回復しなければ前進できません。まずは、経営会議に提案・承認された「新棟建設に向けたアフターコロナの経営戦略」に取り組んでいきます。

職員は、息苦しい時間を過ごしながら、従来の業務に加えて、新型コロナウイルス感染症患者さんへの対応にあたっています。職員が疲弊しないよう職場環境へ今まで以上の注意が必要です。経営管理部は、情報や知識を、知恵という形に変え、多職種との連携を強化しつつ、飯塚病院の明るい医療現場づくり、健全経営に貢献できるよう努めていきたいと思えます。

※① 災害をもたらした気象事例～

7月1日から3日の東海地方・関東地方南部を中心とした大雨～気象庁 令和3年7月8日

※② 災害時気象資料～九州・山口県の大雨について～ 福岡管区气象台 令和3年8月20日

〔Ⅲ〕 診 療 統 計

1. 退院患者統計

	総退院患者数	性別		入院年齢(平均値)			在科日数(平均値)	入院手順		入院経路			搬送数(患者数)	手術数	主病名転帰							死亡状況			紹介患者数	救外CPA患者数
		男	女	全体	男	女		急患	予約	外来	救命	転科			軽快	検査終了	死亡	治癒	増悪	中止	不変	術後30日以内の死亡:A	入院後48時間内の死亡:B	AかつB		
全診療科 総数	21,876	11,389	10,487	65.1	64.5	65.8	13.7	10,248	11,628	13,544	6,576	1,756	3,868	5,320	14,991	1,102	1,198	855	308	18	3,404	31	363	5	8,004	223
肝臓内科	817	544	273	69.7	67.8	73.3	13.2	357	460	588	209	20	90	0	552	73	45	12	9	0	126	0	1	0	197	0
呼吸器内科	1,547	1,022	525	71.3	71.0	71.9	16.0	646	901	1,141	339	67	200	16	585	226	131	26	36	2	541	3	8	0	424	0
内分泌・糖尿病内科	276	144	132	62.9	61.3	64.5	9.3	31	245	242	18	16	9	0	218	16	0	4	0	0	38	0	0	0	128	0
消化器内科	1,871	1,098	773	71.0	69.9	72.7	7.1	681	1,190	1,391	429	51	191	54	1,294	156	9	173	26	2	211	0	1	0	760	0
血液内科	545	323	222	69.9	69.7	70.3	27.3	128	417	458	48	39	23	3	343	5	21	0	13	7	156	0	2	0	86	1
総合診療科	3,090	1,488	1,602	73.6	70.8	76.3	16.1	2,693	397	700	2,098	292	1,153	90	2,017	5	186	398	50	0	434	6	29	0	1,092	1
膠原病リウマチ内科	187	81	106	70.4	67.0	73.0	15.3	38	149	160	14	13	7	1	130	13	4	1	0	0	39	0	0	0	30	0
連携医療・緩和ケア科	1,288	651	637	78.6	76.1	81.1	21.2	461	827	313	261	714	176	15	350	0	421	71	83	0	363	1	82	0	135	4
リエゾン精神科	45	22	23	58.0	60.2	55.9	110.0	20	25	22	0	23	0	2	30	0	0	3	1	0	11	0	0	0	2	0
小児科	998	562	436	3.7	3.4	4.2	8.6	785	213	601	394	3	157	1	739	156	3	8	2	1	89	0	3	0	403	3
腎臓内科	828	457	371	71.9	70.4	73.7	14.7	526	302	713	88	27	49	155	524	29	15	26	12	0	222	0	0	0	434	0
循環器内科	1,797	1,121	676	72.5	70.3	76.2	10.5	838	959	1,120	615	62	472	121	1,547	160	32	0	1	0	57	1	2	1	795	2
外科	1,566	758	808	65.9	66.7	65.2	10.4	334	1,232	1,229	207	130	85	939	1,070	21	12	12	5	0	446	7	2	1	479	0
整形外科	916	366	550	62.3	52.5	68.8	16.4	422	494	647	238	31	118	841	888	0	0	12	0	0	16	0	0	0	381	0
皮膚科	91	49	42	62.3	58.7	66.5	16.5	37	54	72	12	7	2	28	79	0	0	0	0	0	12	0	0	0	54	0
泌尿器科	661	529	132	69.8	69.3	71.7	8.8	83	578	615	24	22	8	321	386	148	1	22	8	0	96	0	0	0	247	0
婦人科	837	0	837	53.6	0.0	53.6	6.6	135	702	770	60	7	23	455	551	11	3	27	3	1	241	0	0	0	280	0
産科	534	0	534	31.6	0.0	31.6	11.7	411	123	244	290	0	114	152	481	0	0	24	1	1	27	0	1	0	349	0
眼科	554	265	289	71.5	68.9	73.9	5.2	37	517	538	5	11	3	536	527	0	0	16	0	1	10	0	0	0	358	1
耳鼻咽喉科	441	271	170	51.7	52.2	50.9	13.6	78	363	405	22	14	4	283	377	17	0	0	1	1	45	0	0	0	279	0
小児外科	132	95	37	5.1	4.9	5.4	4.8	35	97	107	16	9	2	117	130	0	0	0	0	0	2	0	0	0	79	0
脳神経外科	589	314	275	70.6	68.4	73.1	21.3	476	113	157	415	17	361	213	470	36	58	0	3	1	21	9	20	1	210	0
歯科口腔外科	261	119	142	43.0	37.3	47.7	5.0	20	241	258	3	0	1	226	252	3	0	3	0	0	3	0	0	0	205	0
呼吸器外科	326	203	123	68.2	66.0	71.8	12.2	40	286	277	17	32	13	245	276	7	2	0	3	1	37	0	0	0	95	0
心臓血管外科	452	259	193	73.8	71.9	76.2	21.8	85	367	317	53	82	45	397	423	5	10	0	0	0	14	3	0	2	149	0
脳神経内科	771	423	348	72.8	69.2	77.2	22.8	577	194	266	455	50	327	4	530	14	29	13	47	0	138	1	2	0	221	0
漢方診療科	36	13	23	52.7	40.3	59.7	15.3	14	22	30	4	2	2	0	28	1	3	2	0	0	2	0	0	0	13	0
感染症科	35	20	15	66.3	62.0	72.1	9.7	29	6	8	23	4	17	1	24	0	2	2	4	0	3	0	0	0	19	0
救急科	219	108	111	75.2	70.9	79.4	1.4	219	0	1	217	1	215	4	7	0	211	0	0	0	1	0	210	0	12	211
形成外科	166	84	82	52.3	49.1	55.5	12.1	12	154	154	2	10	1	100	163	0	0	0	0	0	3	0	0	0	88	0

2. 科別統計表

2021年1月～12月

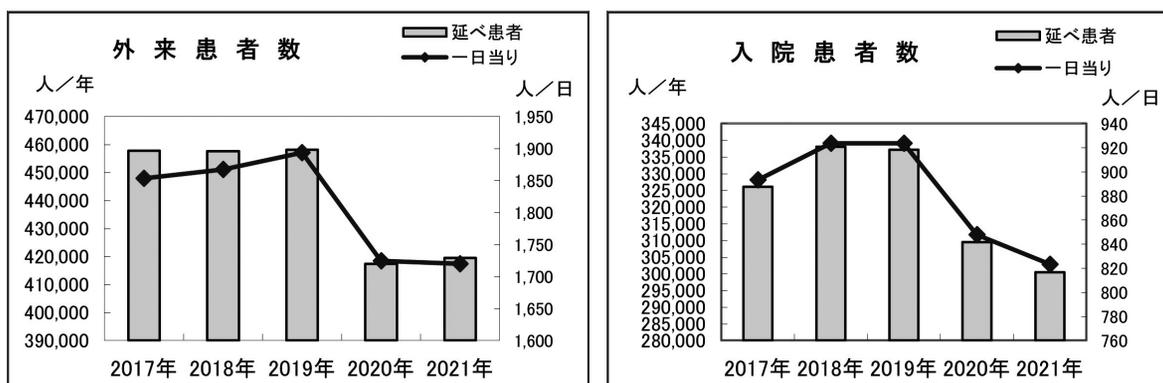
診療科	外来患者		入院患者		新入患者数（入院経路別）				手術件数 （件/年） ※2	紹介率	平均在院日数 （日）※3
	延べ患者数※1	実患者数	延べ患者数※1	実患者数	予約	救急外来	外来緊急	合計			
肝臓内科	16,169	4,150	10,857	506	404	215	179	798	/	91.1%	12.8
	66.3		29.7								
呼吸器内科	20,918	4,180	24,345	974	757	348	361	1,466	/	93.7%	15.4
	85.7		66.7								
心療内科	6,182	719	/	/	/	/	/	/	/	97.2%	0
	25.3		/								
内分泌・糖尿病内科	20,555	3,613	2,474	267	211	17	30	258	/	95.3%	10.1
	84.2		6.8								
消化器内科	21,973	5,788	13,203	1,627	1,079	445	287	1,811	55	94.9%	6.3
	90.1		36.2								
血液内科	11,433	1,771	14,737	301	336	50	115	501	/	95.1%	28.0
	46.9		40.4								
総合診療科	14,595	5,135	48,534	2,830	51	2,121	617	2,789	/	62.9%	17.9
	59.8		133.0								
膠原病・リウマチ内科	15,334	2,298	3,018	124	128	16	35	179	/	92.3%	15.9
	62.8		8.3								
緩和ケア科	2,701	561	27,963	1,190	65	266	242	573	3	72.1%	30.8
	11.1		76.6								
救急科	17	18	290	219	0	217	0	217	/	/	1.3
	0.1		0.8								
循環器内科	19,498	5,702	18,482	1,551	843	613	271	1,727	/	93.8%	9.8
	79.9		50.6								
神経内科	9,469	2,351	18,083	692	136	466	123	725	/	91.9%	21.0
	38.8		49.5								
腎臓内科	27,077	2,358	12,585	526	439	97	262	798	177	92.1%	14.6
	111.0		34.5								
漢方診療科	20,132	1,970	531	35	20	4	8	32	/	42.8%	15.1
	82.5		1.5								
画像診療科	1,076	866	/	/	/	/	/	/	3	97.8%	/
	4.4		/								
放射線治療科	7,487	383	/	/	/	/	/	/	/	8.3%	/
	30.7		/								
小児科	16,776	5,244	8,597	866	200	371	422	993	/	74.7%	5.7
	68.8		23.6								
リエゾン精神科	7,383	950	7,580	60	1	1	19	21	/	18.8%	244.5
	30.3		20.8								
外科	21,322	4,431	16,394	1,173	1,099	224	115	1,438	1,026	90.7%	10.1
	87.4		44.9								
呼吸器外科	5,120	1,159	3,933	290	234	13	42	289	280	83.0%	12.2
	21.0		10.8								
小児外科	1,595	552	621	120	81	20	22	123	121	90.4%	3.8
	6.5		1.7								
産婦人科	22,080	5,125	11,718	1,001	752	338	279	1,369	625	59.3%	7.8
	90.5		32.1								
整形外科	22,668	5,057	15,151	884	420	253	228	901	1,060	87.3%	17.7
	92.9		41.5								
リハビリテーション科	1,329	333	/	/	/	/	/	/	/	8.3%	/
	5.4		/								
脳神経外科	5,667	2,090	12,657	583	87	429	64	580	250	76.4%	21.5
	23.2		34.7								
心臓血管外科	5,670	2,385	9,143	439	283	60	32	375	572	97.7%	22.4
	23.2		25.0								
皮膚科	18,956	4,602	1,440	89	38	16	27	81	118	86.0%	16.8
	77.7		3.9								
形成外科	5,948	1,208	2,071	160	128	4	26	158	156	80.0%	10.5
	24.4		5.7								
泌尿器科	16,793	3,823	5,721	497	538	33	68	639	369	95.6%	8.0
	68.8		15.7								
眼科	12,947	3,263	2,920	505	489	5	52	546	781	93.6%	4.3
	53.1		8.0								
耳鼻咽喉科	10,643	2,716	5,755	387	331	28	67	426	322	91.2%	12.4
	43.6		15.8								
ペインクリニック科	9	1	/	/	/	/	/	/	1	/	/
	0.0		/								
集中治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	/	/	0
	0.0		0.0								
救急外来	11,917	9,765	/	/	/	/	/	/	/	22.3%	/
	48.8		/								
感染症科	1,888	1,296	324	34	2	24	5	31	/	16.2%	12.5
	7.7		0.9								
歯科口腔外科	16,275	4,099	1,313	250	226	5	29	260	266	42.9%	4.0
	66.7		3.6								
診療科合計	419,602	99,962	300,440	18,180	9,378	6,699	4,027	20,104	6,185	74.2%	13.2
	1,719.7		823.1								

予防医学センター	8,053	/
従業員健診	33	/
	3,565	/

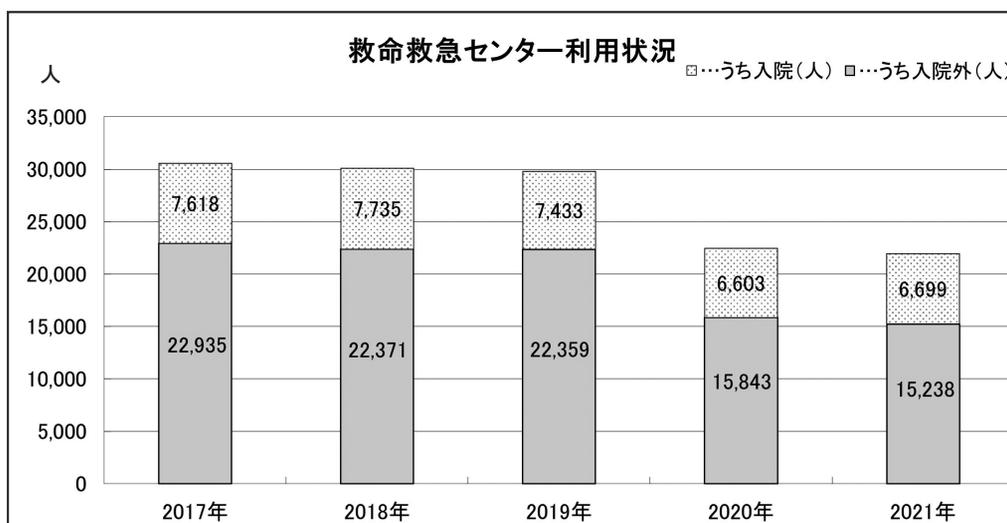
		2021年
病床稼働率	全体	89.1%
	精神科除く	91.8%

※1 患者数：上段は年間延べ患者数、下段は1日当たり患者数。 ※2 手術件数：手術室で行われた件数。
 ※3 医科点数表の解釈の施設基準に沿って計算した社会保険事務局への届出ベース。診療科合計はリエゾン精神科を含まない。

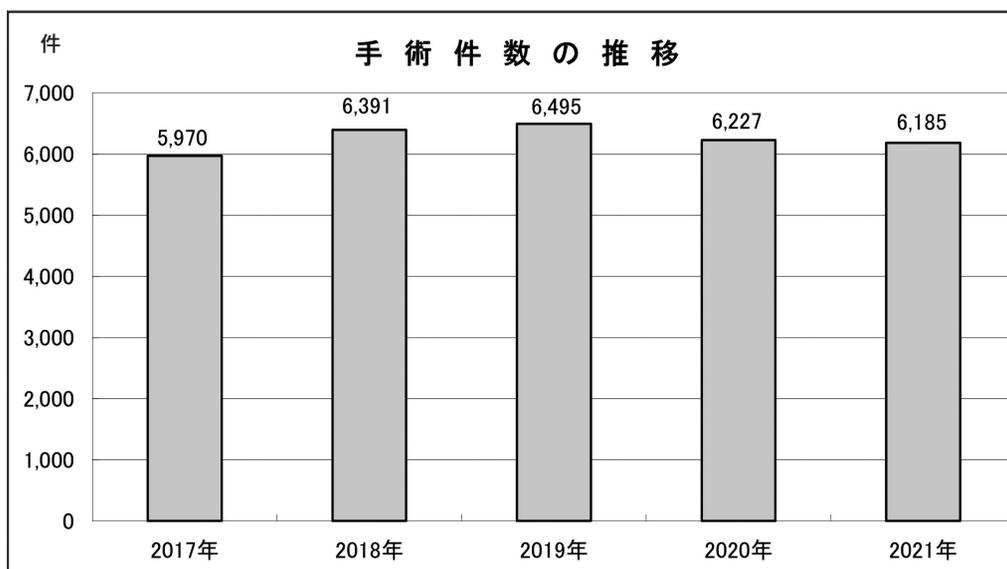
3. 最近5年間の患者数推移



4. 最近5年間の救命救急センター利用状況の推移



5. 最近5年間の年間手術件数の推移



6. 科別・年齢別・性別 退院患者数

退院科	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90歳	合計	75歳以上 (再掲)
		～9	～19	～29	～39	～49	～59	～69	～79	～89	～		
		1,099	401	521	888	1,257	1,719	3,839	6,393	4,396	1,363	21,876	8,437
肝臓内科	男	0	1	2	4	60	47	128	218	75	9	544	152
	女	0	0	3	7	10	28	35	81	90	19	273	141
呼吸器内科	男	0	6	3	7	28	60	244	513	139	22	1,022	366
	女	0	1	2	4	17	51	120	181	127	22	525	214
内分泌・糖尿病内科	男	0	0	6	7	24	18	29	49	11	0	144	32
	女	0	1	5	6	14	14	27	41	22	2	132	34
消化器内科	男	0	3	4	19	58	98	271	419	204	22	1,098	394
	女	0	3	4	13	30	66	146	247	211	53	773	383
血液内科	男	0	4	1	2	18	32	56	139	69	2	323	128
	女	0	0	5	1	9	24	42	90	49	2	222	101
総合診療科	男	0	14	26	50	94	130	257	416	352	149	1,488	687
	女	0	13	34	53	65	86	144	311	545	351	1,602	1036
膠原病・リウマチ 内科	男	0	0	0	2	4	4	41	19	11	0	81	22
	女	0	0	1	1	2	10	19	37	34	2	106	50
連携医療・緩和ケア科	男	0	1	1	4	11	25	132	217	174	86	651	358
	女	0	0	0	3	15	26	55	131	240	167	637	467
リエゾン精神科	男	0	0	1	3	1	4	5	6	2	0	22	6
	女	0	0	4	1	4	1	4	8	1	0	23	3
小児科	男	486	76	0	0	0	0	0	0	0	0	562	0
	女	361	75	0	0	0	0	0	0	0	0	436	0
腎臓内科	男	0	0	4	6	19	53	88	172	102	13	457	177
	女	0	2	2	0	19	22	54	139	120	13	371	193
循環器内科	男	0	1	1	10	66	125	249	412	224	33	1,121	432
	女	0	0	1	5	18	33	96	213	261	49	676	421
外科	男	0	6	11	19	34	105	215	271	91	6	758	175
	女	0	8	15	35	90	79	200	254	111	16	808	221
整形外科	男	18	42	20	30	39	47	55	69	35	11	366	74
	女	14	13	12	15	24	42	83	165	142	40	550	267
皮膚科	男	5	0	2	3	3	5	10	9	11	1	49	16
	女	1	1	0	2	5	5	4	9	14	1	42	19
泌尿器科	男	3	6	1	9	18	33	154	230	63	12	529	171
	女	0	2	0	4	6	11	18	40	42	9	132	69
婦人科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	6	55	133	177	142	129	141	48	6	837	104
産科	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	0	14	166	297	57	0	0	0	0	0	534	0

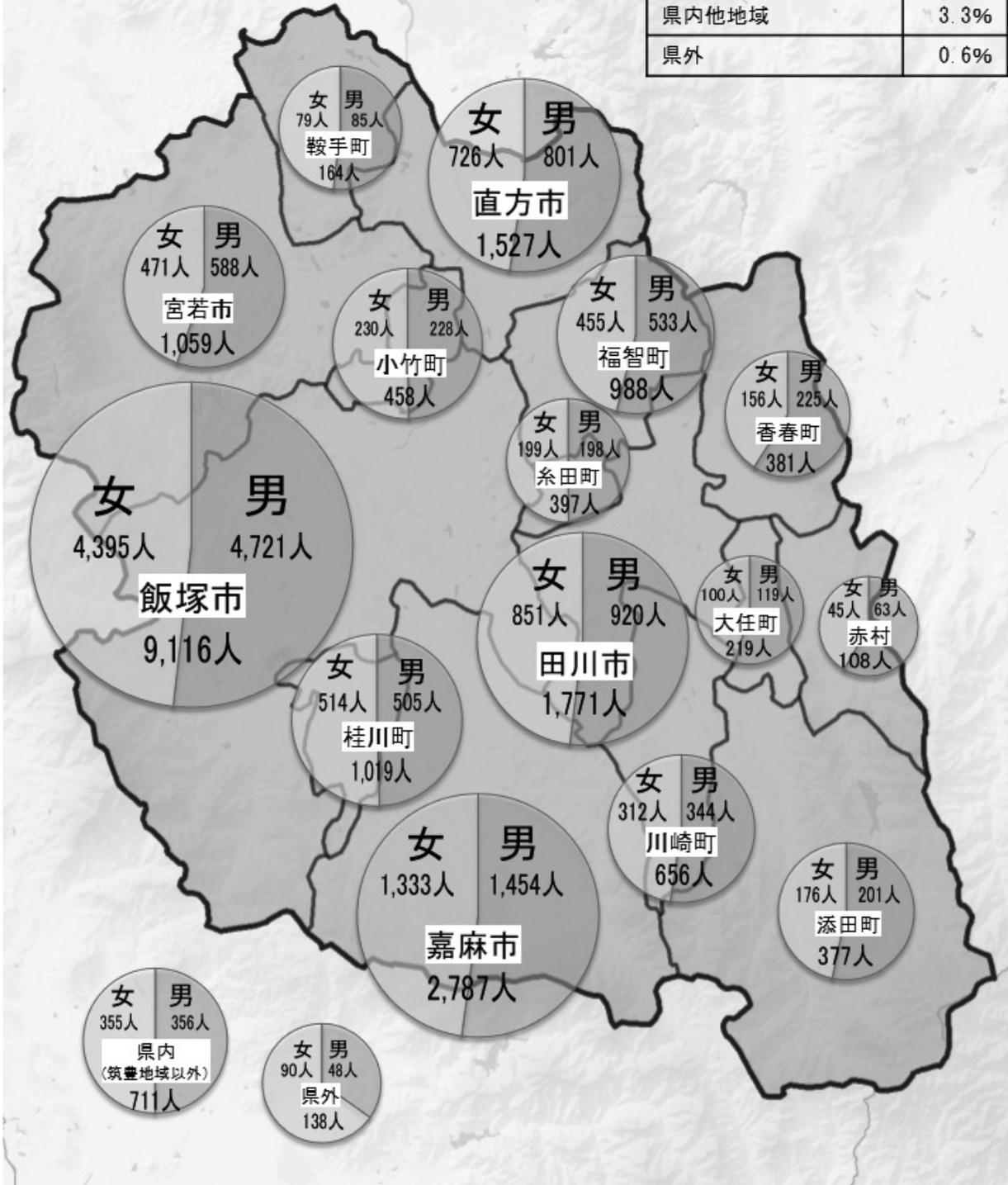
退 院 科	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90 歳	合計	75 歳以上 (再掲)
		~ 9	~ 19	~ 29	~ 39	~ 49	~ 59	~ 69	~ 79	~ 89	~		
眼科	男	2	3	5	4	5	29	63	100	49	5	265	93
	女	1	0	1	1	8	15	43	124	80	16	289	144
耳鼻咽喉科	男	29	7	20	21	28	27	52	72	15	0	271	40
	女	14	5	22	14	17	20	32	31	14	1	170	28
小児外科	男	73	22	0	0	0	0	0	0	0	0	95	0
	女	30	7	0	0	0	0	0	0	0	0	37	0
脳神経外科	男	4	1	5	8	17	34	84	85	59	17	314	119
	女	3	0	1	5	22	15	52	60	82	35	275	143
歯科口腔外科	男	22	6	23	19	12	13	8	8	4	4	119	8
	女	16	8	22	18	12	9	14	18	19	6	142	33
呼吸器外科	男	0	9	6	4	9	14	40	104	14	3	203	58
	女	0	2	0	0	6	9	20	56	30	0	123	56
心臓血管外科	男	0	0	0	4	5	21	66	100	58	5	259	110
	女	0	0	0	4	7	5	26	58	76	17	193	121
脳神経内科	男	0	5	11	6	24	37	99	142	78	21	423	161
	女	0	1	2	6	8	10	60	93	102	66	348	217
漢方診療科	男	0	7	1	0	1	0	0	1	1	2	13	4
	女	0	3	0	1	4	1	4	6	3	1	23	6
感染症科	男	0	0	2	1	1	3	5	6	2	0	20	5
	女	0	0	0	1	1	1	3	3	3	3	15	7
救急科	男	1	1	1	2	7	12	19	25	28	12	108	54
	女	0	1	0	0	6	5	11	21	41	26	111	79
形成外科	男	7	9	4	8	15	5	15	13	6	2	84	14
	女	9	5	3	6	3	8	13	20	12	3	82	24

7. 地域別・年齢別・性別 退院患者数

住 所	性別	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90歳	合計	75歳以上 (再掲)
		～9	～19	～29	～39	～49	～59	～69	～79	～89	～		
		1,099	401	521	888	1,257	1,719	3,839	6,393	4,396	1,363	21,876	8,437
飯塚市	男	295	89	85	106	223	407	952	1,503	844	217	4,721	1,695
	女	214	68	147	310	285	258	519	984	1,134	476	4,395	2,057
嘉麻市	男	78	33	14	31	91	114	266	503	261	63	1,454	508
	女	26	18	31	55	50	93	198	365	346	151	1,333	638
田川郡 福智町	男	25	19	7	17	23	43	112	192	71	24	533	186
	女	14	10	9	15	25	57	67	118	100	40	455	193
川崎町	男	11	5	1	13	12	21	89	144	39	9	344	122
	女	24	5	19	17	19	21	57	86	48	16	312	114
糸田町	男	7	2	0	2	21	9	34	99	20	4	198	57
	女	4	6	8	8	12	18	39	50	46	8	199	81
香春町	男	11	4	4	5	10	11	58	69	44	9	225	73
	女	5	5	0	4	8	6	15	66	38	9	156	70
添田町	男	5	4	0	1	6	11	58	78	25	13	201	59
	女	2	2	1	1	8	15	30	58	47	12	176	86
大任町	男	9	3	1	0	7	19	18	38	19	5	119	46
	女	9	5	1	2	2	8	20	25	24	4	100	38
赤村	男	1	2	0	0	1	5	20	25	8	1	63	16
	女	3	0	0	1	5	2	10	13	8	3	45	22
田川市	男	65	16	4	18	59	72	176	337	154	19	920	302
	女	54	16	34	36	61	70	138	237	174	31	851	291
直方市	男	33	13	16	21	47	95	175	253	129	19	801	234
	女	22	15	23	45	65	65	103	186	160	42	726	302
宮若市	男	21	13	8	9	24	56	183	188	71	15	588	162
	女	13	5	12	23	36	35	73	130	115	29	471	193
嘉穂郡 桂川町	男	23	7	8	7	17	37	100	193	94	19	505	197
	女	18	4	16	25	38	22	63	133	127	68	514	251
鞍手郡 小竹町	男	6	3	1	6	5	13	47	82	58	7	228	103
	女	8	1	6	17	6	19	37	62	54	20	230	103
鞍手町	男	6	1	0	0	2	8	18	37	8	5	85	24
	女	0	4	1	3	2	5	32	13	18	1	79	21
福岡県（筑豊以外）	男	41	14	10	14	48	56	67	69	29	8	356	69
	女	23	7	37	47	25	34	46	48	74	14	355	112
福岡県外	男	13	2	2	2	5	4	12	5	3	0	48	3
	女	10	0	15	27	9	10	7	4	6	2	90	9

地域別退院患者割合

筑豊地域	96.1%
(飯塚市)	41.7%
県内他地域	3.3%
県外	0.6%



9. 病理解剖件数内訳

	死亡数	解剖数	剖検率
肝臓内科	46	3	6,5%
呼吸器内科	132	1	0,8%
消化器内科	9	0	0,0%
血液内科	21	0	0,0%
総合診療科	185	2	1,1%
膠原病・リウマチ内科	4	1	25,0%
連携医療・緩和ケア科	419	0	0,0%
腎臓内科	15	2	13,3%
漢方診療科	3	0	0,0%
循環器内科	34	0	0,0%
小児科	4	0	0,0%
外科	12	1	8,3%
呼吸器外科	2	0	0,0%
産婦人科	3	0	0,0%
脳神経外科	58	0	0,0%
脳神経内科	29	1	3,4%
泌尿器科	1	0	0,0%
心臓血管外科	9	0	0,0%
救急科	211	0	0,0%
感染症科	2	0	0,0%
合計	1199	11	0,9%
院外	0	0	0,0%

※合計の剖検率には院外症例および死後の針組織検査症例は含まれていません。

10. 手術に関する施設基準および手術件数

医科点数表第2章第10部手術通則5号及び6号並びに歯科点数表第2章第9部通則第4号に掲げる手術の術式別手術件数（2021年1月～12月）

区分・手術名称	手術件数
(1) 区分1に分類される手術	
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	41
イ 黄斑下手術等	139
ウ 鼓室形成手術等	18
エ 肺悪性腫瘍手術等	201
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	285
(2) 区分2に分類される手術	
ア 靭帯断裂形成手術等	9
イ 水頭症手術等	29
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0
エ 尿道形成手術等	3
オ 角膜移植術	0
カ 肝切除術等	88
キ 子宮附属器悪性腫瘍手術等	23
(3) 区分3に分類される手術	
ア 上顎骨形成術等	7
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	7
ウ バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	0
エ 母指化手術等	3
オ 内反足等	0
カ 食道切除再建術等	0
キ 同種腎移植術等	0
(4) 区分4に分類される手術	738
(5) その他の区分	
ア 人工関節置換術に関する手術	209
イ 乳児外科施設基準対象手術	2
ウ ペースメーカー移植術およびペースメーカー交換術に関する手術	149
エ 冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む） および体外循環を要する手術	209
オ 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術 および経皮的冠動脈ステント留置術	462

〔IV〕 執 筆 業 績

1. 発表論文・著書

肝臓内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Kudo M,Tsuchiya K,Kato N et al.	Cabozantinib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma: a phase 2 multicenter study.	J Gastroenterol 56(2):181-190	2021-1
Kudo M,Motomura K,Wada Y et al.	Avelumab in Combination with Axitinib as First-Line Treatment in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma: Results from the Phase 1b VEGF Liver 100 Trial.	Liver Cancer 10(3):249-259	2021-6
Kuwano A,Narutomi F,Nagasawa S et al.	A case of granulocyte colony-stimulating factor-producing intrahepatic sarcomatoid cholangiocarcinoma.	Clin J Gastroenterol 14(3):881-887	2021-6
長澤滋裕、宮崎将之、森田祐輔、他	ペムプロリズマブによる硬化性胆管炎に対しステロイドパルス療法が著効した1例	日本消化器病学会雑誌 118 (10) :981-990	2021-10
Kuwano A,Tanaka K,Yada M et al.	Therapeutic efficacy of lenvatinib for hepatocellular carcinoma with iso-high intensity in the hepatobiliary phase of Gd-EOB-DTPA-MRI	Molecular and Clinical Oncology 16(2):online	2021-12

呼吸器内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Yoshimatsu Y,Tobino K,Kawabata T et al.	Hemorrhaging from an Intramedullary Cavernous Malformation Diagnosed due to Recurrent Pneumonia and Diffuse Aspiration Bronchiolitis	Internal Medicine 60(9):1451-1456	2021-3
Murakami Y,Tobino K	Lymphangioliomyomatosis associated with prolactinoma: A case report and literature review	Respir Med Case Rep 33:101406	2021-3
Yoshimatsu Y,Ebi N,Ooi R et al.	Osimertinib for Lung Squamous Cell Carcinoma:A Case Report and Literature Review	Internal Medicine 60(7):1067-1071	2021-4
Yoshimine K,Tobino K,Sakabe M et al.	A case of cryptococcosis in the vocal cords,trachea,and bronchi	Internal Medicine :6559-20	2021-4
Yoshimatsu Y,Tobino K,Ooi R et al.	A Need for a Diagnostic Management Protocol in Barium Aspiration	Internal Medicine :6052-20	2021-4
Sueyasu T,Tobino K,Yamamoto R et al.	Varicella-zoster pneumonia with endobronchial lesions	Respirology Case Reports 9(10):e0846	2021-9
Yoshimine K,Tobino K,Sakabe M et al.	Cryptococcosis in the Vocal Cords, Trachea, and Bronchi	Intern Med 60(18):3003-3008	2021-9

消化器内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
梅北慎也、赤星和也、佐藤謙太、他	貧血を契機に診断された回腸毛細血管腫の1例	日本消化管学会雑誌 5(1) :1-6	2021-4
梅北慎也、赤星和也	下痢	総合内科病棟マニュアル 疾患 ごとの管理 :274-280	2021-7

総合診療科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
小杉俊介	治療は終わっているのに退院の話し合いに応じない家族	しくじり症例から学ぶ! Difficult Patient 対応技法 :227-235	2021-1
井村洋、森山由香、立石奈々	PX 向上のため、改善活動に励む福岡県・飯塚病院の取り組み	ナーシングプラザ :8-9	2021-2
原田愛子、清田雅智	関節リウマチが疑われた 44 歳女性	診断と治療 109(3):401-405	2021-3
原田愛子、小杉俊介	病院総合医チーム Presents 実践! 使える論文 My Top 5 - 高齢者入院診療編 2-	プライマリ・ケア 6 (2) :65-67	2021-4
吉田 伸	【識者の目】「外来の受診間隔について考える:慢性期・進行疾患編」	Web 医事新報 :0	2021-4
吉野俊平、桑野公輔	CPC ～何が起きていたのか? 最終病理診断からのメッセージ～ AIDS 発症後、低体温、急性腎障害をきたした 31 歳の男性	日本内科学会雑誌 110 (9) :2048-2066	2021-4
清田雅智	感染症ミミック①	medicina 58(5):676-679	2021-4
小杉俊介	非がん性疼痛の管理	総合内科病棟マニュアル :197-204	2021-5
吉野俊平	死亡診断書（死体検案書）の書き方	総合内科病棟マニュアル :469-477	2021-5
清田雅智	様々な臨床場面における尿検査の有用性	「型」が身につく蛋白尿・血尿 の診かた・考えかた :9-15	2021-6
井村 洋	医師の働き方改革を踏まえたオペレーションマネジメント～病院経営を支えるチームビルディング～	医事業務 28 (605) :4-10	2021-6
清田雅智	ホスピタリストは膠原病専門医ともっと深いレベルで交流できないだろうか?	Hospitalist 9 (1) :1-4	2021-7
金 弘子	Introduction to uncertainty in the Team-working Quadrant (翻訳)	医療における不確実性をマッ ピングする :138-143	2021-7
金 弘子	The clinical setting, assessment and teaching methods for uncertainty in the Negotiating Quadrant (翻訳)	医療における不確実性をマッ ピングする :133-137	2021-7
吉田 伸	オンライン診療の現状と拡大を見据えた取り組み	病院羅針盤 :0	2021-8
清田雅智	文献渉猟いとをかし	医学界新聞 :3431(1-2)	2021-8
金 弘子	大切な人の「もしも」に備え 性的少数者向け緊急連絡先カード	西日本新聞 :9	2021-8
Kudou M,Uchida T,Sakano T et al.	A Colon Cancer-related,Clostridium septicum-infected,Aortic Aneurysm	Internal Medicine 60(19):1-2	2021-10
井村 洋	改革のために中長期計画を推める～総合内科医療体制の確立に向けて～	医事業務 :31-34	2021-10

清田雅智	シリーズ編集者からの付記、原著、前書き、Section1,3,4,6	2週間で学ぶ臨床感染症:Section1,3,4,6	2021-10
鈴木祥太郎	Section6 全身感染症	2週間で学ぶ臨床感染症:213-271	2021-10
桑野公輔、清田雅智	より診断精度を上げるためのトピック 画像診断	Medical Practice:1719-1722	2021-11
坂本純永、佐々木 彰	外来で役立つ Aha! クエスチョン 血尿	medicina Vol.58 No.12:2044-2048	2021-11
金 弘子	「誰もが安心な病院」へ	西日本新聞:18	2021-12

膠原病・リウマチ内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Maruyama A,Kokuzawa A,Yamauchi Y et al.	Clinical features of elderly-onset adult-onset Still's disease	Modern Rheumatology:862-868	2021-8

連携医療・緩和ケア科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
大森崇史	GAS -Google App Script- あなたにもできるプログラミング 繰り返し作業を GAS で楽チンに	緩和ケア 第31巻 6月増刊号:23-28	2021-6

脳神経内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Takase K,Maeda N,Kawakami S et al.	A Case of Paradoxical Cerebellar Embolism Associated with Platypnea-orthodeoxia Syndrome	Internal Medicine:7024-21	2021-6

腎臓内科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
佐々木 彰	輸液グリーンノート 栄養輸液、アミノ酸製剤、脂肪製剤	輸液グリーンノート 志水英明編著:11-21	2021-4
佐々木 彰	尿検査異常はそれほどない腎機能障害は放っておけばいい？	「型」が身につく蛋白尿・血尿の診かた・考えかた～尿検査異常はそれほどない腎機能障害は放っておけばいい?:192-199	2021-6
佐々木 彰	ネフローゼ症候群における抗凝固療法	腎臓内科:383-389	2021-9
佐々木 彰	腎疾患における診断 / 予後予測ツール	レジデントノート増刊 腎疾患の診察・検査できてますか? Vo 1. 23:38-43	2021-12

漢方診療科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行時の漢方の活用と注意点②－ post-acute COVID-19 に対する漢方治療－	プライマリ・ケア 6 (1) :35-40	2021-1
矢野博美、牧 俊允、後藤雄輔、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 108] 『最近の治験・知見・事件!?’] パート II 93 成人パルボウイルス B19 感染症の入院症例	漢方の臨床 68 (1) :101-108	2021-1
吉永 亮	VDT 作業と治打撲一方	漢方と最新治療 30 (1) :31-36	2021-2
井上博喜、牧 俊允、後藤雄輔、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 109] 『最近の治験・知見・事件!?’] パート II 94 COVID-19 に対する不安と不眠に加味帰脾湯が有効であった 2 症例	漢方の臨床 68 (2) :33-38	2021-2
田原英一、後藤雄輔、牧 俊允、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 110] 『最近の治験・知見・事件!?’] パート II 95 桂枝加竜骨牡蛎湯の 4 例（不眠・尿漏れ・目の疲れ・性的逸脱行動）	漢方の臨床 68 (3) :289-293	2021-3
吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！ 冷えのミカタ④－お腹の冷え－	プライマリ・ケア 6 (2) :42-47	2021-4
吉永 亮	首の負担≡首の打撲：治打撲一方の活用	週刊 日本医事新報 5058:3	2021-4
吉永 亮、牧 俊允、井上博喜、他	蜂窩織炎における漢方治療の意義－下肢蜂窩織炎の 3 症例から－	日本東洋医学雑誌 72 (2) :135-143	2021-4
井上博喜、牧 俊允、吉永 亮、他	心下痞堅を目標に木防己湯を使用し有効であった 2 症例	日本東洋医学雑誌 72 (2) :166-170	2021-4
田原英一、牧 俊允、吉永 亮、他	著明な栄養障害に五苓散と補血剤が著効した 1 例	日本東洋医学雑誌 72 (2) :148-152	2021-4
牧 俊允、原田直之、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 112] 『最近の治験・知見・事件!?’] パート II 97 慢性陰嚢痛・鼠径部痛に桂枝茯苓丸料加？苡仁が有効であった 1 症例	漢方の臨床 68 (5) :639-644	2021-5
吉永 亮、原田直之、牧 俊允、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 113] 『最近の治験・知見・事件!?’] パート II 98 不登校の思春期女兒に柴胡剤が有効であった 2 症例	漢方の臨床 68 (6) :731-736	2021-6
吉永 亮	六病位編	あつまれ！！飯塚漢方カンファレンス 漢方処方のプロセスがわかる :57-101	2021-7
吉永 亮	総論	あつまれ！！飯塚漢方カンファレンス 漢方処方のプロセスがわかる :1-29	2021-7
吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方！ 冷えのミカタ⑤－下肢の冷え－	プライマリ・ケア 6 (3) :25-30	2021-7
吉永 亮	応用問題編	あつまれ！！飯塚漢方カンファレンス 漢方処方のプロセスがわかる :153-185	2021-7
吉永 亮	気血水編	あつまれ！！飯塚漢方カンファレンス 漢方処方のプロセスがわかる :103-152	2021-7
吉永 亮	陰陽虚実編	あつまれ！！飯塚漢方カンファレンス 漢方処方のプロセスがわかる :31-56	2021-7
牧 俊允	内分泌・糖尿病内科 肥満、糖尿病神経障害	medicina 58 (8) :1164-1168	2021-7
吉永 亮	漢方薬の効果判定、服用方法、やめどき	medicina 58 (8) :1134-1139	2021-7

井上博喜	神経内科 認知症、BPSD	medicina 58 (8) :1170-1175	2021-7
田原英一	高齢者疾患と漢方	medicina 58 (8) :1234-1237	2021-7
吉永 亮	治療の幅が広がる漢方という選択肢	medicina 58 (8) :1130-1133	2021-7
矢野博美、牧 俊允、吉永 亮、他	車前子に発生したタバコシバンムシ	日本東洋医学雑誌 72 (3) :307-312	2021-7
矢野博美、牧 俊允、吉永 亮、他	乳癌治療に関連する諸症に漢方治療が奏効した5例	日本東洋医学雑誌 72 (3) :264-274	2021-7
井上博喜、原田直之、牧 俊允、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 115] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 100 水毒患者に対する小豆スープの取り組み	漢方の臨床 68 (8) :921-925	2021-8
矢野博美	補中益気湯の症例	MEDICAL KANPO 2021 3:5-6	2021-9
田原英一	高齢者疾患	漢方薬・生薬 薬剤師講座テキスト 2:125-138	2021-9
吉永 亮	プライマリ・ケアにこそ漢方! 冷えのミカタ⑥-厥陰病を知る-	プライマリ・ケア 6 (4) :27-32	2021-10
田原英一	自家製丸薬調剤の製造実態調査報告-技術料の適正化の必要性-	日本東洋医学雑誌 72 (4) :397-401	2021-10
田原英一	日本で傷寒論の順が太陽、少陽、陽明となった理由の一考察	日本東洋医学雑誌 72 (4) :452-459	2021-10
原田直之、牧 俊允、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 118] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 103 入院治療を要した腹痛の2例	漢方の臨床 68 (11) :1191-1198	2021-11
吉永 亮	地域医療でニーズの高い補中益気湯と半夏厚朴湯 1薬1症から一步前へ!	月刊保団連 12 (1357) :15-21	2021-12
牧 俊允、原田直之、吉永 亮、他	飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より [通算 119] 『最近の治験・知見・事件!?’ パート II 104 2型糖尿病患者に対する八味地黄丸の減量効果	漢方の臨床 68 (12) :1329-1335	2021-12

外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
藤中良彦、倉光正太郎、井口詔一、他	右胃大網動脈を用いた冠動脈バイパス術後の十二指腸 gastrointestinal stromatumor に対して腹腔鏡下十二指腸部分切除を施行した1例	日本消化器外科学会雑誌 54(10):689-695	2021-10

呼吸器外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Yasuda M, Yoshikai T, Koga H et al.	Fluorodeoxyglucose-Positron Emission Tomography Signal Predicts Acute Exacerbation of Interstitial Pneumonia after Lung Cancer Surgery	World Journal of Surgery and Surgical Research :1338:1-5	2021-9

産婦人科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
SachinoKira,MakiGoto,SayaWatana be et al.	A Case of a Bacteremic Abortion Caused by Ascending Haemophilus Influenza Infection	Journal of Sepsis and Blood Infection 01:4-7	2021-1
ShingoTanaka,MakiGoto,SayaWata nabe et al.	Posterior reversible encephalopathy syndrome with reversible cerebral vasoconstriction syndrome in a normal primigravida woman at the 35-week gestation stage : a case report	Clinical and Experimental Obstetrics & Gynecology vol.48(4):982-986	2021-8
YokoT,AbeN,KiraS et al.	Postoperative Human Papilloma Virus Positivity Rate Due to Differences in Surgical Procedures in Patients with Cervical Intraepithelial Neoplasia	Online Journal of Complementary & Alternative Medicine (OJCAM) :Vol.7-Issue1 1-4	2021-10

整形外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Sonoda K,Hara T	“Anterior-shift sign”: a novel MRI finding of adult hip dysplasia	Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery 1:1-8	2021-2

リハビリテーション科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
山下智弘、白土健吾、川満謙太、他	Effects of Early Physical Therapist-supervised Walking on Clinical Outcomes after Liver Resection: Propensity Score Matching Analysis	Physical therapy research :225-231	2021-12

皮膚科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
今嶋真緒、幸田 太、古江増隆	脂肪腫を思わせたマンソン孤虫症	皮膚病診療 :556-559	2021-6

リエゾン精神科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
椛島敬行、猪狩圭介、原口健三、他	総合病院入院中にせん妄を併発した患者に対 するリエゾンチームによる精神科作業療法－後 方視的な症例対照研究による有効性の検証－	作業療法 40 巻 6 号 :721-729	2021-12

ペインクリニック科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Obata K	SOFA score as a predictor of failed postoperative extubation after the surgery for lower intestinal perforation	Anesthesia & Analgesia :1435	2021-9

感染症科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
的野多加志	腸管出血性大腸菌感染症	今日の治療指針 Vol. 63:188-189	2021-1
Matono T,Umeda Y,Uchida M et al.	Impact of an infectious disease physician-led carbapenem postprescription feedback on prescribing behavior in a Japanese tertiary hospital: A before-after study.	Journal of Infection and Chemotherapy 27(3):439-444	2021-3
Matono T	Lessons from building a novel health care model against COVID-19 in Fukuoka, Japan: timely decision-making and public-private cooperation	Asia Pacific Journal of Public Health 33(4):431-433	2021-5
沖中友秀、的野多加志	症状・症候からのアプローチ 下痢	救急医学 45巻(8号):999-1005	2021-7
的野多加志	福岡県新型コロナウイルス感染対策調査：介護・福祉施設等における課題	病原微生物検出情報 (IASR) 42(9):201-203	2021-9
帆足公佑	Section 8 その他の感染症	2週間で学ぶ臨床感染症 :289-329	2021-10
的野多加志	Section 2 呼吸器感染症, Section 5 中枢神経感染症, Section 7 妊婦と新生児の感染症, Section 8 その他の感染症	2週間で学ぶ臨床感染症 :37-329	2021-10
倉員侑己	Section 1 皮膚軟部組織感染症	2週間で学ぶ臨床感染症 :1-36	2021-10
長谷川雄一	Section 2 呼吸器感染症	2週間で学ぶ臨床感染症 :37-95	2021-10
土方貴道	Section 3 消化器感染症	2週間で学ぶ臨床感染症 :121-146	2021-10
山手亮佑	Section 4 泌尿生殖器感染症	2週間で学ぶ臨床感染症 :147-164	2021-10
大橋祐介	Section 5 中枢神経感染症	2週間で学ぶ臨床感染症 :175-211	2021-10
沖中友秀	Section 7 妊婦と新生児の感染症	2週間で学ぶ臨床感染症 :273-288	2021-10
的野多加志	感染症専門医の立場からみる新興感染症	福岡県医報 12(1546):9	2021-12

歯科口腔外科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
河野真由美	非専門家でもできる口腔内の評価と肺炎予防	誤嚥性肺炎の主治医力 :184"	2021-5
本田智恵子	口腔ケア	西日本新聞「あなたのカルテ」 第374回:19	2021-5
石井広太郎	顎関節症	西日本新聞「あなたのカルテ」 :17	2021-9

救急科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
片桐 欧	糖尿病性ケトアシドーシス (DKA), 高浸透圧性高血糖状態 (HHS)	総合内科病棟マニュアル 疾患ごとの管理 :539-546	2021-7

集中治療科

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Hiramatsu T, Shimizu S, Koga H	Prognostic factors in patients treated with extracorporeal membrane oxygenation and continuous renal replacement therapy	Perfusion :online	2021-4
平松俊紀、松永尚子	心電図変化を伴うラモトリギンとベンラファキシン塩酸塩、クエチアピンを含む向精神薬過量内服患者に血液灌流療法を行った1例	中毒研究 第34巻第4号 :285-289	2021-12
平松俊紀、松永尚子	心電図変化を伴うラモトリギンとベンラファキシン塩酸塩、クエチアピンを含む向精神薬過量内服患者に血液灌流療法を行った1例	中毒研究 :285-289	2021-12

中央検査部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
樋口雄哉、松浦辰也、秋永理恵、他	全身性自己免疫疾患患者を対象とした全自動蛍光抗体法分析装置 HELIOS による抗核抗体検査 Screening モードの性能評価	日本臨床検査医学会誌 69(11):828-833	2021-11

リハビリテーション部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
白土健吾	症例報告のポイント	理学療法福岡 :57-59	2021-3
白土健吾	がん悪液質を呈する肺癌患者にリハビリテーション栄養ケアプロセスを実践した1症例 - 運動療法と栄養療法の身体的効果 -	理学療法福岡 34:68-73	2021-3
奥野将太、白土健吾、江里口杏平、他	高齢者肺炎患者に対する入院後48時間以内の離床は日常生活動作能力に影響を与える	理学療法学 :189-195	2021-4
白土健吾、古野祐司、川端直人、他	Effect of Rehabilitation Nutrition on a Post-Acute Severe COVID-19 Patient: A Case Report	Healthcare :9 (8), 1034	2021-8
白土健吾、奥野将太、山下智弘	Effect of Rehabilitation Nutrition Care Process on Physical Function in Lung Cancer Cachexia: A Case Report	Physical Therapy Research :Volume 24 Issue 3	2021-12

臨床研究支援室

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
古賀秀信、伊藤悠介、佐々木 彰、他	入院時口腔ケア介助の必要性と入院中の転倒との関連	日本転倒予防学会誌 8(1):3-14	2021-8
古賀秀信	臨床検査データと診療情報を用いた臨床研究	日本臨床検査医学会誌 69(10):799-805	2021-10

医療安全推進室

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
福村文雄、新鹿深夏、木村美香、他	ワーキンググループ活動を円滑に推進するためのマネジメント	病院安全教育 :4-13	2021-10

看護部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
佐野美和子、梶原優子	院内で横断的に活動する認定看護師による看護ナビコンテンツ活用への取り組み	日本臨床知識学会誌 Vol.2 (2021) :16	2021-9
倉智恵美子、田中二郎、森山由香、他	セル看護提供方式 [®] 実施下で看護師がそばに長くいることについての患者認識	日本看護管理学会誌 2021年25巻1号 :55-63	2021-10

経営管理部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
児玉礼好	レセプト請求の質向上のための取り組み～RPA導入によるレセプト作成業務時間の削減～	医事業務 合併号 No.595 :62-64	2021-1
矢口幸平	未収金回収の取り組みと成果 ～複雑で手間な管理を楽にしよう～	医事業務 2021年2月1日号 :25-28	2021-2

改善推進本部

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
立石奈々、高嶋麗子	現場が使いやすい「文書管理の仕組み」への改善	病院安全教育 2021 4・5月号 :38-41	2021-4

臨床心理室

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「わたしは大丈夫です！」はほんとに大丈夫？ COVID-19にここまで蝕まれないために	EmerLog 他21誌 第34巻(1号) :138	2021-2
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「本当はこわい身近なバーンアウト～個人でできること～」	Nursing BUSINESS 他21誌 15巻2号 :74	2021-2
松尾純子	看護管理者として新型コロナウイルスとどう向き合うか～スタッフだけでなく管理者も守られるべき存在～	あなたへのエール :1	2021-3
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「バーンアウトを防ぐために部署でできること」	EmerLog 他21誌 第34巻2号 :138	2021-4
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「過緊張と不安：個人ができること」	INFECTION CONTROL 第30巻4号 :98	2021-4
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「グリーンフケア：個人としてできること」	INFECTION CONTROL 他 21誌 第30巻6号 :106	2021-6
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「過緊張と不安の軽減を目指して：組織ができること」	EmerLog 他21誌 第34巻3号 :130	2021-6
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「どうしていますか ハラスメント」	INFECTION CONTROL 他 21誌 第30巻8号 :112	2021-8
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「アンガーマネジメントとコミュニケーション：個人でできること」	INFECTION CONTROL 他 21誌 第30巻10号 :96	2021-10
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「それでもコロナの波をゆく」	EmerLog 他21誌 :146	2021-10
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「アンガーマネジメント：組織で活かすコミュニケーション」	EmerLog 他21誌 第34巻6号 :132	2021-12
松尾純子	医療者のためのメンタルヘルス講座「持続可能なワーク・エンゲイジメントのために」	INFECTION CONTROL 他 21誌 第30巻12号 :94	2021-12

内視鏡センター

著者名	表題名	著者・雑誌名	発行年月
Akahoshi K,Tamura S,Akahoshi K et al.	Vinyl bag cover method to avoid droplet-containing aerosol escape from endoscopic forceps channel caps during COVID-19 pandemic (with video)	World Journal of Gastrointestinal Endoscopy 13(4):111-114	2021-4
Akahoshi K,Tamura S,Akahoshi K	Protection against aerosol droplets from the mouth using the mask plus vinyl bag method during esophagogastroduodenoscopy in the coronavirus disease-19 pandemic	Digestive Endoscopy Epub ahead of printing:1-2	2021-4
赤星和也、大石善丈	胃 EUS	胃と腸 増刊号 消化管診断・治療手技のすべて 2021 56(5) :624-625	2021-5
Akahoshi K,Komori K,Akahoshi K et al.	Advances in endoscopic therapy using grasping-type scissors forceps (with video)	World Journal of Gastrointestinal Surgery 13(8):772-787	2021-8
赤星和也	消化管粘膜下腫瘍性病変への EUS-FNA	INTERVENTIONAL EUS 基本と実践テクニック :75-80	2021-11

2. 学会発表

肝臓内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
G-CSF産生肉腫様肝癌の1例	松尾皇佑、栗野哲史、森田祐輔、他	第332回日本内科学会九州地方会	2021-1-9
Combination治療を考える	森田祐輔、栗野哲史、田中紘介、他	LENVIMA-HCC Seminar	2021-3-8
肝移植を検討したPBC-AIHオーバーラップ症候群の一例	栗野哲史	School of Hepatology 2021	2021-3-20
急性肝障害における炎症性サイトカインと細胞死	栗野哲史、田中正剛、國府島庸之	第107回日本消化器病学会総会	2021-4-16
ラジオ波焼灼療法施行時のCT補助による治療成績の向上効果	長澤滋裕、田中紘介、本村健太	第57回日本肝臓学会総会	2021-6-17～ 2021-6-18
EOB-MRI 肝細胞相高信号の肝細胞癌に対するレンバチニブの治療効果の検討	栗野哲史、長澤滋裕、森田祐輔、他	第24回日本肝がん分子標的治療研究会	2021-8-28
EOB-MRI肝細胞相高信号を呈する肝細胞癌に対するレンバチニブの治療効果の検討	田中紘介、長澤滋裕、森田祐輔、他	第23回九州肝癌研究会学術講演会	2021-9-4
US/CT guidance improves local recurrence free survival after radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma	Nagasawa S, Morita Y, Kuwano A et al.	JSH International Liver Conference 2021	2021-10-2
Therapeutic efficacy of lenvatinib for hepatocellular carcinoma with iso-high intensity in the hepatobiliary phase of Gd-EOB-DTPA-MRI	Kuwano A, Nagasawa S, Morita Y et al.		
Serum α -fetoprotein level at the end of treatment is the useful predictor of hepatocellular carcinoma occurrence after one year and later following hepatitis C virus eradication by direct-acting antiviral treatment	Yada M, Nagasawa S, Morita Y et al.		
EOB-MRI肝細胞相高信号を呈する肝細胞癌に対するレンバチニブの治療効果の検討	田中紘介、長澤滋裕、森田祐輔、他	第118回日本消化器病学会九州支部例会	2021-12-3
EOB-MRI肝細胞相高信号の肝細胞癌に対するレンバチニブの治療効果の検討	栗野哲史、矢田雅佳、本村健太、他	第44回日本肝臓学会西部会	2021-12-9～ 2021-12-10
肝細胞癌に対する分子標的薬治療におけるHCV排除の重要性に関する検討	森田祐輔、長澤滋裕、栗野哲史、他		

呼吸器内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
高齢者における誤嚥性肺炎診断アルゴリズムの導入	吉松由貴、飛野和則、平松由莉、他	第61回日本呼吸器学会学術講演会	2021-4-23～ 2021-4-25
CTでの牽引性気管支拡張は、リウマチ関連間質性肺疾患の予後因子である	末安巧人、飛野和則、大田裕晃、他		
細菌性胸膜炎の重症度と血清のALPの関連性	西澤早織、飛野和則、大田裕晃、他		
気管支鏡検査時の迅速細胞診(ROSE)の有用性の検討	神幸希、飛野和則、大井隆之介、他		
COPDによる嚥下障害に対する干渉波刺激装置の有用性：探索的研究	吉松由貴、飛野和則、平松由莉、他		
気管支鏡検査時の迅速細胞診(ROSE)の有用性の検討	神幸希、飛野和則、大井隆之介、他	第44回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2021-6-24～ 2021-6-25
Repetitive saliva swallowing test predicts COPD exacerbation	吉松由貴、飛野和則、坂部光邦、他	第2回世界嚥下サミット	2021-8-19～ 2021-8-22
自然気胸を合併したCOPDの予後の検討	大田裕晃、吉峯晃平、平松由莉、他	第25回日本気胸・嚥下性肺疾患学会総会	2021-9-17～ 2021-9-18
非典型的な画像所見を示すリンパ脈管筋腫症の一例	平松由莉、飛野和則		

表題名	発表者名	学会名	開催日
Interferential Current Stimulation for Swallowing Disorders in Chronic Obstructive Pulmonary Disease	吉松由貴	第11回ESSD CONGRESS	2021-11-4～ 2021-11-6
The accuracy of rapid onsite cytologic evaluation in bronchoscopy	神 幸希、飛野和則	第25回APSR2021	2021-11-20～ 2021-11-21
DEVELOPMENT AND IMPLEMENTATION OF AN ASPIRATION PNEUMONIA DIAGNOSTIC ALGORITHM FOR THE PRACTICAL APPLICATION OF THE JRS GUIDELINES	吉松由貴		
CAREFUL HISTORY TAKING DETECTS UNDERLYING DISORDERS OF INITIALLY UNKNOWN CAUSES OF ASPIRATION PNEUMONIA	吉松由貴		
Traction Bronchiectasis on Conventional Chest Computed Tomography is a Prognostic Factor for Rheumatoid Arthritis-related Interstitial Lung Disease	末安巧人、飛野和則、内田和紀、他		
A case of enterocolitis with bleeding caused by osimertinib	西澤早織、飛野和則、内田和紀、他		
高齢者に対する免疫チェックポイント阻害薬+化学療法の安全性についての検討	吉峯晃平	第62回日本肺癌学会学術集会	2021-11-26～ 2021-11-28

内分泌・糖尿病内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
血糖コントロール不良若年例が COVID-19 感染症による重症肺炎を発症した一例	船津美奈、徳部 慧、伊藤 淳、他	第59回日本糖尿病学会九州地方会	2021-11-19～ 2021-11-20
意識障害を契機にインスリンノーマを疑い、ジアゾキシド投与により改善した一例	徳部 慧、船津美奈、伊藤 淳、他		

消化器内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
市中病院における小児に対する内視鏡診療の現状と問題点について	久保川 賢、長田繁樹、丸岡諒平	第101回日本消化器内視鏡学会総会	2021-5-14～ 2021-5-16
大腸狭窄に対するステント留置における多施設前向きランダム化比較試験～細径内視鏡 vs 太径内視鏡～	小副川 敬、澁江賢太郎、伊原栄吉		
食道胃静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法中に食道・胃粘膜の虚血性変化を認めた症例の検討	丸岡諒平、竹島 翼、長田繁樹、他	第8回九州門脈圧亢進症研究会	2021-6-5
当院での食道静脈瘤出血に対する治療の現状および再出血危険因子の検討	竹島 翼、長田繁樹、丸岡諒平、他	第111回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	2021-6-11～ 2021-6-12
黒色便を契機に発見され早期に血行性転移を来した小腸類上皮血管肉腫の1例	若杉晃伸、小森圭司、久保川 賢、他	第117回日本消化器病学会九州支部例会	2021-6-11～ 2021-6-12
カプセル内視鏡検査にて発見された小腸神経内分泌腫瘍の一例	濱崎慎平、安倍俊行、鈴木祐輔、他		
神経内分泌腫瘍への分化を伴った早期食道胃接合部癌の一例	鈴木祐輔、小副川 敬、久保川 賢、他	第117回日本消化器病学会九州支部例会	2021-6-11
小腸子宮内膜症の1例	鈴木祐輔	第402回筑豊消化器病研究会	2021-6-16
大腸癌術後の Oxaliplatin(L-OHP) を含む化学療法後に食道胃静脈瘤を来した4症例の検討	長田繁樹、竹島 翼、大崎智絵、他	第28回日本門脈圧亢進症学会総会	2021-9-1～ 2021-9-30
当院における胃静脈瘤(Gastric varices: GV) 出血に対する治療の現状	竹島 翼、長田繁樹、大崎智絵、他		

表題名	発表者名	学会名	開催日
十二指腸静脈瘤に対するcyanoacrylate系薬剤(CA)を用いた内視鏡的塞栓術(ET)の有用性	久保川 賢、長田繁樹、丸岡諒平、他	JDDW2021	2021-11-4～ 2021-11-7
神経線維腫症1型に小腸GISTを合併した1例	大崎智絵、濱崎慎平、松林江里子、他	第118回日本消化器病学会九州支部例会	2021-12-3～ 2021-12-4
超音波内視鏡検査が術前診断に有用であった回腸子宮内膜症の一例	鈴木祐輔、小副川 敬、久保川 賢、他		

血液内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
ITPに対するeltrombopag中止後の長期寛解に関する解析	白土基明、喜安純一、宇都宮 渉、他	第83回日本血液学会学術集会	2021-9-23～ 2021-9-25
A case of Ph+ lymphoblastic lymphoma diagnosed from genetic testing of the CSF cells	宇都宮 渉、喜安純一、油布祐二、他		
当院におけるPBR療法の使用経験	喜安純一、河本啓介、牟田宏樹、他	関門リンパ腫セミナー	2021-11-26

総合診療科

表題名	発表者名	学会名	開催日
サッカーをしている18歳男性に発症した黄色ブドウ球菌による恥骨骨髓炎の1例	稲田宥治、小糸 秀、大橋祐介、他	第22回日本病院総合診療医学会学術総会	2021-2-20～ 2021-2-21
突然の胸背部痛で受診し、入院後に左下肢麻痺・両下肢の不随意運動を認め、MRI検査で脊髄梗塞と診断した一例	宮崎 悠、菅原大輔、小田浩之、他		
CPC～何が起きていたのか？最終病理診断からのメッセージ～AIDS発症後、低体温、急性腎障害をきたした31歳の男性	吉野俊平、桑野公輔	第118回日本内科学会総会・講演会	2021-4-9～ 2021-4-11
若手内科医によるキャリアサポートセミナー(オンライン収録) ①先輩・後輩との接し方 ②キャリアの選び方	小杉俊介	医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2021東京	2021-4-10
脳性麻痺がある若年成人で横行結腸腫瘍による腸重積症をきたした一例	桑原宏輔、北野峻介、吉田 伸、他	第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	2021-5-21～ 2021-5-23
病院総合医第7世代の秘密教えます！～EBM教育編～	工藤仁隆		
コミュニティホスピタルのあゆみらい 地域に開かれた病院づくり	吉田 伸		
病院総合医第7世代の秘密教えます！～EBM教育編～	小杉俊介		
コロナ禍に始めたLGBTQフレンドリーな病院構想～だれもが安心して過ごせる医療機関の実装プロジェクト	金 弘子		
専攻医に優しい九州へ「KOPe：九州沖縄地区での定例オンラインポートフォリオ勉強会」の活動報告 第5報	金 弘子		
オンライン診療は日本のプライマリ・ケアを良くできるか？第四の診療形態、その適応と留意点	吉田 伸		
緩和ケア教育に必要な医学教育の知識	小杉俊介		

表題名	発表者名	学会名	開催日
The periodic diseases:Janeway and PAAND ～ rare diseases that generalists also encounter	清田雅智	ACP（米国内科学会）日本支部 年次総会	2021-6-26～ 2021-6-27
Tips of ICT medical education for resident teachers ～ Residents-as-Teachers Workshop ～	小杉俊介		
Tips of ICT medical education for resident teachers ～ Residents-as-Teachers Workshop ～	小糸 秀		
Tips of ICT medical education for resident teachers ～ Residents-as-Teachers Workshop ～	坂本純永		
Tips of ICT medical education for resident teachers ～ Residents-as-Teachers Workshop ～	柴田真志		
若手医学教育者のキャリアパス～なぜ私は医学 教育を選んだのか～	小杉俊介	第53回日本医学教育学会大会	2021-7-30～ 2021-7-31
左殿部の筋炎を契機に診断に至ったEnterococcus faecalisによる感染性心内膜炎の1例	小野正詩、松永 諭、土方貴道、他	第334回九州地方会	2021-8-28
糖尿病性ケトアシドーシス治療後の炎症反応 の高値の遷延を契機に診断に至った血清反応 陰性関節リウマチの1例	宍戸諒平、松永 諭、東岡和彦		
新たな左耳介痛により診断に至った播種性帯 状疱疹の一例	黒川智美	第23回日本病院総合診療医学 会学術総会	2021-9-18～ 2021-9-19
レジデントから実践できる診療エラー学的 5 minutes reflection on/for action ～診断エラー の建設的な振り返りができる1on1の作り方～	小高聡子		
レジデントから実践できる診療エラー学的 5 minutes reflection on/for action ～診断エラー の建設的な振り返りができる1on1の作り方～	鶴木友都		
アルコール多飲が誘因となりバルプロ酸関連 高アンモニア脳症を来した一例	大西崇平		
薬剤調整を行い浮腫が改善したポリファーマ シーの一例	細川 旬		
感染管理認定看護師教育課程講義	中村権一	感染管理認定看護師対象感染 症講義	2021-10-12
心不全の移行期ケア	小杉俊介	第7回日本心臓リハビリテー ション学会九州支部地方会	2021-11-7
正中弓状靭帯による腹腔動脈起始部狭窄に伴 い発症した後腹膜血腫の1例	小野正詩、松永 諭	第335回九州地方会	2021-11-14
事例1 飯塚病院での取り組み・実状（ビデ オ上映）	清田雅智	第41回医療情報学連合大会	2021-11-18～ 2021-11-21
地方都市の在支病における診療体制の構築と 考察 -コミュニティホスピタルとして地域 に開かれた在宅チーム-	吉田 伸	第3回日本在宅医療連合学会大会	2021-11-27～ 2021-11-28
適々齋塾企画：コモンなめんな！～コモン の方が深くて差が出んだよ～腹痛（虫垂炎）	清田雅智	第34回日本プライマリ・ケア 連合学会近畿地方会	2021-11-28

連携医療・緩和ケア科

表題名	発表者名	学会名	開催日
集中治療室における“ICU緩和ケアチーム”の実践と障壁	石上雄一郎	第48回日本集中治療医学会学術集会	2021-2-12～ 2021-2-14
一般病棟で早期から心不全の緩和ケアを実践する	大森崇史	第26回日本緩和医療学会学術大会	2021-6-18～ 2021-6-19
感染と医療倫理	柏木秀行		
初診重症患者への緩和ケアをチームでどう考えるか	石上雄一郎	第130回日本循環器学会九州地方会	2021-6-26
膵癌による高度ながん疼痛に対し、内臓神経ブロックによって疼痛緩和が得られ、意思決定支援に繋がった1例	中山隆弘、小畑勝義	第55回日本ペインクリニック学会 学術集会	2021-7-22～ 2021-7-24
無症候性の正中弓状靭帯圧迫症候群に伴う後下脛十二指腸動脈瘤破裂の一例	大竹健人、大森崇史、小杉俊介、他	第335回日本内科学会九州地方会	2021-11-14
直腸癌治療中に意識変容をきたし、意思決定支援に難渋した複雑困難事例に関する考察	大竹健人、大森崇史、小杉俊介、他	第3回日本緩和医療学会九州支部学術大会	2021-11-20～ 2021-12-4

循環器内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
当院におけるATTR型心アミロイドーシスに合併した心房細動の特徴とアブレーション治療成績について	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、他	カテーテルアブレーション関連秋季大会2021	2021-9-24

脳神経内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
COVID-19感染後にギラン・バレー症候群を発症した1例	劉景晨、進村光規、篠田紘司、他	第233回日本神経学会九州地方会	2021-9-18
脳梗塞と非痙攣性てんかん重積状態との鑑別を要した神経核内封入体病の一例	進村光規、劉景晨、篠田紘司、他	第234回日本神経学会九州地方会	2021-12-4

腎臓内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
Year in review 2020 part2 心血管 【学会・委員会企画】	藤崎毅一郎	第66回日本透析医学会学術集会・総会	2021-6-4～ 2021-6-6
腎性貧血治療における鉄剤投与の重要性	藤崎毅一郎	第64回日本腎臓学会学術総会	2021-6-18～ 2021-6-20
水マニア～集中治療・循環・腎臓の視点で考える敗血症の水管理～	佐々木 彰	ACP(米国内科学会) 日本支部 年次総会・講演会2021	2021-6-26
疑問の構造化、先人に学ぶ	佐々木 彰		
子宮脱によって生じた腎後性腎不全の一例	坂本純永、佐々木 彰、濱小路友哉、他	第51回日本腎臓学会西部学術集会	2021-10-15～ 2021-10-16
ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群に対してLDL吸着療法が有効であった一例	松本英展、佐藤克樹、福満研人、他	第12回福岡県透析医学会 学術集会・総会	2021-11-14
LDL吸着療法が有効であったステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の一例	松本英展、佐藤克樹、福満研人、他		
セフトリアキソン (CTRX) 投与後に意識障害を来した血液透析患者の2症例	佐藤克樹、松本英展、坂本純永、他	第53回九州人工透析研究会総会	2021-11-28

漢方診療科

表題名	発表者名	学会名	開催日
東洋医学（漢方・鍼灸）「次の一手」企画第2弾 高齢者医療でよくある症状編①〈こむら返り（腓腹筋けいれん）〉	吉永 亮	第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	2021-5-21～ 2021-5-23
証に随う、とは？	田原英一	第71回日本東洋医学学会学術総会	2021-8-13～ 2021-8-15
飯塚病院における総合診療科と漢方診療科との連携 -総合診療科から漢方診療科へ紹介された症例の特徴-	吉永 亮		
麦門冬湯エキーストブシ末の併用が奏功した下痢の2症例	井上博喜、牧 俊允、吉永 亮、他		
漢方治療を施行したSAPHO症候群2例	矢野博美、牧 俊允、吉永 亮、他		
当科における学生実習とその評価について	田原英一、牧 俊允、吉永 亮、他		
誤嚥性肺炎治療後も持続する著明な喀痰にていれき大棗瀉肺湯が有効であった3症例	牧 俊允、吉永 亮、井上博喜、他		
漢方専門施設における漢方リスクマネジメント	田原英一		

画像診療科

表題名	発表者名	学会名	開催日
食道癌術後リンパ漏れに対するリンパ管造影	三浦亘智、鎌野宏礼、染原有希子	第46回福岡IVRカンファレンス	2021-1-29
COVID-19感染症に肺血栓塞栓症および下肢静脈血栓症を合併した一例	染原有希子、三浦亘智、鳥井芳邦、他	第192回日本医学放射線学会九州地方会	2021-2-7
e-ラーニングシステムを用いて安全講習会実施の取り組み	鎌野宏礼	早起き会	2021-5-18
穿孔性十二指腸潰瘍からの出血に対する緊急IVR	三浦亘智、鎌野宏礼、染原有希子、他	第49回福岡IVRカンファレンス	2021-9-24
新型コロナウイルス（COVID-19）感染症死亡症例の画像の検討	三浦亘智	第20回法医画像勉強会	2021-10-2
肺癌術後胸部リンパ漏れに対するリンパ管造影	三浦亘智、三浦幹大	第50回福岡IVRカンファレンス	2021-11-26

小児科

表題名	発表者名	学会名	開催日
救急対応～鑑別を尽くす～	嘉村拓朗	第16回小児救急医療ワークショップ in 北九州	2021-3-6
神経発達症の診療のすすめ方 2021	大矢崇志	第325回筑豊小児科医会勉強会	2021-4-8
自殺企図によりメチルフェニデート中毒に至ったADHDの13歳男児	田中友規、嘉村拓朗、近藤里香子、他	第513回日本小児科学会福岡地方会	2021-6-12
発達障害が疑われて当科を受診した被虐待児の報告	大矢崇志、田中祥一郎、後藤裕美、他	第12回日本子ども虐待医学会学術集会	2021-7-3～ 2021-7-4
地域小児科センターでのセル看護提供方式Rの取り組みによる効果	荒巻美鈴、大石有希子	第23回日本医療マネジメント学会学術集会	2021-7-15～ 2021-7-30
周産期型低ホスファターゼ症の診療と家族歴調査の重要性	八ッ賀秀一	第43回日本母体胎児医学会学術集会	2021-8-27～ 2021-8-28
当院に時間外受診した後、そのまま他院へ転送となった症例の見直し	岡松由記	第20回九州・沖縄小児救急医学研究会	2021-8-28
カルシウム・リン代謝異常症-低リン血症性くる病・骨軟化症を中心に-	八ッ賀秀一	第329回筑豊小児科医会勉強会	2021-9-16
心臓ペースメーカー埋め込み術が施行された代理ミュンヒハウゼン症候群	岡松由記	第3回九州沖縄子ども虐待医学研究会	2021-9-18
基礎疾患があり診断までに時間を要した慢性虫垂炎の2例	田中友規、嘉村拓朗、上杉 達、他	第514回日本小児科学会福岡地方会	2021-10-9
Glycogenic hepatopathyを繰り返したI型糖尿尿病9歳男児	田中ゆかり、八ッ賀秀一、齊木玲央、他	第54回日本小児内分泌学会学術集会	2021-10-28～ 2021-10-30
喘息患者の入院数の10年間のまとめ	岡松由記	第58回日本小児アレルギー学会学術大会	2021-11-13～ 2021-11-14
小児てんかんの診断と治療	大矢崇志	飯塚医師会学術講演会	2021-11-15

表題名	発表者名	学会名	開催日
成長曲線と内分泌疾患	八ッ賀秀一	第331回筑豊小児科医会勉強会	2021-11-16
成長曲線からみえる内分泌症例	田中ゆかり		
気管喉頭分離術をうける子どもたちについてのお話	岡松由記	令和3年度 筑豊地域小児在宅医療定例研修会（12月）	2021-12-23

外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
腎細胞癌臍転移の3例	梶山 潔、萱島寛人、皆川亮介、他	第51回日本膵臓学会大会	2021-1-8～ 2021-1-9
過形成性ポリープを先進として発症した虫垂重積症の1例	松本匡永、由茅隆文、古賀 聡、他	第57回九州外科学会	2021-2-19～ 2021-2-20
腸間膜神経線維腫に外科切除を行い神経線維腫の診断に至った一例	江端由穂、平山佳愛、松本匡永、他		
肝細胞癌との識別が困難だった肝血管筋脂肪腫の2例	鈴木優也、萱島寛人、井口詔一、他		
十二指腸水平部腫瘍に対し小腸部分切除術を施行した一例	吉山貴之、藤中良彦、松本匡永、他		
繰り返す十二指腸潰瘍に伴い横行結腸十二指腸瘻を形成した1例	坂野高大、古賀 聡、松本匡永、他		
Surgical resection for cancer in elderly patients 当院における高齢者胃癌手術症例の検討	平山佳愛、甲斐正徳、古賀 聡、他		
左乳房下副乳癌の一例	武谷憲二、江端由穂、吉山貴之、他	第18回日本乳癌学会九州地方会	2021-3-6～ 2021-3-7
Two cases of spontaneous esophageal rupture in our institute	武谷憲二	第33回日本内視鏡外科学会総会	2021-3-10～ 2021-3-13
当院における成人臍ヘルニア嵌頓に対する手術症例の検討	甲斐正徳、坂野高大、平山佳愛、他		
術前診断に難渋し腹腔鏡手術にて摘出した腹腔内異物の一例	甲斐正徳、平山佳愛、武谷憲二、他		
A case of laparoscopic surgery for localized peritoneal recurrence of ascending colon cancer	平山佳愛		
憩室出血に対する Endoscopic Band Ligation による壊疽性虫垂炎に対して腹腔鏡下虫垂切除術を施行した一例	藤中良彦、井口詔一、平山佳愛、他		
80歳以上の高齢者肝細胞癌に対する肝切除術の安全性および妥当性に関する検討	萱島寛人、井口詔一、松本匡永、他		
横行結腸癌に転移した肝細胞癌の一例	由茅隆文、古賀 聡、萱島寛人、他	第76回日本消化器外科学会総会	2021-7-7～ 2021-7-9
低位前方切除術後の閉鎖リンパ節再発に対して術前化学療法後に腹腔鏡下側方郭清を施行した一例	藤中良彦、倉光正太郎、吉山貴之、他		
肝転移を伴う切除不能胆道癌に対して conversion surgery を施行した高齢者の1例	萱島寛人、井口詔一、江端由穂、他		
当科における成人腸重積症の検討	平山佳愛、甲斐正徳、倉光正太郎、他		
Nuck管水腫に対し、腹腔鏡を併用し前方アプローチにて水腫を摘出した一例	吉山貴之、藤中良彦、江端由穂、他		
肝転移を伴う遠位胆管癌に対して conversion surgery を施行した高齢者の1例	川下知英、萱島寛人、黒田陽介、他		
抗PD-L1 抗体治療後に右肝葉切除を施行した肝細胞癌の1例	松本匡永、萱島寛人、黒田陽介、他	第29回日本消化器関連学会週間 (JDDW)	2021-11-4～ 2021-11-7
当院における原発性小腸癌19例の臨床経験	岩崎 恒、松本匡永、宮下 優、他		
抗PD-L1抗体による治験にて腫瘍縮小を認め、Conversion surgery と施行した肝細胞癌の1例	萱島寛人、井口詔一、松本匡永、他		
NBI併用拡大観察が有用で放射線化学療法が奏功した肛門管扁平上皮癌	豊永敬之、古賀 聡	第76回日本大腸肛門病学会学術集会	2021-11-12～ 2021-11-13
高齢者肝細胞癌に対する肝切除の安全性及び妥当性の検討	萱島寛人、黒田陽介、岩崎 恒、他	第83回日本臨床外科学会総会	2021-11-18～ 2021-11-20

呼吸器外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
胎児型肺腺癌の2切除例	苗代絢子、西澤夏將、岩浪崇嗣、他	第61回日本肺癌学会九州支部 学術集会	2021-2-27～ 2021-2-28
肺多形癌切除例の検討	岩浪崇嗣、苗代絢子、西澤夏將、他		
肺癌肺転移に対する肺切除症例の検討	西澤夏將、大崎敏弘、福市有希子、他	第121回日本外科学会定期学術 集会	2021-4-8～ 2021-4-10
肺粘表皮癌2切除例の検討	岩浪崇嗣、苗代絢子、西澤夏將、他	第38回日本呼吸器外科学会学 術集会	2021-5-20～ 2021-5-22
肺カルチノイド腫瘍の6切除例の検討	岩浪崇嗣、苗代絢子、西澤夏將、他		
間質性肺疾患に対するイメージガイド下胸腔鏡下肺生検の試み-当院におけるクライオバイオプシーとの比較	安田 学、飛野和則、大崎敏弘、他	第44回日本呼吸器内視鏡学会 学術集会	2021-6-24～ 2021-6-25
胸部ステントグラフト内挿術後の大動脈肺瘻に対して左上葉切除を行った2例	近石泰弘、安田 学、楢山健太、他	第8回北部九州肺縦隔研究会	2021-10-5
肺癌に対する免疫チェックポイント阻害剤治療後のサルベージ手術から得られるもの-ICI獲得耐性機構の解析	安田 学、大崎敏弘、楢山健太、他	第83回日本臨床外科学会総会	2021-11-18～ 2021-11-20
非小細胞肺癌の術後補助化学療法CDDP + VNR療法における消化管穿孔のリスク	近石泰弘、安田 学、楢山健太、他	第62回日本肺癌学会学術集会	2021-11-26～ 2021-11-28

小児外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
鼠径ヘルニア、臍ヘルニアを同時に手術した肥厚性幽門狭窄症の1例	鴨打 周、田口匠平	第58回日本小児外科学会学術 集会	2021-4-28～ 2021-4-30

産婦人科

表題名	発表者名	学会名	開催日
Haemophilus influenzaeの上行感染による流産	吉良さちの、渡邊さや、藤本茂樹、他	第73回日本産科婦人科学会	2021-4-22～ 2021-4-25
妊娠反応検査が陰性だった異所性妊娠の症例	西山 哲、藤本茂樹、林宗太郎、他	第78回日本産科婦人科学会九 州連合地方部会	2021-5-22～ 2021-5-23
妊娠反応検査が陰性だった異所性妊娠の症例	西山 哲、林 宗太郎、藤 庸子、他		
腹腔鏡下子宮全摘術後に発症したMycoplasma hominis腹膜炎の一例	林宗太郎、西山 哲、辻岡 寛	第61回日本産科婦人科内視鏡 学会	2021-9-11～ 2021-9-13
腹腔鏡下子宮全摘術後に発症したMycoplasma hominis腹膜炎の一例	李 理華、林 宗太郎、西山 哲、他		
A case of ectopic pregnancy that a pregnancy test with the urine was negative	西山 哲、林 宗太郎、李 理華、他	第21回 APAGE Annual Congress	2021-9-11～ 2021-9-13
A case of peritonitis caused by Mycoplasma hominis after laparoscopic total hysterectomy	李 理華、西山 哲、林 宗太郎、他	第61回 APAGE Annual Congress	2021-9-11～ 2021-9-13
子宮内膜細胞診で判明し腹腔鏡で切除した、肺腺癌の子宮転移の症例	西山 哲、大石善丈	第60回日本臨床細胞学会秋期 大会	2021-11-20～ 2021-11-21

整形外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
手指外傷性骨軟骨欠損に対する肋軟骨移植術の治療経験	牛島貴宏	第42回九州手外科研究会	2021-2-6
後側方アプローチTHA：後方軟部組織修復による内旋制動	園田和彦、原俊彦、牛島貴宏、他	第51回日本人工関節学会	2021-7-7～ 2021-7-8
ハイブリッド閉鎖式楔状高位脛骨骨切り術後に生じた前脛骨動脈仮性動脈瘤の経験	浜崎晶彦	第46回九州膝関節研究会	2021-7-10
寛骨臼形成不全において関節不安定性を示唆する所見：Anterior-shift signの検討	園田和彦、原俊彦、小宮山敬祐	第48回日本股関節学会	2021-10-22～ 2021-10-23
寛骨臼形成不全において関節不安定性を示唆する所見：Anterior-shift sign	園田和彦、原俊彦、小宮山敬祐	第142回西日本整形・災害外科学会	2021-12-11～ 2021-12-12

リハビリテーション科

表題名	発表者名	学会名	開催日
肺癌肺葉切除術における術後運動耐容態変化の検討	山下智弘	第58回日本リハビリテーション医学会学術集会	2021-6-10～ 2021-6-13
ボツリヌス療法：リハビリテーション科外来でのチーム医療としての取り組み	山下智弘	第8回日本ボツリヌス治療学会学術大会	2021-9-17～ 2021-9-18

脳神経外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
救急外来でのくも膜下出血再出血症例の検討	山田哲久、名取良弘	第26回日本脳神経外科救急学会	2021-2-5～ 2021-2-6
急性からの移行と慢性期発症の慢性硬膜下血腫の比較検討	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	第44回日本脳神経外傷学会	2021-2-26～ 2021-2-27
消化器疾患と診断されたくも膜下出血の検討	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	第46回日本脳卒中学会	2021-3-11～ 2021-3-13
救急外来で開頭血腫除去術を施行した非外傷性急性硬膜下血腫の1例	山田哲久、桶谷英司、松元宗一郎、他	第35回日本神経救急学会	2021-6-19
器質化慢性硬膜下血腫患者に対する漢方薬の効果の検討	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他	第29回日本脳神経外科漢方医学会学術集会	2021-10-2
脳外科医としての臓器提供の意思確認	名取良弘	第80回日本脳神経外科学会総会	2021-10-27～ 2021-10-30
穿頭術後のトラネキサム酸の内服で慢性硬膜下血腫の再発は防止できるか？	山田哲久、名取良弘、甲斐康稔、他		
最近のクリッピング術の症例	雨宮健生	Kyushu Neurosurgery Seminar 2021	2021-11-10
脳外科における発症から重篤な患者の終末期対応 -患者家族からのアンケート調査から見たもの(第2報)	名取良弘、梶原優子、堀内茅加	第24回日本臨床脳神経外科学会	2021-11-11～ 2021-11-12

心臓血管外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
TEVAR の地雷	内田孝之	第33回胸部外科教育施設協議会学術集会・総会	2021-6-12
S-ICD が優先 (Debate Session 「S-ICD か、T-ICD か」)	内田孝之	第67回日本不整脈心電学会学術集会	2021-7-1～ 2021-7-4
ICD リード留置抜去による severe TR に対する側開胸 TVR 症例	酒井大樹	第54回日本胸部外科学会九州地方会	2021-7-29～ 2021-7-30
偶発的に指摘された奇静脈瘤を右小開胸で切除した1例	塩野剛志		
低左心機能で左室内血栓を形成し CABG を伴った血栓切除	岩橋啓介		
急性大動脈解離 StanfordB の malperfusion に対して TEVAR 施行し良好な経過をたどった一例	塩野剛志	第118回日本血管外科学会九州地方会	2021-11-13
腹部大動脈瘤破裂と誤認した左腸骨回旋動脈仮性瘤破裂の一例	岩橋啓介		

血管外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
80歳以上の超高齢者における下肢静脈瘤血管内焼灼術の成績	松元 崇、内田孝之、満尾 博、他	第41回日本静脈学会	2021-9-6～ 2021-9-7
EVAR後の腸骨動脈瘤に対するup-and-over法の経験	松元 崇、内田孝之、満尾 博、他	第62回日本脈管学会総会	2021-10-14～ 2021-10-16

皮膚科

表題名	発表者名	学会名	開催日
当院で経験したツツガムシ病の4例	平野早希子、成富真由香、小糸理紗、他	第396回日本皮膚科学会 福岡 地方会	2021-3-7
蜂窩織炎を思わせた潰瘍性大腸炎に伴う大腸炎	今嶋真緒、井上慶一、挽地史織、他		
臍部に生じた転移性皮膚腫瘍の一例	王 黎亜	第397回日本皮膚科学会 福岡 地方会	2021-7-11
顔面に生じた有茎性低色素性基底細胞癌の1例	独孤 龍、幸田 太、王 黎亜	第399回日本皮膚科学会 福岡 地方会	2021-11-23
IL-23を中心に乾癬を理解する	幸田 太		

形成外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
感染の波及により足関節開放に至った外果潰瘍に対し創内持続洗浄療法を用いて治療した2例	小山麻衣、橋口晋一郎	第3回日本フットケア・足病医学会 九州・沖縄地方会学術集会	2021-10-23

眼科

表題名	発表者名	学会名	開催日
網膜血管炎の発症を契機に骨髄異形成症候群の診断に至った1例	七條絵美、中間崇仁、向坂親蔵	第60回日本網膜硝子体学会総会	2021-12-3～ 2021-12-5

リエゾン精神科

表題名	発表者名	学会名	開催日
精神科リエゾンチームにおける研修医トレーニング-せん妄を中心に-	猪狩圭介、白玉 桜、光安博志、他	第34回日本総合病院精神医学会	2021-11-19～ 2021-11-21
リエゾンチームによる精神科作業療法の現状と課題	梶島敬行、猪狩圭介、堤 一樹、他	第34回日本総合病院精神医学会	2021-11-19～ 2021-12-31

麻酔科

表題名	発表者名	学会名	開催日
院内緊急気管挿管プロトコルの構築	内藤智孝	第68回日本麻酔科学会	2021-6-3～ 2021-7-9
覚醒下においてレミフェンタニルとフェンタニルの鎮痛力価が等しいことが示唆された乳癌手術の一例	平本琢也、濱井優輔、尾崎実展	第41回日本臨床麻酔学会	2021-11-5～ 2021-11-6
亜全胃温存臍頭十二指腸切除術中の短時間の門脈遮断後にロクロニウムの作用持続時間が延長した1例	米村 拓、濱井優輔、尾崎実展		
NeuRx 横隔膜ペーシングシステムの麻酔経験	尾崎実展		
Angelman 症候群患者の麻酔経験	田平暢恵、尾崎実展		

ペインクリニック科

表題名	発表者名	学会名	開催日
疼痛コントロール不良の播種性帯状疱疹に対し頸部持続硬膜外ブロックを行った一症例	小畑勝義	第55回日本ペインクリニック学会	2021-7-22～ 2021-7-24
SOFA score as a predictor of failed postoperative extubation after the surgery for lower intestinal perforation	Obata K	The 17th World Congress of Anaesthesiologists	2021-9-1～ 2021-9-5
意識障害で判明した左房粘液腫から Carney complex の診断に至った一症例	小畑勝義	第26回日本心臓血管麻酔学会	2021-10-23～ 2021-10-24

感染症科

表題名	発表者名	学会名	開催日
患者背景因子に注目し迅速な診断に至った顆粒球コロナー形成刺激因子製剤関連大血管炎の一例	帆足公佑、土方貴道、長谷川雄一、他	第95回日本感染症学会学術講演会	2021-5-7～ 2021-5-9
地方におけるワクチン・トラベル外来の開設と今後の展望	的野多加志、大橋祐介、帆足公佑、他	第25回日本渡航医学会学術集会	2021-8-21～ 2021-8-22
Genomic insights into virulence factors affecting a tissue-invasive Klebsiella pneumoniae infection	Matono T,Fujii N,Teshima Y et al.	IDWeek2021	2021-9-29～ 2021-10-6
侵襲性非チフス性サルモネラ属菌感染症を契機に診断に至った HIV 感染症の一例	山手亮佑、長谷川雄一、土方貴道、他	第91回日本感染症学会西日本地方会学術集会	2021-11-5～ 2021-11-7

歯科口腔外科

表題名	発表者名	学会名	開催日
口腔顔面領域の知覚異常を呈した聴神経腫瘍の1例	松澤鎮史、中松耕治、石井広太郎、他	第54回日本口腔科学会九州地方部会	2021-11-27

救急科

表題名	発表者名	学会名	開催日
成人の内因性院外心肺停止症例に対する病院前での治療介入の有効性の検討	山田哲久、香月洋紀、熊城伶己、他	第48回日本集中治療医学会学術集会	2021-2-12～ 2021-2-14
救命救急センターで停電を経験して	山田哲久、名取良弘	第26回日本災害医学会総会・学術集会	2021-3-15～ 2021-3-17
当院での AIS coding の現状報告と課題	山田哲久、鮎川勝彦	第35回日本外傷学会総会・学術集会	2021-5-27～ 2021-5-28
肉眼的血尿を契機に後天性血友病 A が判明した1例	藪内俊宜、小杉俊介、井村 洋、他	第333回日本内科学 九州地方会	2021-6-5
新型コロナウイルス感染精神疾患患者の入院・転院調整について	鮎川勝彦、賀来典之、野田英一郎	第24回日本臨床救急医学会総会・学術集会	2021-6-10～ 2021-6-12
筑豊地域の超高齢社会における救急医療への取り組みー「攻める医療」だけでなく、「支える医療」を支える！ー鮎川勝彦、小栗和美、田熊清治	鮎川勝彦、小栗和美、田熊清治	第39回福岡救急医学会	2021-9-4
コロナ禍でのドクターカー運用	山田哲久、千原敦子、廣瀬直道、他	第16回日本病院前救急診療医学会総会・学術集会	2021-11-5～ 2021-11-6
子宮留膿腫の穿孔による敗血症性ショック、汎発性腹膜炎をきたした1例	藪内俊宜、片桐 欧、松元宗一郎、他	第49回日本救急医学会総会・学術集会	2021-11-21～ 2021-11-23
コロナ下の院内実習中止の中で救急救命士資格維持のための再研修の工夫	鮎川勝彦、松元宗一郎、藪内俊宜、他		
当院での院内救急救命士の処置拡大に関する報告	山田哲久、名取良弘、香月洋紀、他		
特異的な画像所見から診断に至った、脳室炎を伴う侵襲性クレブシエラ感染症の一例。	澤邊太郎、片桐 欧、佐住洋祐、他		

集中治療科

表題名	発表者名	学会名	開催日
CPC～何が起きていたのか？最終病理診断からのメッセージ～AIDS発症後、低体温、急性肝腎障害をきたした31歳の男性	吉野俊平、桑野公輔	第118回日本内科学会総会・講演会	2021-4-9～ 2021-4-11

呼吸器腫瘍内科

表題名	発表者名	学会名	開催日
当院看護師へのがん薬物療法における曝露対策についての質問紙調査の結果	野田万里子、海老規之	第18回日本臨床腫瘍学会学術集会	2021-2-18～ 2021-2-21
免疫チェックポイント阻害薬使用患者の電話相談時のトリアージフローの活用	横溝千登勢、海老規之		
オシメルチニブによるうっ血性心不全 Conjestic heart failure caused by osimertinib	海老規之		
局所進行非小細胞肺癌根治的の化学放射線療法後Durvalumab治療完遂症例の検討	海老規之、坂部光邦、末安巧人、他	第61回日本呼吸器学会学術講演会	2021-4-23～ 2021-4-25

中央検査部

表題名	発表者名	学会名	開催日
組織型推定に苦慮した粘表皮癌(Mucoepidermoid Carcinoma)の1例	吉田健登、秋永理恵、井上佳奈子、他	第70回日本医学検査学会	2021-5-15～ 2021-6-14
病理検査のリスク管理－検体受取から受付までを中心に－	井上佳奈子、吉田健登、中島慶子、他		
検体検査目線からいた検査インシデントの分析と対策 その効果や評価について	樋口絢子、金谷直哉、山中宏晃、他		
ISO15189における内部監査の力量評価と質向上への取り組み	犬丸絵美、上原俊貴、浦園真司、他		

リハビリテーション部

表題名	発表者名	学会名	開催日
急性大動脈解離StanfordA開胸術後患者の早期離床が日常生活動作能力の回復に与える影響	大西悠太郎、横手 翼、奥野将太、他	第30回福岡県理学療法士学会	2021-2-14
慢性脳卒中患者にボツリヌス療法を継続的に 行い屋内裸足歩行自立に至った1症例	川満謙太、奥野将太、山下智弘	第58回日本リハビリテーション医学会	2021-6-10～ 2021-6-13
慢性脳卒中患者に対して継続したボツリヌス療法により介助量軽減に至った1症例	川満謙太、奥野将太、山下智弘		
急性大動脈解離Stanford A型開胸術後患者の歩行開始までの日数が日常生活動作能力の回復に与える影響	大西悠太郎、横手 翼、奥野将太、他	第5回日本循環器理学療法学会 学術大会	2021-8-28
前方アプローチによる寛骨臼移動術後患者の術後6ヶ月の推移	阿比留はるか、澤田優樹、佐藤光倫、他	第9回日本運動器理学療法学会 学術大会	2021-9-11～ 2021-9-12
長期間のステロイド使用歴がある全身性エリテマトーデス患者の膝蓋腱断裂に対する理学療法介入-定期的なエコーガイド下での観察により有害事象を予防できた一例-	大西悠太郎、澤田優樹、奥野将太、他	第9回日本運動器理学療法学会 学術集会	2021-9-12～ 2021-9-13
破傷風により重度の嚥下障害が持続した一例	松永未来、本村大輔、栗田芳宏、他	第5回日本リハビリテーション医学会秋季学術大会	2021-11-12～ 2021-11-14
慢性脳卒中患者におけるボトックス治療後の効果～マーカーレス動作解析装置を用いた効果検証～	川満謙太、山下智弘、奥野将太		
重症COVID-19患者に対するリハビリテーション栄養ケアプロセスの効果	白土健吾、古野祐司、金丸小梢、他		
身体機能改善目的に低強度運動療法を行った重症COVID-19の一例	山下 丞、白土健吾、奥野将太、他		
ステロイドパルス療法後に遷延した嚥下障害に、間接嚥下訓練の継続で経口摂取に至った多発脳神経炎の一例	金丸 遥、井上浩子、前田知美、他		
急性期高齢者心不全に対するAWGS2019の有効性について	小菌 楓、白土健吾、山下智弘		
術後脳梗塞と気管切開により嚥下機能低下を呈し、長期間接嚥下訓練によって経口摂取を獲得した一例	小菌秀太、本村大輔、山下智弘		

薬剤部

表題名	発表者名	学会名	開催日
睡眠薬に関する介入研究とせん妄ハイリスク加算への対応	進 健司	第7回日本医薬品安全性学会学術大会	2021-7-24～ 2021-7-25
統合失調症患者への関わり ～エキスパートによる症例検討を通じて～	進 健司	第5回日本精神薬学会総会学術集会	2021-8-20～ 2021-8-31

中央放射線部

表題名	発表者名	学会名	開催日
当院でのCOVID-19対応について	堀尾浩一	福岡県診療放射線技師会筑豊地区学術研修会	2021-5-14
飯塚病院でのポータブル検査における感染対策について	下清水 陸	第1回福岡県診療放射線技師会生涯学習セミナー	2021-5-29

臨床工学部

表題名	発表者名	学会名	開催日
超音波内視鏡関連手技と胆膵系関連手技に関わる臨床工学技士の業務について	田村慎一、金城依子、徹島孝俊、他	第31回日本臨床工学会	2021-5-22～ 2021-5-23
内視鏡室でのチーム医療 ～感染管理の視点から～	田村慎一、赤星和也、川畑浩子、他	第79回九州消化器内視鏡技師研究会	2021-6-12
内視鏡洗浄機における消毒剤交換時期の検討	吉田大亮、阿部裕也、指原伶一、他	第28回福岡県臨床工学会	2021-6-20
高気圧酸素治療装置屋外排気配管周辺の酸素濃度分布の測定および安全範囲の検討	高中七海、井桁洋貴、小野清恒	第21回九州高気圧環境医学会	2021-7-3
当院における危機的状況への対応	清水重光	第5回日本集中治療医学会九州支部学術集会	2021-7-24

医療安全推進室

表題名	発表者名	学会名	開催日
病棟ラウンドによる転倒・転落事故低減の取り組み	木村美香、新鹿深夏、福村文雄	第19回日本医療マネジメント学会九州・山口連合大会	2021-11-20～ 2021-11-21

看護部

表題名	発表者名	学会名	開催日
PICS-Fのケアの現状と課題～PICS-Fを予防するために現場で出来ること～	藤岡智恵、野副桃恵、川上真希子、他	第48回日本集中治療医学会	2021-2-13
「看護ナビコンテンツ」プロジェクトメンバーの活動～現場教育の品質管理～	佐野美和子、梶原優子	第5回日本臨床知識学会	2021-2-13
外来における看護介入の必要度の高い患者への支援～外来患者への看護ナビコンテンツの活用～	渡辺由香利、緒方博美		
「看護ナビコンテンツ」の品質管理～プロジェクトメンバーの院内活動～	佐野美和子、梶原優子		
外来における看護介入の必要度の高い患者への支援～外来患者への看護ナビコンテンツの活用～	渡辺由香利、緒方博美	第5回日本臨床知識学会学術集会	2021-2-13
看護師のためのリフレクション教育を推進する語り合い～いかに経験から学ぶ力を育むか～	岡佳子、和田麻美	第25回日本看護管理学会学術集会	2021-8-28～ 2021-8-29
慢性疼痛により自己コントロール感が失われ苦悩する糖尿病患者への支援	岡佳子	第15回日本慢性看護学会学術集会	2021-8-28～ 2021-9-17
交流集会2 「孤独じゃない！糖尿病をもつ男性のセクシュアリティの看護の悩みとはじめの一歩」	岡佳子、岩橋淑恵	第26回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	2021-9-18～ 2021-9-19
委員会企画 「看護支援のエッセンスとリサーチエッションについて 考えてみませんか～高齢糖尿病患者の事例報告から事例研究への繋げ方～」	岡佳子		
飯塚病院NICUにおける感染対策	山下真奈美		
コロナ禍におけるトリアージの課題とその対応	吉川英里	第23回日本救急看護学会学術集会	2021-10-22～ 2021-10-23
総合診療科外来における「糖尿病と共に生きる人」への看護支援	宮西博子、岡佳子、渡辺由香利	第59回日本糖尿病学会学術集会九州地方会	2021-11-19～ 2021-11-20
1型糖尿病を発症した知的障害を抱える患者の「その人らしさ」を大切にしたい支援	川口まどか、岡佳子、西本美香	第59回日本糖尿病学会学術集会九州地方会	2021-11-19
重症度、医療・看護必要度の未入力への外発的動機づけとなる取り組み	初井 雅、木場美沙季、西田 栞	第19回日本医療マネジメント学会第19回九州・山口連合大会	2021-11-20～ 2021-11-21
A病院糖尿病専門病棟における糖尿病教室運用システムの構築	大和久絵梨、廣澤純子		

経営管理部

表題名	発表者名	学会名	開催日
病棟配属医療事務者によるRobotic Process Automation（以下RPA）導入による業務時間削減	児玉礼好	第22回日本医療マネジメント学会	2021-10-6～ 2021-10-7
病棟医療物品管理の見直し～病棟配属医療事務者の視点から～	高野さつき、佐野美和子、山本百恵	第19回日本医療マネジメント学会 九州・山口連合大会	2021-11-20～ 2021-11-21
病棟配属医療事務未経験者に対する標準化教育への取り組み	中尾麻美、高野さつき		

改善推進本部

表題名	発表者名	学会名	開催日
Everyday Kaizen（EK）活動による改善人材育成と環境づくり	立石奈々	第19回日本医療マネジメント学会九州・山口連合大会	2021-11-20～ 2021-11-21

臨床心理室

表題名	発表者名	学会名	開催日
『覚悟した死』の延期によりスピリチュアルペインの増強とせん妄を呈した患者を多職種協働で支えた一例	仲吉美沙子、堤一樹、石上雄一郎、他	第34回日本サイコオンコロジー学会総会	2021-9-18～ 2021-9-19
赤ちゃんを失うこと出会うことへの支援を考える	竹下明子	第4回日本周産期精神保健研究会	2021-10-30～ 2021-11-18
COVID-19 対応病院における職員への院内メンタルサポートの取り組み	松尾純子、猪狩圭介、木附康、他	第34回日本総合病院精神医学会	2021-11-19～ 2021-11-20

内視鏡センター

表題名	発表者名	学会名	開催日
ワークショップ2 膈・消化管領域における診断的EUSとEUS-FNAの現状と展望”飯塚病院におけるEUS画像で低エコー腫瘍を呈する胃粘膜下腫瘍に対するEUS-FNAのエビデンス”	赤星和也、大石善丈、古賀聡、他	第117回日本消化器病学会九州支部例会	2021-6-11～ 2021-6-12
COVID-19パンデミック下の人間ドック上部消化管内視鏡検査における新しい感染防止デバイスをを用いた感染対策	赤星和也	第62回日本人間ドック学会学術大会	2021-9-10～ 2021-9-24
当院内視鏡センターにおける多職種連携チーム医療によるCOVID-19感染対策の取り組み	中島久美子、田村慎一、赤星和也	JDDW2021	2021-11-4～ 2021-11-7
EUS上低エコー腫瘍を呈する食道粘膜下腫瘍に対するEUS-FNA診断	赤星和也、大石善丈、古賀聡、他		
”シンポジウム3 コロナ時代の消化器病診療：現状と工夫”当院の上部消化器内視鏡診療における感染対策の現状と新しいデバイスの開発	赤星和也、田村慎一、赤星和明、他	第112回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	2021-12-3～ 2021-12-4

3. 講演

肝臓内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
EOB-MRI Iso-High 症例におけるレンパチニブ使用経験	栗野哲史	HCC-Expert Meeting	2021-4-28
EOB-MRI Iso-High 症例におけるレンパチニブ使用経験	栗野哲史	Lenvima HCC セミナー	2021-10-29
地方基幹病院での HCV 治療と治療後発癌の現状、院内掘り起こしの取り組み	矢田雅佳	第25回日本肝臓学会大会	2021-11-4～ 2021-11-7

呼吸器内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
嚔下評価と COPD 増悪予測	吉松由貴	AstraZeneca Respiratory Meeting	2021-1-21
エナジアの症例報告	末安巧人	筑豊しん・こきゅうセミナー	2021-3-11
嚔下評価と COPD 増悪予測	吉松由貴	九州・沖縄 呼吸器疾患 On-Line Seminar	2021-4-15
喘息診療 Up to date	飛野和則	喘息診療パートナーリングの会 in 筑豊	2021-5-14
A C O の最近の話題	飛野和則	第40回九州臨床画像解析研究会	2021-5-22
喘息治療におけるトリプル療法への期待	飛野和則	テリルジーWeb講演会	2021-5-25
当科における PF-ILD 診療の現状と今後の展望	靄野広介	飯塚ILD Web Academy	2021-5-28
当院における肺癌診療 irAE を中心に	飛野和則	第192回北九州呼吸器懇話会	2021-6-3
喘息治療における LAMA 追加の意義について	飛野和則	吸入支援N-Seminar	2021-6-8
喘息治療におけるトリプル療法への期待	飛野和則	テリルジー喘息適応追加記念講演会 in 飯塚	2021-6-16
日常診療における間質性肺疾患診療	靄野広介	飯塚呼吸器疾患病診連携セミナー	2021-6-29
コロナ禍の COPD 治療と嚔下評価	吉松由貴		
誤嚔性肺炎の主治医力	吉松由貴	第4回横浜呼吸器疾患研究会	2021-7-20
吸入を続けられないときの、原因と対策	吉松由貴	飯塚呼吸器カンファレンス	2021-7-29
実臨床でのトリプル治療の出番～ Single Inhaler Triple Therapy を使いこなす時代にむけて～	飛野和則	テリルジーWeb講演会	2021-8-3
患者さんにあったステップアップ・ダウン治療とは？	飛野和則	喘息治療N-Seminar	2021-9-3
飯塚病院における肺癌診療	飛野和則	小野薬品工業株式会社社内研修会	2021-9-8
呼吸器科医が診る誤嚔性肺炎	吉松由貴	第25回日本気胸・嚔胞性肺疾患学会総会	2021-9-17～ 2021-9-18
のう胞肺疾患の画像診断	飛野和則		
飯塚病院における重症喘息診療について	飛野和則	Asthma Expert Meeting	2021-10-20
COVID-19：重症例の治療と血栓症対策	飛野和則	第44回筑豊感染症懇話会	2021-10-21
肺がん免疫化学療法について	飛野和則	直方鞍手医師会学術講演会	2021-10-25
重症喘息の治療戦略について	飛野和則	G S K 重症喘息Webセミナー	2021-10-28
チームで考え、地域で支える 誤嚔性肺炎の診療	吉松由貴	第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会	2021-11-12
当院における重症喘息診療	飛野和則	第41回九州臨床画像解析研究会	2021-11-13
COPD 診療におけるトリプル治療の役割	飛野和則	大牟田呼吸器疾患勉強会	2021-11-17
誤嚔性肺炎の主治医力	吉松由貴	取手呼吸器勉強会	2021-12-3
市中病院における進行性線維化を伴う間質性肺疾患 (PF-ILD) 診療	飛野和則	オフエブWeb講演会 大牟田間質性肺疾患医療連携セミナー	2021-12-15

内分泌・糖尿病内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
糖尿病治療薬の最新の話	井上智彰	第292回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術講演会	2021-7-20
内臓脂肪蓄積・インスリン抵抗性に対するピリルピンの効果	井上智彰	第22回実地医家のための糖尿病セミナー	2021-11-26
インスリンノーマ疑いの対応法の検討	舩津美奈	Endocrinology&Metabolism Conference in Fukuoka 2021	2021-12-18

消化器内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
当科におけるオニバイド療法の使用状況	宜保淳也	株式会社ヤクルト本社社外講師	2021-2-19

血液内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
悪性リンパ腫の診断および治療について	白土基明	福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術講演会	2021-7-14
症例から学ぶガザイバの有効性と安全性	白土基明	ガザイバWEB seminar in Kyushu	2021-11-17

心療内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
うつ病治療について	木附 康	第289回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術講演会	2021-5-13

総合診療科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
Influenza and its' mimickers	清田雅智	白河総合診療アカデミーwebinar	2021-1-23
LGBTから考えるSDH～明日の診療から始めるアドボカシー活動～	金 弘子	第16回若手医師のための家庭医療学冬期セミナー	2021-2-6～ 2021-2-7
患者中心のオンライン診療をはじめよう	吉田 伸		
後輩ができた時に役立つフィードバックの知識 (WEB開催)	小杉俊介	RaTsワークショップ	2021-2-20
第1回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-2-22
日本におけるチーフレジデントの役割と展望	小杉俊介	第3回全国チーフレジデント会議	2021-2-27
集まれ！全国の次期チーフレジデント！	長谷川雄一		
初期研修医・後期研修医になったらやるべきこと	清田雅智	堺市立総合医療センター webinar	2021-3-8
ケースカンファランス コメンテーター	清田雅智	飯塚病院 岡山大学病院 総合診療 クロスカンファランス webinar	2021-3-13
第2回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス CAP	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-3-15
アドバンス・ケア・プランニングについて	吉田 伸	福岡県介護福祉連絡会飯塚支部セミナー	2021-3-20
総合診療医の未来	吉田 伸	日本専門医機構総合診療専門医検討委員会専攻医指導医支援部会 専攻医オリエンテーションセミナー	2021-4-25

表題名	発表者名	講演会名	開催日
貧血のみかた：Robert Hilmanに敬意を表して	清田雅智	Antaa Webinar	2021-4-28
第4回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス SBO	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-5-10
Fever with lymphoid hyperplasia	清田雅智	亀田総合病院 リウマチ・膠原病・アレルギー内科 webinar	2021-5-17
2021年度 第1回 臨床推論総論	清田雅智	産業医科大学 救急医学大学院 講義	2021-5-21
第5回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス Bruns nystagmus	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-5-24
Hepcidinと鉄欠乏性貧血	清田雅智	Geriatric Clinical Forum 2021	2021-5-28
Fever of Unknown Origin	清田雅智	白河総合診療アカデミー webinar	2021-6-12
第6回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス Gastrinoma	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-6-14
GIM 新しい時代の担い手	清田雅智	横浜市立大学 6年次生 総合診療医学 web 講義	2021-7-2
Copeの教え 偉大な先人から学ぶ Cope's early diagnosis of acute abdomen	清田雅智	板橋中央総合病院 Meet the Expert Webinar	2021-7-9
第7回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス MSSA cellulitis and septic arthritis	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-7-12
電子カルテを自病院で開発・運営すること	清田雅智	第2回 ASUISHI/CQSO ハブセンター研究会	2021-7-17
GIMとして関わる膠原病診療のサポート	清田雅智	第1回 GIMxRheumatology seminar webinar	2021-7-28
在宅緩和ケアについて	吉田 伸	大分大学医学部2年生講義	2021-7-28
2021年度 第2回 臨床推論各論 megaloblastic anemia	清田雅智	産業医科大学 救急医学大学院 講義	2021-7-30
当院における総合診療科×整形外科の大腿骨近位部骨折術後の連携について	松永 諭	健康寿命延伸Webセミナー～CKDと寝たきり予防を考える～	2021-8-5
やってみよう！オンライン診療	吉田 伸	第33回学生・研修医のための家庭医療学夏期セミナー	2021-8-7～ 2021-8-9
瞬察2-10	清田雅智	適々齋塾 Webinar	2021-8-8
瞬察2-5	小杉俊介		
第8回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス Chronic seronegative arthritis	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-8-16
臨床感染症 COVID-19ワクチン	清田雅智	宮崎大学3年次生 微生物学 web 講義	2021-9-3
2021年度 第3回 臨床推論各論 Hyperammonemia 意識障害におけるアンモニアの意義	清田雅智	産業医科大学 救急医学大学院 講義	2021-9-17
プライマリ・ケア医のためのLGBTケア実践講座	金 弘子	第18回秋季生涯教育セミナー	2021-9-19～ 2021-9-20
Kehr's sign: referred left shoulder pain Philologyについて	清田雅智	板橋中央総合病院 Meet the Expert Webinar	2021-9-24
第9回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス Bradycardia hypotension	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-9-27
第10回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス Aortic dissection	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-10-11
クリニカルイナーシャをどのように克服するか -エンレストを高血圧治療にどのように役立てるか-	北野峻介	高血圧 Nationaol Symposium	2021-10-21
オンデマンド webinar 学び方のコツ	小杉俊介	Educational Webinar ～ with コロナの学び方、with コロナの考え方～	2021-10-26
第11回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカンファランス Internal hernia	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-11-1
2021年度 第4回 臨床推論各論 Mycoplasma as great mimicker	清田雅智	産業医科大学 救急医学大学院 講義	2021-11-19
いまさら聞けない浮腫の診療	清田雅智	第10回かかりつけ医のための実践道場	2021-11-22

表題名	発表者名	講演会名	開催日
Generalistが知っておくべき希少疾患 VEXAS, Schnitzler's syndrome, PAAND	清田雅智	湘南鎌倉徳洲会病院 webinar	2021-11-27
第12回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカン ファランス acute appendicitis	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-11-29
日本のプライマリ・ケアについて	吉田 伸	医師薬 Co Creation 定例セミナー	2021-12-6
高山の圧痛点 膵臓の身体所見	清田雅智	Fujia Primary Care Skills vol.34 webinar	2021-12-18
第13回 福岡日赤病院総合診療科 ケースカン ファランス acute pharyngitis	清田雅智	福岡赤十字病院 webinar	2021-12-20
コメンテーター	清田雅智	第13回九州臨床感染症セミナー	2021-12-24～ 2022-1-31

膠原病・リウマチ内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
csDMARDsによる関節リウマチ治療	内野愛弓	関節リウマチ治療を考える Internet Live Seminar	2021-5-26
膠原病合併間質性肺疾患～CTD-ILDの新しい 治療～	内野愛弓	飯塚ILD Web Academy	2021-5-28
当科関節リウマチ治療におけるJAK阻害剤投 与状況とその位置づけ	内野愛弓	筑豊リンヴォック適正使用講 演会	2021-6-15
MTX-LPDを発症した関節リウマチ患者の治 療経過および活動性推移に関する検討	右田利央子	第5回IL-6から考えるリウマチ 性疾患セミナー	2021-7-7
関節リウマチの病態と治療	東岡和彦	飯塚病院 関節リウマチ診療 検討会	2021-7-9
関節リウマチ治療の進め方・選び方～基本の おさらい～	内野愛弓	筑豊RAメディカルスタッフセミ ナー	2021-8-26
CTD-ILDの診断と治療ー早期治療に向けてー	内野愛弓	筑豊病診連携CTD-ILDセミナー	2021-9-14
膠原病に潜む肺高血圧症	内野愛弓	直方鞍手医師会学術講演会	2021-9-28
リウマチ診療におけるゴリムマップの活かし方 ～ライフスタイル・疾患活動性を考慮して～	内野愛弓	RA Web Seminar In West Japan	2021-11-30
患者と取り組むSLE治療～Shared decision- making～	内野愛弓	九州SLEセミナー 2021	2021-12-21

連携医療・緩和ケア科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
なぜ心不全緩和ケアチームはうまくいかない のか	大森崇史	第2回 Cardiovascular Expert Meeting	2021-1-20
心不全緩和ケアの実践について	大森崇史	HOMIE Web conference	2021-2-18
緩和医療で役立つ心身医学	柏木秀行	第72回飯塚緩和医療勉強会	2021-2-26
ACP実践編 ～患者の価値観を探るコミュニ ケーション～	柏木秀行	人生会議を实践しよう	2021-3-12
心不全緩和ケアの夢を語ろう！	柏木秀行	心不全治療 地域医療連携セ ミナー	2021-4-14
急性期医療におけるACPの実践	柏木秀行	アドバンス・ケア・プランニ ングWebセミナー	2021-5-21
プライマリ・ケアでの医療の質・患者安全向 上のための患者協働促進ツールの活用	柏木秀行	第12回日本プライマリ・ケア 連合学会学術大会	2021-5-21～ 2021-5-23
家庭医・総合診療医の緩和ケア キャリア・ パスはあるのか？	柏木秀行		
心不全緩和ケアとアドバンスケアプランニング	柏木秀行	第4回心不全地域医療連携カン ファレンス	2021-6-9
呼吸困難に対する酸素療法 update	石上雄一郎	第26回日本緩和医療学会学術 大会	2021-6-18～ 2021-6-19
循環器疾患に関する緩和ケアの提言を紐解く	大森崇史	佐賀緩和ケア研究会	2021-7-31

表題名	発表者名	講演会名	開催日
令和3年度大分大学医学部医学科3年次生講義	柏木秀行	総合内科学/総合外科学/地域医療学講義	2021-8-3
心不全の緩和ケア ～日本循環器学会の提言のポイントを紐解く～	大森崇史	第16回福島県緩和医療研究会	2021-8-7
明日からできる！心不全の緩和ケア	大森崇史	第3回山口県緩和ケアチーム研修会	2021-8-21
シン・心不全緩和ケア	大森崇史	第28回宇部市地域緩和ケア研究会	2021-9-4
緩和ケアのパラダイムシフト	柏木秀行	QOLサポート Web Seminar	2021-10-25
Death by Neurologic Criteria	石上雄一郎	第8回 Multiprofessional Critical Care Board Review Course in JAPAN	2021-11-3～ 2021-11-7
質の高い緩和ケアにおける合意	柏木秀行	第14回アジア太平洋ホスピス緩和ケア会議	2021-11-13～ 2021-11-14
パネルディスカッション	中山隆弘、柏木秀行	がん疼痛 Expert Meeting in 北九州	2021-11-18
緩和ケアに関わる放射線治療 基本のキ	柏木秀行	第74回飯塚緩和医療勉強会	2021-11-29
心不全緩和ケアの取り組みと現状の課題	柏木秀行	地域医療ネットワーク	2021-11-30
訪問リハビリテーションにおけるフィジカルアセスメント	柏木秀行	福岡県訪問リハビリテーション実務者研修会	2021-12-6
心不全緩和ケアのACPと実践	大森崇史	MIYAGI NEXT HF NETWORK	2021-12-23

循環器内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
心不全診療における心房細動制御の意義	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、山川 礼、溝上功明、小宮圭一郎、北原賢一、山本優太	循環器 UP TO DATE WEBセミナー	2021-1-20
不整脈薬物治療ガイドライン改訂とアブレーション治療の進歩について	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	CareNet Web講演会	2021-1-26
洞結節近傍の心房頻拍治療にEnSite LiveView Dynamic Displayが有用だった一例	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	Kyushu Ablation Therapeutics and EP Technique mEeting	2021-4-19
洞結節希望の心房頻拍治療にEnsite LiveView Dynamic Displayが有用だった一例	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	Kyushu Ablation Therapeutics and EP Technique mEeting	2021-4-22
当院でのイバブラジンの使用症例について	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	心不全セミナー in 筑豊	2021-5-21
心不全診療アップデート2021	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	第290回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術講演会	2021-6-21

表題名	発表者名	講演会名	開催日
心アミロイドーシスガイドライン	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	循環器UP TO DATE WEBセミナー	2021-6-29
心不全診療ガイドラインの改訂と新規抗心不全薬ARNIについて	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	腎移植に関するWEB講演会	2021-9-14
腎機能障害を有する心房細動患者の抗凝固療法	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	Iizuka Expert Meeting on Cardiology	2021-9-29
2021年心不全診療ガイドライン改訂と新規抗心不全治療薬への期待	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	飯塚地区CRA講演会	2021-10-12
高齢心不全と再入院予防	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	飯塚医師会学術講演会	2021-11-18
心房細動合併の冠動脈疾患に対する抗血栓療法	井上修二郎、稲永慶太、川上将司、高原勇介、本田修浩、大賀泰寛、石川智一、古川正一郎、児島啓介、諫山孔一、樗木祥子、溝上功明、山川 礼、山本優太、小宮圭一郎、北原賢一	飯塚医師会学術講演会	2021-12-13

脳神経内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
脳卒中後におけるてんかんの診断と薬物治療の実際について	高瀬敏一郎	エーザイ社内研修会	2021-2-1
脳卒中後てんかんの診断と治療	高瀬敏一郎	てんかんWebセミナー in 九州	2021-2-9
視神経脊髄炎関連疾患の病態と治療戦略	篠田紘司	中外製薬社内講演会	2021-8-5
当科におけるサフィナミド使用経験	高瀬敏一郎	サフィナミドPremium Digital Seminar	2021-9-6
First line therapyとしてテクフィデラを導入した多発性硬化症の典型的な一例	篠田紘司	TECFIDERA MULTIPLE SCLEROSIS FORUM	2021-10-2
有効性と安全性を考慮して、グラチラマー酢酸塩からテクフィデラへの切り替えを検討している35歳女性の多発性硬化症の一例	篠田紘司	北九州多発性硬化症講演会	2021-10-8
脳卒中後てんかんの診断と治療	高瀬敏一郎	Brain diseases experts web seminar in 福岡	2021-11-4
多発性硬化症におけるB細胞除去療法	篠田紘司	Novartis MS Symposium	2021-12-17
First-line therapyとしてケシンプタを導入した多発性硬化症の一例	篠田紘司	MS Online Clinical Conference in 九州中四国	2021-12-21

腎臓内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
「CKDと腎性貧血」	藤崎毅一郎	直方鞍手医師会学術講演会	2021-3-29

漢方診療科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
症例から学ぶ漢方の実際	後藤雄輔、田原英一	第266回筑豊漢方研究会	2021-1-14
女性と漢方	田原英一		
免疫力を上げるための漢方治療	田原英一	休職中や職場復帰計画中の女性薬剤師のためのセミナー	2021-1-17
痛みと瘀血（おけつ）～疎経活血湯と治打撲一方～	吉永 亮	第4回漢方ベースキャンプ オンラインセミナー	2021-1-19
『傷寒論演習』解説 33	田原英一	第245回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-1-21
症例から学ぶ漢方治療の実際	矢野博美、田原英一		
風邪の漢方	吉永 亮	第3回おおい漢方ベースキャンプ	2021-1-26
消化器疾患の漢方～下痢・便秘～	田原英一	第29回産業医科大学漢方医学セミナー	2021-1-27
総合診療に生きる -おなかに漢方-	吉永 亮	第2回いしかわ漢方ベースキャンプ	2021-2-4
日本で傷寒論の順が太陽、少陽、陽明となった理由の一考察	田原英一	第2回日本東洋医学会 沖縄県部会	2021-2-7
海の漢方、山の漢方-プライマリ・ケアにこそ漢方-	吉永 亮	General Practice 漢方セミナー in 上越	2021-2-17
漢方の定石と次の一手～痛み（腰痛、膝関節痛）～	田原英一	漢方スキルアップセミナー	2021-2-17
婦人科疾患の漢方治療～駆瘀血剤、大黃剤の活用～	井上博喜	第58回鹿児島漢方学術懇話会	2021-2-17
症例から学ぶ漢方治療の実際	牧 俊允、田原英一	第246回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-2-18
『傷寒論演習』解説 34	田原英一		
在宅・老人施設で役立つ漢方 ～フレイル・NST・BPSD～	井上博喜	上益城郡医師会学術講演会	2021-2-26
明日から実践 痛みの漢方治療	吉永 亮	岐阜漢方Webセミナー【ステップアップ編】	2021-2-28
痛みと漢方-疎経活血湯と治打撲一方-	吉永 亮	第4回おおい漢方ベースキャンプ	2021-3-2
四物湯が情動に与える意義	田原英一	第425回和漢研セミナー	2021-3-2
総合診療に生きる -風邪に対する漢方の考え方・使い方-	吉永 亮	第3回いしかわ漢方ベースキャンプ	2021-3-4
不眠の漢方治療	田原英一	第4回日本東洋医学会 福岡県部会	2021-3-6
症例検討	井上博喜		
症例から学ぶ漢方の実際	吉永 亮、田原英一	第267回筑豊漢方研究会	2021-3-11
泌尿器領域における漢方治療	後藤雄輔		
症例問題2	井上博喜	2021 九州漢方学舎 WEB フォローアップセミナー	2021-3-13
症例の解き方、症例問題1	田原英一		
メジャー漢方薬 ～海の漢方、山の漢方～	吉永 亮	第1回阿波Kampoチャンネル 治療の次の一手を知るための漢方薬活用Practice	2021-3-13
症例問題3	矢野博美	2021 九州漢方学舎 WEB フォローアップセミナー	2021-3-13
『傷寒論演習』解説 35	田原英一	第247回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-3-18
症例から学ぶ漢方治療の実際	井上博喜、田原英一		
漢方の定石と次の一手～ストレス性疾患について～	田原英一	漢方スキルアップセミナー	2021-4-7
海の漢方・山の漢方	吉永 亮	漢方ステップアップWEBセミナー	2021-4-8

表題名	発表者名	講演会名	開催日
臨床漢方医学総論	田原英一	第1回第一薬科大学漢方薬学科 臨床漢方治療学	2021-4-9
「漢方薬学概論」2021/漢方治療の概要	田原英一	福岡大学 薬学部講義（医学部4年）	2021-4-14
『傷寒論演習』解説 36	田原英一	第248回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-4-15
症例から学ぶ漢方治療の実際	吉永 亮、田原英一		
六病位	井上博喜	第2回第一薬科大学漢方薬学科 臨床漢方治療学	2021-4-16
こじれた風邪・微熱・倦怠感 -漢方治療を切り札に-	吉永 亮	若手医師のためのKAMPOセミナー	2021-4-21
気・血・水	吉永 亮	第3回第一薬科大学漢方薬学科 臨床漢方治療学	2021-4-23
漢方の診断法と処方運用Ⅰ（太陽病）	牧 俊允、田原英一、矢野博美、井上博喜、吉永 亮	筑豊漢方基礎講座2021	2021-4-24～ 2021-4-25
漢方の診断法と処方運用Ⅳ（陰証①）、漢方の診断法と処方運用Ⅳ（陰証②）	井上博喜、田原英一、矢野博美、吉永 亮、牧 俊允		
漢方の診断法と処方運用Ⅲ（陽明病）、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（水）	吉永 亮、田原英一、矢野博美、井上博喜、牧 俊允		
漢方の診断法と処方運用Ⅱ（少陽病）、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（血）	矢野博美、田原英一、井上博喜、吉永 亮、牧 俊允		
漢方医学概論、漢方の診断法と処方運用Ⅴ（気）、症例検討・質疑応答	田原英一、矢野博美、井上博喜、吉永 亮、牧 俊允		
四診	井上博喜	第4回第一薬科大学漢方薬学科 臨床漢方治療学	2021-4-30
痛みと瘀血 -疎経活血湯と治打撲一方-	吉永 亮	第4回いしかわ漢方ベースキャンプ	2021-5-6
基本処方①	井上博喜	第5回第一薬科大学漢方薬学科 臨床漢方治療学	2021-5-7
ストレス関連疾患	井上博喜	第268回筑豊漢方研究会	2021-5-13
症例から学ぶ漢方の実際	牧 俊允、田原英一		
基本処方②	矢野博美	第6回第一薬科大学漢方薬学科 臨床漢方治療学	2021-5-14
番外編-症例から学ぶ漢方治療の実際-	吉永 亮	おおいた漢方ベースキャンプ	2021-5-18
概論・気血 補剤の使い方 「気虚」	井上博喜	第1回ファーストステップ KAMPO WEBセミナー	2021-5-19
『傷寒論演習』解説 37	田原英一	第249回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-5-20
症例から学ぶ漢方治療の実際	矢野博美、田原英一		
副作用・服薬上の注意	吉永 亮	第7回第一薬科大学漢方薬学科 臨床漢方治療学	2021-5-21
「漢方薬学概論」2021/六病位と漢方治療-陽証-	井上博喜	福岡大学 薬学部講義（医学部4年）	2021-5-26
エキス剤の基本と応用	矢野博美	第8回第一薬科大学漢方薬学科 臨床漢方治療学	2021-5-28
頭痛のみかた～漢方治療からのアプローチ～	吉永 亮	第2回阿波Kampoチャンネル 治療の次の一手を知るための漢方薬活用Practice	2021-5-29
飯塚病院 学会報告ベストセレクション～最近の治験・知見・事件！～	田原英一	第16回実践東洋医学講座	2021-5-30
漢方診の実際から	田原英一	産業医科大学医学部 医学概論Ⅲ（医学部3年）	2021-6-1
総論	田原英一	福岡県立大学 東洋医学概論	2021-6-2
「漢方薬学概論」2021/六病位と漢方治療-陰証-	井上博喜	福岡大学 薬学部講義（医学部4年）	2021-6-2
プライマリ・ケア漢方-地域医療に活かすコツ-	吉永 亮	第1回ばたやま漢方ベースキャンプ	2021-6-2
六病位、太陽病	牧 俊允	福岡県立大学 東洋医学概論	2021-6-9
消化器系疾患	吉永 亮	第269回筑豊漢方研究会	2021-6-10

表題名	発表者名	講演会名	開催日
治療学・処方選択の実際	田原英一	第9回第一薬科大学漢方薬学科臨床漢方治療学	2021-6-11
少陽病、陽明病	矢野博美	福岡県立大学 東洋医学概論	2021-6-16
水毒と漢方治療～地域医療・総合病院での活用～	吉永 亮	第1回九州 Web 漢方セミナー	2021-6-16
症例から学ぶ漢方治療の実際	井上博喜、田原英一	第250回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-6-17
『傷寒論演習』解説 38	田原英一		
食養生・近年の話題	田原英一	第10回第一薬科大学漢方薬学科臨床漢方治療学	2021-6-18
陰証	井上博喜	福岡県立大学 東洋医学概論	2021-6-23
血の失調	井上博喜	福岡県立大学 東洋医学概論	2021-6-30
水の失調	吉永 亮	福岡県立大学 東洋医学概論	2021-7-7
「漢方薬学概論」2021/まとめ 方剤の運用と治療	田原英一	福岡大学 薬学部講義（医学部4年）	2021-7-7
おなかに漢方	吉永 亮	第2回ばたやま漢方ベースキャンプ	2021-7-7
皮膚疾患の漢方治療	田原英一	第270回筑豊漢方研究会	2021-7-8
症例から学ぶ漢方の実際	矢野博美		
気の失調	井上博喜	福岡県立大学 東洋医学概論	2021-7-14
概論・気血 補剤の使い方「血・水」	井上博喜	第2回ファーストステップ KAMPO WEBセミナー	2021-7-14
『傷寒論演習』解説 39	田原英一	第251回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-7-15
診察と診断のまとめ	田原英一	福岡県立大学 東洋医学概論	2021-7-21
漢方を学ぶ・漢方を活かすー地域医療の現場からー	吉永 亮	第53回日本医学教育学会大会スポンサーセミナー	2021-7-31
ジェネラリスト・漢方ー総合診療と漢方の連携ー	吉永 亮	第1回九州大学漢方教育・診療研究会 漢方医学オンラインセミナー	2021-8-31
風邪に対する漢方の考え方・使い方	吉永 亮	第3回ばたやま漢方ベースキャンプ	2021-9-1
リスク管理計画（RMP）と漢方製剤	田原英一	第38回和漢医薬学会学術大会	2021-9-4～ 2021-9-5
症例から学ぶ漢方の実際	牧 俊允	第271回筑豊漢方研究会	2021-9-9
症例から学ぶ処方決定までの考え方	矢野博美		
概論・気血 補剤の使い方「気逆・気鬱」	井上博喜	第3回ファーストステップ KAMPO WEBセミナー	2021-9-11
『傷寒論演習』解説 40	田原英一	第252回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-9-16
漢方調剤における問題とその解決への展望	田原英一	第54回日本薬剤師会学術大会	2021-9-19
難治性疾患に対する和漢食の効果	田原英一		
胸中の灼熱感と倦怠感に梔子乾姜湯加減が奏功した1例	原田直之	第31回漢方治療研究会	2021-9-26
痛みと瘀血ー疎経活血湯と治打撲一方ー	吉永 亮	第4回ばたやま漢方ベースキャンプ	2021-10-6
こころの危機の時代と四物湯の意義	田原英一	第54回日本漢方交流会全国学術総会	2021-10-9～ 2021-10-10
『傷寒論演習』解説 41	田原英一	第253回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-10-12
症例から学ぶ漢方の実際	井上博喜、田原英一		
疼痛疾患	井上博喜	第272回筑豊漢方研究会	2021-10-14
症例から学ぶ漢方の実際	吉永 亮		
ストレス性疾患の漢方治療	田原英一	日本東洋医学会 福島県部会	2021-10-17
明日から実践！痛みの漢方治療	吉永 亮	漢方ステップアップWEBセミナー	2021-10-27
エキス剤の併用～併用の意義とその実際～	田原英一	第28回熊本漢方談話会	2021-10-29

表題名	発表者名	講演会名	開催日
こむら返り（腓腹筋けいれん）に対する漢方治療	吉永 亮	第10回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会	2021-10-31
寒がりですか？体が冷えますか？－陰陽編－	吉永 亮	第1回飯塚漢方入門カンファレンス	2021-11-4
胸中の灼熱感と倦怠感に梔子乾姜湯加減が奏功した1例	原田直之	第25回和漢診療学シンポジウム	2021-11-7
車前子にわいたタバコシバンムシ	矢野博美		
Restless Genital Syndromeが疑われた症例に当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効であった一例	井上博喜		
副腎不全が疑われた著明な全身倦怠感に四逆湯類を中心とした漢方治療が奏効した1例	吉永 亮		
自家製丸薬調剤の製造実態調査報告－技術料の適正化の必要性について－	田原英一		
冷えと痛みの悪循環	矢野博美	第30回日本東洋医学会中四国支部山口県部会学術総会	2021-11-13
睡眠障害に桂枝加竜骨牡蛎湯と酸棗仁湯が有効であった1例 ～Silmee Bar type Liteを用いた検討～	牧 俊允	第46回日本東洋医学会九州支部学術総会	2021-11-14
Restless Genital Syndrome が疑われた症例に当帰四逆加呉茱萸生姜湯が有効であった一例	井上博喜		
副腎不全が疑われた著明な全身倦怠感に四逆湯類を中心とした漢方治療が奏効した1例	吉永 亮		
自家製丸薬調剤の製造実態調査報告－技術料の適正化の必要性－	田原英一		
冷えの漢方治療－common diseaseに活かす－	吉永 亮	第30回産業医科大学漢方医学セミナー	2021-11-17
『傷寒論演習』解説 42	田原英一	第254回麻生飯塚漢方診療研究会	2021-11-18
2型糖尿病患者における八味地黄丸の減量効果の検討	牧 俊允	第59回日本糖尿病学会九州地方会	2021-11-19～ 2021-11-20
下痢の漢方治療	田原英一	第3回富山大学漢方研究会 漢方学術講演会	2021-11-19
概論・気血 補剤の使い方「寒熱・瘀血」	井上博喜	第4回ファーストステップ KAMPO WEBセミナー	2021-11-20
看護に役立つ漢方	吉永 亮	実践漢方看護セミナー	2021-11-27
冷えの漢方治療－common diseaseに活かす－	吉永 亮	立川漢方WEBセミナー	2021-11-30
脈の力とお腹の力－虚実編2－	田原英一	第2回飯塚漢方入門カンファレンス	2021-12-2
症例から学ぶ漢方治療の実際	吉永 亮	ぼたやま漢方ベースキャンプ	2021-12-8
当院の学会報告ベストセレクション～最近の治療、知見、事件!?～	田原英一	第19回現代漢方講座	2021-12-9
海の漢方・山の漢方	吉永 亮	Primary 漢方セミナー	2021-12-15

小児科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
子ども目線で考える楽しく・安全・快適な舌下免疫療法	田中祥一郎	飯塚医師会学術講演会	2021-1-27
児童虐待の現状と地域に求められる役割	田中祥一郎	令和3年度 筑豊ブロック民生委員・児童委員協議会 主任児童委員研修会	2021-11-11
小児科医パパによるはじめてセミナー「子どもの病気・おうちケア」	田中祥一郎	2021年度 飯塚市子育て支援センター合同育児講座	2021-11-27
地域の子育てを応援するためのネットワークづくり	田中祥一郎	令和3年度 みんなで育もう！ふくおかの子ども育成支援フォーラム	2021-12-11

外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
当院におけるHR陽性HER2陰性 転移再発乳癌の治療戦略	武谷憲二	第267回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研究会	2021-3-25
大腸癌の治療ーガイドラインと化学療法！ー	古賀 聡	第297回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術講演会	2021-11-18

産婦人科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
女性アスリートと月経問題	藤 庸子	Kitakyushu young OBGYN seninar	2021-7-8
卵巣がんの薬物療法	辻岡 寛	第293回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会	2021-8-5

整形外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
骨粗鬆症治療に注射って必要？ 骨粗鬆症は果たして病気なのか？	浜崎晶彦	旭化成社内講義	2021-1-18
加齢に伴い骨粗鬆症が存在する体(運動器)のあちこちの疼痛は果たして病気なのか？	浜崎晶彦	飯塚医師会学術講演会	2021-3-10
運動器, 脊椎骨粗鬆症治療におけるロモソズマブの治療経験	浜崎晶彦	アムジェン社内講義	2021-5-27
最新の脊椎骨粗鬆症治療 ロモソズマブの治療経験	浜崎晶彦	飯塚 骨粗鬆症治療フカボリセミナー	2021-7-14
私の骨粗鬆症治療の実際	浜崎晶彦	健康寿命延伸Webセミナー ～CKDと寝たきり予防を考える～	2021-8-5
ひざ(運動器)骨粗鬆症慢性疼痛治療の実際	浜崎晶彦	帝人社内講演会	2021-8-26
重症骨粗鬆症治療に注射って必要？骨粗鬆症は果たして病気なのか？	浜崎晶彦	北九州 骨について語る会 Web セミナー	2021-10-14

リハビリテーション科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
痙縮に対するボツリヌス療法 患者満足度の最大化を目指して	山下智弘	熊本痙縮治療フォーラム	2021-6-16
上肢下肢痙縮に対するボツリヌス療法 治療戦略(案)	山下智弘	痙縮治療フォーラム in 九州・沖縄公演	2021-9-8
痙縮に対するボツリヌス療法 患者満足度の最大化を目指して	山下智弘	痙縮治療フォーラム in 大分	2021-10-13
リハビリテーションにおける理学療法士(PT)と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2021-10-16
「脳卒中のリハビリテーションと痙縮治療～ボツリヌス療法～」	山下智弘	筑豊地域連携バス研究会	2021-10-19
リハビリテーションにおける言語聴覚士(ST)と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2021-10-20
リハビリテーションにおける作業療法士(OT)と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2021-10-21
リハビリテーションにおける言語聴覚士(ST)と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2021-10-27
リハビリテーションにおける言語聴覚士(ST)と医師の役割	山下智弘	麻生リハビリテーション大学校	2021-11-24

脳神経外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
終末期対応の一環としての臓器提供の意思確認	名取良弘	第48回日本集中治療医学会 学術集会	2021-2-12～ 2021-2-14
チームで行う臓器提供 ー終末期対応の一環としてー	名取良弘	第36回腎移植・血管外科研究会	2021-6-10
臓器移植推進のために出来ること ー脳神経外科医の立場からー	名取良弘	第20回JATCO総合研修会	2021-11-26～ 2021-11-27

血管外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
当院での EVAR 治療の現状 AFX II の適応拡大は可能？	松元 崇	第2回 AFX web 座談会	2021-2-25
下肢末梢動脈疾患治療の新たな展望 内科治療から重症虚血肢に対する侵襲的治療まで	松元 崇	第6回 循環期 UP TO DATE WEB セミナー	2021-3-25

皮膚科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
乾癬～症例検討～	平野早希子	飯塚乾癬リモート講演会	2021-1-27
乾癬患者における周術期管理について	王 黎亜	第13回筑豊臨床皮膚研究会	2021-8-26
飯塚病院における乾癬治療	幸田 太	SUN 皮膚疾患セミナー	2021-9-7
『疥癬～拡大防止に向けて疥癬を知る～』	王 黎亜	感染対策研修会	2021-10-15
IL-23を中心に乾癬を理解する	幸田 太	大鵬薬品工業株式会社社内研修会	2021-12-3
アトピー性皮膚炎の外用療法再考	幸田 太	第332回筑豊小児科医会勉強会	2021-12-9
乾癬の病態と治療	幸田 太	筑豊ブロック薬剤師会学術研修会	2021-12-16

眼科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
線維柱帯切開術（眼内法）後に低眼圧黄斑症を生じた1例	小林 義行	九大 Glaucoma Surgery Seminar	2021-1-22
線維柱帯切開術（眼内法）後に低眼圧黄斑症を生じた1例	初瀬健太、孟 彩英、向坂親蔵、小林義行、吉山慶三	第178回九州大学眼科研究会	2021-2-27
緑内障薬物治療について	中間崇仁	千寿製薬株式会社 社内講演会	2021-8-24
抗 VEGF 薬の最新治療について	中間崇仁	千寿製薬株式会社 社内講演会	2021-11-30

リエゾン精神科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
問題解決技法	猪狩圭介	うつ病の認知療法・認知行動療法ワークショップ（厚生労働省事業）	2021-8-1
飯塚病院におけるリエゾン・コンサルテーションー教育と診療の両立を目指してー	猪狩圭介	第2回 Otsuka Special Online Sminar ー精神科リエゾンコンサルテーションー	2021-12-9
家庭医のうつ病診療	猪狩圭介	飯塚頤田総合診療プログラム専攻医向けオンライン講義	2021-12-18

ペインクリニック科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
心臓外科・胸部外科手術の麻酔	小畑勝義	産業医科大学講座 侵襲医学	2021-11-11

感染症科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
救急隊の感染予防策	的野多加志	筑豊地域救急業務メディカル コントロール協議会集合研修	2021-1-15
新型コロナウイルス感染症の基礎知識と対策	的野多加志		
腸チフス・パラチフス	的野多加志	輸入感染症講習会	2021-1-19
COVID-19 vs インフルエンザ感染症～診断・ 治療・予防～	的野多加志	京都医師会学術講演会	2021-1-28
救急隊の感染防止対策	的野多加志	救急救命士研修課程	2021-2-1
新型コロナウイルスの基礎知識と対策	的野多加志		
COVID-19 vs インフルエンザ感染症～診断・ 治療・予防～	的野多加志	筑後地区耳鼻咽喉科専門医講習会	2021-2-20
新型コロナウイルス&インフルエンザ～この 1年を振り返る～	的野多加志	北九州抗菌薬の適正使用を考 える会2021	2021-2-25
新型コロナウイルス感染症～この1年を振り 返る～	的野多加志	総合せき損センター感染防止対 策研修会	2021-3-18
救急外来で使用頻度の高い抗菌薬	倉員侑己	第7回知ってて良かったシリーズ	2021-3-19
重症COVID-19の一例	長谷川雄一、的野多加志	新型コロナウイルス感染症の症 例報告会	2021-5-7
新型コロナウイルス感染対策～介護・福祉施 設等での対応～	的野多加志	入所施設における新型コロナウ イルス感染症対策研修会	2021-7-15
今、知りたい！新型コロナウイルス感染症と 介護現場での対応	的野多加志	地域密着型サービス事業所連絡 協議会研修会	2021-7-19
新型コロナワクチン	的野多加志	第33回感染管理連携施設地域カ ンファレンス	2021-7-30
感染症とは	的野多加志	福岡県感染管理リーダー看護師 育成研修	2021-8-3
中枢神経感染症	的野多加志	看護師特定行為研修	2021-8-12
循環器・血流感染症	的野多加志	看護師特定行為研修	2021-8-16
新型コロナウイルス感染対策	的野多加志	救急救命士研修課程	2021-8-24
新型コロナウイルス感染対策	的野多加志	筑豊地域救命救急士集合研修	2021-10-4
新型コロナウイルス感染症の対応と今後につ いて	的野多加志	第141回福岡県市長会	2021-10-5
薬剤耐性菌感染症の診断・治療	的野多加志	国際医療福祉大学 認定看護師 教育課程「感染管理」	2021-10-11
新興再興・輸入感染症	的野多加志		
COVID-19 vs インフルエンザ～診断・治療・ 予防～	的野多加志	第160回北九州透析懇話会	2021-10-21
新型コロナウイルス感染対策	的野多加志	筑豊地域救命救急士集合研修	2021-10-29
フィリピンからの帰国+ COVID-19 = ?	大橋祐介	第13回九州臨床感染症セミナー	2021-11-20
ID フェローカンファレンス	長谷川雄一	第3回2021年度IDフェローカン ファレンス	2021-11-24
新型コロナウイルス感染対策	的野多加志	第22回筑豊地域救命救急研修会	2021-11-27
インフルエンザの診断・治療・予防	的野多加志	塩野義製薬 北九州営業所 社内 研修会	2021-11-30

歯科口腔外科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
なぜ医療連携に歯科衛生士が必要なのか	本田智恵子	PHIJアップデートミーティング	2021-2-24
リハビリテーション医学	河野真由美	麻生リハビリテーション大学校 特別授業	2021-11-18
賛否両論あるでしょう、下顎近位骨片完全復 位法	石井広太郎	第2回九州顎変形症手術手技若 手検討会	2021-11-21
口腔ケアを介した医科歯科連携への取組み	中松耕治	第2回がん診療に役立つ口腔ケ アの会	2021-12-13

救急科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	片桐 欧	第1回救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	2021-3-13
救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	片桐 欧	第2回救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	2021-4-25
内科医のための創処置 ～縫合と治療のスタンダード、エビデンス～	片桐 欧	Antaa 生放送	2021-6-16
救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	片桐 欧	第3回救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	2021-6-27
いつ蘇生中止をするべきか? TOR (Termination Of Resuscitation) の現状とエビデンス	片桐 欧	救急×緩和ケアセミナー	2021-9-24
救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	片桐 欧	第4回救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	2021-10-3
低血糖発作	片桐 欧	筑豊地域救命救急隊研究会	2021-10-26
救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	片桐 欧	第5回救急×緩和エッセシャルトレーニングコース (E-PET)	2021-10-31

集中治療科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
有益な輸液のはなし～蘇生輸液のコンテクストを読みとく～	川上大裕	Antaa	2021-12-8
有益な輸液の話	川上大裕	第6回 West Japan クリティカルケアヤングアカデミー	2021-12-13

呼吸器腫瘍内科

表題名	発表者名	講演会名	開催日
人生100年時代の肺癌治療を考える～最新知見による考察～	海老規之	大鵬肺がんWEB講演会 in 北九州	2021-6-29
がん悪液質の新展開	海老規之	第294回福岡県病院薬剤師会筑豊支部学術研修会	2021-8-27

リハビリテーション部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
急性期呼吸器疾患の臨床におけるエビデンスの活用と実践	奥野将太	第103回福岡県理学療法士会学術研修大会	2021-8-22
悪液質に対するリハビリテーション栄養の実際	白土健吾	第18回北九州リハビリテーション栄養研修会	2021-8-27

薬剤部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
睡眠薬に対する適正使用の試み	進 健司	不眠症 Expert Meeting in 飯塚	2021-3-26

臨床工学部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
高周波（クラッチカッター）の設定と作用	川畑浩子、田村慎一、金城依子、赤星和也、川畑浩子	第80回九州消化器内視鏡技師研究会	2021-12-4

臨床研究支援室

表題名	発表者名	講演会名	開催日
臨床検査データを用いた統計解析の実際「統計学的仮説検定」を理解する！ ～2群比較を用いたEZRの操作～	古賀秀信	第70回日本医学検査学会	2021-5-14
臨床検査技師による臨床研究～倫理・研究デザインとバイアスについて～	古賀秀信	広島県臨床検査技師会 総合管理部門後援会	2021-7-17

医療安全推進室

表題名	発表者名	講演会名	開催日
当院における転倒転落の現状と取り組みについて	新鹿深夏	転倒転落予防セミナー	2021-11-5

地域連携センター

表題名	発表者名	講演会名	開催日
患者の自己決定支援を考える ～心不全患者の事例を通して～	岡田未紗	心不全療養指導セミナー	2021-1-19

看護部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
緩和ケアチームにおける専門的緩和ケアの質評価に関するインタビュー実態調査	宮崎万友子、原田恵美、廣木貴子、柏木秀行、大森崇史	第26回緩和医療学会学術大会	2021-6-19
ふれあい看護体験	岡佳子	福岡県看護協会	2021-7-26
「患者から学ぶ医療」	岡佳子	麻生看護大学校	2021-10-31

栄養部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
飯塚病院栄養部のお仕事～給食編～	重松由美	九州女子大学	2021-11-2
飯塚病院管理栄養士の業務紹介	ピスタ仁衣奈、田代千恵子、古家妃華里、小川由華	九州女子大学	2021-11-6
PD患者の食事療法～皆さんの困りどころ解決編～	田代千恵子	第27回福井県CAPDナースセミナー	2021-11-26
社会人基礎力と急性期の栄養管理	田代千恵子	九州女子大学	2021-12-15
給食管理のお仕事	重松由美	九州女子大学	2021-12-22

地域包括ケア推進本部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
ケアマネジャーの地域連携	小栗和美	桂川町・田川介護保険広域連合主催研修会	2021-9-15

イノベーション推進本部

表題名	発表者名	講演会名	開催日
民間病院における医工連携の仕組み作りと実践	井桁洋貴	第8回やわらか3D共創コンソーシアム医療部会 オンラインセミナー	2021-3-22

臨床心理室

表題名	発表者名	講演会名	開催日
コロナ禍、看護管理者としてメンタルケアを考える	松尾純子	大阪府看護部長会	2021-9-17
虐待による受傷で入院となった幼児Aとの2ヶ月間～多職種での奮闘と、Aの変化を中心に～	西山織江	子どもを地域で支える会・筑豊	2021-10-19

内視鏡センター

表題名	発表者名	講演会名	開催日
高齢化時代のGERD	赤星和也	Nexium Web Seminar in Fukuoka	2021-1-27
ミニレクチャー ”COVID-19pandemic 下における内視鏡検査の感染対策”	赤星和也	第402回筑豊消化器病研究会	2021-6-16
上部消化管ESDにおけるクラッチカッターの有用性～クラッチカッターを安全・確実に使いこなす為に～	赤星和也	第106回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	2021-7-10
コロナ渦でのGERD診療～GERD診療ガイドライン2021と内視鏡検査の感染対策～	赤星和也	Nexium Online Symposium	2021-8-6

〔V〕 院内研修会・勉強会

1. 院内臨床病理検討会（CPC）記録

開催日	年齢	性別	診療科	検討した診断
第199回 2月5日	80代	男	総合診療科	特発性間質性肺炎
第200回 5月21日	70代	男	呼吸器内科	浸潤癌（神経内分泌癌）
第201回 7月30日	80代	男	膠原内科	成人発症ステイル病
第202回 9月24日	70代	男	肝臓内科	胃癌、多発肝転移
第203回 11月19日	70代	男	肝臓内科	肝内胆管癌

2. 看護部

内容	対象	開催日	場所
プリセプター研修	2021年度 プリセプター	2月18日～3月5日	各部署
新人看護師研修 リフレクション研修	新人看護師	2月3日・2月10日 2月17日	百年ホール
2020年度 若葉ナース研修プログラム ～フォローアップ研修～	2020年度新人看護師	2月2日・2月15日 2月16日	百年ホール エネルギーセンター大会議室
2021年度新規採用者研修	2021年度新規採用者	4月9日・4月12日	百年ホール エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 安全管理	新人看護師	4月19日・4月22日	エネルギーセンター大会議室
2020年度 専門コース 「臨床指導者コース」	看護師経験3年以上	4月30日・5月25日 6月9日	北棟4階多目的ホール エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 吸引研修	新人看護師	5月	各部署
新人看護師研修 注射に関する一連のケア シミュレーション	新人看護師	5月6日・5月10日 5月17日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 インスリン投与中の患者のケア 実践編	新人看護師	6月1日・6月4日 6月28日	百年ホール エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 呼吸器演習 ビギナーズコース	新人看護師	5月25日・5月27日 6月8日・6月10日 6月15日・6月17日 6月22日・7月1日 7月6日・7月8日	ラーニングセンター
新人看護師研修 インスリン投与中の患者のケアシ ミュレーション	新人看護師	6月2日・6月4日 6月24日・6月28日 6月29日・7月2日	ラーニングセンター
看護ケア実践Ⅱ	卒後2年目看護師	6月1日・6月2日 6月4日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 口腔アセスメントと口腔ケア講義	新人看護師	6月8日・6月22日	百年ホール
倫理研修	卒後2年目看護師	6月14日・6月30日	北棟4階多目的ホール
KYT研修	卒後2年目看護師	6月28日・7月19日 7月27日	百年ホール エネルギーセンター大会議 北棟4階多目的ホール
新人看護師研修 麻薬の取り扱い	新人看護師	7月27日・7月29日	エネルギーセンター大会議室

内 容	対 象	開 催 日	場 所
新人看護師研修 フィジカルアセスメント研修	新人看護師	8月2日～6日 8月10日～13日 8月16日～20日 8月23日～27日 8月30日～31日 9月1日～3日 9月6日～10日 9月13日～17日 9月21日～22日 9月24日 9月27日～30日 10月5日・10月7日 10月12日・10月14日	ICU E4救急・HCU E6救急
新人集合教育 若葉ナース研修プログラム	新人看護師	6月9日・6月14日 6月23日	百年ホール エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 輸血の実践：シミュレーション	新人看護師	8月10日～12日 8月16日～19日	ラーニングセンター
プリセプターフォローアップ研修	プリセプター全員	9月13日～10月8日	各部署
2021年度 専門コース 第2回糖尿病看護専門コース	看護師経験3年以上	9月30日・10月14日 10月28日	北棟4階多目的ホール エネルギーセンター大会議室
第61回院内看護研究発表会	全看護師	10月30日	エネルギーセンター大会議室
2021年度 専門コース 第4回緩和ケアスキルアップコース	看護師経験3年以上	10月6日・11月10日 11月24日	北棟4階多目的ホール
看護ケア実践Ⅲ	卒後3年目看護師	10月13日・10月20日 10月21日・10月27日	北棟4階多目的ホール エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 呼吸器演習 Aコース	新人看護師	10月7日・10月12日 10月14日・10月19日 10月26日・11月4日 11月9日・11月11日 11月16日	ラーニングセンター
リーダーナース研修 セル看護提供方式 [®]	卒後2年以上	11月1日・11月5日 11月29日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 摂食・嚥下障害をもつ患者の看護事例検討	新人看護師	11月5日・11月12日	エネルギーセンター大会議室
2021年度 専門コース 褥瘡スキルアップ専門コース	看護師経験3年以上	11月15日・12月1日 12月15日	エネルギーセンター大会議室 北棟4階多目的ホール
看護補助者研修	ナースエイド ナースアシスタント メッセンジャー コンシェルジュ クラーク	11月17日・11月18日	エネルギーセンター大会議室
臨床指導者コースフォローアップ 研修	卒後3年以上	11月24日	エネルギーセンター大会議室
新人看護師研修 褥瘡勉強会	新人看護師	12月6日・12月13日	エネルギーセンター大会議室
2021年度 専門コース 第20回アセスメント力・スキルアップ コース～リカバリークラス～	看護師経験3年以上	COVID-19のため 延期。時期検討中	

3. 医療安全研修

1. MRM研修一覧

開催日	タイトル	講師	参加数
4月30日	脱兎のごとく 迅速かつ安全な緊急気道確保をめざして	内藤智孝（麻酔科）	52
6月23日	医療安全としての敗血症診療	中村権一（総合診療科）	50
6月28日	2年目看護師 KYT 研修	新鹿深夏（医療安全推進室）	34
7月2日	医療安全としての基本的なこと	福村文雄（医療安全推進室）	62
7月19日	2年目看護師 KYT 研修	新鹿深夏（医療安全推進室）	35
7月27日	2年目看護師 KYT 研修	新鹿深夏（医療安全推進室）	36
7月27日	医療安全としての基本的なこと（伝達講習）	福村文雄（医療安全推進室）	10
10月4日	2年目 KYT 研修（看護師以外）	木村美香（医療安全推進室）	25
10月4日	アナフィラキシーをテーマとして救急対応システムを確認する	小田浩之（総合診療科）	67
11月1日	2年目 KYT 研修（看護師以外）	黒土直美（医療安全推進室）	31
11月1日	そのインスリン！スキップして大丈夫？！	船津美奈（内分泌・糖尿病内科） 岩橋淑恵（糖尿病看護認定看護師）	53
11月17日	看護補助者研修	久保佳子（看護部長室） 新鹿深夏（医療安全推進室） 山下智雅（感染管理認定看護師）	73
11月18日	看護補助者研修	久保佳子（看護部長室） 新鹿深夏（医療安全推進室） 山下智雅（感染管理認定看護師）	62
12月6日	重大な医療事故に際して知っておきたいポイント	福村文雄（医療安全推進室）	43

2. 教育

開催月	開催回数	タイトル	参加数
10/5 11/8 11/9	3回	人事制度分析研修（2等級以上対象）	79
5月～8月	4回	KYT エキスパート教育	11
10月～12月	4回	不具合分析エキスパート教育	11

4. 改善勉強会

No.	内 容	対 象	【開催回数】開催日	受講者 総数
1	改善基礎1	新入社員	【1回】4月2日(新入社員研修)	119名
2	改善基礎1	中途採用者	【2回】(看護部中途採用者研修) 11月24日、12月22日	28名
3	改善基礎2 EK (Everyday Kaizen) をやってみよう!	1 等級以上	【8回】 1月12日、2月12日、5月11日、6月22日、 7月12日、8月12日、11月11日、12月13日	178名
4	Kaizen ワークショップ1・2	3 等級以上	【5回】 2月24日、5月25日、7月26日、11月22日、 12月22日	61名
5	EK 指導者研修	4 等級以上	【3回】 5月7日、7月5日、10月21日	40名

* 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、8月中旬～10月中旬の勉強会開催を中止しました。

5. 学会を除く学術研修会・勉強会

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
肝臓内科	研究論文抄読会	毎月2回 木曜日開催											
呼吸器内科	筑豊呼吸器疾患研究会	← コロナウイルス感染症予防の為中止 →											
	北九州呼吸器懇話会	28日					3日				14日		
	九州臨床画像解析研究会					22日						13日	
	筑豊呼吸器 RENKEI の会	← コロナウイルス感染症予防の為中止 →											
	呼吸器カンファレンス・抄読会	毎週金曜日											
呼吸器腫瘍内科	オンコロジーナース研修会	← コロナウイルス感染症予防の為中止 →											
	免疫チェックポイント阻害薬勉強会	← コロナウイルス感染症予防の為中止 →											
	がんチーム医療推進勉強会					13日	10日	8日			14日	11日	9日
	北部九州肺縦隔研究会			12日							5日		
	筑豊地区肺癌診療連携の会												10日
	外来化学療法室合同カンファレンス									16日	18日	14日	
	肺がんカンサーボード(多職種)	← コロナウイルス感染症予防の為中止 →											
	肺がんカンサーボード (呼吸器内科・腫瘍内科)	毎週火曜日(祝日は除く)											
内分泌・ 糖尿病内科	実地医家のための糖尿病セミナー											26日	
	病棟カンファレンス	毎週水曜日											
	甲状腺画像検討会	毎週水曜日											
消化器内科	Gut Clinical Conference		26日				4日		27日			26日	
	消化管がん Cancer Board	毎週水曜日											
	勉強会	毎週金曜日											
血液内科	中外 e セミナー on Hematology			10日			9日			8日			8日
	抄読会	毎週火曜日											
総合診療科	レジデントデー				23日	21日	25日		20日		14日	2日	
	家庭医レジデントデー (穎田病院にて)	16日	20日	20日	17日	15日	19日	24日	21日	18日	16日	20日	18日
	M&M 委員会					18日	15日	20日					
	九州総合診療セミナー											18日	
	シニアカンファレンス	隔週木曜日											
	家庭医家族会議	第1・3木曜日											
	ジャーナルクラブ	隔週水曜日											
	清田 Dr. モーニングレクチャー	毎週金曜日											
膠原病・リウマチ内科	筑豊リウマチ研究会				15日		17日						
	病棟講義	第3火曜日											
	病棟カンファレンス	毎週月・木曜日											
	抄読会	毎週木曜日											
心療内科	14A スキルアップミーティング	← コロナウイルス感染症予防の為中止 →											
循環器内科	循環器UPTODATE WEBセミナー	毎月1回											

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
小児科	筑豊小児科医会勉強会	15日	16日	10日	8日	20日	23日	14日		16日	21日	16日	9日	
	筑豊感染症懇話会										21日			
	筑豊地域小児在宅医療研修会	15日											23日	
	筑豊子ども虐待防止講演会		16日											
	勉強会	毎週月・金曜日												
産婦人科	抄読会	毎週火曜日												
腎臓内科	腎病理解説会（WEB）	21日		4日		6日				29日	20日		14日	
	DW カンファレンス	毎月第2水曜日												
	PD カンファレンス	毎月第3水曜日												
	抄読会	毎週火曜日												
漢方診療科	麻生飯塚漢方診療研究会	21日	18日	18日	15日	20日	17日	15日		16日	21日	18日		
	麻生飯塚生薬研究会	28日	25日	25日	22日	27日	24日			30日	28日	25日		
	筑豊漢方研究会	14日		11日		13日	10日	8日		9日	14日	11日		
	院内医師向け漢方勉強会		9日	9日			8日	13日		14日	12日	9日	14日	
	皇漢医学輪読会	7日	4日	4日	1日	6日	3日	1日		2日	7日	4日		
	筑豊漢方基礎講座				24日 25日									
	勉強会	月～金曜日												
	漢方基礎勉強会	毎週火曜日												
泌尿器科	筑豊地区泌尿器科医抄読会	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
画像診療科	筑豊地区脳神経画像診断研究会	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
	筑豊画像研究会	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
病理科	病理診断室内勉強会	不定期												
外科	外科手技セミナー （縫合トレーニング）				17日									
	筑豊肝胆膵研究会	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
	筑豊地区がん診療連携講演会	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
	筑豊地区医療連携特別講演会								10日					
	筑豊乳腺懇話会	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
	消化管術後カンファレンス	9日	6日	6日	3日	1日	5日	3日	7日	4日	2日	6日	4日	
	内視鏡手術勉強会	不定期												
	消化管がん Cancer Board	毎週水曜日												
呼吸器外科	筑豊肺癌カンサーボード	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
	筑豊呼吸器疾患研究会	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
	呼吸器画像病理カンファレンス	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
脳神経内科	筑豊地区脳神経画像研究会	← 新型コロナウイルス感染症予防の為中止 →												
	抄読会	毎週木曜日												

主催部署 または院内窓口	カンファレンス	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
麻酔科 ペインクリニック科	麻酔科 AAN 懇話会	21日				20日		15日			21日		
	POPS 定期 カンファレンス	8日	5日	5日	2日	7日	4日	2日	6日	3日	1日	5日	3日
	麻酔科安全カンファレンス	27日	24日	24日	28日	26日	23日	28日		22日	27日	24日	22日
	麻酔科ミーティング	6日 13日 20日	3日 10日 17日	3日 10日 17日 31日	7日 21日	12日 19日	9日 16日 30日	7日 14日	4日 11日 18日 25日	1日 8日 15日 29日	6日 13日 20日	10日 17日	8日 15日 29日
	勉強会	毎週月曜日、火曜日、木曜日、金曜日											
救急科	筑豊地域救命救急研究会				28日		30日		31日	21日	26日		27日
	外傷カンファレンス										22日		9日
	中毒カンファレンス								20日				
	症例振り返りカンファレンス	毎日(各勤務時間内)											
	救急科スタッフ会議	毎月3回(不定期)											
	ドクターカーカンファレンス	第3水曜日											
	呼吸器内科とのカンファレンス	第3水曜日											
集中治療科	集中治療科勉強会	13日 20日 27日	17日	10日 17日 31日				7日 28日	25日	22日	27日	24日	22日
	倫理カンファレンス										毎週木曜日		
	救急科合同勉強会						28日	26日	28日		25日	29日	
	ICU 看護師対象勉強会						21日	12日	23日	13日	11日	8日	13日
感染症科	九州臨床感染症セミナー											20日	
	筑豊感染症懇話会										21日		
	院内医師向け感染症勉強会												17日
	Clinical Microbiology Round	29日			23日	21日		9日				26日	24日
	抄読会・輪読会	毎週月・金曜日											
リハビリテーション科・部	ボトックスカンファレンス	毎週火曜日											
	嚥下カンファレンス	毎週火曜日											
	臨床研究カンファレンス	第2, 4 水曜日											
	心臓リハビリカンファレンス	毎週水曜日											
	整形術前・後カンファレンス	毎週月曜日											
薬剤部	福岡県病院薬剤師会 筑豊支部 学術研修会			25日	20日	13日	21日	14日 20日	5日 27日	21日	20日	18日	15日
	筑豊地区薬剤師抄読会			30日							28日		
	福岡県病院薬剤師会 筑豊支部中小病院研修会		6日					29日					16日
	勉強会	毎週月曜日											

〔VI〕 委員会活動報告

1. 医療ガス安全管理委員会

委員長 内藤智孝

副委員長 村上輝之

目 的：

医療ガス（医療に用いる酸素、医療用圧縮空気、窒素、二酸化炭素、各種麻酔ガス、吸引）設備の安全管理をはかり、患者および医療従事者の安全を確保する。

活 動 内 容：

1. 医療ガス保全点検

厚生労働省による医療ガス保守点検指針に基づく日常点検、定期点検の実施及び、監督

2. 医療ガス使用状況の把握

3. 必要に応じて室内ガスの濃度測定、及び試験

4. 医療ガス取り扱いの安全講習会の主催

5. 年4回の定期会議及び報告

①2021年度から医療ガス安全管理委員会委員長は麻酔科尾崎から内藤に交代、施設環境サービス課の委員は甲斐から山田に交代した。山田が医療ガス安全管理者継続講習会を受講し、修了証書を取得した。

②新型コロナウイルス感染症対応として年2回行っていた対面での医療ガス取扱安全講習会を中止した。2021年6月よりSafety Plusを利用したEラーニングを開始し、2021年12月現在、対象職員約2,000名中、167名が受講済。

③4回の医療ガス設備保守点検のうち、点検業者エフエスユニにて第3回まで実施済み、結果は良好。未実施項目も年度内に完了予定。

④新型コロナウイルス感染症の対応

- ・H2救急のネーザルハイフロー11台の運用時に、酸素供給能力の検証は福豊帝酸に、配管の圧力損失の検証はエフエスユニに依頼し、問題ないことを確認した。実際の稼働は最大5台で、問題は生じなかった。

- ・新型コロナウイルス感染症の対応で点検業者が来院できず、医療ガスアウトレットの点検ができない事象が生じた。臨時で院内スタッフが点検できるよう調整、点検資格として公益社団法人医療機器センターが推奨する医療ガス安全管理者講習会（医療用ガス供給設備の保守点検業務従事者研修）を、山田が受講修了。ガス流量圧力計測器と酸素濃度計が無いため購入費用見積依頼中。

次年に向けて：

1. 全職員向けのSafety Plusを利用した医療ガス取扱安全講習会受講を促進する。あわせて新人に対しては、少人数での実地講習を検討中。

2. 新型コロナウイルス感染症の対応とならび懸念される大規模災害時対応についても、委員会として議論していく。学会などを通じて情報収集する。

3. 委員会メンバーの情報共有、知識拡充を目的に、院内の医療ガス設備の視察、保守点検のレクチャーを実施する。

2. 放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会

委員長 三浦亘智

目 的：

本委員会の目的は、「放射性同位元素等の規制に関する法律」に基づき、当院における放射性同位元素および放射線発生装置の取り扱いや管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保することにあります。また、特定放射性同位元素の防護のために必要な措置を講じることにより、特定放射性同位元素の盗取の防止を図っています。

活 動 内 容：

放射線発生装置や放射性同位元素の安全な取り扱い、被ばく低減についての講習会（初期教育や再教育）および放射線管理区域内で勤務される職員の個人被ばく線量管理を行っています。また産業医の協力のもと、法令に則った健康診断や過剰被ばく者への対応なども行っています。

2021年は、新型コロナウイルス感染症の影響で従来の講習会は開催せず、e-learning(Safety Plus)での教育訓練を行いました。教育訓練の内容は以下の通りです。

1. 放射線の人体への影響
2. 放射線発生装置の安全取扱い
3. 非密封放射性同位元素の安全取扱い
4. 放射線関連法規

放射線管理区域内で勤務する職員の個人被ばく線量管理は、個人被ばく線量計（ガラスバッジ）での管理を行なっております。毎月、測定会社より貸与されたガラスバッジを各部署対象職員に配布回収し、測定会社に測定を依頼しております。後日、測定会社より送付された個人被ばく線量データを確認し、被ばく線量の比較的多い職員に対しては注意を促しております。今年度より電離放射線障害防止規則が改正され、眼の水晶体の被ばく限度の見直しが行われました。放射線業務従事者のより厳重な被ばく管理が求められるようになっていきます。それに伴い放射線から適切に身体を防護するために、防護板の増設や眼の水晶体を防護するために防護メガネの使用を推進しております。眼の水晶体の被ばく線量を精確に計測するために、一部診療科の医師を対象に水晶体専用の個人被ばく線量計の導入も開始しております。

特定放射性同位元素防護委員会の活動においては、放射線治療装置の更新工事に伴い、関係部署にご協力を頂き警備の強化を行っています。また、オリンピック・パラリンピック開催期間中の警備強化も行いました。診療用放射線照射装置（RALS）の更新においては、福岡県警との連携を行い放射線源の移動時の警備強化を行っています。

次 年 に 向 け て：

放射線を用いた診療や治療の件数が増加するなか、当委員会活動によって放射線業務従事者が職業被ばくや医療被ばくを再認識し、且つ最新の情報を得ることにより無駄な被ばくや医療事故を無くすように努めてもらえればと考えています。院内で被ばく線量の比較的高い職員に対しては、関連診療科との協力を図りながら当該職員の被ばく状況に留意し、被ばく防護の指導や必要に応じた対応を遅滞なく行い、各診療科からの被ばく防護に関する問い合わせなどにも対応いたします。

院内で個人被ばく線量限度を超過する職員が発生しないように、また院内全体の放射線に対する理解を深めるため、被ばく防護の指導を強化します。

3. 感染管理委員会

委員長 増本陽秀

副委員長 中村権一

目 的：

この組織は科学的根拠に基づいた病院感染対策を推進し、MRSA、VRE などの薬剤耐性菌や HIV などのウイルスによる感染症から患者及び医療従事者を守ることを目的とする。

活動内容：

○院内外職員教育

ICT メンバーによる週1回の病棟回診を継続し、リンクメンバーおよび全職員対象の勉強会を以下のように実施した。手指衛生、標準予防策の勉強会はCOVID-19のため中止した。

[テーマ・講師名・参加者数]

9月24日	「結核対策」呼吸器内科 末安医師	18名
10月15日	「疥癬～拡大防止に向けて疥癬を知る」皮膚科 王医師	33名
11月 4日	「防御反応を回避せよー認知症の観点から人咬傷とひっかき傷予防への対応」 認知症看護認定看護師 瓜生看護師	47名
12月 2日	「HIV感染症の現状と当院での対応」総合診療科 中村医師	35名

○病棟回診

週1回の ICT による環境ラウンドを全病棟は月1回、非侵襲性処置実施部署は2ヶ月毎、その他部署は3ヶ月毎に実施し2週間以内に各現場へ結果を報告した。

○手指衛生モニタリング(アルコール消毒薬)

手指消毒薬使用量をこれまで払い出し量で算出していたが実際の使用量を病棟毎に算出することが可能となり実際の手指衛生の現状が把握可能になった。 COVID-19対策として手指消毒薬使用量はICUなどでは増加したが5病棟では全国平均以下のため使用状況の調査を行っていく。

○抗菌薬適正使用支援チーム (AST) 活動

メロペネム、ピペラシリン/タゾバクタム、シプロキサシン (注射薬)、レボフロキサシン (注射薬) を7日以上継続した診療科を週報として、全医師対象にメールで配信し、必要な症例については感染症医が治療支援を継続した。

2021年3月15日より抗菌薬適正使用支援チームは経口第三世代セファロスポリン系抗菌薬の処方許可制を開始し使用量は0件となった。

○CREアウトブレイク

8月以降、メタロβラクタマーゼ産生菌 (K. oxytoca) が中央5階入院中の同一診療科の2名の患者より検出されたため術後、おむつ管理をしている患者を対象に86名のスクリーニング

検査を行い8名が陽性（7名保菌、1名感染）となった。職員の便スクリーニング（提出率95.7%）は陰性。おむつ交換時の手指衛生などが遵守されていないことが原因と考えたため、標準予防策、PPE装着について指導し約3ヶ月後、アウトブレイクは収束した。スクリーニング検体採取が早期にできるようアウトブレイク対策マニュアルの改訂を行った。

○感染管理地域ネットワーク施設間会議

- ・ 1月28日 「COVID-19クラスター対策」 14施設71名
- ・ 3月25日 飯塚病院主催連携施設カンファレンス
「病棟におけるCOVID-19対策」 14施設64名
- ・ 5月14日 飯塚病院連携地域カンファレンス（対面、Web会議）
「2020年度手指消毒剤使用量調査」 14施設62名
- ・ 7月30日 地域カンファレンス（Web会議）
「新型コロナウイルスワクチンについて」 14施設67名
- ・ 10月 8日 田川市立病院主催合同カンファレンス（対面、Web会議）
「COVID-19クラスター対応」 12施設59名

[社会保険田川病院感染対策チームとの相互回診]

COVID-19拡大のため施設間訪問は行わず、感染防止対策地域連携チェック表に自施設の評価を入力後、各施設担当者からのコメントを追加し最終報告とした。

○HIV 対策室

32名が外来通院中であり24名が抗ウイルス薬治療中である。

次年に向けて：

手指消毒剤使用量が少ない5部署に対しては直接観察などを行い使用量の増加に繋げていく。抗菌薬適正使用についてはカルバペネム使用量が増加しているため更に活動を強化していく。

4. 労働安全衛生委員会

委員長 増本陽秀

目的：

[基本方針]

- 安全管理 労働災害防止体制の確立
- 健康管理 職員の心身にわたる健康管理を積極的に推進する
- 環境衛生管理 院内感染等を防ぎ、安全教育が行き届いた清潔で働きやすい職場環境をつくる
- 緊急時対応措置 訓練と教育の継続的实施と強化

活動内容：

(1) 安全管理

労働災害を防止するため、発生した事例と対策を毎月検討している。発生件数の多い針刺し・切創及び粘膜暴露事例については防止対策に重点を置き討議している。業務上災害件数は2020年と比較し、針刺し・粘膜暴露事例とも横ばいであった。

委員会終了後、業務上災害報告事例への対策をワンポイントアドバイスとして全職員向けに配信し、注意を喚起している。

(2) 健康管理

健康診断の実施方法を根本的に見直し、従来の院内実施を外部委託に変更し完全予約制で実施した。健診後のアンケートから抽出された問題点をその都度検討し、改善結果を次回の健診に反映させた。ストレスチェックを実施規程に基づき適切に実施できた。集団分析結果の説明を、2021年度内にWebにて全部署に行う予定としている。メンタルヘルス対策として、ラインケア研修を対象部署に対して行った。また、職場復帰プログラムにより復職支援を行っているが、より実態に合ったプログラムとなるよう、2022年1月より見直しを実施する予定である。

(3) 環境衛生管理

職場におけるリスクを発見し、労働災害や健康障害を未然に防ぐための対策として、2021年は新型コロナウイルス感染症対策に配慮し屋外を中心に巡視を実施した。労災防止上の問題や整頓の不備なども指摘し、労働安全衛生委員会を通じて改善を勧告している。

(4) 緊急時対応措置

教育と訓練の継続実施と強化を目指していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により訓練の実施が困難であった。2021年度内に避難訓練等を実施する方向で調整中である。

次年に向けて：

2022年も引き続き職場の安全衛生に関する情報周知を強化し、危機意識や対策等を共有できるよう努めたい。針刺し損傷に加え粘膜曝露が多発しているため、実態に合った対策を講じて、発生件数を減少させ発生ゼロを目指したい。健康管理体制を拡充し、よりよいものにしたい。

5. 医師の負担軽減・処遇改善委員会

委員長 増本陽秀

目 的：

医師の負担軽減・処遇改善委員会は、飯塚病院に勤務する医師の業務上の負担軽減および処遇の改善を目的として活動する。

活 動 内 容：

科別の平均超過労働時間、時間外労働80時間および100時間超過者数、100時間超過者と80時間超過者を対象とした過重労働面談実施状況の調査・報告を行った。診療科の平均超過労働時間は6月（43.7時間）をピークに減少し12月は36.6時間となった。時間外労働80時間および100時間超過者数についても同様の傾向がみられた。2019年度より年次有給休暇の5日間取得が義務化され、さらに医師の働き方改革により、2024年度に向け超過勤務時間を960時間（または1,860時間）以内に抑えることが必要である。2021年は、4月以降12月現在までの超過勤務時間が医師一人あたり月平均30.2時間となっており、2020年と比較し月1.7時間減少している。年休取得は医師一人あたり平均5.0日であり、2020年と比較し0.5日増加している。100時間超過者については、面談の中で明らかとなった問題に対する対策を実施することにより徐々に効果が現れている。80時間超過者に対し疲労度の確認等を実施し、必要に応じて面談を実施している。

次年に向けて：

働き方改革の推進が急務である中、医師の過重労働低減をさらに推進する。そのため、特に100時間を超えて長時間労働を行っている医師につき、面談等による勤務実態調査を継続し、負担軽減対策を講じる必要がある。

今後、当委員会では過重労働に関する調査・報告のみでなく、傾向分析を実施し対策を継続する。超過勤務時間削減のため労働安全衛生委員会とも連携し、医師の負担軽減・処遇改善に資する提言を積極的に行う方針である。

6. 薬事委員会

委員長 増本陽秀

副委員長 金澤康範

目 的：

薬事委員会は、飯塚病院における麻薬管理をはじめ医薬品の採用、削除、および薬品の適正使用基準の作成や副作用情報・対策など、その他の薬事に関する事項について審議し、院内を指導することを目的としています。

活 動 内 容：

当委員会は、院長を委員長とし、副院長、経営管理部長、医局長、看護部、資材課長および薬剤長から構成され、原則として2ヶ月に1回偶数月に開催されています。

2021年度は、4月～12月まで5回の委員会開催において、仮採用を含む新規採用58品目、採用に伴う削除10品目、また例年通り行われた12月の削除の検討にて19品目の削除が決定されました。

2021年12月現在の常用医薬品数は1,886品目です。

当委員会では、1増1減の原則をもって採用薬剤の検討、適正化を図っておりますが、1増1減への御理解・御協力のおかげで、常用医薬品品目数は、ほぼ横ばい状態であります。

また、後発医薬品への切り替えに関しては、5回の委員会で計11品目の切り替えが承認され、12月末現在で、5品目の切り替えが終了しています。2020年度の診療報酬改定では、後発医薬品の使用に対する評価が見直され増点されています。当院においては11月時点で後発品数量シェア率は約75%であります。

なお、麻薬管理に関しては、麻薬担当者等による研修会の実施や適正な取り扱いへの注意喚起を行いました。その結果、麻薬事故届け件数は減少傾向にあります。

次 年 に 向 け て：

後発医薬品については、昨今製薬会社の後発医薬品の出荷調整や出荷停止など供給に関する問題が多発しており、また次期診療報酬改定による後発医薬品に関する評価の見直しも予想されることから、後発医薬品への積極的な切替えは控える予定です。また、VHJ関連病院として、一層薬剤部会等の推奨による共同購入を推進していくために、各診療科と協力したいと考えています。また、麻薬管理に関しては、毒薬・向精神薬とともに、さらに慎重かつ適正な取り扱いがなされ麻薬事故の更なる減少を目指して、麻薬管理に関する研修会等の開催を実施する予定です。

7. 資材委員会

委員長 増本陽秀

目 的：

院内で使用する保険医療材料、設備投資等の病院資材について採用等の審議を行い、安全性の維持、医療の質の向上、経済的適正配置を実現する。

活 動 内 容：

1. 新規保険医療材料

試用34件の届出を受領し、仮採用8件、本採用5件を承認した。

2. 医療機器・備品を購入する設備投資の配分

2021年度予算として申請された243件（定価8,555百万円）の申請の中から、各申請部署の意見を踏まえて109件の購入について認可。また予算外購入として61件（2021年12月末現在）の購入を認可した。

3. 運用・審議方法

①高額医療機器購入の申請および審議方法

定価500万円以上の機器については、申請者が資材委員会でその必要性を説明する。また、投資額1000万円以上の新規又は増設申請については、経営会議において審議を行う。

②保険医療材料の採用申請方法

試用、仮採用、本採用の3段階による申請を行う。

③保険医療材料の採用審議方法

仮採用申請は、申請者が資材委員会にてその必要性を説明し、本採用申請は仮採用期間中（6ヶ月間）の使用評価を報告する。また、事務局は仮採用、本採用共にコストもしくは差益について説明する。

次年に向けて：

1. VHJ共同購入品目の拡大

VHJ共同購入に関する12の部会及び委員会（医療材料部会、薬剤部会、ME部会、循環器部会、不整脈部門、循環器部会、カテーテル治療部門、整形部会、透析部会、放射線部会、放射線部技術委員会、検査部会、透析部会小委員会、薬剤評価委員会）の事業支援を継続して行い、臨床における質の向上を維持しながら医療機材を調達し、安全面及びコスト面において多くのメリットが得られるように活動を推進する。

2. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う設備投資や資材調達を、迅速かつ適正に行う。

3. 2022年4月の診療報酬改定を視野に入れた、設備投資や診療材料購入への対策を行う。

4. 新規診療材料の採用に関する審議、医療機器の評価、調査を随時行う。

5. 医療機器の適切配置、新規医療機器購入時の機器選定を行う。

6. 医療安全・コスト削減、効率化に適合した医療材料物品の選定を行う。

8. ISO 委員会

委員長 名取良弘

副委員長 中嶋弘之

目 的：

ISO9001の認証取得・更新を継続し、全病院的なQMS（品質マネジメントシステム）を構築し、内部監査員と共に医療の質の向上と安全な病院を実現すること。

活 動 内 容：

①内部監査員養成講座実施

▶3密回避のため動画配信とした。テストにて理解度を測り、満点を受講済み要件とした（96人受講済み）。

②内部監査実施

- ▶事前打合せおよび監査は、感染対策として、2020年同様以下の点に取り組んだ。
- ・感染拡大が予想される冬期を避け、8月より開始
 - ・時間短縮のため被監査側から事前回答をもらい、事前打合せにて監査当日の確認事項を選定
- ▶新たな取り組みとして下記2点を実施した。
- ・QI委員会とコラボレーションし、QIに対するPDCAサイクル状況を確認
 - ・「共通質問」※を設定し被監査側だけでなく監査側も進捗を回答（指摘対象外）
※共通質問：過去の内部監査や外部審査での指摘事項
診療マニュアルの見直し
QIに対するPDCAサイクルの状況
- ▶監査目的は中長期計画「人材力」に着目し設定、監査は各科（課）所属長やISO委員で編成されるチームで実施した。概要は以下の通りである。

監査目的	部署特有の役割を果たすために必要な技術や知識（以下：テクニカルスキル）を習得・向上させるための仕組みを確認する。		
被監査数	35 チーム（診療科・看護部：19、医療技術部門・経営管理部門・本部機能：16）		
重点改善事項	0 件	改善推奨事項	28 件
評 価	S: 到達目標（評価指標）をクリアするための教育・訓練が計画され、実施されている。	20 チーム	
	A: 到達目標（評価指標）をクリアするための教育・訓練が計画されている。	7 チーム	
	B: 部署特有の役割・業務を果たすために注力しているテクニカルスキルが明確にされている。	8 チーム	
	C: 部署特有の役割・業務を果たすために注力しているテクニカルスキルが明確にされていない。	0 チーム	

③マネジメントレビュー

▶2021年3月11日実施。前年のマネジメントレビューで受けた指示への対応および2020年内部監査の結果報告を行った。

④文書管理

- ▶3月に全職員に対し文書の見直しを周知
- ▶広報課と協同しイントラネット掲載中である「マニュアル」の整理に着手、第一段階としてイントラネット内で管理されている文書の洗い出しを実施
- ▶2021年12月現在の「文書管理・検索システム」登録数：1,658文書 ※前年比：+593文書

次 年 に 向 け て：

- 1.[内部監査] 新型コロナウイルス感染症の動向を注視し、状況に応じた方法を検討・実施
- 2.[文書管理] 着手中であるイントラネット「マニュアル」掲載文書の整理を推進

9. TQM 活動推進委員会

委員長 中島雄一

副委員長 山下卓士

※TQM活動：サークルによるQC手法等を使用した改善活動

目 的：

TQM活動推進委員会は、TQM活動を病院全体の活動へ展開し、職員全員の問題解決能力を高め、快適で安全な環境で業務を行うための思考を養い、病院全体の医療の質向上を実現させ、患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

- | | |
|--------------|--|
| 1月15日～25日 | レビュー者研修会 実施 (TQM活動推進事務局) |
| 1月22日 | エントリー締め切り 15サークルがエントリー |
| 1月26日～2月1日 | TQM活動オリエンテーション 実施 (TQM活動推進事務局) |
| 2月3日・4日 | 勉強会/背景と指標 実施 (TQM活動推進事務局) |
| 3月4日 | 勉強会/現状把握 実施 (TQM活動推進分科会) |
| 4月6日 | 勉強会/要因分析 実施 (TQM活動推進分科会) |
| 4月12日 | 第29回TQM活動キックオフ大会 開催 |
| 5月7日 | 勉強会/対策立案・対策実施 実施 (TQM活動推進分科会) |
| 6月2日 | COVID-19の影響により、発表大会をハイブリッド方式にて開催することが決定 |
| 6月14日 | 勉強会/効果の確認 実施 (TQM活動推進分科会) |
| 7月13日 | 勉強会/標準化と管理の定着 実施 (TQM活動推進分科会) |
| 9月15日 | 勉強会/講評の仕方 実施 (TQM活動推進委員 古賀秀信さん) |
| 10月16日 | 第29回TQM活動発表大会を院内職員限定のハイブリッド方式にて開催
(百年ホール) |
| 11月22日～12月4日 | 第22回フォーラム医療の改善活動全国大会 in 大阪 Web参加 [職員28名] |

次年に向けて：

TQM活動をよりよくすることを目指し、新レビュー者の参加、組織の改革、TQM活動ナビの使用を行ってきた。2020年は活動開始初期からCOVID-19の影響で活動中止となったが、2021年は3密を避ける対策、活動時間の短縮を図り、また初めてのWeb開催での発表大会を行った。院内から多くの参加を頂きコロナ禍における活動の行い方が確立してきた。2022年はTQM活動ナビの更なる応用と、会合の勤務時間内開催を中心に、ギアチェンジ7年目を迎えたいと考えている、またTQM活動をはじめとする改善活動への参加が、デミング賞受賞に向けての礎の一つであるようにしていきたい。

※2021年TQM活動内容は『改善活動報告』の通り

10. クリニカルパス委員会

委員長 辻岡 寛

副委員長 倉智恵美子

目 的：

医療の質の維持・向上を図るために、クリニカルパス作成・見直し及びパス使用を促進すること。

活 動 内 容：

クリニカルパス委員会では、2019年より電子パス運用のための検討を進め、2020年10月より3パスにおいてモデル運用を開始した。2021年は電子パスにおける運用課題の抽出と優先度を検討し、優先度の高い課題より対応した。同時に、電子パス作成診療科を拡大して作成を進めている。また、電子パスを効率的に作成するため、電子パス作成ツールの検討を進めている。

2021年 主な活動

- 1) 委員会開催；10回
- 2) パスレビュー実施；新規パス（3件）、改訂パス（10件）
- 3) パス担当者連絡会議開催；6月29日、7月6日、参加者（54名）
- 4) パス発表および動画掲載
テーマ；電子パス作成方法 - 肺悪性腫瘍手術パス -
日 付；11月4日（木）クリニカルパス委員会において
発表者；近石医師（呼吸器腫瘍外科）、佐野師長、東筋（北7階）
森田師長（東7階）、情報システム室
AIH-net クリニカルパス委員会ホームページに発表動画を掲載
- 5) クリニカルパス点検実施；3回（3月、7月、11月）点検総数（1,258件）
- 6) パス登録状況（登録総数 150パス）
新規登録；3パス、改訂登録；51パス
- 7) 2021年入院患者パス使用率（パス使用患者数/退院数）；39.9%（2020年 40.1%）
- 8) 電子パス作成開始診療科/病棟
■血液内科/（がん集学治療センター） ■消化器内科/東第四病棟
■呼吸器外科/北第七病棟・東第七病棟

次 年 に 向 け て：

1. 使用件数の多い既存のパスより電子パスに移行する計画を立て、複数の診療科・病棟で電子パス作成を開始する。
2. 電子パスのレビューを実施し、新たな電子パスの運用を開始する。
3. 電子パスシステムの学習環境を整え、全病棟で電子パス運用を可能にする。

11. QI 委員会

委員長 名取良弘

副委員長 的野多加志

目 的：

医療の質は一般的に構造（ストラクチャー）、過程（プロセス）と結果・転帰（アウトカム）で規定される。QI 委員会では、これら臨床や医療の質に関する指標（Quality Indicator、以下QI）の測定、報告および活用を基本とし、当院における医療の質を継続的に向上させ、Patient firstや患者サービスに貢献することを目的とする。

活 動 内 容：

開催回数：3回（3月、6月、12月）※6月はメール開催

主な活動内容：

- ・相談窓口として各部署がQIを設定する際のサポート（2021年：2部署にサポート実施）
- ・各部署が設定したQIの確認・委員会承認
- ・中長期計画「質と安全」第一中期報告書の承認および第二中期計画・方策の検討
- ・ISO委員会と連携し、ISO内部監査の場で「QIの数値が良い方向に向かうようにPDCAサイクルを回しているか？」の確認を実施

次 年 に 向 け て：

- ・QI設定・測定・質の維持改善に関するサポートの継続
- ・ISO内部監査によるQIの状況確認の継続
- ・第二中期計画の方策実行・推進

12. CS・ES委員会

委員長 渡邊恵里子
副委員長 楠元正道

目 的：

当院における医療の質の向上、患者サービスの充実、職員のモラル向上、患者・職員の満足度向上のために①患者満足度調査、②患者満足度向上への取り組み、③病院に対するクレーム対策、④職員の接遇向上、⑤職員の満足度向上の対策等を審議し推進する。

活 動 内 容：

定例会議を設け、患者・家族等の種々の意見やクレームに対し事実確認を行い対応している。ご意見やクレームは、通年行っている“入院患者満足度調査”や3ヶ所に設置している“患者さんご意見箱”から収集している。多く寄せられるご意見については、掲示板や患者さん向けの広報誌で病院の見解をお知らせしている。病院のホームページからのご意見や質問は、治療に関する相談内容が多く、関係部署に依頼して返事をしている。

患者・家族のご意見による主な改善内容

1. 外来の案内モニターについて、歩くときにぶつかる方がいると指摘があった。モニター下に観葉植物を設置し、側を通る人がモニターに近づきすぎないようにした。
2. 救急外来玄関の歩行器を増やして欲しいとの要望があった。正面玄関の歩行器を1台移動し、定数を変更し、今後の状況を確認することになった。

次年に向けて：

1. 入院患者アンケートの評価を行う。
2. 挨拶向上に向けての活動を行う。
3. 外来満足度調査の実施を検討する。
4. 患者さんからのご意見を元に改善を行う。

13. 急変対応委員会

委員長 小田浩之

副委員長 山田哲久

目 的：

院内において予期せぬ患者状態の危機的増悪（急変）発生の削減および発生時の影響緩和を目的とする。

活 動 内 容：

審議および決定事項（毎月1回の定例会議）

（ア）分析(2021年)

- 1.院内死亡 1,188件（来院時心肺停止または蘇生後 248件、看取り入院 2件、終末期<悪性腫瘍368件、脳神経94件、心臓70件、肺炎呼吸器173件、感染100件、肝不全17件、腎不全9件、心不全 8件、他97件>、その他2件）
- 2.ハリーコール：60件（病棟45件、その他15件）
- 3.Rapid Response System（以下、RRSと省略）稼働：6件
- 4.病棟からの入室 137件（ICU119件 H2救急4件、E4救急14件）

（イ）運用

- 1.COVID-19流行期におけるハリー対応に関して感染対策を統一した運用。
- 2.エネルギーセンター、ふれあい棟での急変対応に関して消防との協力体制の確立（特に、ストレッチャー収容不可能なエレベーターの場合の搬出方法の確立）。
- 3.院内での新型コロナウイルスワクチン接種時のアナフィラキシーおよび急変時の対応フローの確立および運用。

（ウ）教育

- 1.COVID-19流行期急変対応についてのe-learningをSafetyPlusに掲載する。
- 2.救急カート 薬品トレイ内容を見直し、容器をリニューアルする。
- 3.感染対策を行いつつICLSコース、JMECCを開催する。

（エ）主な決定事項

- 1.Mgをパニック値報告に入れることを臨床検査適正化委員会で提案する。
- 2.クエチアピン処方中にアドレナリン処方禁忌を警告レベルに落とす。
- 3.MRI室急変対応フロー（修正案）は決定とする。
- 4.DAT要請の場合は、主治医が挿管したいと言っても不可とする。
- 5.「休日・夜間 COVID-19流行期 代替救急カート使用フロー」を運用開始する。
- 6.ハリーバックの中にある外科的気道確保の物品は一旦外す。ハリーコール時のPPE対応が解除になれば再度入れるようにする。
- 7.放射線部の急変時対応フローを作成。51F（放射線検査待合室）・51A（一般撮影室）で外来患者が急変した時は、RRSではなく画像診療科師長に連絡とする。2021年7月1日から運用開始。

-
- 8.ERからICUへの入室基準を作成する。入室すべきか迷った場合は、救急HCUとICUで相談とする。
 - 9.病棟のBVMは、原則PEEPありとし、不要と回答した部署のみ配備しない。
 - 10.今後も「平日日勤帯におけるハリーコール参集時の処置参加人数の適正化」を継続する。
 - 11.RRS対応時は濃厚接触者とならないように、抱えたりストレッチャーに移したり等行う時は長袖ガウンを着用する。
 - 12.自動通報システムのないAED設置場所には、横に設置指定ある電話に、警備に連絡する記載となっていた。ハリーコール「3999」に変更する。
 - 13.ハリーコール当番は、周囲と差別化するために白帽子を装着する。
 - 14.「救急外来よりICU入室相談基準」を救急科・集中治療科・総合診療科救急HCUチームへの周知後、運用開始とする。ハリーコール当番の帽子は白帽子とし、ERは通常業務中も白帽子を着用してよい。
 - 15.RRS対応時のPPEは簡易PPE（マスク、アイガード、エプロン）とし、患者移動など発生時は、現場で長袖ガウンを着用する。RRS対象部署は長袖ガウンを設置する。

次年に向けて：

- (ア) 院内の急変事例を監視・測定・改善していく。
- (イ) 改善計画に則って、教育・啓発を行う。
- (ウ) 特にコロナ禍の急変対策に取り組む。

14. MRM 委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院で発生する不具合および院内外の情報をもとに、患者安全にかかわるシステムを監視・測定・改善していくことで、より安全な組織としていくことを目的とする。

活 動 内 容：

(ア) 審議事項（毎月1回の定例会議）

①主な決定事項

- 1.MRM委員会規約の改訂を承認する。ただし、委員会の名称は従来通りMRM委員会とし、2021年の夏以降に名称変更を検討する。
- 2.引き継ぐべき「警鐘事例」を部長会で伝達後、毎年5月頃に各部署長に送信し、部署内で周知する。
- 3.Safetyポイント制度の取得基準内容変更を承認する。
- 4.インスリン持続静注プロトコールについて、一部改訂後、病棟を指定しての使用を承認する。

②即時報告集計報告

- 1.全件3,930件（医師 148件、看護師 2,996件、薬剤師 84件、放射線技師110件、検査技師 87件、療法士 46件、他の技師 225件、事務191件、その他 43件）
- 2.警鐘事例 19件（診療・診断・合併症11件、薬剤2件、検査2件、手術・麻酔2件、ルート・ドレーン・チューブ1件、処置1件、食事0件、その他0件）、転倒転落骨折 15件

③改善事例

- 1.薬剤間違い（ヘパリンとプロタミン）による誤投与防止
- 2.病棟常備注射薬使用時の誤薬の防止
- 3.透析後止血ベルト外し忘れ防止
- 4.小児人工呼吸器回路接続誤り防止
- 5.内視鏡センター採取検体患者間違い防止
- 6.NICU臍帯血患者間違い防止
- 7.内視鏡センターでの鎮静薬過量投与防止

④Patient First Prize（不具合早期発見）選出・表彰

60名を表彰（医師 8、看護師 32、薬剤師 2、検査技師 6、放射線技師 3、臨床工学技士 4、その他 5）

(イ) MRM研修（院内研修会参照）

次年に向けて：

- (ア) 即時報告から院内の患者安全状況をモニターし、警鐘事例への再発防止対策をフォローしていく。
- (イ) 医療安全研修を計画、実施していく。

15. 透析機器安全管理委員会

委員長 藤崎毅一郎

副委員長 沖永一樹

目 的：

透析関連機器の保守管理に関する計画を策定し、それを適切に実施することにより、安全で質の高い透析治療を提供する。

活動内容：

<委員会における活動>

- 透析機器および水処理装置の管理計画立案と実施。
- 透析用水・透析液の水質管理（生菌数検査・エンドトキシン活性値検査の実施）。
- その他、本委員会の目的を達成するために必要と認める活動。

<活動実績>

1. 透析センターの透析装置43台（透析装置41台・個人用透析装置2台）、RO装置1台、透析液供給装置2台、透析剤溶解装置4台に対し、定期点検、定期部品交換を実施した。
2. 病棟透析室の透析装置12台（透析用監視装置10台・個人用透析装置2台）、RO装置1台、透析液供給装置1台、透析剤溶解装置2台に対し、定期点検、定期部品交換を実施した。
3. 保守点検と同様に関連装置全台でエンドトキシン活性値の測定及び生菌数検査を行い、清浄化の確認を行った。透析用水・透析液ともに日本透析医学会が提言する「2016年度版透析液水質基準」が定める基準値内で管理することができた。
4. 透析関連機器の安全使用のための研修を12回（延べ42名）実施した。
5. ハイケア2階病棟でのCOVID-19患者に対しての透析が実施できるよう、個人用RO装置1台を新たに設置した。
6. PTA患者の術前シャントフローボリューム測定は、医師が全例実施していたが、毎週火曜日のみ臨床工学技士が実施することとし、医師の業務量軽減を図った。

次年に向けて：

- 透析センターおよび病棟透析室の透析関連装置の保守管理と、透析用水・透析液の清浄化に務める。
- 従事者に対する透析関連機器の安全使用のための研修を継続していく。

16. 病院食サービス委員会

委員長 井上智彰
副委員長 大西崇平

目 的：

- 1) 入院患者さんへ適正な栄養管理を行うことを目的に、治療中のさまざまな病態に応じた多食種の食事を提供する。
- 2) 病院食自体が患者さんの治療やQOL向上に効果を認めるため、治療に貢献できる質の高い食事提供や、また入院生活の精神的サポート（楽しみ）になることである。
- 3) 当委員会は、飯塚病院の食事療法全般について、医師・看護師等を含む会議において定期的検討を行うものである。

活 動 内 容：

- 1) 毎月1回の委員会開催。定期会議の中で継続的に問題提議を行い、解決を行う。
- 2) 入院患者さんへのアンケートの実施（2回／年）
今回のアンケートの結果より食事の満足度は、76%であり前回の73%と比較し多少増加していた。但し朝食のバリエーションが少ない、味付けの工夫をして欲しいなどの意見があった。
- 3) 食材の賞味期限や数量をシステムで管理することを検討し1月より一部の倉庫から運用を開始した。その結果として、2021年は賞味期限切れの食材提供が0件であった。
- 4) 食事のオーダーリングシステムの改修について
食物アレルギーや嚥下障害のリスクの高い組み合わせになった際に選べない様システム変更を行った。
 - ①「汁とろみ」「全とろみ」のオーダーが入力された際はアラートが出て液体の飲料が選択できないようにした。
 - ②主食の形態と比べ主菜の形態が高い場合（主食が重湯で主菜が常食など）にオーダーの登録ができないようにした。
 - ③アレルギーとして小麦、卵、乳製品アレルギーのいずれかが選ばれた時にパンを選択できないようにした。
- 5) 給食部門ではシダックスフードサービスにコンサルトに入ってもらい少ない人員で効率よく業務をこなし、クックチル導入に向けての業務改善を行っている。

次年に向けて：

安心・安全で、且つ満足していただけるような食事提供を可能にするために病院食のKAIZENを継続的に行う。

【現在検討中の案件】

- ・人員不足に対する業務内容の見直し及び効率化の検討
- ・クックチル導入に向けた献立の見直し

17. 情報システム委員会

委員長 清田雅智

副委員長 田原英一

目 的：

本委員会は、情報システムを通じ、医療の質の向上、患者サービスの向上、業務の効率化、コストの削減等を図ることを目的として、活動しています。

活 動 内 容：

本委員会は、毎月開催し、情報システム・情報セキュリティに関する協議・検討や決定・承認を実施しています。

2021年の主な案件は、以下の通りです。

●システム開発・導入関連

- ・医師承認機能（食事オーダー、栄養指導）[1月]
- ・処方オーダー一時保存機能 [1月]
- ・オンライン退院時共同指導 [1月]
- ・入院処置箋 電子化 [2月]
- ・悪性腫瘍特異物質治療管理料 電子カルテ記載支援機能 [3月]
- ・入院患者呼出システム [3月]
- ・コミュニケーションツールDr2GO [4月～7月]
- ・遺伝子検査結果報告書 参照時警告メッセージ等追加 [7月]
- ・画像検査オーダー MR予約可能期間の延長 [9月]
- ・検査オーダー 超音波（ポータブル）オーダー等機能追加 [10月]
- ・入院処置箋システム [11月]

●サーバ、パソコン導入関連

- ・Windows10 Feature Update（機能更新プログラム）適用 [1月]
- ・Libraサーバ更新 [2月]
- ・Yahgeeサーバ更新 [2月、7月]
- ・部門システム サーバ統合検討 [11月]
- ・Web用ノートパソコン（患者Web面会用・スタッフWeb会議用）貸与検討 [12月]

●情報セキュリティ関連

- ・セキュリティ対策（アンチウイルスソフト、ファイアウォール等）実績報告 [5月、6月、10月]
- ・セキュリティポリシー見直し（病院スマートフォンへの医療情報システム導入） [5月～7月、9月]
- ・クラウドサービス利用申請（Agatha IRB：治験審査委員会資料の電子保存） [6月]
- ・リモートアクセスサービス（院外から病院情報システムアクセス）利用申請 [7月]
- ・SYNAPSE ZERO導入利用申請（病院スマートフォンでの医療画像参照） [9月]
- ・部門システムベンダーによるリモートメンテナンス環境のセキュリティ強化 [12月]

次 年 向 け て：

電子カルテ・オーダーリングシステム等の強化（電子パスの強化、入院透析患者管理システム、患者重要基本情報照会システム、地域医療情報連携システム等）、スマートフォンへの新システム導入、情報セキュリティ関連（セキュリティ対策の定例報告、ランサムウェア等の脅威への対策等）の検討・審議を行います。

18. 診療情報管理委員会

委員長 福村文雄

目 的：

診療録等の適切な管理・運用を行うと共に、診療支援・医学研究および教育・病院の運営など各種業務の円滑な遂行を図ることを目的とする。また、DPCコーディング委員会としてDPCコーディングに関する運用・管理を行う。

活 動 内 容：

- ・新規書式の申請（3件承認）
 - ・高次脳機能検査関連書式
 - ・心臓血管外科 多職種連携シート
 - ・植え込み型心電図デバイス装着患者 放射線治療リスク分類チェックリスト
- ・その他審議事項（8件審議）
 - ・カテポ保存期間について審議
 - ・薬関連フォルダについて審議
 - ・同意書の英訳版の運用について審議
 - ・診療録開示のガイドラインについて審議
 - ・診療記録開示ガイドラインについて審議
 - ・中央第四病棟（循環器内科）管理のシネフィルム破棄について審議
 - ・画像診療科管理の西棟地下のX線フィルム等の保管年限変更について審議
 - ・血液透析患者の透析時のフサン使用同意書の取得について審議
- ・報告事項（3件）
 - ・量的点検結果について報告
 - ・2020年度実績報告について
 - ・電子カルテ書式整理について報告
- ・DPCコーディング委員会
 - ・傷病名の選択について「最も医療資源を投入した傷病名」を変更した具体例
 - ・DPC処置情報を追加したケース
 - ・出来高請求となるもの
 - ・原疾患に基づくコーディング
 - ・総胆管結石にて「内視鏡的胆道ステント留置術＋内視鏡的乳頭切除術」施行
 - ・慢性閉塞性肺疾患の場合、誤嚥性肺炎が副傷病名として上がる例

次 年 向 け て：

法律や診療報酬制度において求められる記録を点検していく。さらに記録遵守の向上を目指して、記録を容易にするために電子カルテシステムの改定を考えていきたい。

19. 研修管理委員会

委員長 井村洋

目 的：

飯塚病院における初期及び新専門医制度・後期研修制度の実施に関する統括管理を行う

活 動 内 容：

奇数月に定例開催

【決定事項】

- 医科初期研修医 第31期17名および専攻医15名の研修修了の承認
- 歯科初期研修医 第1期1名の研修修了の承認
- 初期研修医 自己評価・指導医評価のEPOC2での運用開始
- 初期研修部会細則の変更
 - ▶ローテーションの選定ルール
 - ▶カウンターサイン（指導医の確認）
 - ▶休暇の設定（初期研修1年次）
- 初期研修 修了認定における必須参加項目の取り扱い
- 初期研修プログラムにおける外科系3診療科のローテーションのルール

【2022年度採用状況】

●初期研修医

医科：マッチング17名（定員17名）

（採用面接受験者数：61名、中間公表1位希望人数：32名、全国病院ランキング：19位）

歯科：マッチング1名（定員1名）（採用面接受験者数：4名）

●専攻医

内科プログラム ： 一次登録 16名（定員16名）

総合診療プログラム ： 一次登録 4名（定員6名）

外科プログラム ： 一次登録 3名（定員5名）

救急科プログラム ： 一次登録 3名（定員4名）

麻酔科プログラム ： 一次登録 1名（定員1名）

20. 図書委員会

委員長 藤崎毅一郎

副委員長 高瀬修治

目 的：

医学・医療の進展に伴う医療情報の増大に対して効率的な情報収集の支援を行うこと。電子情報化時代に即した蔵書管理、情報収集ツールを採用し、効率化、迅速化を進めること。

活 動 内 容：

毎月1回委員会を開催しています。

図書室管理運営規程に、オンラインコンテンツに関する規定を追加しました。

契約更新：「医中誌WEB」「UpToDate」「Dynamed」「MEDLINE Complete」

「メディカルオンライン」「メディカルオンライン イーブックス」「医書.jpオールアクセス」

新規契約：「Ovid Discovery」「Ovid Clinical & Hospital LWW Essential Collection」

購入書籍：47冊

年間購読雑誌：国内雑誌47タイトル、外国雑誌35（うちオンライン21）タイトル

新規購読雑誌：「Heart rhythm」「Current Opinion in Critical Care」

「Advances in Anatomic Pathology」「病院羅針盤」

購読中止雑誌：「Heart」「Progress In Cardiovascular Disease」「Annals of Emergency Medicine」

「Human Pathology」「脳神経外科速報」「NHKガッテン」「NHKきょうの健康」

「広報会議」「Heart View」

次 年 に 向 け て：

医学研究・最新医療の提供のためには、膨大な医療情報の中から、迅速で適切な情報抽出が必要となっています。特に文献情報は、電子媒体が中心となり、インターネット検索で得られる事が当たり前となっています。近年書籍・文献も冊子体から電子媒体へと変化が進み、ユーザーにとって、検索の効率化が図れる一方、出版社側は情報の一元的管理を進め、ユーザーに対しより優位な地位を得る結果となっております。最近では、複数書籍を閲覧できるパッケージなどが導入されてきたこと、コロナ禍にあり図書室の密な利用が厳しくなったこと等もあり、さらに電子書籍への移行を図るように推進しております。また、これまで進めてきました使用頻度の低い書籍の購入の中止、電子媒体への変更も、電子書籍への移行によって様変わりしてきています。持続する新型コロナ感染症対策のため学会のWebおよびハイブリット開催が主流となりつつあり、今後もこのデジタル化への潮流は一層持続すると考えます。今のところ大きな問題は生じていませんが、需要に対して有効利用が行って頂ける様に活動をしていきたいと考えています。

21. クレデンシャル委員会

委員長 名取良弘

目 的：

教育・研修ブロックの常設委員会として、飯塚病院勤務医師の能力向上を通じて、飯塚病院で提供される医療の水準と患者さんの安全を向上させることを目的に活動を実施しています。

活動としては次のように、医師の技量評価に関する検討と資格認定が主な業務です。

【プリヴィレッジ】各医師の診療行為の範囲を定める

【クレデンシャル】プリヴィレッジを定めるにあたって資格を判断する

活 動 内 容：

毎月一回、部長会後に委員会を開催しております。

開催概要は、以下の通りです。

- ◆開催日時：毎月1回、部長会議終了後
- ◆委員：各科管理部長（または部長代行）
- ◆実行委員：委員長1名、副委員長1名、事務局（人事課）
- ◆定例の活動：各診療科、医師ごとに作成されたプリヴィレッジリストの検討として、定期的の見直し、修正、項目の追加、新任医師の登録などの承認を実施しています。

次年に向けて：

2021年はプリヴィレッジリスト登録の目的や意義の周知を図り、リストの自己評価から実際の技量評価・リスト登録までの流れを説明し、早期の登録や内容の見直しを図ってきました。

2022年も引き続き力量評価表のさらなるブラッシュアップを実施し、新任医師についても情報の早期登録を行います。

また、各医師に対してReviewを行いPrivilegingし、本委員会でCredentialingすることで、各医師のPrivilegingを決定、見える化を行い、このPrivilegingシステムを基にデミング賞受審に向けての準備、そして将来的に医師全体の評価方法の見直し、評価システムの再考や諸規程の整備につなげていきたいと考えています。

22. 手術室業務改善委員会

委員長 尾崎実展

副委員長 花村裕美

目的：

手術室勤務者の業務拡大と資質の向上ならびに手術室運営の効率化を進める。

委員会設立の経緯：

2005年にヨーロッパ静脈経腸栄養学会(ESPEN)で公表された術後強化回復プログラム(Enhanced Recovery after Surgery:ERAS)が普及し、術後回復促進の考え方が激変した。これを受け、当院でも手術前・手術中・手術後を区切ることなく周術期として一つの単位と考え、周術期管理チームで管理する発想が生まれた。麻酔補助看護師(AAN)・手術室エイド(ORA)・手術室テクニシャン(ORT)等の認証制度を立ち上げ、効率的運用に寄与するべく本委員会が創設され、2015年から研修ブロック管轄下に院内安全ブロックから移行した。

活動内容：

1. 麻酔補助看護師(Anesthesia Assistant Nurse:AAN)制度 麻酔科医の業務の一部である麻酔維持管理を補助する資質を有する看護師をAANと呼ぶ。麻酔維持管理について学んだ後に、実地指導と試験合格を経て院長より認証される。麻酔科医の指示のもとで麻酔維持管理を行い、麻酔業務を補助する。
2. 手術室テクニシャン(Operating Room Technician:ORT)制度 手術室外回り業務の一部である器械出し業務を看護師に代わってORTが行う。ステップアップ研修を受け、外科医より評価を受け認証される。
3. 手術室PACU(Post Anesthesia Care Unit: 麻酔後回復室)設立
PACUは手術終了後にICU・HCU・回復室等を経由せず直接病棟に戻る患者さんを対象として、術後一定時間経過観察を行うエリアである。現在は、整形外科の人工関節手術術後の患者さんを対象とし、麻酔科学会が主催する周術期管理チーム認定試験に合格した5名の手術室看護師を中心に運営されている。
4. 2021年の主な活動
 - a) AAN認定者13名(手術室勤務12名、ER勤務1名)に変わりなし。
AAN8名に対し再認定試験を行い全員合格した。
2022年度より特定行為看護師養成研修が当院で開始予定であり、今後は手術麻酔領域の特定行為取得者をAANとしても認定する。
 - b) ORT2名、ORT2名に変わりなし。
 - c) 古賀 聡外科部長、久保佳子管理師長、矢野知代手術室主任看護師が委員会メンバーとなり、2021年4月1日付辞令を交付した。

次年に向けて：

特定行為看護師制度の資格取得者の待遇改善および医療保険や訴訟(補償)等への対応に関し委員会として病院への働きかけを行っていく。

23. 内視鏡センター業務改善委員会

委員長 久保川 賢
副委員長 中島 久美子

目 的：

内視鏡センター勤務者の高度内視鏡医療への積極的参加を進め、医療の質の向上を図る。

活 動 内 容：

規約上の活動範囲

- 1) 内視鏡センター業務改善に関するもの
- 2) 院内認定資格制度規約の作成及び定期的な運営管理

2021年度活動内容

- 1) 内視鏡センター関連部署のスタッフ（内視鏡施行医師、内視鏡センター所属臨床工学技士・看護師・医療秘書・医療事務・放射線技師、予防医学センター長及びサブマネージャー、消化器内科病棟看護師、消化器内科外来看護師）と外部委員（人事課、薬剤部、看護部）による3ヶ月に1回の内視鏡関連業務についての現状把握と業務改善のため会議を開催した。
- 2) 上記会議において内視鏡検査種別件数動向、内視鏡センター内X線関連検査種別検査動向、内視鏡関連機器の故障等発生状況、病棟での内視鏡治療の術後合併症等の発生状況、消化器内科新規紹介患者数動向、鎮静下内視鏡検査を受けた患者の安全度と満足度の調査結果をシェアし、内視鏡診療チーム医療の質の向上に向けた改善に取り組んだ。
- 3) 超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引法（EUS-FNA）支援臨床工学技士制度に基づき認定された33名の内視鏡センター臨床工学技士は、EUS-FNAチーム医療の診療成績向上のため、2021年度に計128例の症例経験を積みスキルアップした。
- 4) 2021年も2020年同様、内視鏡センター内の感染防止対策に取り組んだ。

24. 地域医療支援病院研修委員会

委員長 岩佐紀輝

目的：

地域医療支援病院として地域医療レベルを向上させるために必要な研修会の設立・運営・管理・活動支援を行う。

活動内容：

1. 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実施状況の把握
2. 研修会の案内、運営、参加者の把握などの実務管理

2020年に飯塚病院が主体となって開催された研修会は以下の通り。

- 総開催回数・・・47回（前年38回）
- 延べ参加者数・・・1,575名（前年1,408名）
- 院外からの参加者数・・・791名（前年653名）

	研修項目	実施回数	参加者数
診療部門	筑豊救命救急研究会	12回	166名
	飯塚病院連携施設間会議（地域カンファ）	3回	197名
	筑豊小児科医会勉強会	10回	287名
	特別支援学校との座談会	4回	26名
看護部門	新人看護職員臨床研修	3回	128名
医療技術部門	心理士	1回	11名
	筑豊支部病院薬剤師会	9回	497名
	筑豊ブロック薬剤師会学術研修会	4回	196名
	地域連携パス研究会	1回	67名
延べ総数		47回	1,575名

次年に向けて：

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から、地域医療支援病院報告会など医療者が大勢集う研修会は今年度も見送った。しかし、オンライン研修会や集合とオンラインを組み合わせたハイブリッド研修会など、コロナ禍で多様な方法で研修会が開催された。

今後も新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、柔軟に研修会を開催していきたい。

25. 倫理委員会

委員長 名取良弘

目 的：

「患者の権利に関するリスボン宣言」及び「ヘルシンキ宣言」の趣旨と、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」、その他倫理審査委員会の設置について規定する法律及び関係法規・指針に基づき、飯塚病院における患者の人権の擁護を目的として、以下の事項を行う。

- 1) 医療をめぐる患者の権利や生命倫理に関する事項についての審査
- 2) 飯塚病院にて行う研究の実施の可否
- 3) 飯塚病院にて行う新規医療行為の実施・継続の可否
- 4) 研究倫理に関する院内教育

活動内容：

原則的に、毎月第3月曜日に開催されている。2021年の当委員会申請総数は142件（対前年比-4%）、臨床研究74件、学会発表37件、新規診療行為5件、情報提供3件、TQM15件、その他8件

部署名	申請数	部署名	申請数	部署名	申請数
呼吸器内科	19	血液内科	4	脳神経内科	1
看護部	17	中央検査部	4	連携医療・緩和ケア科	1
救急科	13	リエゾン精神科	3	耳鼻咽喉科	1
外科	12	整形外科	3	泌尿器科	1
リハビリテーション部	9	病理科	3	薬剤部	1
小児科	7	診療情報管理室	3	医療福祉室	1
循環器内科	7	集中治療科	2	地域連携センター (ふれあいセンター)	1
膠原病・リウマチ内科	6	医事課	2	臨床心理室	1
消化器内科	5	漢方診療科	2	人事課	1
感染症科	5	産婦人科	1	治験管理室	1
肝臓内科	4	総合診療科	1	総計	142

審査結果の内訳は承認121件、却下3件、修正の上承認17件、継続審議1件である。申請部署と申請数は先述の表の通りである。また、研究に係る職員に対し、研究指針等の遵守を目的に臨床研究における倫理的事項に関する研修（臨床研究管理委員会と共同開催）を計17回開催、507名の職員が受講した。

次年に向けて：

引き続き飯塚病院における患者の人権の擁護を目的とし活動を行っていく。

1. 倫理委員会の開催

- ・月1回定例に倫理委員会を開催する
- ・案件に応じ適宜に臨時の倫理委員会を開催する

2. 教育活動

- ・研究に係る職員に対し研究倫理指針等の遵守を目的に研修会を行う

26. 臨床研究管理委員会

委員長 白土基明

目 的：

- 飯塚病院におけるすべての臨床研究の適切な運営管理
- 臨床研究に関する教育活動

活 動 内 容：

- 臨床研究の適切な運営管理を行った。

人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行った。また定期的な監査を実施した。

1. 委員会の開催

2021年7月20日 審議内容：2021年上期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議

2021年12月21日 審議内容：2021年下期 迅速審査及び監査結果の報告及び審議

2. 迅速審査の実施

実施状況の審査：継続 175件、終了53件、

実施計画（研究計画書、同意説明文書、ホームページ掲載文書、研究責任者交代、研究分担者追加・削除、研究期間延長、対象期間延長、目標症例数）の変更の審査：288件

3. 監査の実施

監査対象の選出：全研究から無作為に抽出した。過去に行った部署とは違う部署を選出することを原則としているが、2021年より2巡目に入っている。

上期①看護部（2021年7月8日）：A問題なし、②産婦人科（2021年7月15日）：B改善勧告

下期①整形外科（2021年12月13日）：B改善勧告、②消化器内科（2021年12月16日）：A問題なし

4. 重篤な有害事象に関する報告27件、不適切事案に関する報告1件について研究継続審査の実施

- 臨床研究に関する教育活動を行った。

臨床研究の倫理に関する研修（共催：倫理委員会）

研修の対象者：研究に係る職員

開催回数：17回（2021年1月～2021年12月）

受講者数：507名（2021年1月～2021年12月の合計）

次年に向けて：

飯塚病院におけるすべての臨床研究において、倫理指針に沿って適切に行われるよう、実施状況、実施計画書の変更、同意説明文書・同意書の変更、有害事象及び不具合の発生事例、関係書類の保管状況などについて審査を行う。また定期的な監査を実施する。

- 通常審査：年2回定期的に委員会を開催し審査及び臨床研究に関する事項についての検討を行う。
また、期間に行った迅速審査及び監査の報告を受ける。
重要な案件が発生した場合は臨時で委員会を開催する。
- 迅速審査：研究計画の変更等の審査を随時行う。また実施状況について年に1回審査を行う。
- 監 査：年2回、臨床研究の監査を実施する。
- 教育活動：研究者に、年1回の倫理研修の受講が徹底されるよう啓蒙活動を行う。

27. 治験審査委員会

委員長 原俊彦

副委員長 辻岡寛

目 的：

審査依頼のあった治験及び製造販売後臨床試験に関し、主に患者利益を保護する観点から倫理的・科学的に妥当な計画・方法であるかを審査し、実施の可否を判断する。又、進行中の治験及び製造販売後臨床試験において、重篤な有害事象、実施計画の変更、内外から報告される有害事象についての安全性、年間の実施状況、逸脱事項等について審査し、その継続の可否を判断、承認を行う。

活動内容：

2021年は、治験の新規審査を9件行った。2020年の6件より3件の増であった。又、当院で発生した重篤な有害事象について5件（前年比-30）、実施計画の変更について128件（前年比-12）（この内、迅速審査33件）、安全性に関する報告について377件（前年比-32）、継続（実施状況）について21件（前年比-8）の審査を行った。2018年7月より始めた審査資料の電子化・iPadを用いた審査を継続した結果、環境負荷の低減（紙資源廃棄ゼロ）・作業時間の短縮ができており効率的な運営ができた。

また新規審査9件以外に、新規治験1件を外部治験審査委員会（日本橋さくらクリニック）にて審査、承認された。その後も当該治験は外部審査委員会にて審査を行っているが、治験実施に問題はない。

次年に向けて：

1. 法令（GCP）の規制下にある委員会であるため、今後も違反のないように運営にあたる。
2. 患者の権利保護の視点を徹底し、倫理的・科学的に妥当な審査が行われるよう審査の質のより一層の向上を目指す。
3. 2.の項目のために配付資料等をより分かり易いものとしていく。

28. 脳死判定委員会

委員長 高瀬敬一郎

副委員長 岡松由記

目 的：

臓器の移植に関する法律に基づき、臓器提供施設である当院において発生した「脳死とされうる状態」に該当する患者さんに対して適正な脳死判定を行うこと。ひいては、円滑な臓器提供に資すること。

活 動 内 容：

院内臓器提供コーディネーターの主催により行われている臓器提供勉強会では、医師、コーディネーター、臨床検査技師、看護師らと密接に連携をとり、積極的に参加するとともに必要に応じて講演や情報提供を行っている。この勉強会にて脳死下臓器提供机上シミュレーションを行っている。また年に1回脳死判定委員会を開催し、情報の共有に務めている。

次年に向けて：

今後も勉強会、脳死下臓器提供机上シミュレーションや、脳死患者対応セミナーなどを通じて全員が情報を常に新しく保つよう努力し、実際に「脳死とされうる状態」に該当する患者さんが発生したときに滞りなく作業が進むように環境を整えていくよう努力する。

29. 小児虐待防止委員会

委員長 田中祥一朗

背景：

当委員会は2006年2月に発足し、同年11月に常設委員会としての活動を認可された。2013年6月に福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業の児童虐待防止の拠点病院となり、院内の虐待対応に加え地域医療機関に向けての啓発活動や相談に応じている。

目的：

- 院内の児童虐待事例を早期発見し、部門横断的に評価や治療を行う。
- 関係機関（自治体・児童相談所・警察など）への報告を含め、早期対応に努める。
- 院内や地域関係機関と連携し、児童虐待防止の意識啓発を行う。
- 児童虐待防止拠点病院として、虐待対応に関する相談への助言、地域の体制整備を行う。
- 地域の要保護児童対策地域協議会へ参画し、地域との連携協力をすすめる。
- 18歳未満の脳死下臓器移植に関して、臓器提供コーディネーターと連携して虐待判定を行う。

活動報告：

- 院内で、児童虐待の疑い症例について早期対応に努めた。
- 救命救急センター内の診療において、児童虐待トリアージ（①受傷時刻が遅い、②受傷から受診までの期間が長い、③年齢にあわない受傷内容、④汚染や季節に合わない服装）を継続している。トリアージされた全症例が当委員会に報告され、コーディネーターが連携を図り、地域の支援につなげている。
- 児童相談所の依頼を受けて、診療、診断書作成などの対応をしたケースが15件あった。保護委託の入院を4件引き受けた。
- 11月の児童虐待防止推進月間にあわせて、飯塚病院、飯塚市、桂川町、飯塚警察署、田川児童相談所の5機関で、児童虐待防止に関する啓発活動を行った。
- 虐待報告受理件数は、のべ256件（2021年1月～12月）。詳細は下記の通り。

◆内訳（重複有り）

ネグレクト	184
身体的虐待	33
心理的虐待	24
性的虐待（性被害）	0（2）
要支援	28
除外・その他（死亡など）	15
計	284

◆報告した連携機関（重複あり）

（市町村）保健センター	144
児童相談所	57
（市町村）児童家庭課	84
警察	5
保育園・幼稚園	0
学校	3
かかりつけ医	2

次年に向けて：

- 多職種協働・地域連携を推進し、相談しやすい体制づくりに努める。
- 虐待症例のデータベース構築を行い、業務の効率化・省力化を図り、相談・支援の充実を図る。
- 自治体などと協力し、児童虐待の教育研修を企画し、地域全体の虐待防止対応能力向上を図る。

30. 患者行動制限最小化委員会

委員長 光安博志

目 的：

精神科病棟入院中の患者で、行動制限を受けている者に対して審議し、患者の人権擁護を目的とする。

活 動 内 容：

■定期的な委員会の開催

毎月第2金曜日、精神保健指定医であるリエゾン精神科部長を委員長として開催。下記事項について審議し、適正かつ最小限の行動制限に改善を図る。

1. 妥当性について倫理的、法的側面と臨床的現実性とを照合しつつ検討
2. 制限範囲の縮小
3. 早期解除
4. 処遇改善
5. 年2回の研修を計画・開催
6. 委員長は審議された事項を、院長に答申

■2021年の新規活動内容

行動制限下にある患者の現時点（直近一週間）における精神状態、自傷・他害のおそれ、身体合併症、アドヒアランス、認知機能について、当院独自の状態評価スケールを作成し、多職種で情報共有するようになった。この評価指標を用いることにより、多面的かつ客観的にリスク評価および行動制限の是非を検討できるようになった。

次年に向けて：

精神科病棟での行動制限は精神保健福祉法に基づき、精神障害者に対して精神保健指定医の判断のもとで行われる。行動制限は、患者の人権、意思を尊重しながらも、患者の医療、安全および保護の必要性を考慮の上で慎重に行わなければいけない。今後も、過剰な行動制限が実施されていないかという点を常に評価、検討を続けながら、適切で必要最小限の行動制限を目指す。

31. 個人情報保護委員会

委員長 福村文雄

目 的：

飯塚病院における、診療等に係る個人情報の取得、保有、管理等の厳正な取扱いを図ることを目的とする。

活 動 内 容：

原則的に、月1回開催。下記事項について審議し規定に基づき対応を行う。

1. 個人情報保護法改定に伴う個人情報保護規定の改定
2. 個人情報保護に関する審議依頼への対応
3. 不具合発生に対する再発防止対策
4. 従業員の個人情報取扱いに関する教育

2021年は、主に下記の案件について審議を行った。

【主な審議・報告件数】：審議件数 6件、その他確認事項 1件

1) 審議

- ・セキュリティー対策Web会議システムでの患者情報の取り扱いについて審議
- ・Zoom（Web会議）使用について審議
- ・TXP社 事前問診・お薬手帳OCR読み込み導入について審議。
- ・Agatha株式会社 Agatha IRB導入について審議。
- ・理学療法士認定カリキュラム教育機関の申請に伴う、院外研修生の個人情報の取り扱いについて審議
- ・Web会議システムでの患者情報の取り扱いについて審議

2) その他確認事項

- ・院内個人情報保護規程改訂について

【個人情報に関する即時報告】

即時報告件数 27件。いずれも書類送付ミスなど軽微なもの。
個人情報漏洩に該当する報告は0件。

次年に向けて：

1. 関連部署との連携を図り、院内における個人情報の取得、保有、管理を適切に行う。
2. 従業員の個人情報取扱いに関する教育内容を計画・実施する。

32. 呼吸管理委員会

委員長 飛野和則

副委員長 野見山由美子

目 的：

当委員会の目的は、「人工呼吸を使用する患者さんの安全確保と治療の質の向上」である。具体的にはRST（Respiratory Support Team）活動が円滑に行われるよう院内の環境整備を行うほか、RST活動が適切に行われているか、また、人工呼吸管理や合併症の発生率、合併症発生に伴う入院期間延長などについて調査する。その他、人工呼吸器治療の質向上と標準化を目指し、医師や看護師へ教育を行っている。加えて、コスト管理についても見直し、医療事故をなくすために安全な方法や器具を取り入れるよう努めている。

活 動 内 容：

1. RSTラウンド

2006年より、“気軽に相談できる体制作り”を目的として、RST看護師と臨床工学技士が月1回のRST回診を行ってきた。2010年からは、医師、理学療法士を加えた多職種のメンバーで、週1回のRST回診を行った。電子カルテ化に伴い、回診記録の確実性・簡素化を徹底し、治療計画書作成を回診時に行えるよう調整している。2021年は4症例の診療報酬対象の回診だけでなく、救急病床や在宅人工呼吸器装着の患者さんの回診、不具合報告のあった症例や病棟から回診依頼のあった1症例の回診を行った。

2. 院内向け研修会

2021年実施実績なし

3. 院内看護師研修

6月より新人看護師を対象にビギナーズコース、10月より新人及び中途採用看護師を対象にAコースの研修を行った。

次 年 向 け て：

在宅人工呼吸器を携帯した患者さんの緊急入院やレスパイト目的の入院も増加が予想され、院内だけの呼吸管理には限界がある。2022年も引き続き、地域ネットワーク作りを着実に進めて行きたい。また、今後も呼吸管理に関わる新しい機器が発売される見込みであるため、知識のアップデートを継続して行う。

33. 褥瘡管理委員会

委員長 幸田 太

副委員長 橋口晋一郎

野島 薫

目 的：

1. 褥瘡発生および医療関連圧迫機器創傷発生の要因分析を追求して、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の軽減と重症事例を出さない取り組みを行う。
2. 褥瘡対策チームと連携し、褥瘡管理に関連した院内システムの再検討を行う。
3. 褥瘡管理に関する質向上のために、褥瘡研修会に参加できないスタッフも含め、総合的に教育計画を立てて策定していく。

活 動 内 容：

1. 褥瘡管理委員会・各病棟の褥瘡リンクメンバーによるミーティングの開催
 - 褥瘡管理委員会：3月25日、4月22日、6月24日、7月29日、10月28日、11月25日、12月23日実施。
 - 褥瘡リンクミーティング：4月21日、6月16日、7月21日、10月20日、11月17日実施。
 - 院内で起きた事例についてのディスカッションと予防、対策の周知を行った。
 - 褥瘡管理委員会の中で事例検討の場を設けて、多職種を交えての取り組みを行った。
2. 院内外の関係者に対する研修会の開催
 - COVID-19の感染拡大を考慮の上、今年度は下記2点の研修会の様式変更を行った。
 - 昨年度まで実施していた院内及び院外の医療・介護従事者を対象とした集合教育は中止して、褥瘡管理委員会HP上へ掲載した「脳トレ」を病棟看護師・介護福祉士全員へ解いてもらう様式へ変更して院内教育を実施した。
 - 「褥瘡リンクメンバー活動報告」を例年1月～3月に対面で実施していたが、今年度は、対面での発表は行わず、各病棟から活動報告資料を提出してもらい、褥瘡管理委員会HP上へ掲載して情報共有する様式へ変更した。
3. 褥瘡回診の開催
 - 褥瘡管理依頼書が提出された事例に対し、医師・看護師・栄養士・薬剤師・理学療法士の多職種チームで褥瘡回診を行った。
4. 褥瘡予防具の管理
 - 褥瘡予防具の調査を年2回（4月・12月）に実施した。12月の調査より褥瘡管理委員会での管理はウェーブのみとした。
 - 連休におけるエアマットの使用手順の作成を行った。
5. 院内褥瘡患者（院外発生・院内発生）に関する動態把握（統計）
 - 毎月院内褥瘡発生分析・医療関連機器圧迫創傷発生分析を出し、その月の重点ポイントを掲載し、全病棟管理者と褥瘡リンクメンバーへ配信した。
 - WOCN・病棟褥瘡委員やコメディカルなど多職種で協働しながら予防的ケアに努め、褥瘡発生率または重症化を更に低減させ、治癒率をアップさせるよう努めた。
 - 2011年2月より院内での目標とする院内褥瘡発生率1%未満を継続中である。

次年に向けて：

1. 褥瘡発生および医療関連圧迫機器創傷発生の要因分析を追求して、より効果的なケアと褥瘡予防対策に結びつけ、発生率の減少と重症事例を出さないための活動を継続する。
2. 感染対策を意識しながら、褥瘡ケアの質向上のための教育計画を褥瘡リンクメンバーとともに策定していく。
3. 褥瘡管理委員会のホームページの更新予定

34. 栄養管理委員会

委員長 田口匠平

副委員長 牧俊允

目 的：

1. 栄養評価・栄養管理の側面から治療をサポートする。
2. 栄養に関する薬剤・食品の選択、デバイスの新規採用や更新に関して、現状を把握するとともに問題点があれば改善に努める。
3. 病院常設委員会として、飯塚病院における栄養管理に関する事項について検討、適正化を図り、院内を指導するほか、下部組織であるNST（栄養サポートチーム）活動が円滑に行えるよう環境整備を行う。適切な活動が行えるようバックアップすることで、最終的には褥瘡・重症感染症・院内感染などのリスクを減少させ、在院日数の短縮、薬剤・材料費用の適正化、入院経済効率改善を達成する。

活 動 内 容：

1. 多様な疾患・病態に対応できるよう、輸液製剤や栄養剤、関連機材の新たな選択や絞込みを行った。
2. これまでの「NST回診」を充実させ、週1回のNSTカンファレンスと回診を行い、個々の症例に対して個別に作成した栄養治療実施計画書に基づいた治療を実施し、栄養治療実施報告書を作成した。
3. 栄養管理委員会を毎月1回開催し、上記活動内容の報告・検討を行った。
4. 栄養スクリーニングの適正化に向けた新システムの構築を行った。2022年1月よりプレ運用を行う予定である。
5. 4月より全職員向けに「NST通信」の配信を開始した。

次 年 向 け て：

1. 院内スタッフのNST教育に努め、栄養管理の質向上を図る。
2. NSTリンクナースの役割を明確にし、病棟スタッフへの情報発信や教育方法を確立する。
3. 地域NSTの更なる連携を目指して、筑豊臨床栄養研究会の開催・内容の見直しを行う。
4. 学会発表を奨励・推進し、外部施設からの講演依頼や投稿依頼を積極的に引き受ける。
5. 新しい栄養スクリーニングシステムの運用を、看護部等の関係する部署と協力して行う。

35. 輸血療法委員会

委員長 喜安純一

副委員長 濱井優輔

目 的：

適正かつ安全な輸血療法の推進を目的とします。

活 動 内 容：

【年6回の委員会の開催】

- 血液製剤及びアルブミン製剤の科別使用状況の報告
1ヶ月毎の血液製剤及びアルブミン製剤の使用量を診療科別に報告しました。また、使用量が特に多かった患者さんは病名や経過についても報告しました。
- 輸血管理料について
血液製剤適正使用の要件を満たした施設に輸血管理料の算定が認められ、当院は輸血管理料Ⅰの認定施設です。また、FFPの使用量をRBCの使用量で除した値(FFP/RBC)が0.54未満かつアルブミン製剤の使用量をRBCの使用量で除した値(ALB/RBC)が2.00未満であれば輸血適正使用加算が取得できます。2021年1月～12月ではFFP/RBCは0.55で、ALB/RBCは1.07でした。FFP/RBCが基準を超えた要因としては、循環器内科・総合診療科・心臓血管外科においてFFP/RBCが増加していました。
- 血漿分画製剤の使用状況の報告
1ヶ月毎の血漿分画製剤の使用量を製剤毎に報告しました。
- 血液製剤、血漿分画製剤の査定状況の報告
血液製剤、血漿分画製剤の査定理由を患者毎に報告しました。
- 輸血関連即時報告
輸血に関連する即時報告の内容・原因・対策について報告しました。
- 製剤の破損報告
2021年の破損金額は975,497円でした。2020年より破損金額が約8万円減少しました。防ぎうる破損については、院内メールにて啓蒙したことが減少につながったと思われます。
- その他
 - 輸血同意書について
同意書取得時でのおおよその使用量の記載を指針で求められていますが、記載する箇所が設けられていなかったため、記載箇所を作成しました。
 - コンピュータークロスマッチの導入について
輸血検査システムの更新時に、コンピュータークロスマッチの導入を行いました。コンピュータークロスマッチとは一定の条件下（血型・不規則抗体実施済み等）において、システムにてRBCの適合性を確認する方法であり、導入により輸血製剤の準備時間を短縮することができました。

次 年 に 向 け て：

より安全で迅速な輸血療法の実施を目指して活動します。今後も血液製剤の使用・破損状況の把握や輸血に関する諸問題の討議・解決策を実行し適正かつ安全な輸血療法の推進に努めます。コロナ禍の状況が続いており、献血者数が減少している状況にあります。より一層の適切な製剤使用や破損減少に取り組むたいと思います。

36. 診療報酬適正管理委員会

委員長 清田雅智
副委員長 楠元正道
渡邊恵里子

目 的：

診療報酬請求業務を総括し、適正な請求を目指すことにより病院経営に貢献する。

活 動 内 容：

* 診療報酬適正管理委員会

月に1回開催し、以下の事項について協議を施行

- ① 減点金額の集計及び報告
- ② 減点内容及びその傾向や対応策の検討
- ③ 各減点内容に関しての再審査請求の決定、申請書類の検討
- ④ 高額な請求に関して症状詳記やデータ等の内容検討
- ⑤ オレンジレポートの指定、検証報告（解決済みの案件）
- ⑥ ブルーレポートの指定、検証報告（解決済みの案件）

* 部長会議での報告（月1回）

* 部長会でのワンポイントアドバイス（月1回）

* 医師への保険診療に対する指導・提案（随時）

* クラークへの査定報告と査定対応策等の指導（月1回）

* 診療報酬に関する研修の企画や実施

【各レポートの対応内容】

○オレンジレポート（過剰な医療行為や、解釈の誤解等に基づく査定に対する対象者個人への案件）

回収件数：36件

対象項目の内訳（手術:18件、注射:5件、投薬:4件、画像、輸血:3件、検査、在宅、食事:1件）

具体例：保険適応外の算定、誤算定、病名不備、新薬の超過日数投与

○ブルーレポート（運用面に関係している査定問題で、システム的な解決を必要とする案件）

解決件数：21件

具体例：新薬の上限超過日数の処方制限システム構築

輸血オーダー時に、輸血ガイドラインに沿ったオーダーを促す為のシステム構築

腫瘍マーカーや、胸腹部エコーの過剰査定分析と査定対策立案

次年に向けて：

当委員会にて、査定についての対応策や検討事項等を医師やクラークへフィードバックし、適正請求の理解を深め医療の質の向上を目指す。

- ・外来の検査の項目での過剰査定を項目毎に分析、査定対策立案
- ・過去の査定理由やブルーレポート対応の結果をデータベース化し、情報の閲覧性を高める工夫を行う。

37. 臨床検査適正化委員会

委員長 大石善丈
副委員長 秋永理恵

目 的：

検体管理加算（IV）に関する施設基準の一部を満たすために設立された委員会である。院内における臨床検査を適正に運営、監視する。具体的には、各診療科が求める臨床検査を整備し、検査内容が正確かつ迅速、確実に報告される環境を整える。また他部門からの要求を協議し、ムリ・ムダ・ムラを生じさせず、検査の妥当性を確認する。

活動内容：

委員会は月1回（第3木曜日16:30～約1時間）開催した。中央検査部内の各部署から提出された要望（検査依頼方法変更、新規導入検査、検査法の変更、報告内容の整備など）について審議し、適切な変更、導入をおこなった。飯塚病院の各委員会、診療科の臨床医から提出された要望（院内検査導入、新規指数表示項目の導入、検査依頼セット化など）についても適正であるかを審議し、導入すべきかを協議した。2021年は新型コロナウイルス感染症に関連する行動規範（福岡県緊急事態宣言）により、適正化委員会の開催を見送る月もあった。

以下、主な活動内容を報告する。

- 1月：遊離型フェニトイン血中濃度の新規追加依頼は、特殊伝票で個別に対応。
依頼カテゴリー及び検査項目の整備は、継続審議。
TAT・インシデントに関する報告は、次回から議題として省略し、必要に応じて適宜報告。
- 2月：F-T3の院内検査は委託検査へ変更承認。パニック値報告項目へのMg追加は継続審議。
SIGNIFYTM ERの導入は承認。依頼カテゴリー及び検査項目は継続審議。
- 3月：検査依頼カテゴリー及び検査項目整備は継続審議。パニック値報告項目へのMg追加は却下。
- 4月：これまでの審議内容に対する検査依頼カテゴリー及び検査項目の整備は承認。
- 5月：飯塚病院行動規範により中止。
- 6月：遺伝子検査結果の保存および閲覧は、かずさ遺伝子検査専用のフォルダを作製し、医師のみに閲覧制限をかける条件で承認。エコー検査の飛び入り枠と予約枠変更は承認。
- 7月：新規外注項目のオーダーおよび結果カテゴリーは承認。
生殖細胞系遺伝子検査は、医師のみに閲覧制限をかける条件で承認。
救急外来でのCOVID-19検査のセット化は、継続審議。
- 8月：飯塚病院行動規範により延期。
- 9月：一次サンプル採取マニュアルの基準値変更は承認。
術前検査必須項目のセット化は、継続審議。
- 10月：要望少数のため中止。セット化の議題について、医師と意見交換。
- 11月：耳鼻咽喉科医師によるセット化の依頼項目について、以前がん診療連携委員会から提出されたセット項目について内容が類似しており、病院全体の議題として再審議。薬剤感受性試験パネルの変更は承認。
- 12月：飯塚病院行動規範により中止。

次年に向けて：

引き続き、新規検査・機器導入、基準範囲・測定方法の変更などの適正化を図ると共に、不適切な検査依頼方法や無駄な検査依頼を洗い出し、業務改善に繋げていく。また、委員メンバーの参加率を上げ、多くの意見をいただけるように運営を工夫していきたい。

38. がん診療連携委員会

委員長 本村健太

目的：

「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針（厚生労働省）」に基づき、地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進および飯塚病院における「がん診療」に関わる環境整備を推進する。

活動内容：

【活動①】福岡県がん診療連携協議会および専門部会への参加

会議名	開催回数	2021年開催月
がん診療連携協議会	2回	2月、9月
緩和ケア専門部会	2回	1月、8月
研修・教育専門部会	2回	1月、8月
地域連携・情報専門部会	2回	1月、7月
がん登録専門部会	2回	2月、8月

※新型コロナウイルス感染症の関係で、『書面会議』または『Web会議』での開催

【活動②】委員会の開催：2回（2021年2月・4月・9月）

○主な検討・確認事項

- ・福岡県がん診療連携協議会および各専門部会の報告

【活動③】地域がん診療連携拠点病院の体制整備

○2021年10月14日

『地域がん診療連携拠点病院』中間報告を提出

※2020年3月27日付け 地域がん診療連携拠点病院として指定。

（指定期間 2020年4月1日～2023年3月31日）

【その他】

2021年4月より、委員長交代（梶山医師 → 本村医師）

39. がん集学治療委員会

委員長 古賀 聡
副委員長 白土基明

目 的：

- (1) 地域がん診療連携拠点病院としての体制整備の推進
- (2) 飯塚病院のがん集学治療の構築
- (3) 飯塚病院のがん診療の向上のための方策を提言

活 動 内 容：

①化学療法のレジメン審査

2021年 21件

②2021年化学療法実績

	入院化学療法件数 (ハイケア 3F 入院件数)	外来化学療法件数	
		総数	外来化学療法加算 A・B のみ
2021 年	2,858	8,387	7,402
2020 年	2,804	8,488	7,283

※外来化学療法加算A：がんに対する化学療法、加算B：がん以外の特定疾患に対する化学療法

③化学療法に関する診療の問題点の検討や改善策の実施

- ・ de novo B 型肝炎発生対策のためのHBV マーカー実施状況のモニター
- ・ プロトコールオーダーリングシステムの見直し
- ・ がんチーム医療推進勉強会開催：7回 総参加者 209名
- ・ 外来化学療法室の運用見直し（当番医制度を関連診療科で持ち回りから呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科が担当する形に変更）

次年に向けて：

- ・ HBV マーカー実施状況のモニター継続
- ・ プロトコールオーダーリングシステムの再構築
- ・ 外来化学療法室の円滑な運用方法の検討・提言

40. 緩和ケア委員会

委員長 柏木秀行
副委員長 石上雄一郎
宮崎万友子

目 的：

1. 飯塚病院の緩和ケアの向上のための方策につき提言する。
2. 地域がん診療連携拠点病院としての緩和ケア体制の整備を推進する。
3. 緩和ケアセンター体制の促進。

活 動 内 容：

- ・委員会開催：6回（3月・6月・9月・12月 第1火曜日）
- ・メンバーが、各々の部門での活動目標を明確にし、取り組みを実施した。
- ・緩和ケアに関する院内マニュアル改訂を行った。
- ・緩和ケア ピア・レビューの開催（2021年10月18日（月））
- ・医師に対する「緩和ケア研修会」開催：
2021年9月4日（土）に開催を予定していたが、新型コロナウイルスに関する行動規範により
2022年1月29日（土）に延期することになった。

次 年 に 向 け て：

2022年も引き続き、下記について活動する予定である。

1. 緩和ケアセンター設立準備
2. 緩和ケア研修会の実施（2022年9月開催予定）
3. がん診療連携拠点病院として緩和ケア体制の整備の促進

〔VII〕院 内 報 告

1. 飯塚病院住民医療協議会活動報告

事務局 広報課 都留和宏

飯塚病院住民医療協議会は、飯塚病院の提供するサービスや役割などについて地域を代表する方々と意見交換を行うことを目的として、2005年4月から2回／年を開催しています。

昨年、2020年度はコロナ禍により開催を見合わせましたが、本年は6月に「第31回 飯塚病院住民医療協議会」を書面にて実施し、12月には、感染対策を行い対面で「第32回 飯塚病院住民医療協議会」を実施することができました。

なお、本年は新しく6名の皆様に委員を受嘱いただいています。

2021年6月 「第31回 飯塚病院 住民医療協議会」書面開催

講演 飯塚病院感染症科 部長 的野多加志

演題 新型コロナウイルスワクチン

2021年12月15日「第32回 飯塚病院 住民医療協議会」対面開催

講演 飯塚病院感染症科 部長 的野多加志

演題 新型コロナウイルスワクチンと治療薬

出席者数 外部10名、院内9名

【2021年 飯塚病院住民医療協議会委員】（五十音順）

氏名	団体等
浅野 洋 様	飯塚市自治会連合会
大谷香里 様	飯塚商工会議所 女性会
梶嶋陽子 様	筑豊助産師ネット
香月法彦 様	飯塚商工会議所
金子加代 様	ぼれぼれの会
小嶋秀幹 様	福岡県立大学
田熊清治 様	飯塚地区消防本部
竹下茂木 様	飯塚片島まちづくり協議会
武田祐子 様	学校法人 嶋田学園 愛宕幼稚園
田中憲司 様	飯塚市老人クラブ連合会
中村 寛 様	筑豊地域医療 プラチナサポーター

【住民医療協議会オブザーバー】

氏名	団体等
徳山 徹 様（第32回にご出席）	朝日新聞社 筑豊支局
浜田直文 様（第32回にご出席）	西日本新聞社 筑豊総局

（2021年12月時点）

2. 飯塚病院地域医療支援病院運営委員会活動報告

事務局 地域連携センター

目 的：飯塚病院が地域の医療機関の要請に適切に対応し、地域全体の医療機能の向上と効率に必要な支援を行っているかを審議する。

活動内容：今年は4回の地域医療支援病院運営委員会を計画していたが、緊急事態宣言があり2回は書面会議で開催した。紹介率や共同利用、救急医療の提供実績など、地域医療支援病院の基本的な要件となる活動報告、新型コロナウイルスに関連する話題提供をおこなった。消防、行政、地域住民の代表の方と、飯塚医療圏における新型コロナウイルスに関する医療体制・療養体制について意見を交換した。

委員会での話題提供（トピックス）

	開催月	発表者	タイトル
第51回	2月	秋永理恵 検査部 技師長	PCR 検査
第52回 (書面会議)	5月	的野多加志 感染症科 部長	新型コロナウイルスワクチン
第53回 (書面会議)	8月	福村文雄 副院長	新型コロナウイルス感染症（第4波）対応報告 - 第3波と比較して -
第54回	11月	飛野和則 呼吸器内科 部長	新型コロナウイルス感染症 ～飯塚病院の診療経過～

飯塚病院地域医療支援病院運営委員会委員（23名）

（2021年12月時点）

委員長	増本陽秀	飯塚病院 院長
副委員長	西園久徳	飯塚医師会 会長
	岩佐紀輝	飯塚病院 特任副院長兼医療連携本部長
保健福祉行政関係者	渡部淳二	飯塚市福祉部 部長
	川原明子	嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所 保健監
	石松香織	嘉麻市福祉事務所 兼健康課長
	笹尾清隆	飯塚地区消防本部 消防長
医療関係者	岩見元照	飯塚医師会 副会長
	肘井孝之	飯塚医師会 専務理事
	西野豊彦	飯塚医師会 地域医療担当理事
	山口 章	飯塚歯科医師会 会長
	高山幸蔵	飯塚薬剤師会 会長
学識経験者	山崎重一郎	近畿大学産業理工学部情報学科長 教授
	伊藤高廣	九州工業大学大学院情報工学研究院 教授
市民代表	井上節子	飯塚市婦人会 会長
	塚本 順	飯塚ロータリークラブ 会長
飯塚病院職員	井村 洋	飯塚病院 特任副院長
	名取良弘	飯塚病院 特任副院長
	福村文雄	飯塚病院 特任副院長
	本村健太	飯塚病院 副院長
	中島雄一	飯塚病院 副院長
	金澤康範	飯塚病院 副院長
	森山由香	飯塚病院 副院長

3. VHJ (Voluntary Hospitals of Japan) 活動報告

企画管理課 倉重貴彰

VHJ機構は、医療の質の向上を図るため、自主的な研究活動を全国的に展開するとともに、データベースの構築・情報の提供、啓発活動を通じて保健・医療・福祉向上に寄与することを目的とする特定非営利活動法人（NPO法人）であり、41施設が加盟しています。

また、VHJ研究会は、医療の質や病院経営の質の向上を目指して研究活動を展開するとともに、会員相互の研鑽、親睦を図ることを目的とした組織で、事務局はVHJ機構に委託されています。

■ VHJ機構の事業

- DPCデータ活用事業
- 経営情報活用事業
- 臨床研修推進事業
- その他（意見交換会、セミナー開催等）

例年、加盟施設が持ち回りで各地開催しております「VHJ研究会職員交流研修会」はコロナ禍のために、Webにての開催となりました。

■ 第31回 VHJ研究会オンライン職員交流研修会

- ・ 日時：2021年11月12日（金）
- ・ 幹事病院：社会医療法人財団 董仙会 恵寿総合病院
- ・ 内容：1) 特別講演
武田俊彦 氏（元厚生労働省医政局長、厚生労働省政策参与）
「withコロナ時代の医療はどう変わるか」
- 2) 分科会
 - 分科会① 看護部会
担当病院：恵寿総合病院
 - 分科会② 働き方改革
担当病院：飯塚病院
 - 分科会③ IT部会～アフターコロナを見据えた病院DX
担当病院：亀田総合病院
 - 分科会④ コロナ禍における広報
担当病院：倉敷中央病院
 - 分科会⑤ コロナ禍における人材確保と教育研修
担当病院：相澤病院

4. 改善活動報告

改善推進本部

1) 改善ベルト制度

改善ベルト制度は、当院の改善活動をリードする職員を増やし、活動をより活発にすること、そして、継続的に改善活動の指導者が育成される仕組みを作ることを目的として、2011年より開始した制度です。

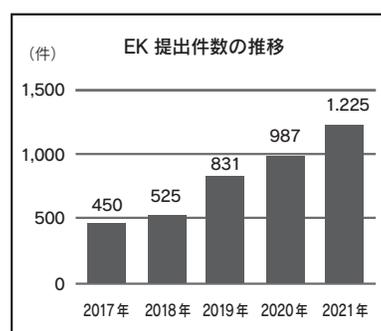
2021年は、2名が新たにKAIZENシルバーベルトを取得し、8月に表彰式を行いました。

現在のKAIZENベルト保持者は、シルバーベルト93名、ゴールドベルト28名で、多くの方に改善活動の指導者としての役割を担っていただいております。

2) Everyday Kaizen (EK) 活動

EK活動は、「身の回りの問題に気づき、改善できるようになる」ことを目的に、原則一人で一ヶ月以内に行う改善活動です。

2021年は過去最多の1,225件のEK活動報告が提出されました。中でも8月1日～10月31日に実施したEK活動推進キャンペーンでは、提出者・件数ともに前年を大きく上回る、513名から815件の提出がありました。



3) Total Quality Management (TQM) 活動

TQM活動では2021年、“今こそ「まごころ医療」を！負けずに力を合わせよう”をメインテーマに、『ムダの削減』をTQM活動推進委員会推奨テーマに掲げ、2月～10月まで改善活動に取り組みました。

2021年のTQM活動発表大会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、初のWeb配信（院内配信のみ）を取り入れた院内開催となりました。以下の通り報告します。

(1) サークル発表数：15

(2) 表彰サークル

	部署名	サークル名	テーマ	受賞状況
Aグループ	中央検査部	GO TO エコー12C、密です。	予約枠を見直して、検査待ち時間を短縮する	最優秀賞
	医事課	残業はいかんぞう！ ～目指せ Smart Work～	肝臓内科外来レセプト作業の 残業時間の削減	優秀賞
	東4階	4u	タイムスケジュール遵守を 目的とした業務改善	審査員 特別賞
Bグループ	医療福祉室・ 地域包括ケア推進本部・ 情報システム室	まごころ LABO	退院前カンファレンスの準備から 実施までの調整にかかる負担削減	最優秀賞
	医事課・ 病棟クラーク	Team COLLab☆	限度額認定証にかかる 対応の効率化	優秀賞
	11B・企画管理課	Uber Nurse	受付業務を改善し看護の充実を図る	審査員 特別賞

(3) 参加者数：487名（会場178名、Web視聴309名）

※TQM活動発表大会の詳細は、要旨集に記載しています。

4) Kaizen ワークショップ (KW) 活動

- (1) サービスライン型 (目標達成を狙い、一年間を通して複数回のKWを行う) KW活動
2020年の活動継続 (※2021年3月まで活動フォローアップ)

部署	年間指標	効果
看護部	① 棚卸金額合計 100 万円減 ② 物品をすぐに使用できる環境 i) 補充切れ: 20%に低減 ii) 欠品: 0回 iii) 期限切れ: 0回 ③ 物品補充の手間削減 【対象病棟】 中央4階、北8階、ICU	① 742,605 円 削減 (各部署対象棚卸し月の比較) ② i) 補充切れ: 20%に低減 ii) 欠品: 6回 ※在庫数より使用入院患者が多い場合があったため iii) 期限切れ: 0回 ③ 補充の手間は削減しているが、一部、収納時間が増えた病棟あり

- (2) リクエスト型 (短期間で問題を改善したいときにKWを行う) KW活動

部署	KW 日程	テーマ	内容
リハビリ テーション部	5月19日 20日	外来予約プロセスの再構築	◇ 医診伝心システムでリハビリ予約を行い、受診目的を可視化 ◇ 小児科リハビリテーションのスケジュール表運用変更

5) 改善発表大会

3月16日 参加者数: 49名

テーマ	活動部署	発表者
11B (総合診療科・感染症科) 外来の物品管理	11B 外来	宮西博子
小児センター内物品管理と在宅物品管理	小児センター	荒巻美鈴
患者にとっても医療者にとっても最適な環境をつくろう! (中央4階の物品管理)	中央4階	岸本仁美
緊急事態宣言!! 使用したいときに使いたい物品がない ～緊急事態宣言解除にむけた道のり～	北8階	梅野陽香

5. ISO9001 品質マネジメントシステム (QMS) 活動報告

改善推進本部 高嶋麗子・米満香奈枝

新型コロナウイルス感染症感染再拡大により1月に予定していた外部審査が延期となり、3月に受審、無事に終了し、引き続き認証を得る事ができました。また、新任部長に対してISO活動の個別説明を実施し、内部監査では主任監査員としての役割を担っていただきました。以下、本年の活動内容をご報告いたします。

【活動内容】

3月9日～11日	ISO 外部審査 受審【資料1】
6月～7月	新任部長へISO活動について個別説明実施【資料2】
12月1日～	全職員へISO外部審査(2022年分)実施について周知 ISO外部審査説明動画配信

【資料1：ISO9001外部審査報告】

審査期間	2021年3月9日～11日	
審査対象部署/委員会	21審査(34部署、8委員会)	
抽出された項目	高く評価できる事項	23件
	観察事項	13件
	不適合	0件

【資料2：ISO活動個別説明】

実施日	2021年7月1日～14日
対象人数	新任部長4名
説明者	ISO管理責任者
説明内容	ISO概要および活動内容(内部監査や外部審査等)等

6. イノベーション活動報告

イノベーション推進本部 井桁洋貴／増本陽秀

イノベーション推進本部はPatient Firstの原点に立ち、「まごころ医療」の実践を目指して、医療の質向上のための医療イノベーションの推進を目的として活動している。2021年の活動およびその実績を以下に報告する。

(1) 「飯塚メディコラボ」の推進

「飯塚メディコラボ」は、医療機器等の開発を目指すメーカー等の団体に医療現場を開放し、現場の観察からニーズを発掘し、新たな機器開発につなげる企画として2016年10月に開始した。2021年もこれを継続的に推進し、1社の受け入れを行った。また、これまでの参加企業へのアンケート結果や参加者の意見などを反映する形で、これまで3ヶ月間のみとしていた参加期間を見直し、長期での参加が難しい企業でも参加しやすい短期型のプログラムを整備した。

(2) 医療デバイス開発取組みの推進

① メーカーとの共同開発等

院内スタッフから計26件のニーズおよびアイデアを抽出し、詳細ヒアリング、アイデア検討、既存品調査、製品開発への展開検討などを行った。また院内スタッフから抽出されたアイデアに基づき試作品作成を6件実施した。その他19案件につき企業との間で製品化を目指し意見交換を実施し、内12件の開発が進行中である。

② 院外での活動

11月1日に飯塚市にて開催された「医工連携フォーラム・ビジネスマッチング会in飯塚」にてニーズ発表を行い、共同開発に向けた企業とのマッチング会にも参加した。

(3) 上記以外のイノベーション推進活動

① 院外組織との連携

イノベーション推進本部は、医療機器開発を通じた産業の活性化を目指す行政機関および他医療機関との連携強化にも取り組んでおり、飯塚市、九州工業大学、飯塚研究開発機構とともに飯塚医療イノベーション推進会議を組織し、毎月定例会議を開催し医工連携に関する意見交換を行っている。また、同会議には、九州経済産業局、福岡県、福岡県済生会飯塚嘉穂病院、飯塚市立病院もオブザーバー参加されており、行政機関や地域の医療機関とも協力しながら医工連携を推進している。6月からは九州大学病院ARO次世代医療センターと九州大学先端医療オープンイノベーションセンターもオブザーバー参加されている。

② 応談と製品評価

企業や公的機関などからの依頼で、イノベーション推進本部の取り組みや協働について協議等を実施しており、2021年は21組織と意見交換等を行った。また、企業等において企画中、開発中の製品やサービスの評価を4件受託した。

③ 海外医療機関との交流

イノベーション推進本部では、イノベーション活動の推進と医療の質向上を目的として海外医療機関との交流を実施している。COVID-19の影響により2021年も海外との直接交流は難しい状況であったが、2020年同様オンラインを活用し、Memorial Hermann病院（米国ヒューストン）の西川 哲先生にご参加いただき、5月19日に「米国におけるオンライン診療の現状」について、院内関係者との意見交換会を開催した。12月22日には西川先生に加え、The University of Texas Health Science Center at Houstonの兒子真之医師にご参加いただき「COVID-19」をテーマに院内関係者とのWEBカンファレンスを実施した。日米の新型コロナウイルス感染症対応や、コロナ禍で変化する医療提供体制などについて活発な議論が行われた。後日、これらのカンファレンスの模様を、院内スタッフ向けに動画配信した。12月8日には、イノベーション推進活動についてドイツ日本研究所よりインタビューを受けた。

7. 地域包括ケア推進本部活動報告

地域包括ケア推進本部 小栗和美

地域包括ケア推進本部は、主に医師会や行政が行う地域包括ケア推進(在宅医療・介護連携)に関する事業へ支援を行う「地域包括ケア事業業務」と、介護保険に関する相談・支援を行う「介護保険支援業務」を行っており、2021年の活動およびその実績を報告する。

【地域包括ケア事業業務】

(1) 医師会との連携・事業における協働推進

当部署では飯塚医師会地域包括ケア推進センターに職員を派遣している。医師会内では行政からの委託を含む様々な地域包括ケア事業を実施し、飯塚医療圏の地域包括ケアシステムの構築に貢献した。行政委託の事業は以下などがある。

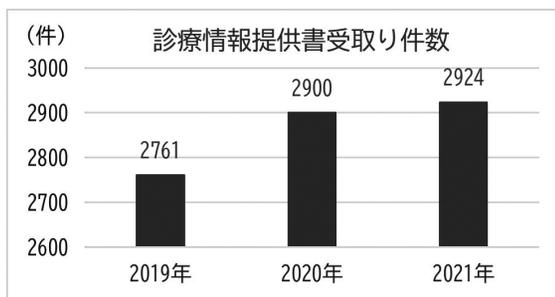
- ・飯塚市、嘉麻市、桂川町 在宅医療介護連携推進事業
- ・福岡県在宅医療機能強化整備事業 等

(2) 行政との連携・事業における協働推進

- ・飯塚市、嘉麻市、桂川町の介護保険地域支援事業への協力
- ・飯塚市社会福祉協議会地域権利擁護事業運営審議会
- ・地域ケア会議 等

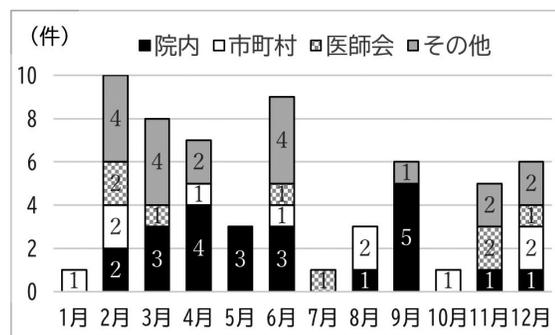
(3) 在宅療養後方支援病院としての業務

在宅療養後方支援病院としての機能を果たすべく、周辺地域の在宅療養支援病院および診療所(現在6医療機関)による情報提供書の受取りを行い、在宅患者緊急入院診療加算の算定を推進している。また、在宅復帰率の算定、各種届け出などの事務業務を実施している



(4) 院内外からの業務依頼

上記(1)～(3)の通り当部は医師会や周辺地域、行政との結びつきが強い。そのため院内の各部署や外部機関から連携や調整の依頼を受けることが多い。2021年には60件の依頼に対応した。依頼の内訳は右記の通りである。(2020年：55件)

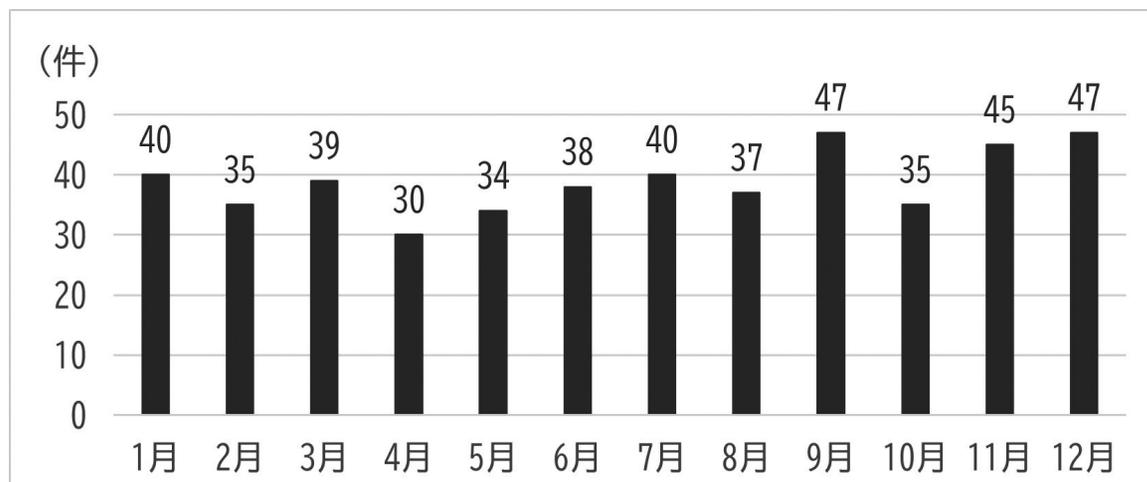


【介護保険支援業務】

(1) 介護保険に関わる相談、申請支援

介護保険への申請作業や加入後に受けられるサービスの内容は複雑な構造となっており、患者やその家族への負担が大きい。そのため、介護保険に関する相談や申請の支援を実施している。2021年は467件の申請支援を行った。(2020年：422件)

〈2021年の申請支援件数〉

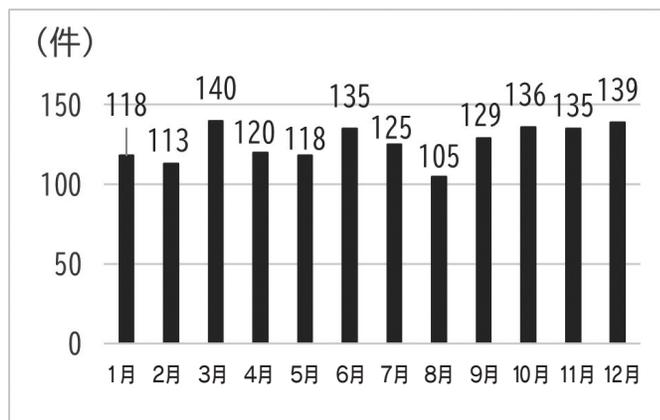


(2) ケアプラン作成

2021年は148回ケアプランを作成した。(2020年：236回)

(3) 介護保険主治医意見書のチェックおよび管理

「主治医意見書」は介護保険申請や更新に必要な書類で、被保険者の主治医によって作成される。当部では当院で作成されたすべての主治医意見書の不備のチェックと受け渡しを行っている。2021年にチェックを実施した主治医意見書の件数は1,513件だった。(2020年：1,528件)



(4) 筑豊地区介護予防センター業務（福岡県委託）

当院は福岡県からの指定で筑豊地区の介護予防支援センター業務を委託している。リハビリテーション部と共同で、以下の事業を行っている。

- ・ 市町村や介護従事者を対象とした研修の実施
- ・ フレイル予防事業（フレイルチェックの実施、各機関への講演、普及啓発イベントの実施）

8. 医学研究推進本部活動報告

本部長 赤星和也
事務局 安永佳代子

目 的：

当院の全職員に対し、自主的な臨床研究の啓蒙と支援を行う事により、当院の臨床研究活動を活発化させ、その臨床研究成果を社会に還元し医療界の進歩に貢献すること。

活動内容：

1. 全職員に対する医学研究論文作成の啓蒙活動とその環境整備
2. 医学研究に対する経済的支援としての当院助成金（臨床研究助成金）の認定・授与
3. 当院で作成し掲載された全ての医学論文の審査や評価及び、その作成に貢献した執筆者と指導者の認定とその功績に対する褒賞（学術奨励賞）
4. 企業等外部からの研究委託ならびに研究寄附金等の審査と受け入れ
5. 2020年11月認定の文部科学省科学研究費補助金対象研究機関としての活動

2021年度活動内容

- 1) 月に1回、当本部メンバー構成員9名（医師4名、看護師1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、事務職1名、事務局員1名）による定例ミーティングを開き、当院研究助成金の認定・授与のための審査、学術奨励賞対象医学論文の認定・褒章のための審査、及びさらなる医学研究推進に向けた規約の改定やホームページの更新など環境整備を行った。
- 2) 2021年度の当院学術奨励賞対象となった医学論文の総数は34編（12月末時点）で、その内訳は表1のとおりであった。国際的な医学論文の質の指標の一つである、インパクトファクター値の総和は16であった（グラフ1）。

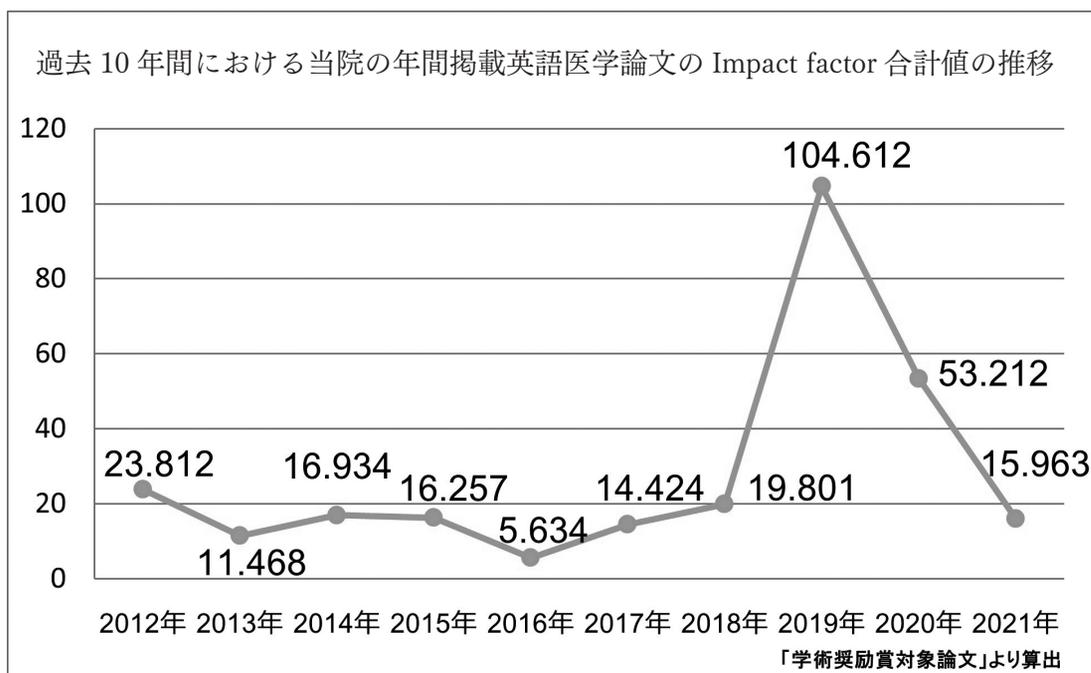
次年度に向けて：

1. 上記1)の継続
2. 医学論文数の増加、高いインパクトファクターを有する英語論文の増加を目指し、積極的に全職員に対し、医学論文作成の啓蒙活動を行っていく。

表1 2021年度 学術奨励賞対象医学論文の内訳(4～12月受理分)

医学論文総数 34 編	論文の種類	論文数
英文 10 編	総説・著書	1
	原著	1
	短報・症例報告	8
和文 24 編	著書	6
	総説	7
	原著	4
	短報・症例報告	7

グラフ1



9. 治験推進本部活動報告

本部長 井村 洋
治験管理室 吉柳富次郎
臨床研究支援室 古賀秀信

病気の治療法が進歩するためには、より安全で効果の高い新薬の開発が必要であったり、臨床現場において様々な研究が行われることがとても重要です。治験推進本部は治験実施の支援、管理及び臨床研究の支援について積極的に取り組んでいます。

<治験管理室>

- (1) 治験ごとに治験コーディネーターを配置し治験を実施する医師の支援や患者さんへの説明、検査や来院の管理を行っています。
- (2) 治験薬を鍵のかかる保管庫に保管し保管環境の維持（保管温度チェック）、治験薬の調剤を行っています。
- (3) 治験に関する記録や治験審査委員会の承認書等を保管管理しています。
- (4) 治験の実施可能性について製薬会社より依頼された調査票の作成を行っています。
- (5) 発売後の薬剤の有効性・安全性の調査について契約窓口となっています。

●2021年の治験受託実績

実施診療科	目標症例数	対象病名	開発相	二重盲検
泌尿器科	2	膀胱癌	II b	
泌尿器科	3	膀胱癌	III	
腎臓内科	3	透析患者掻痒症	III	●
内分泌・糖尿病内科	4	高コレステロール血症	II	●
消化器内科	2	潰瘍性大腸炎	II / III	●
リエゾン精神科	6	せん妄予防	III	●
感染症科	100	大腸菌ワクチン	III	●
腎臓内科	6	非糖尿病性慢性腎臓病	III	●
感染症科	30	SARS-CoV-2 感染症	II / III	●
呼吸器内科	4	気管支拡張症	III	●

●2021年の治験実施可能性調査

160件

●2021年の製造販売後調査受託実績

特定使用成績調査18件 使用成績調査12件 副作用調査9件

<臨床研究支援活動>

1) 文部科学省 科学研究費助成事業 研究機関・相談窓口 業務

当院は、2020年11月26日付で文部科学省から研究機関として認定されました(機関番号：97106、機関名称：株式会社麻生飯塚病院 医学研究推進本部)。2021年度の研究費獲得事案はありませんでしたが、2022年からの本格運用に向け、管理・運用体制の整備を継続して行いました。今後も継続して関係省庁、研究者と院内関係部署とのスムーズな連携体制を目指し、迅速かつ正確な対応ができるよう務めて参ります。

- ・05/24 「令和3年度 機関指定後の概況票」 文部科学省 提出
- ・08/03 「研究活動における不正抗への対応に関するガイドラインに基づく取組状況に係るチェックリスト」 文部科学省 提出
- ・07/28 「令和4(2022)年度 科研費 公募要領」に関する院内(部長会)周知
- ・10/14 「研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン(実施基準)」に基づく内部監査
- ・11/03 「体制整備自己評価チェックリスト」 文部科学省 提出
- ・12/24 「体制整備自己評価チェックリスト」 厚生労働省 提出

2) 臨床研究支援関連

a) 研究支援：2021年は実務支援：117件、系統支援：2件(看護研究)でした。

部門	相談等	倫理審査関連	統計解析関連	発表支援、他	合計
医師部門	8	3	32	10	53
看護部門	0	3	5	19	27
医療技術部門	1	4	8	5	18
事務部門、その他	1	1	3	14	19
合計	10	11	48	48	117

b) 倫理審査：倫理審査申請における提出書類(研究計画書、同意書等)について、研究代表者の依頼に基づいた作成の支援を行い、QI(Quality Indicator)として測定しています(『倫理委員会事務局に提出された、支援を希望する当院主管臨床研究における倫理審査初回通過割合(%)』)。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
対象研究数	5	4	7	19	1	4	4	9	3	7	5	5
依頼数	2	3	1	15	—	2	1	2	—	1	2	—
通過数	2	3	1	14	—	2	1	2	—	1	2	—
通過割合(%)	100	100	100	93.8	—	100	100	100	—	100	100	—

- c) 広報誌への連載：院内広報誌WITHに「ステップで学ぶ 研究計画書を書く前に知っておくべきこと」の掲載を継続して行いました（著者：佐々木彰）。

Vol.4	疑問の周辺を調べ上げる“キーワード編”（2021年2月号 No.384）
Vol.5	疑問の周辺を調べ上げる“検索式編”（2021年4月号 No.386）
Vol.6	番外編“遠隔学習プログラム”（2021年6月号 No.388）
Vol.7	交絡因子。それが問題やき。（2021年8月号 No.390）
Vol.8	（続）交絡因子。それが問題やき。（2021年10月号 No.392）
vol.9	どのように測るか？「測定」のポイント（2021年12月号 No.394）

- d) 教育関連：臨床研究支援室HPに下記の動画を掲載しました。

種別	開催日	演者
臨床研究 (疫学)	研究テーマを整理する	佐々木 彰
	研究テーマを整理する	
	先人に学ぶ－文献検索－	
	「研究をやろう」と一歩踏み出した後に知っておきたいこと	大屋 清文
	研究テーマの決め方について	
	メンターとの関わり方 その他のよくある悩み	
統計	統計学的仮説検定 (EZR)	古賀 秀信
	ロジスティック回帰 (stata)	
	ロジスティック回帰 (R)	
	精確ロジスティック回帰 (stata) 線形回帰分析 ch1 (stata)	

- e) 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の改正に伴い、臨床研究支援室のHPを見直しました。また、院内職員向けに研究相談フォームを作成し、依頼者とのインターフェースのチャンネルを増やしました。

- f) その他：臨床研究支援室が主体となり、共同研究（論文発表）を行いました。

「入院時口腔ケア介助の必要性と入院中の転倒との関連～過去起点コホート研究～」

（日本転倒予防学会誌第8巻 第1号 2021年8月）

10. 当院における分離菌と薬剤感受性

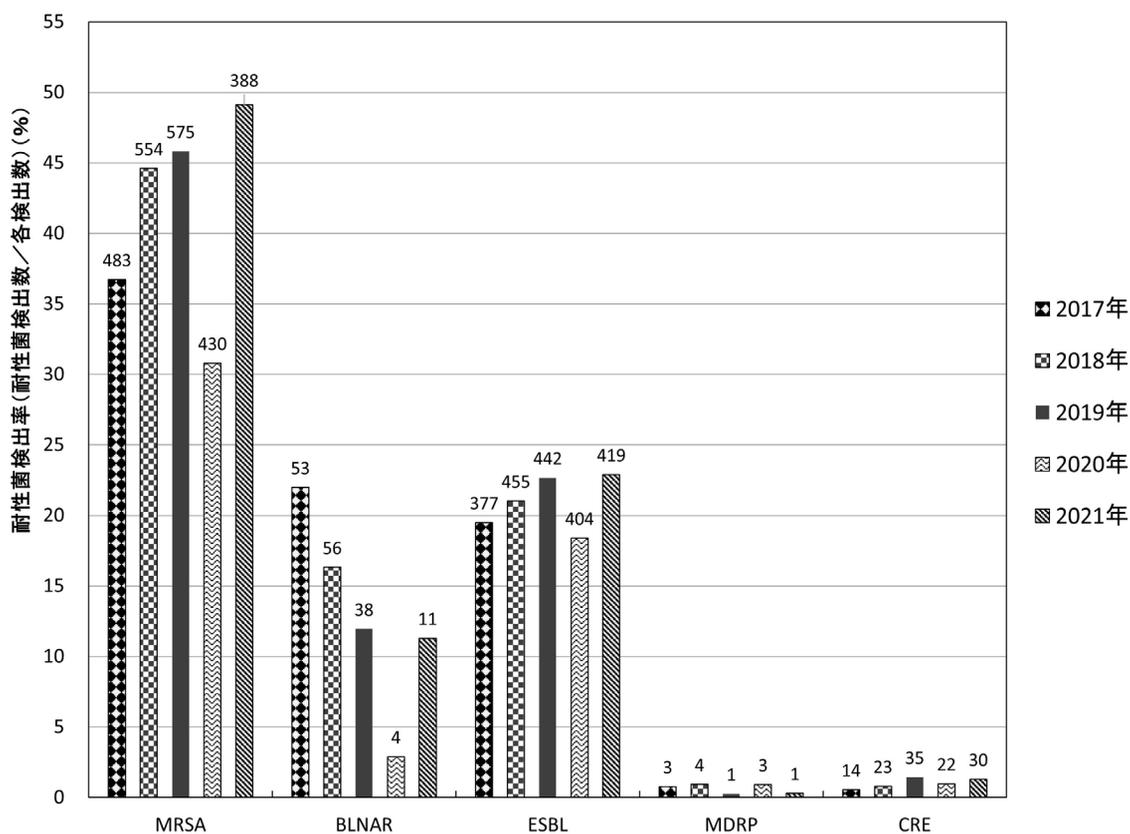
中央検査部 微生物検査室

2020年に引き続き新型コロナウイルス感染症のPCR検査一色の年となりました。世界中で開発されていたワクチンが日本でも承認され、医療従事者は2月から、その後高齢者へのワクチン接種が始まりましたが、4月から6月頃の第4波の感染拡大には間に合わずとなり、感染力が従来のウイルスよりも強いアルファ株による感染が拡大しました。7月以降の第5波はデルタ株が主流であり、重症化しやすいと言われていたにも関わらず、致死率が下がった要因は、高齢者での高いワクチン接種率に寄与していると考えられます。さらに抗体カクテル療法が承認され、重症化リスクの高い患者に早期に投与できたことが、致死率低下につながったと思われます。当検査室では当然のことながら、感染の波が押し寄せる度にPCR検査件数が院内、院外ともに増加しました。検査室の使命は発熱外来の疑い患者さん、救命救急センターの救急搬送患者及びウォークイン患者さんや入院予定患者さんのウイルス持ち込み対策のスクリーニングを滞りなく実施し、診療現場での負担軽減のために迅速対応することであり、スタッフの増減を繰り返しながら対応しました。また、研究試薬として購入した試薬による変異株検出もおこない、保健所に提出する検体とともに情報を付帯できたことは、当検査室の力量が高いことを示せたものと思います。

PCR検査機器においては、10月からは救急外来からの要望により、測定時間20分というcobas® Liat SARS-CoV-2&Flu A/B（ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社）を導入しました。導入前には当検査室にて妥当性確認をおこない、他のPCR検査機器と同等の検出感度を有していることを確認しています。現在、この装置も含めPCR検査機器6台を稼働させ、月2,000件を超える院内PCR検査を遂行し、感染拡大防止に一翼を担う存在となるべく、地域連携病院からの検査受託を可能な限り継続し、病院並びに地域医療に貢献していきたいと思っております。

● 分離菌情報

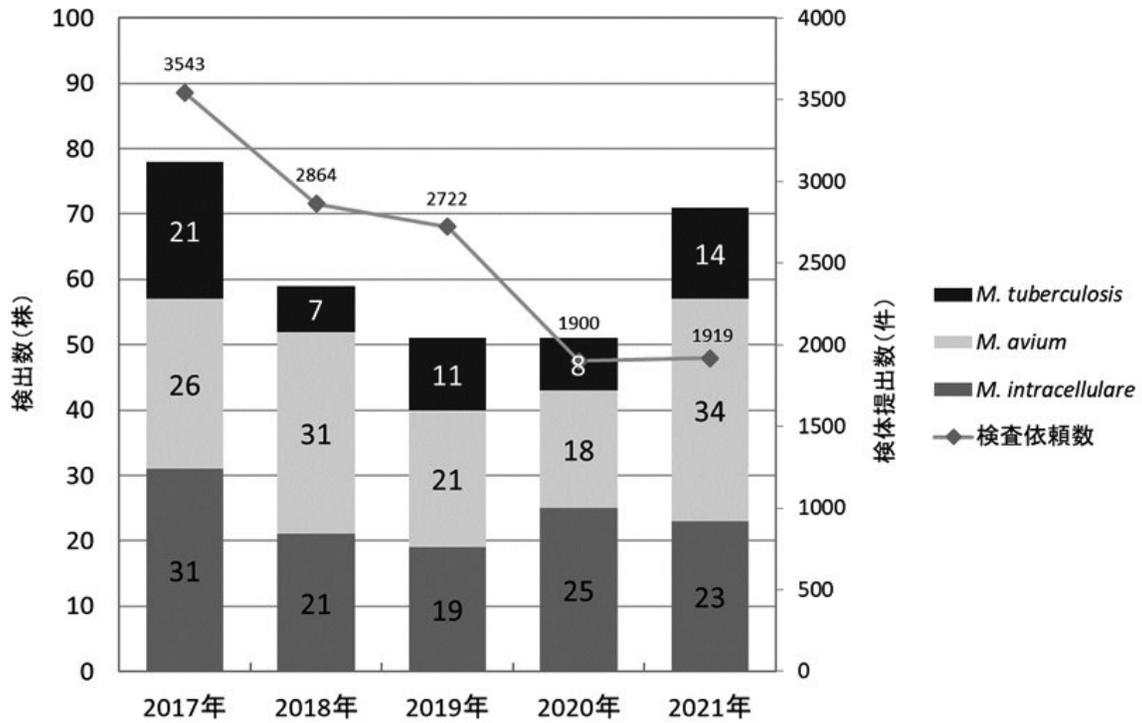
A) 耐性菌検出率：耐性菌検出数（グラフ上部数値）／各検出数



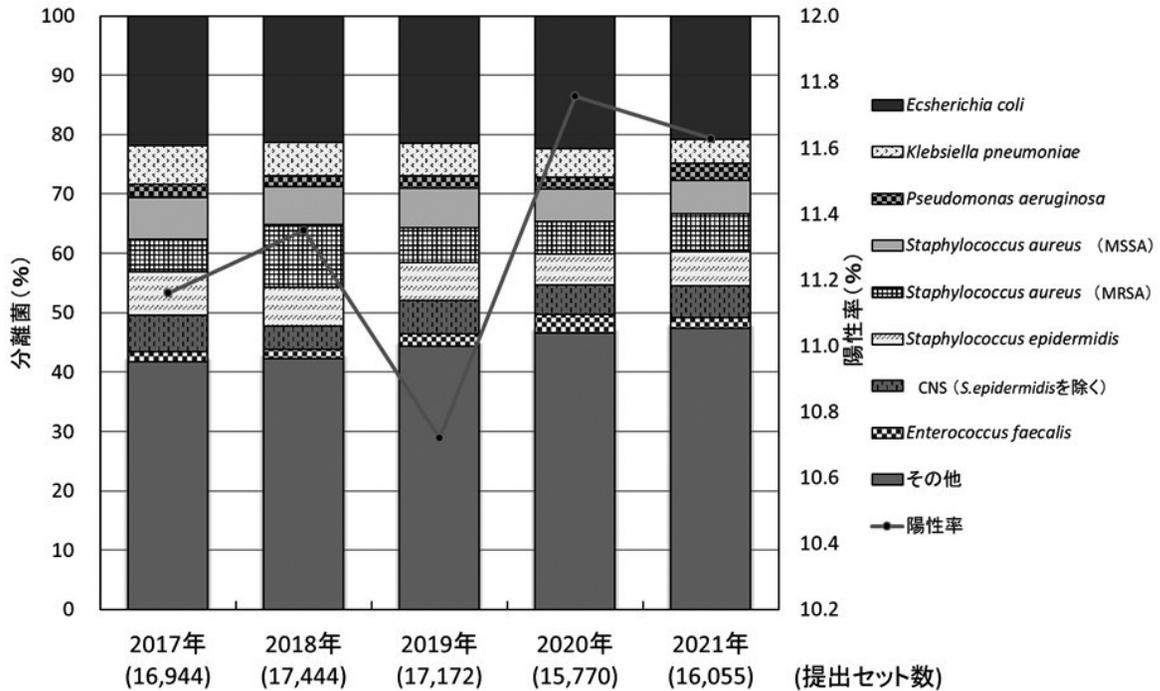
※ ESBL： *Escherichia coli*, *Klebsiella pneumoniae*, *K. oxytoca*, *Proteus mirabilis* の4菌種を含む

全 *Staphylococcus aureus* における MRSA の割合は昨年より上昇していました。また、近年増加が懸念されている CRE（カルバペネム耐性腸内細菌目）の検出数および検出率は現状横ばいであり、今後もしっかりとした薬剤耐性菌の検出および感染対策体制を整える必要があります。

B) 抗酸菌動向 (*M. tuberculosis*, *M. avium*, *M. intracellulare*)



C) 血液培養陽性率 (陽性セット数/提出セット数) と検出菌の内訳 (検出菌数/血液培養検出菌総数)



● 薬剤感受性

A) 成人 グラム陽性球菌

菌名	株数	MOPC	S/A	CEZ	CNZ	IPM/OS	GM	EM	CLDM	MNO	LVFX	TEIC	VCM	LZO	ST	RFP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	306	100	100	100	100	100	76	73	74	100	84	100	100	100	100	99
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	314	-	-	-	-	-	47	14	18	83	13	100	100	100	100	99
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	147	39	39	39	39	39	54	53	61	94	36	97	100	100	82	98

菌名	株数	PCG	ABPC	CTX	OTRX	CFPM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VCM	CP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	8	100	100	100	100	100	100	88	88	100	100	100	100
<i>Streptococcus agalactiae</i>	138	98	99	100	100	100	100	59	57	43	100	89	89
<i>Streptococcus dysgalactiae</i>	62	100	100	100	100	100	100	66	66	97	100	100	100
<i>Streptococcus viridans group</i>	57	91	88	98	98	98	100	51	61	91	81	100	98

菌名	株数	PCG	PCGM	PCGM	C/A	CTXm	CTXnm	OTRXm	OTRXnm	CFPMm	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VCM	ST	CP	RFP
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	33	70	70	100	100	97	100	97	100	100	88	21	33	97	100	82	91	100	

菌名	株数	PCG	ABPC	EM	MNO	TEIC	VCM	LVFX	LZO	RFP
<i>Enterococcus faecalis</i>	309	100	100	32	31	100	100	88	100	47
<i>Enterococcus faecium</i>	134	25	26	8	36	100	100	17	99	18

B) 成人 グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	S/A	C/A	P/T	CEZ	COL	CNZ	CPDK-P	OTRX	CNZ	CFPM	IPM/OS	MEPM	AZT	GM	AMK	MNO	CPFX	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i> (全体)	1225	50	65	86	98	57	65	99	67	69	69	70	99	99	69	92	99	93	57	58	82
<i>Escherichia coli</i> (CTX耐性)	377	0	37	74	96	0	0	97	0	0	1	3	99	99	1	87	98	92	16	16	66
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	297	R	79	93	99	82	89	99	89	90	90	99	100	89	94	100	90	92	97	88	
<i>Klebsiella oxytoca</i>	122	R	82	89	90	14	89	95	91	93	84	95	95	95	92	100	100	97	94	98	83
<i>Proteus mirabilis</i>	90	82	89	98	98	74	88	99	91	91	90	90	98	90	86	100	8	64	78	91	
<i>Enterobacter cloacae complex</i>	179	R	R	R	78	R	R	R	30	54	61	91	95	96	65	99	100	93	90	95	90
<i>Enterobacter aerogenes</i>	68	R	R	R	79	R	R	R	59	65	71	96	96	96	76	100	100	90	97	99	100
<i>Citrobacter freundii complex</i>	83	R	R	R	96	R	R	R	36	71	75	95	96	96	72	100	100	89	94	98	92
<i>Citrobacter koseri</i>	56	R	71	80	88	71	71	93	71	71	75	73	100	100	71	98	100	91	68	68	100
<i>Serratia marcescens</i>	50	R	R	R	86	R	R	R	22	70	100	100	100	100	70	100	100	96	80	100	100
<i>Aeromonas sp</i>	43	40	28	93	12	91	95	100	98	100	100	98	100	100	98	100	100	98	100	95	

菌名	株数	PPPC	P/T	S/A	CNZ	CFPM	AZT	IPM/OS	MEPM	DRPM	GM	AMK	TOB	MNO	CPFX	LVFX	ST
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	326	89	91	-	92	91	78	85	92	96	82	99	99	-	93	92	-
<i>Acinetobacter baumannii complex</i>	19	58	100	89	89	-	100	100	100	89	100	100	100	100	89	89	89
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i>	58	-	-	-	43	-	-	-	-	-	-	-	-	100	-	98	100

菌名	株数	ABPC	C/A	S/A	COL	CFPM	CTX	OTRX	GM	CPFX	LVFX	MEPM	RFP	MNO	ST	CP
<i>Haemophilus influenzae</i>	49	67	88	88	84	100	100	100	86	100	100	100	100	100	76	100

菌名	株数	ABPC	S/A	CNZ	OTRX	IPM/OS	MEPM	CLDM
<i>Bacteroides fragilis group</i>	41	0	98	71	32	100	98	54

C) 小児

菌名	株数	ABPC	S/A	CEZ	CNZ	IPM/OS	GM	EM	CLDM	MINO	LVFX	TEC	VCM	LZD	ST	REP
<i>Staphylococcus aureus</i> (MSSA)	27	100	100	100	100	100	74	52	60	100	89	100	100	100	100	100
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA)	20	-	-	-	-	-	65	22	22	100	15	100	100	100	100	100

菌名	株数	PCG	ABPC	CTX	CTRX	CFPM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VCM	CP
<i>Streptococcus pyogenes</i>	2	100	100	100	100	100	100	100	100	////	100	100	100

菌名	株数	PCG	PCGM	PCGM	C/A	CTM	CTGM	CTRM	CTRM	CFPM	MEPM	EM	AZM	CLDM	LVFX	VCM	ST	CP	REP
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	3	67	67	100	100	100	100	100	100	100	100	0	0	////	100	100	100	100	100

菌名	株数	ABPC	S/A	C/A	P/T	CEZ	COL	CNZ	CPD-X-P	CTX	CNZ	CFPM	IPM/OS	MEPM	AZI	GM	AMK	MINO	CFPM	LVFX	ST
<i>Escherichia coli</i>	36	50	64	86	97	69	75	100	81	83	83	86	100	100	86	94	100	92	83	83	86

菌名	株数	PCG	P/T	CNZ	CFPM	AZI	IPM/OS	MEPM	DRPM	GM	AMK	TOB	CFPM	LVFX	CL
<i>Pseudomonas aeruginosa</i>	11	91	100	100	82	91	73	82	82	82	100	100	91	91	91

菌名	株数	ABPC	C/A	S/A	COL	CFPM	CTX	CTRM	GM	CFPM	LVFX	MEPM	REP	MINO	ST	CP
<i>Haemophilus influenzae</i>	5	60	100	100	80	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

【備考】

- 2021年1月1日～2021年12月23日の期間に提出された検体を集計対象とした。但し、同一患者から検出された同一菌は、初回の分離株のみを集計対象とした。また、*Streptococcus viridans* group については、無菌材料のみを対象としている。
- 表の数値は、対象菌株のうち「S」（感受性）を示した菌株の割合（%）を示している。
- ブレイクポイントの判定は、CLSI M100-S26 に準拠して行った。ただし、*Aeromonas* sp. は測定試薬メーカーが設定する基準、*Bacteroides fragilis* group は検査委託先の判定結果を使用した。
- それぞれの結果で、90%以上の感受性を認める項目の背景を で表している。
- 背景が の項目は、当検査室で実施している検査方法では報告することのできない菌と薬剤の組み合わせである。
- 「R」は、その菌種の自然耐性により必ず耐性の結果が報告される薬剤である。
- 菌株数が30に満たない菌種については、参考値とする。
- 次の菌種において、カッコ内の薬剤は尿路分離株で結果を報告していないため、計算対象から除外している。

MSSA、MRSA、*S. epidermidis* (EM、CLDM、MINO)

S. agalactiae (EM、AZM、CLDM、CP) *E. faecalis*、*E. faecium* (EM)

- *Streptococcus pneumoniae* については、髄膜炎以外では「nm:non meningitis」、髄膜炎では「m:meningitis」を参照のこと。

11. 研修スケジュール (2021 年度)

初期研修医1年次

2021年12月31日現在

ローテーション開始日	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
氏名	29	5 12 19 26	3 10 17 24 31	7 14 21 28	5 12 19 26	2 9 16 23 30	6 13 20 27	4 11 18 25	1 8 15 22 29	6 13 20 27	3 10 17 24 31	7 14 21 28	7 14 21 28
石井 数也		小児科	産婦人科	麻酔科	呼吸器内科	休	ER	整形外科	脳神経外科	外科	総合診療科		
魏 碩俣		産婦人科	麻酔科	呼吸器内科	ER	脳神経外科	外科	整形外科	総合診療科	休	小児科		
大神 響子		小児科	産婦人科	麻酔科	呼吸器内科	休	ER	脳神経外科	外科	整形外科	総合診療科		
大薄 直也		外科	総合診療科	小児科	休	産婦人科	麻酔科	呼吸器内科	ER	整形外科	脳神経外科		
神矢 真由		総合診療科	小児科	産婦人科	麻酔科	休	呼吸器内科	ER	外科	整形外科	脳神経外科		
木塚 真梨子		麻酔科	呼吸器内科	ER	脳神経外科	外科	整形外科	総合診療科	小児科	休	産婦人科		
苔口 啓樹		産婦人科	麻酔科	呼吸器内科	休	ER	整形外科	脳神経外科	外科	総合診療科	小児科		
笹野 奈穂		外科	総合診療科	小児科	産婦人科	麻酔科	休	呼吸器内科	ER	脳神経外科	整形外科		
佐野 友香		整形外科	脳神経外科	外科	総合診療科	休	小児科	産婦人科	麻酔科	呼吸器内科	ER		
武 貞輝		総合診療科	小児科	産婦人科	休	麻酔科	呼吸器内科	ER	脳神経外科	外科	整形外科		
中川 雄介		総合診療科	小児科	産婦人科	休	麻酔科	呼吸器内科	ER	整形外科	脳神経外科	外科		
中西 令		麻酔科	呼吸器内科	ER	整形外科	脳神経外科	外科	総合診療科	小児科	休	産婦人科		
初田 萌子		呼吸器内科	ER	脳神経外科	外科	整形外科	休	総合診療科	小児科	産婦人科	麻酔科		
増本 陽介		脳神経外科	外科	整形外科	休	総合診療科	小児科	産婦人科	麻酔科	呼吸器内科	ER		
村橋 遼		ER	整形外科	脳神経外科	外科	総合診療科	小児科	産婦人科	麻酔科	休	呼吸器内科		
八木 光生		ER	脳神経外科	外科	整形外科	総合診療科	小児科	休	産婦人科	麻酔科	呼吸器内科		
山下 大裕		呼吸器内科	ER	休	整形外科	脳神経外科	外科	総合診療科	小児科	産婦人科	麻酔科		
松澤 鎮史		歯科口腔外科											

初期研修医2年次

ローテーション開始日	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
氏名	29	5 12 19 26	3 10 17 24 31	7 14 21 28	5 12 19 26	2 9 16 23 30	6 13 20 27	4 11 18 25	1 8 15 22 29	6 13 20 27	3 10 17 24 31	7 14 21 28	7 14 21 28		
出光 玲奈	呼内	ER	循環器内科	総合診療 (重症)	精神	DM	地域	外来	感染症科	休	連携医療・緩和ケア科	肝臓内科	休	腎臓内科	
稲葉 哲士	麻酔	総合診療 (重症)	外来	精神	DM	地域	総合診療科	感染症科	休	腹部エコー	ER	休	循環器内科	肝臓内科	連携医療・緩和ケア科
稲益 郁	呼内	循環器内科	休	形成外科	画像診療科	腎臓内科	感染症科	麻酔科	精神	DM	地域	外来	集中治療科	休	ER
猪島 直樹	脳外	循環器内科	腎臓内科	血液内科	休	精神	DM	地域	外来	総合診療 (重症)	感染症科	連携医療・緩和ケア科	休	ER	
大西 友紀	脳外	外来	連携医療・緩和ケア科	感染症科	精神	DM	地域	休	ER	循環器内科	総合診療 (重症)	腎臓内科	肝臓内科		
岡村 のぞみ	小児	DM	地域	総合診療科	腎臓内科	外来	休	呼吸器内科	連携医療・緩和ケア科	感染症科	ER	循環器内科	休	総合診療 (重症)	精神
川下 知英	総診	形成外科	腎臓内科	外来	休	外科	呼吸器外科	ER	休	循環器内科	肝臓内科	精神	DM	地域	
桐原 志保美	外科	ER	循環器内科	休	腎臓内科	産婦人科	精神	DM	地域	外来	連携医療・緩和ケア科	休	総合診療科	心臓血管外科	
澤邊 太郎	小児	血液内科	休	ER	外来	精神	DM	地域	腎臓内科	麻酔科	病理科	総合診療科	休	循環器内科	
高井 咲弥	総診	腎臓内科	ER	循環器内科	休	血液内科	総合診療 (重症)	肝臓内科	休	精神	DM	地域	外来	感染症科	
中野 幸太	産婦	精神	DM	地域	総合診療 (重症)	休	外来	ER	循環器内科	休	産婦人科	麻酔科	小児科	連携医療・緩和ケア科	
縄田 英吾	産婦	腹部エコー	精神	DM	地域	休	麻酔科	連携医療・緩和ケア科	総合診療 (重症)	外来	心臓血管外科	腎臓内科	ER	休	循環器内科
難波 実那子	整形	産婦人科	皮膚科	連携医療・緩和ケア科	ER	休	循環器内科	形成外科	病理科	休	腎臓内科	精神	DM	地域	外来
平本 琢也	ER	麻酔科	整形外科	精神	DM	地域	外来	休	腎臓内科	連携医療・緩和ケア科	循環器内科	ER	休	集中治療科	
松本 洋典	整形	連携医療・緩和ケア科	休	ER	循環器内科	腎臓内科	肝臓内科	精神	DM	地域	外来	感染症科	休	心エコー	
本村 真由子	麻酔	地域	外科	休	形成外科	連携医療・緩和ケア科	ER	循環器内科	産婦人科	休	病理科	外来	精神	DM	
米村 拓	ER	感染症科	休	麻酔科	ER	循環器内科	外来	総合診療 (重症)	精神	DM	地域	集中治療科	休	腎臓内科	

12. 初期研修医募集の記録

2021年

大学名	受験者数	採用者数	クリニカルクラークシップ		見学	
			受入(実人数)	うち採用者数	受入(延べ人数)	うち採用者数
北海道大学	1				2	
札幌医科大学					1	
岩手医科大学					2	
山形大学	1	1			1	1
東北大学	1				3	
東北医科薬科大学	2				3	
新潟大学	2				2	
富山大学					2	
金沢大学					2	
金沢医科大学					2	
群馬大学					2	
埼玉医科大学					1	
獨協医科大学	1					
自治医科大学	1	1	1		3	
慶應義塾大学	4	1			6	1
北里大学	1				2	
帝京大学	1	1				
東海大学	1				1	
東京慈恵会医科大学	1				1	
東京女子医科大学					1	
東邦大学					1	
昭和大学					1	
愛知医科大学					1	
名古屋市立大学					1	
藤田医科大学	2				1	
山梨大学					1	
信州大学	1					
岐阜大学	1				2	
三重大学	1	1			1	1
滋賀医科大学					1	
京都府立医科大学					1	
京都大学	1					

大 学 名	受験者数	採用者数	クリニカルクラークシップ		見学	
			受入(実人数)	うち採用者数	受入(延べ人数)	うち採用者数
近畿大学	1	1			2	1
大阪市立大学					2	
大阪医科大学					1	
大阪医科薬科大学	1	1			1	1
鳥取大学					2	
島根大学					4	
岡山大学	1	1			1	1
川崎医科大学	2				4	
広島大学	1				4	
山口大学	2	1			9	1
香川大学					2	
徳島大学					2	
愛媛大学					1	
高知大学					2	
九州大学	10	1	3	1	29	1
福岡大学	4	2			9	2
久留米大学	2				6	
産業医科大学	2				9	
大分大学	2	1	5		8	
佐賀大学	1				10	
熊本大学			1		14	
長崎大学	5	2			12	2
宮崎大学					4	
鹿児島大学	4	1			4	1
琉球大学					5	
ハンガリー国立セゲド大学	1	1			1	1
合計	62	17	10	1	196	14

13. ファシリティ本部活動報告

本部長 名取良弘

事務局 倉重貴彰

発足の経緯・目的：

「Patient Firstを追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院」を念頭に、施設・設備の計画を立案・推進する部門として2020年4月に発足。

2021年活動内容：

1. 基本計画（マスタープラン）の見直し
2. 新棟および既存棟の機能に必要なスペースやファクションの整理
3. 将来的なエネルギー供給方式の検討

次年度に向けて：

1. 新棟建設における投資回収計画の検討
2. 関係部署への設計要件のヒアリングと調整
3. 基本設計の開始

以上

〔Ⅷ〕 医師部門および主要職員名簿

1. 医師名簿

(2021年12月31日現在)

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	増本陽秀	九州大学	S55	1980	院長 兼イノベーション改善運営会議議長 兼イノベーション推進本部長 兼地域包括ケア推進会議議長 兼卒後教育評議会議長 兼救命救急評議会議長 兼デミング賞準備会議議長 兼高気圧酸素治療室長 兼手術評議会議員
	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	S56 (S63)	1981 (1988)	特任副院長 兼総合診療科部長 兼教育推進本部長 兼地域包括ケア推進会議副議長 兼地域包括ケア推進本部長 兼統括事業本部治験推進本部長 兼臨床研究支援室室長 兼外来フィールド長 兼卒後教育評議会副議長 兼救命救急評議会議員 兼デミング賞準備室会議議員 並北第八病棟医長
	名取良弘	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼脳神経外科部長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼予防医学本部長補佐 兼経営戦略本部長 兼ファシリティー本部長 兼救命救急評議会副議長 兼東第六病棟医長 兼デミング賞準備会議議員 兼手術評議会議員
	福村文雄	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼医療安全推進本部長 兼医療安全推進室長 兼改善推進本部顧問 兼情報本部長 兼診療情報管理室長 兼デミング賞準備室室長 兼診療支援フィールド長 兼日本一のまごころ病院実現諮問 会議議長 兼イノベーション改善運営会議議員

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
	中島雄一	福岡大学	H1	1989	副院長 兼泌尿器科部長 兼結石破碎室長 兼東第五病棟医長 兼改善推進本部長 兼手術フィールド長 兼外科入院フィールド長 兼手術評議会議長 兼救命救急評議会議員 兼イノベーション改善運営会議議員 兼デミング賞準備会議議員
	本村健太	九州大学 (大学院)	H3 (H11)	1991 (1999)	副院長 兼肝臓内科部長 兼内科入院フィールド長 兼予防医学本部長
	田中二郎	鹿児島大学	S44	1969	名誉院長(顧問) 兼救命救急センター特別顧問 兼卒後教育評議会議員
	中島 格	九州大学	S48	1973	顧問
	大田俊行	山口大学	S49	1974	顧問 兼膠原病センター長 兼中央検査部技術・教育・研究指導室長
	安藤廣美	九州大学	S52	1977	特任副院長(国際交流担当)
	山本英彦	熊本大学 (大学院)	S53 (S57)	1978 (1982)	特任副院長(渉外担当) 兼予防医学本部予防医学センター 顧問
	鮎川勝彦	九州大学	S56	1981	特任副院長集中治療科担当 (地域医療サポーター養成講座・救急病 床適用判定医・救急救命士育成担当)
	江口冬樹	福岡大学 (大学院)	S58 (H4)	1983 (1992)	特任副院長(渉外担当)
	赤星和也	鹿児島大学	S61	1986	特任副院長 兼予防医学本部予防医学センター 顧問(内視鏡担当) 兼医学研究推進本部長
肝臓内科 (6名)	本村健太	九州大学(大学院)	H3 (H11)	1991 (1999)	副院長 兼肝臓内科部長 兼内科入院フィールド長 兼予防医学本部長
	矢田雅佳	九州大学(大学院)	H11 (H15)	1999 (2003)	肝臓内科診療部長 兼南3A病棟医長
	田中紘介	産業医科大学 (九州大学大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	栗野哲史	山口大学 (九州大学大学院)	H20 (R2)	2008 (2020)	医長
	森田祐輔	長崎大学	H22	2010	医長
	長澤滋裕	自治医科大学	H27	2015	医長代理
消化器内科 (15名)	久保川 賢	九州大学	H6	1994	消化器内科部長 兼内視鏡センター長 兼東第四病棟医長
	宜保淳也	九州大学	H11	1999	診療部長
	淀江賢太郎	九州大学	H15	2003	診療部長
	小副川 敬	北里大学	H17	2005	診療部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
消化器内科 (15名)	小森圭司	熊本大学 (九州大学大学院)	H18 (R1)	2006 (2019)	診療部長
	長田繁樹	和歌山県立医科大学	H19	2007	医長
	兼子容子	滋賀医科大学	H22	2010	医長
	野崎哲史	福岡大学	H23	2011	医長
	松林江里子	広島大学	H25	2013	医長代理
	糸永周一	九州大学	H26	2014	医長代理
	濱崎慎平	久留米大学	H28	2016	医長代理
	竹島翼	九州大学	H28	2016	医長代理
	大崎智絵	久留米大学	H28	2016	医長代理
	梯 祥太郎	熊本大学	H29	2017	専攻医
	鈴木祐輔	九州大学	H30	2018	専攻医
呼吸器腫瘍内科 (1名)	鶴野広介	佐賀大学	H19	2007	呼吸器腫瘍内科部長代行 兼外来化学療法室長
呼吸器内科 (11名)	飛野和則	熊本大学 (順天堂大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	呼吸器内科部長 兼呼吸器病センター長 兼がん集学治療センター副センター長 兼南 3B 病棟医長
	花香未奈子	産業医科大学	H17	2005	医師
	井手ひろみ	帝京大学	H19	2007	医長
	神 幸希	東北大学	H23	2011	医長
	吉松由貴	大阪大学	H23	2011	医長
	西澤早織	熊本大学	H24	2012	医長代理
	吉峯晃平	近畿大学	H24	2012	医長代理
	前田顕子	熊本大学	H24	2012	医長代理
	末安巧人	九州大学	H25	2013	医長代理
	大井隆之介	長崎大学	H26	2014	医長代理
山元隆太	宮崎大学	H26	2014	医長代理	
内分泌・糖尿病内科 (5名)	井上智彰	産業医科大学 (九州大学大学院)	H17 (H25)	2005 (2013)	内分泌・糖尿病内科部長
	嶋田伸吾	山口大学	H20	2008	医長
	伊藤 淳	九州大学(大学院)	H20 (R2)	2008 (2020)	医長
	徳部 慧	九州大学	H28	2016	医長代理
	船津美奈	金沢医科大学	H31	2019	専攻医
血液内科 (6名)	白土基明	九州大学	H5	1993	血液内科部長 兼がん集学治療センター長
	油布祐二	九州大学	S59	1984	血液内科特任顧問
	喜安純一	九州大学	H14	2002	診療部長
	藤岡絵里子	九州大学 (大学院)	H15 (H23)	2003 (2011)	医師
	牟田宏樹	琉球大学	H27	2015	医長代理
	吉玉健人	福岡大学	H31	2019	専攻医
心療内科 (1名)	木附 康	九州大学	H15	2003	心療内科部長代行

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
総合診療科 (33名)	井村 洋	藤田学園保健衛生大学 (大学院)	S56 (S63)	1981 (1988)	特任副院長 兼総合診療科部長 兼教育推進本部長 兼地域包括ケア推進会議副議長 兼地域包括ケア推進本部長 兼統括事業本部治験推進本部長 兼臨床研究支援室室長 兼外来フィールド長 兼卒後教育評議会副議長 兼救命救急評議会議員 兼デミング賞準備室会議議員 並北第八病棟医長
	中村権一	熊本大学	H3	1991	総合診療科診療部長 兼感染管理センター長
	清田雅智	長崎大学	H7	1995	診療部長
	小田浩之	鹿児島大学	H8	1996	総合診療科診療部長 兼医療安全推進室リスクマネージャー 兼教育推進本部ラーニングセンター長 兼西二階病棟医長
	吉野俊平	長崎大学	H11	1999	集中治療科部長 兼救命救急センター副センター長 兼総合診療科主幹 兼ICU室長
	松永 諭	琉球大学	H15	2003	診療部長
	赤岩 喬	大分大学	H16	2004	診療部長
	江本 賢	金沢大学	H18	2006	総合診療科診療部長 兼集中治療科診療部長
	吉田 伸	名古屋市立大学	H18	2006	診療部長
	中安一夫	自治医科大学	H20	2008	医長
	桑野公輔	東海大学	H22	2010	総合診療科医長 兼集中治療科
	金 弘子	鳥取大学	H23	2011	医長
	工藤仁隆	福岡大学	H24	2012	医長代理
	小杉俊介	熊本大学	H24	2012	医長代理
	山口裕崇	九州大学	H24	2012	総合診療科医長代理 兼 E4 救急・HCU 副室長
	丸山淳也	長崎大学	H24	2012	医長代理
	鶴木友都	大阪大学	H25	2013	医長代理
	鈴木祥太郎	愛知医科大学	H26	2014	医長代理
	安田雄一	鳥取大学	H26	2014	医長代理
	渡部なつき	九州大学	H26	2014	医長代理
	山口瑠美	山口大学	H26	2014	医師
	渡邊 功	九州大学	H27	2015	医長代理
	北野峻介	長崎大学	H27	2015	医長代理
	長谷川順一	神戸大学	H27	2015	医長代理
	川合喬之	愛媛大学	H27	2015	医長代理
	薄 竜太郎	福島県立医科大学	H27	2015	医長代理
	小糸 秀	愛媛大学	H28	2016	医長代理
	坂本純永	旭川医科大学	H28	2016	医長代理
	岩佐和樹	大分大学	H28	2016	医長代理
	佐住洋祐	香川大学	H29	2017	専攻医
	光廣直貴	鹿児島大学	H31	2019	後期研修医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
総合診療科 (33名)	小高聡子	東京大学	H31	2019	後期研修医
	西田千紗	長崎大学	H31	2019	後期研修医
感染症科 (7名)	的野多加志	長崎大学 (東北大学大学院)	H19 (H30)	2007 (2018)	感染症科部長 兼医学研究推進本部詰
	大橋祐介	新潟大学	H25	2013	医長代理
	山手亮佑	佐賀大学	H26	2014	医長代理
	帆足公佑	久留米大学	H26	2014	医長代理
	長谷川雄一	旭川医科大学	H27	2015	医長代理
	土方貴道	東北大学	H27	2015	医長代理
	沖中友秀	熊本大学	H27	2015	医長代理
膠原病・リウマチ内科 (3名)	内野愛弓	長崎大学	H13	2001	膠原病・リウマチ内科部長
	東岡和彦	九州大学	H23	2011	医長
	右田利央子	九州大学	H29	2017	専攻医
連携医療・緩和ケア科 (14名)	柏木秀行	筑波大学	H19	2007	連携医療・緩和ケア科部長 兼地域包括ケア推進本部副本部長 兼中央第六病棟医長
	志賀雅代	帝京大学	H22	2010	医長
	松本翔子	山口大学	H22	2010	医長
	熊井康子	大分大学	H23	2011	医長
	松本弥一郎	近畿大学	H23	2011	医長代理
	大森崇史	山口大学	H24	2012	連携医療・緩和ケア科医長代理 兼心不全ケア科医長代理
	石上雄一郎	滋賀医科大学	H24	2012	医長代理
	中山隆弘	山梨大学	H26	2014	医長代理
	田木聡一	旭川医科大学	H26	2014	医長代理
	原納 遥	京都府立医科大学	H28	2016	医長代理
	森崎貴博	産業医科大学	H28	2016	医長代理
	鶴野倫子	香川大学	H30	2018	後期研修医
	大竹健人	東京医科歯科大学	H31	2019	専攻医
	西尾裕樹	久留米大学	H31	2019	後期研修医
循環器内科 (11名)	井上修二郎	九州大学	H9	1997	循環器内科部長 兼心不全ケア科部長 兼中央第四病棟医長 兼 C4HCU 医長
	稲永慶太	九州大学	H14	2002	循環器内科診療部長 兼 E4 救急・HCU 室長
	川上将司	大分大学 (熊本大学大学院)	H18 (H29)	2006 (2017)	診療部長
	高原勇介	九州大学	H19	2007	医長
	本田修浩	久留米大学 (九州大学大学院)	H19 (H26)	2007 (2014)	医長
	大賀泰寛	長崎大学 (九州大学大学院)	H20 (H28)	2008 (2016)	医長
	石川智一	九州大学 (大学院)	H23 (R2)	2011 (2020)	医長代理
	古川正一郎	群馬大学	H24	2012	循環器内科医長代理 兼心不全ケア科医長代理
	児島啓介	九州大学	H28	2016	医長代理
	諫山孔一	九州大学	H30	2018	専攻医
	山本優太	九州大学	H31	2019	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
心不全ケア科 (3名)	井上修二郎	九州大学	H9	1997	循環器内科部長 兼心不全ケア科部長 兼中央第四病棟医長 兼 C4HCU 医長
	古川正一郎	群馬大学	H24	2012	循環器内科医長代理 兼心不全ケア科医長代理
	大森崇史	山口大学	H24	2012	連携医療・緩和ケア科医長代理 兼心不全ケア科医長代理
心臓血管外科 (4名)	内田孝之	九州大学	H1	1989	心臓血管外科部長 兼循環器病センター長 兼臨床工学部長 兼中央第五病棟医長 兼医学研究推進本部 兼手術評議会議員
	酒井大樹	佐賀大学	H27	2015	医長代理
	塩野剛志	産業医科大学	H30	2018	専攻医
	岩橋啓介	九州大学	H31	2019	専攻医
血管外科 (1名)	松元 崇	九州大学	H6	1994	血管外科部長
泌尿器科 (4名)	中島雄一	福岡大学	H1	1989	副院長 兼泌尿器科部長 兼結石破碎室長 兼東第五病棟医長 兼改善推進本部長 兼手術フィールド長 兼外科入院フィールド長 兼手術評議会議長 兼救命救急評議会議員 兼イノベーション改善運営会議議員 兼デミング賞準備会議議員
	入江慎一郎	福岡大学(大学院)	H6 (H13)	1994 (2001)	診療部長
	宮嶋哲匡	福岡大学(大学院)	H8 (H15)	1996 (2003)	診療部長
	福原悠一朗	福岡大学	H28	2016	医長代理
外科 (7名)	古賀 聡	佐賀医科大学	H8	1996	消化管・内視鏡外科部長 兼外科部長代行 兼東第七病棟医長
	黒田陽介	九州大学 (大学院)	H13 (H19)	2001 (2007)	診療部長
	由茅隆文	筑波大学 (九州大学大学院)	H16 (H27)	2004 (2015)	診療部長
	武谷憲二	九州大学	H18	2006	診療部長
	田尻裕匡	九州大学(大学院)	H22 (H29)	2010 (2017)	医長
	宮下 優	九州大学	H26	2014	医長代理
	岩崎 恒	九州大学	H31	2019	専攻医
消化管・内視鏡外科 (1名)	古賀 聡	佐賀医科大学	H8	1996	消化管・内視鏡外科部長 兼外科部長代行 兼東第七病棟医長
肝胆膵外科 (1名)	萱島寛人	九州大学	H14	2002	肝胆膵外科部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
呼吸器外科 (2名)	安田学	産業医科大学 (大学院)	H7 (H14)	1995 (2002)	呼吸器外科部長
	篠原伸二	産業医科大学	H21	2009	医長
呼吸器腫瘍外科 (1名)	近石泰弘	産業医科大学	H16	2004	呼吸器腫瘍外科部長
小児外科 (2名)	田口匠平	九州大学	H8	1996	小児外科部長
	鴨打周	長崎大学	H27	2015	医長代理
臨床腫瘍科 (2名)	甲斐正徳	熊本大学	H1	1989	臨床腫瘍科部長 兼外科診療部長 兼東第八病棟医長 並情報本部診療情報管理室副室長
	坂野高大	弘前大学	H24	2012	医長代理
腎臓内科 (7名)	藤崎毅一郎	鳥取大学	H11	1999	腎臓内科部長 兼腎センター長 並人工透析室長 並南2A病棟医長
	中下さつき	福岡大学	H16	2004	診療部長
	佐々木 彰	福岡大学 (京都大学大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	医長
	中俣悠亮	久留米大学	H26	2014	医長代理
	福満研人	川崎医科大学	H26	2014	医長代理
	松本英展	熊本大学	H29	2017	専攻医
	佐藤克樹	九州大学	H30	2018	専攻医
小児科 (12名)	岡松由記	福岡大学	H12	2000	小児科部長 兼北第五病棟医長 並新生児室医長
	神田 洋	久留米大学	H8	1996	小児科診療部長 兼総合周産期母子医療センター長 兼総合周産期母子医療センター 新生児部門管理部長 並新生児室長
	大矢崇志	大分医科大学	H10	1998	診療部長
	上杉 達	佐賀医科大学 (九州大学大学院)	H10 (H21)	1998 (2009)	診療部長
	坂口万里江	山口大学	H2	1990	診療部長
	田中祥一朗	久留米大学	H16	2004	診療部長
	田中ゆかり	久留米大学	H21	2009	医師
	齊木玲央	千葉大学	H21	2009	医長代理
	嘉村拓朗	徳島大学	H26	2014	医長代理
	堀川洋平	宮崎大学	H26	2014	医長代理
	田中友規	関西医科大学	H30	2018	専攻医
	新居見真吾	藤田保健衛生大学	H30	2018	専攻医
耳鼻咽喉科 (3名)	佐藤文彦	久留米大学	H25	2013	耳鼻咽喉科部長代行
	平木 陽	久留米大学	H27	2015	医長代理
	三橋敏順	久留米大学	H31	2019	専攻医
眼科 (4名)	中間崇仁	九州大学 (大学院)	H20 (H28)	2008 (2016)	眼科部長代行
	沖田絢子	熊本大学 (九州大学大学院)	H22 (R3)	2010 (2021)	医長
	七條絵美	佐賀大学	H26	2014	医長代理
	永田純也	九州大学	H30	2018	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
整形外科 (10名)	原俊彦	熊本大学	H3	1991	整形外科部長 兼中央第三病棟医長
	浜崎晶彦	長崎大学	H5	1993	診療部長
	美浦辰彦	九州大学	H13	2001	診療部長
	藤村謙次郎	山形大学 (九州大学大学院)	H16 (H25)	2004 (2013)	診療部長
	園田和彦	九州大学(大学院)	H20 (H29)	2008 (2017)	医長
	小宮山敬祐	長崎大学 (九州大学大学院)	H20 (H31)	2008 (2019)	医長
	宇都宮 健	長崎大学 (九州大学大学院)	H21 (H31)	2009 (2019)	医長
	樺山寛光	徳島大学	H27	2015	医長代理
	名取孝弘	佐賀大学	H29	2017	専攻医
	陣林秀紀	福岡大学	H31	2019	専攻医
ペインクリニック科 (1名)	小畑勝義	産業医科大学	S62	1987	ペインクリニック科部長
麻酔科 (6名)	尾崎実展	宮崎医科大学	H1	1989	麻酔科部長 兼手術センター長 兼中央手術室・中央材料室医長 並手術評議会議員
	田平暢恵	九州大学	H12	2000	診療部長
	小西 彩	佐賀医科大学	H13	2001	診療部長 兼ハイブリッド手術センター長
	内藤智孝	九州大学	H16	2004	診療部長
	瀧井優輔	京都大学	H23	2011	医長
	亀山 泉	九州歯科大学	H31	2019	専攻医
脳神経外科 (6名)	名取良弘	九州大学	S60	1985	特任副院長 兼脳神経外科部長 兼救命救急フィールド長 兼救命救急センター長 兼予防医学本部長補佐 兼経営戦略本部長 兼ファシリティー本部長 兼救命救急評議会副議長 兼東第六病棟医長 兼デミング賞準備会議議員 兼手術評議会議員
	甲斐康稔	広島大学 (九州大学大学院)	H11 (H19)	1999 (2007)	診療部長
	井上大輔	九州大学 (大学院)	H15 (H25)	2003 (2013)	診療部長
	雨宮健生	宮崎大学 (九州大学大学院)	H20 (R2)	2008 (2020)	医長
	高原健太	九州大学	H25	2013	医長代理
	林 大輔	鹿児島大学	H27	2015	医長代理
脳神経内科 (6名)	高瀬敬一郎	長崎大学 (九州大学大学院)	H10 (H20)	1998 (2008)	神経内科部長 兼脳卒中センター長 並南1A病棟医長
	園田啓太	九州大学	H17	2005	診療部長
	貞島祥子	鹿児島大学 (九州大学大学院)	H17 (R3)	2005 (2021)	診療部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
脳神経内科 (6名)	篠田紘司	九州大学 (大学院)	H19 (H27)	2007 (2015)	医長
	進村光規	熊本大学	H20	2008	医長
	劉景晨	鹿児島大学	H28	2016	医長代理
病理科 (4名)	大石善丈	九州大学(大学院)	H9 (H16)	1997 (2004)	病理科部長
	平木由佳	九州大学	H20	2008	医長
	成富文哉	九州大学	H28	2016	医長代理
	中居智恵美	名古屋市立大学	H31	2019	専攻医
皮膚科 (4名)	幸田太	鹿児島大学 (九州大学大学院)	H8 (H13)	1996 (2001)	皮膚科部長
	独孤龍	九州大学	H27	2015	医長代理
	成富真由香	福岡大学	H28	2016	医長代理
	王黎亜	産業医科大学	H31	2019	専攻医
形成外科 (2名)	橋口晋一郎	広島大学	H19	2007	形成外科部長
	小山麻衣	九州大学	H21	2009	医長
リエゾン精神科 (5名)	光安博志	九州大学(大学院)	H7 (H15)	1995 (2003)	リエゾン精神科部長 兼心身合併症センター長 兼西三階病棟医長
	猪狩圭介	長崎大学 (九州大学大学院)	H16 (H29)	2004 (2017)	リエゾン精神科診療部長 兼デイケアセンター長 兼西一階病棟医長
	白玉桜	群馬大学	H29	2017	専攻医
	藤野勝	九州大学	H29	2017	専攻医
	落合正樹	九州大学	H30	2018	専攻医
産婦人科 (8名)	辻岡寛	福岡大学(大学院)	H4 (H11)	1992 (1999)	産婦人科部長 兼北第七病棟医長
	後藤麻木	福岡大学(大学院)	H10 (H26)	1998 (2014)	産婦人科診療部長 兼総合周産期母子医療センター 産科部門管理部長 並北第六病棟医長
	西山哲	自治医科大学	H16	2004	診療部長
	藤庸子	長崎大学	H17	2005	診療部長
	李理華	山口大学 (大学院)	H17 (H24)	2005 (2012)	診療部長
	小田美穂	久留米大学	H26	2014	医師
	林宗太郎	北里大学	H28	2016	医長代理
	藤本茂樹	産業医科大学	H28	2016	医長代理
画像診療科 (6名)	三浦亘智	宮崎医科大学	H6	1994	画像診療科部長 兼PETセンター長
	鳥井芳邦	九州大学	S57	1982	診療部長
	永尾英毅	九州大学	H14	2002	診療部長
	鎌野宏礼	山口大学 (九州大学大学院)	H15 (H25)	2003 (2013)	診療部長
	染原有希子	大分医科大学	H22	2010	医長代理
	三道幹大	九州大学	H28	2016	医長代理
放射線治療科 (1名)	久賀元兆	金沢医科大学 (大学院)	H13 (H17)	2001 (2005)	放射線治療科部長
歯科口腔外科 (5名)	中松耕治	九州大学(大学院)	S60 (H1)	1985 (1989)	歯科口腔外科特任部長
	石井広太郎	九州大学(大学院)	H15 (H19)	2003 (2007)	診療部長

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
歯科口腔外科 (5名)	澁谷 南	九州大学(大学院)	H22 (H28)	2010 (2016)	医長
	秋山史織	福岡歯科大学	H31	2019	後期研修医
	松澤鎮史	九州大学	R3	2021	研修医
漢方診療科 (6名)	田原英一	富山医科薬科大学	H3	1991	漢方診療科部長
	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
	井上博喜	鹿児島大学 (富山大学大学院)	H13 (H23)	2001 (2011)	診療部長
	吉永 亮	自治医科大学	H16	2004	漢方診療科診療部長 兼医学研究推進本部詰
	牧 俊允	久留米大学	H18	2006	診療部長
	原田直之	群馬大学	H21	2009	医長
救急科 (5名)	山田哲久	広島大学	H15	2003	救急科部長代行 兼救命救急センター副センター長 兼H2救急室長 兼救命救急評議会議員
	香月洋紀	長崎大学	H26	2014	医長代理
	熊城伶己	神戸大学	H27	2015	医長代理
	三股佳奈子	宮崎大学	H27	2015	医長代理
	松元宗一郎	岐阜大学	H28	2016	医長代理
集中治療科 (6名)	吉野俊平	長崎大学	H11	1999	集中治療科部長 兼救命救急センター副センター長 兼総合診療科主幹 兼ICU室長
	平松俊紀	鳥取大学(大学院)	H14 (H18)	2002 (2006)	診療部長
	江本 賢	金沢大学	H18	2006	総合診療科診療部長 兼集中治療科診療部長
	川上大裕	大分大学	H21	2009	医長
	桑野公輔	東海大学	H22	2010	総合診療科医長 兼集中治療科医長
	橋本匡彦	大阪医科大学	H26	2014	医長代理
リハビリテーション科 (1名)	山下智弘	産業医科大学	H6	1994	リハビリテーション科部長代行
予防医学センター (1名)	矢野博美	佐賀医科大学	H6	1994	漢方診療科診療部長 兼予防医学本部予防医学センター長
内科 (2名)	天野茂太	山梨大学	H29	2017	専攻医
	清水国香	昭和大学	H30	2018	専攻医
内科(呼吸器内科)コース (3名)	川畑隆史	長崎大学	H30	2018	専攻医
	内田和紀	山口大学	H31	2019	専攻医
	村上陽亮	佐賀大学	H31	2019	専攻医
内科(消化器内科)コース (2名)	内山 学	聖マリアンナ医科大学	H29	2017	専攻医
	若杉晃伸	宮崎大学	H30	2018	専攻医
内科(総合診療科)コース (18名)	宍戸諒平	札幌医科大学	H28	2016	専攻医
	小野正詩	香川大学	H28	2016	専攻医
	黒川智美	福岡大学	H28	2016	専攻医
	大西崇平	島根大学	H28	2016	専攻医
	細川 旬	福岡大学	H29	2017	専攻医
	徳島礼実	佐賀大学	H29	2017	専攻医
	原田愛子	島根大学	H29	2017	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
内科(総合診療科)コース (18名)	村上奈央	熊本大学	H29	2017	専攻医
	池田政勝	川崎医科大学	H29	2017	専攻医
	大内田良真	長崎大学	H30	2018	専攻医
	能美康彦	琉球大学	H30	2018	専攻医
	八木一成	埼玉医科大学	H30	2018	専攻医
	稲田宥治	順天堂大学	H30	2018	専攻医
	浅田紘輔	大阪大学	H31	2019	専攻医
	藤田泰裕	鹿児島大学	H31	2019	専攻医
	福田雄太	長崎大学	H31	2019	専攻医
	笠井雅大	福岡大学	H31	2019	専攻医
	井上禎子	九州大学	H31	2019	専攻医
内科(感染症科)コース (1名)	倉員侑己	熊本大学	H30	2018	専攻医
内科(循環器内科)コース (3名)	山川 礼	宮崎大学	H30	2018	専攻医
	北原賢一	長崎大学	H31	2019	専攻医
	小宮圭一郎	佐賀大学	H31	2019	専攻医
内科(腎臓内科)コース (2名)	八城弘憲	金沢医科大学	H30	2018	専攻医
	安達翔平	岐阜大学	H31	2019	専攻医
外科コース (1名)	松本匡永	名古屋市立大学	H30	2018	専攻医
救急科コース (7名)	片桐 欧	帝京大学	H26	2014	専攻医
	藪内俊宜	近畿大学	H27	2015	専攻医
	有吉 慧	信州大学	H29	2017	専攻医
	堤 圭右	京都府立医科大学	H29	2017	専攻医
	岡崎太祐	東北大学	H30	2018	専攻医
	有田雄紀	大分大学	H31	2019	専攻医
	山崎陽平	九州大学	H31	2019	専攻医
産婦人科コース (4名)	吉良さちの	三重大学	H29	2017	専攻医
	渡邊さや	秋田大学	H29	2017	専攻医
	末 英明	長崎大学	H30	2018	専攻医
	安部直希	琉球大学	H31	2019	専攻医
総合診療コース (17名)	大坪寛央	熊本大学	H27	2015	専攻医
	桑原宏輔	久留米大学	H28	2016	専攻医
	上野千晶	久留米大学	H28	2016	専攻医
	井上友美	長崎大学	H28	2016	専攻医
	橋本彦太郎	長崎大学	H28	2016	専攻医
	木安貴大	山口大学	H28	2016	専攻医
	柴田真志	広島大学	H29	2017	専攻医
	山本 賢	九州大学	H29	2017	専攻医
	佐柳和博	久留米大学	H30	2018	専攻医
	寺司佳代	大分大学	H30	2018	専攻医
	渡辺 亮	大阪医科大学	H30	2018	専攻医
	渡邊航大	九州大学	H30	2018	専攻医
	関口大樹	山梨大学	H30	2018	専攻医
	矢野恒太	久留米大学	H31	2019	専攻医
	高橋啓悟	岩手医科大学	H31	2019	専攻医
	新谷あん	香川大学	H31	2019	専攻医
	藤村和弥	福岡大学	H31	2019	専攻医

診療科	氏名	卒業学校名	卒年(和暦)	卒年(西暦)	職名
研修医 (34名)	出光玲菜	長崎大学	R2	2020	研修医
	稲葉哲士	京都府立医科大学	R2	2020	研修医
	稲益 郁	久留米大学	R2	2020	研修医
	猪島直樹	九州大学	R2	2020	研修医
	大西友紀	岡山大学	R2	2020	研修医
	岡村のぞみ	九州大学	R2	2020	研修医
	川下知英	名古屋大学	R2	2020	研修医
	桐原志保美	長崎大学	R2	2020	研修医
	澤邊太郎	神戸大学	R2	2020	研修医
	高井咲弥	九州大学	R2	2020	研修医
	中野幸太	長崎大学	R2	2020	研修医
	縄田英吾	九州大学	R2	2020	研修医
	難波実那子	久留米大学	R2	2020	研修医
	平本琢也	九州大学	R2	2020	研修医
	松本洋典	熊本大学	R2	2020	研修医
	本村真由子	久留米大学	R2	2020	研修医
	米村 拓	京都府立医科大学	R2	2020	研修医
	石井数也	九州大学	R3	2021	研修医
	魏 碩俣	河北医科大学 (河北医科大学大学院) (長崎大学大学院)	H25 (H27) (R3)	2013 (2015) (2021)	研修医
	大神響子	佐賀大学	R3	2021	研修医
	大薄直也	鹿児島大学	R3	2021	研修医
	神矢真由	福岡大学	R3	2021	研修医
	木塚真梨子	筑波大学	R3	2021	研修医
	苔口啓樹	杏林大学	R3	2021	研修医
	笹野奈穂	長崎大学	R3	2021	研修医
	佐野友香	九州大学	R3	2021	研修医
	武 貞輝	久留米大学	R3	2021	研修医
	中川雄介	徳島大学	R3	2021	研修医
	中西 令	京都大学	R3	2021	研修医
	初田萌子	自治医科大学	R3	2021	研修医
	増本陽介	九州大学	R3	2021	研修医
	村橋 遼	福岡大学	R3	2021	研修医
	八木光生	長崎大学	R3	2021	研修医
	山下大裕	山口大学	R3	2021	研修医

2. 医師異動

① 採用

発令月日	氏名	発令	前任
2021.4.1	長澤滋裕	肝臓内科	
2021.4.1	糸永周一	消化器内科	九州大学病院
2021.4.1	大崎智絵	消化器内科	九州大学病院
2021.4.1	松林江里子	消化器内科	北九州市立医療センター
2021.4.1	梯 祥太郎	消化器内科	九州大学病院
2021.4.1	花香未奈子	呼吸器内科	合同会社ミーシャ
2021.4.1	山元隆太	呼吸器内科	敬愛会 中頭病院
2021.4.1	前田顕子	呼吸器内科	沖縄県立中部病院
2021.4.1	井上智彰	内分泌・糖尿病内科	九州大学大学院
2021.4.1	舩津美奈	内分泌・糖尿病内科	九州大学病院
2021.4.1	吉玉健人	血液内科	国立病院機構 九州医療センター
2021.4.1	牟田宏樹	血液内科	九州大学病院
2021.4.1	浅田紘輔	総合診療科	一般財団法人 住友病院
2021.4.1	藤田泰裕	総合診療科	国立病院機構 福岡東医療センター
2021.4.1	光廣直貴	総合診療科	熊本赤十字病院
2021.4.1	小高聡子	総合診療科	水戸共同病院
2021.4.1	西田千紗	総合診療科	熊本赤十字病院
2021.4.1	福田雄太	総合診療科	浜の町病院
2021.4.1	笠井雅大	総合診療科	沖縄県立北部病院
2021.4.1	井上禎子	総合診療科	国立病院機構 関門医療センター
2021.4.1	橋本彦太郎	総合診療科	天理よろづ相談所病院
2021.4.1	矢野恒太	総合診療科	宇部興産中央病院
2021.4.1	高橋啓悟	総合診療科	佐久総合病院
2021.4.1	新谷あん	総合診療科	キナシ大林病院
2021.4.1	藤村和弥	総合診療科	福岡徳洲会病院
2021.4.1	山本 賢	総合診療科	九州大学病院
2021.4.1	丸山淳也	総合診療科	奈義ファミリークリニック
2021.4.1	薄 竜太郎	総合診療科	太田総合病院附属 太田西ノ内病院
2021.4.1	沖中友秀	感染症科	鹿児島生協病院
2021.4.1	右田利央子	膠原病・リウマチ内科	九州大学病院 別府病院
2021.4.1	田木聡一	連携医療・緩和ケア科	沖縄徳洲会 中部徳洲会病院
2021.4.1	志賀雅代	連携医療・緩和ケア科	NTT東日本健康管理センター 南関東
2021.4.1	大竹健人	連携医療・緩和ケア科	聖隷浜松病院
2021.4.1	西尾裕樹	連携医療・緩和ケア科	徳山中央病院
2021.4.1	本田修浩	循環器内科	福岡赤十字病院
2021.4.1	児島啓介	循環器内科	九州大学病院
2021.4.1	山本優太	循環器内科	九州大学病院
2021.4.1	酒井大樹	心臓血管外科	福岡市立こども病院
2021.4.1	岩橋啓介	心臓血管外科	倉敷中央病院
2021.4.1	福原悠一郎	泌尿器科	福岡大学筑紫病院
2021.4.1	入江慎一郎	泌尿器科	福岡大学 医学部腎泌尿器外科学講座 講師
2021.4.1	黒田陽介	外科	福岡市民病院
2021.4.1	田尻裕匡	外科	国立病院機構 別府医療センター
2021.4.1	宮下 優	外科	九州大学病院
2021.4.1	近石泰弘	呼吸器外科	下関市立市民病院
2021.4.1	安達翔平	腎臓内科	大同病院
2021.4.1	佐藤克樹	腎臓内科	福岡赤十字病院
2021.4.1	上杉 達	小児科	大牟田市立病院
2021.4.1	新居見真吾	小児科	久留米大学病院
2021.4.1	中間崇仁	眼科	九州大学病院
2021.4.1	沖田絢子	眼科	九州医療センター

発令月日	氏名	発令	前任
2021.4.1	永田純也	眼科	九州大学病院
2021.4.1	七條絵美	眼科	九州大学病院
2021.4.1	宇都宮 健	整形外科	スタンフォード大学 整形外科
2021.4.1	樺山寛光	整形外科	製鉄記念八幡病院
2021.4.1	名取孝弘	整形外科	福岡市立こども病院
2021.4.1	亀山 泉	麻酔科	九州大学病院
2021.4.1	高原健太	脳神経外科	下関市立市民病院
2021.4.1	貞島祥子	脳神経内科	九州大学 大学院 医学系学府脳神経内科
2021.4.1	篠田紘司	脳神経内科	ペンシルバニア大学 ペレルマン医学大学院
2021.4.1	中居智恵美	病理科	山口大学医学部附属病院
2021.4.1	王 黎亜	皮膚科	福岡赤十字病院
2021.4.1	白玉 桜	リエゾン精神科	福岡県立精神医療センター 太宰府病院
2021.4.1	安部直希	産婦人科	大阪大学医学部附属病院
2021.4.1	永尾英毅	画像診療科	九州労災病院
2021.4.1	石井広太郎	歯科口腔外科	九州大学病院
2021.4.1	秋山史織	歯科口腔外科	九州大学病院
2021.4.1	松澤鎮史	歯科口腔外科	九州大学
2021.4.1	原田直之	漢方診療科	高崎総合医療センター
2021.4.1	有田雄紀	救急科	九州大学病院
2021.4.1	山崎陽平	救急科	名古屋徳洲会総合病院
2021.4.1	川上大裕	集中治療科	神戸市立医療センター 中央市民病院
2021.4.1	清水国香	内科	昭和大学
2021.4.1	石井数也	臨床研修室	九州大学
2021.4.1	大神響子	臨床研修室	佐賀大学
2021.4.1	大薄直也	臨床研修室	鹿児島大学
2021.4.1	神矢真由	臨床研修室	福岡大学
2021.4.1	木塚真梨子	臨床研修室	筑波大学
2021.4.1	苔口啓樹	臨床研修室	杏林大学
2021.4.1	笹野奈穂	臨床研修室	長崎大学
2021.4.1	佐野友香	臨床研修室	九州大学
2021.4.1	武 貞輝	臨床研修室	久留米大学
2021.4.1	中川雄介	臨床研修室	徳島大学
2021.4.1	中西 令	臨床研修室	京都大学
2021.4.1	初田萌子	臨床研修室	自治医科大学
2021.4.1	増本陽介	臨床研修室	九州大学
2021.4.1	村橋 遼	臨床研修室	福岡大学
2021.4.1	八木光生	臨床研修室	長崎大学
2021.4.1	山下大裕	臨床研修室	山口大学
2021.4.15	魏 碩俣	臨床研修室	長崎大学大学院
2021.6.1	井上大輔	脳神経外科	九州労災病院
2021.7.1	三道幹大	画像診療科	新小倉病院
2021.8.1	松本翔子	連携医療・緩和ケア科	宇部興産中央病院
2021.9.1	熊井康子	連携医療・緩和ケア科	がん研究会 有明病院
2021.10.1	関口大樹	総合診療科	常陸大宮済生会病院
2021.10.1	天野茂太	内科	沖縄徳洲会 中部徳洲会病院
2021.10.1	篠原伸二	呼吸器外科	産業医科大学病院
2021.10.1	森崎貴博	連携医療・緩和ケア科	産業医科大学病院
2021.10.1	藤野 勝	リエゾン精神科	九州大学病院
2021.10.1	独狐 龍	皮膚科	北九州市立門司病院
2021.10.16	三橋敏順	耳鼻咽喉科	久留米大学病院
2021.11.1	末 英明	産婦人科	長崎医療センター

② 退職

発令月日	氏名	所属	異動先
2021.3.31	芥川宗樹	消化器内科	青磁野リハビリテーション病院
2021.3.31	佐藤 諒	消化器内科	浦添総合病院
2021.3.31	吉山慶三	眼科	福岡赤十字病院
2021.3.31	牛島貴宏	整形外科	溝口病院
2021.3.31	酒見勇太	整形外科	原三信病院
2021.3.31	大屋清文	連携医療・緩和ケア科	京都桂病院
2021.3.31	有田英生	歯科口腔外科	熊本大学病院
2021.3.31	吉開友則	画像診療科	社会医療法人 大成会 福岡記念 PET・健診センター
2021.3.31	落合浩一郎	画像診療科	
2021.3.31	西澤夏將	呼吸器外科	産業医科大学 第二外科
2021.3.31	後藤雄輔	漢方診療科	健康リハビリテーション内田病院
2021.3.31	梶山 潔	外科	大分赤十字病院
2021.3.31	前園明寛	循環器内科	
2021.3.31	西田知也	膠原病・リウマチ内科	九州大学病院
2021.3.31	菅野真未	整形外科	別府医療センター
2021.3.31	末永顕彦	消化器内科	九州労災病院
2021.3.31	鶴田佳雅	消化器内科	静岡赤十字病院
2021.3.31	廣橋 航	総合診療科	国家公務員共済組合連合会浜の町病院
2021.3.31	堀田亘馬	総合診療科	高槻病院
2021.3.31	西田奈美	リエゾン精神科	小倉医療センター
2021.3.31	山本凱大	臨床研修室	JCHO九州病院
2021.5.12	麻生丈一郎	耳鼻咽喉科	麻生耳鼻咽喉科医院
2021.5.31	伊是名純弥	内科	友愛医療センター
2021.9.30	八ッ賀秀一	小児科	福岡大学 小児科
2021.9.30	海老規之	呼吸器腫瘍内科	福岡大学病院 呼吸器内科
2021.9.30	永濱宏章	形成外科	久留米大学
2021.9.30	山田 亮	リエゾン精神科	九州大学
2021.9.30	石川大平	集中治療科	Toowoomba Hospital
2021.9.30	岩浪崇嗣	呼吸器腫瘍外科	社会医療法人 北九州病院
2021.10.31	岡本健太郎	連携医・療緩和ケア科	
2021.12.31	吉松由貴	呼吸器内科	University of Greenwich
2021.12.31	小畑勝義	ペインクリニック科	健和会 大手町リハビリテーション病院

3. 看護師長・主任名簿

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名			
看護部	副院長兼看護部長	森山由香	南病棟	南 3A 病棟	看護師長 看護主任	姫野美佐子 吉田千絵		
	看護管理師長	渡邊恵里子		南 3B 病棟	看護師長(兼) 看護主任	和田麻美 片岡賀美		
	看護管理師長	倉智恵美子		南 2A 病棟	看護師長 看護主任	小松加寿子 長谷川千絵		
	看護管理師長	久保佳子		南 1A 病棟	看護師長 看護主任	小原智恵子 其上真由美		
	看護管理師長	和田麻美			西三階病棟	看護師長 看護主任	秀島陽子 月俣千鶴	
北病棟	北第八病棟	看護師長 看護主任	日置由季 梅野陽香	西病棟	西二階病棟	看護師長 看護主任	上川重昭 吉田佳代	
	北第七病棟	看護師長 看護主任	佐野美和子 福原美保子		西一階病棟	看護師長	溝田智美	
	北第六病棟	看護師長 看護主任	中山和子 藤田起代美		人工透析室	看護師長	乗次瑞穂	
	北第五病棟	看護師長 看護主任	竹中久美 松岡知美	ハイケア棟	がん集学治療センター	看護師長代行 看護主任	佐藤香緒里 木森由紀子	
		北第五病棟 (NICU・GCU)	看護師長 看護主任		久保田理恵	外来化学療法室	看護師長代行(兼)	佐藤香緒里
	東病棟	東第八病棟	看護師長 看護主任		石飛一枝 吉田嘉子	H2 救急	看護師長 看護主任	長田孝幸 濱田美智子
		東第七病棟	看護師長代行 看護主任 看護主任		森田理真子 白土加代 仲 祐司	救命救急センター	看護師長(兼) 看護主任	渡邊恵里子 木村美香
			東第六病棟		看護師長 看護主任		梶原優子 藤井美保	14A・14B・13A・13B
				東第五病棟	看護師長代行 看護主任	西本美香 中尾里美	14A	看護主任
		東第四病棟	看護師長 看護主任		上野理恵 岸野紀子	14B	看護師長 看護主任	中島久美子 川畑浩子
E4 救急・HCU			看護師長 看護主任	小畑亜紀子 高木理恵	13A	看護主任	加治屋晶子	
		中央手術室	看護師長 看護主任 看護主任	花村裕美 浦田吉広 矢野知代	13B	看護主任 看護主任	高口則子 中村百合子	
ICU			看護師長 看護主任 看護主任	坂本雅美 藤岡智恵 石垣あい	12A・12B・11A・11B	フロアマネージャー	渡辺由香利	
			中央第六病棟	看護師長 看護主任	細川智美 舛田能生子	12A	看護主任	白土かおり
		中央第五病棟		看護師長 看護主任 看護主任	野見山由美子 重藤綾子	12B	看護主任	金森恵美
中央第四病棟	看護師長 看護主任 看護主任		田中あづさ 花田千穂 長崎佳代	11B	看護主任	宮西博子		
	中央第三病棟		看護師長 看護主任	小島 薫 西岡順子	画像診療科	看護師長	野島 薫	
		中央病棟	看護師長 看護主任	田中あづさ 花田千穂	放射線治療科	看護師長(兼)	渡邊恵里子	
中央第六病棟	看護師長 看護主任		細川智美 舛田能生子	漢方診療科	看護主任	岩野弥邦子		
	中央第五病棟		看護師長 看護主任	野見山由美子 重藤綾子	リエゾン精神科	看護主任	吉村麻紀子	
中央第四病棟			看護師長 看護主任	田中あづさ 花田千穂	小児科	看護主任	荒巻美鈴	
	中央第三病棟		看護師長 看護主任	小島 薫 西岡順子	眼科	看護主任	松山純子	
中央第二病棟			看護師長 看護主任	小島 薫 西岡順子	耳鼻咽喉科	看護師長	中島広美	
	中央病棟		看護部長室 看護師特定行為研修推進担当	マネージャー サブマネージャー 看護師長	百瀬栄美子 樋口圭子 許斐綾子			

4. 医療技術部門役職者名簿

所 属	職 名	氏 名
副院長		金澤康範
薬剤部	薬剤長(兼)	金澤康範
	副薬剤長 (颯田病院出向)	林 勝次
	副薬剤長	荒木哲也
	副薬剤長	梅田勇一
	主任	中嶋弘之
	主任	秋吉菜穂
	主任	神野貴子
	主任	富永麻衣子
	主任	秀島里沙
	主任	松永尚子
	主任	進 健司
	主任	小田怜史
	中央検査部	技師長
副技師長		長谷一憲
副技師長		犬丸絵美
主任		井上佳奈子
主任		森 俊明
主任		藤上祐子
主任		川野和彦
主任		浦園真司
主任		川嶋大輔
主任		吉田真紀
中央放射線部	技師長	宮原信一郎
	副技師長	萩尾清文
	副技師長	満園耕治
	主任	西谷芳徳
	主任	梶嶋哲雄
	主任	白石 隆
	主任	上田憲司
	主任	井下田栄吉
	主任	太田黒大明
	主任	鳥江功二
リハビリテーション部	技師長	井本俊之
	副技師長	兵道哲彦
	副技師長	山崎哲弘
	副技師長	宮本隆寿
	副技師長	甲斐田幸輝
	主任	比嘉早苗
	主任	江里口杏平
	主任	阿比留はるか
	主任	石川清美
	主任	井上智博
	主任	西村天利
	主任	安藤幸助
	主任	津嶋裕美
	主任	田中雅也
	主任	佐々木雅美
	主任	井上浩子
	主任代行	栗田芳宏
臨床工学部	マネージャー(兼)	小野清恒
	副技師長 (京都病院出向)	小峠博樹
	副技師長	小田和也
	副技師長	村上輝之
	副技師長(兼)	井桁洋貴
	主任	清水重光
	主任	沖永一樹
	主任	金城依子
	主任	黒瀬 努
	主任	松岡翔平
	主任	伊藤明広
栄養部	科長	重松由美
	科長代理	田代千恵子
	主任	岸川美貴子
医療福祉室	副技師長 (兼地域連携センター副センター長 兼がん相談支援センター長)	浦川雅広
		樋口愛紀子
	主任	住吉まゆみ
	臨床心理室	主任
歯科衛生室	副技師長	本田智恵子
	主任代行	河野真由美

5. 経営管理部門等役職者名簿

所 属	職 名	氏 名
特任副院長（兼医療連携本部長）		岩佐紀輝
経営管理部長		池 賢二郎
経営管理副部長		藤野泰典
経営管理副部長（兼）		木下了丞
経営管理部マネージャー		皆川栄治
経営管理部サブマネージャー		大井恵子
企画管理課	課長	倉重貴彰
	課長代理	仲吉 翔
広報課	課長	都留和宏
	課長代理	内田静香
医事課	課長	楠元正道
	課長代理	吉田孝一
	課長代理	原田智史
	主任	小栗沙織
	主任	竹下直美
	主任	吉田香代
	主任	石松孝子
人事課	課長	古谷秀文
	マネージャー	松岡英道
	課長代理	中村良江
	課長代理(医務室担当)	桑岡 勲
	課長代理(愛生苑出向)	安永 徹
総務課	救命救急センター事務長	木下了丞
	課長	高瀬修治
	課長代理	田原和幸
	ER-Aideサブマネージャー	齋藤孝生
	ER-Aide 主任	橋本康平
経理課	課長	吉武成美
資材課	課長（兼）	藤野泰典
	課長代理	細川忠行
診療支援課	課長	阿部弘子
	係長（DS 室）	松井美保
	主任	辻口大輔
情報システム室	室長	城野政博
診療情報管理室	室長（兼）	福村文雄
	副室長（兼）	甲斐正徳
	サブマネージャー	光武和寿
	主任	大西照子
施設環境サービス課	課長	兼実孝志
	課長代理	甲斐慎一
治験管理室	室長	吉柳富次郎
臨床研究支援室	室長（兼）	井村 洋
	副室長	古賀秀信
改善推進本部	マネージャー	立石奈々
	サブマネージャー	山下卓士
	サブマネージャー	寺岡理恵子
医療連携本部地域連携センター	センター長	田村美恵
	師長（兼）	長岡由起
	主任	財津恵美
	主任	山中良子
	主任	藤瀬芳子
予防医学センター	サブマネージャー	羽坂尚美
	主任	草本君子
地域包括ケア推進本部	マネージャー	小栗和美
	主任	幸野亜希子
	主任	原口敦子
イノベーション推進本部	マネージャー（兼）	井桁洋貴
工房・知財管理室	室長（兼）	井桁洋貴
デミング賞準備室	室長（兼）	福村文雄
教育推進本部	マネージャー	日高幸彦
南 3A 病棟	主任クラーク	今津好美
東第七病棟	主任クラーク	松田加奈子
東第六病棟	主任クラーク	中尾麻美
中央材料室	室長	小野清恒

6. 主要委員会

①常設委員会

ブロック名称	ブロック長	委員会名称	委員長	副委員長	委員数*
業務安全	増本陽秀	医療ガス安全管理委員会	内藤智孝	村上輝之	5名
		放射線安全委員会・特定放射線同位元素防護委員会	三浦亘智	宮原信一郎	8名
		感染管理委員会	増本陽秀	中村権一	14名
		労働安全衛生委員会	増本陽秀	—	36名
		医師の負担軽減・処遇改善委員会	増本陽秀	—	36名
物品購入	増本陽秀	薬事委員会	増本陽秀	金澤康範	7名
		資材委員会	増本陽秀	—	11名
医療の質のモニター	中島雄一	ISO 委員会	名取良弘	中嶋弘之	25名
		TQM 活動推進委員会	中島雄一	山下卓士	14名
		クリニカルパス委員会	辻岡 寛	倉智恵美子	18名
		QI 委員会	名取良弘	的野多加志	10名
		CS・ES 委員会	渡邊恵里子	楠元正道	14名
医療の安全管理	福村文雄	急変対応委員会	小田浩之	山田哲久	15名
		MRM 委員会	福村文雄	—	18名
		透析機器安全管理委員会	藤崎毅一郎	沖永一樹	5名
		病院食サービス委員会	井上智彰	大西崇平	5名
情報管理	福村文雄	情報システム委員会	清田雅智	田原英一	15名
		診療情報管理委員会	福村文雄	—	17名
教育・研修	井村 洋	研修管理委員会	井村 洋	—	37名
		図書委員会	藤崎毅一郎	高瀬修治	10名
		クレデンシャル委員会	名取良弘	—	42名
		手術室業務改善委員会	尾崎実展	花村裕美	12名
		内視鏡センター業務改善委員会	久保川 賢	中島久美子	14名
		地域医療支援研修委員会	岩佐紀輝	—	5名
倫理	名取良弘	倫理委員会	名取良弘	—	16名
		臨床研究管理委員会	白土基明	—	12名
		治験審査委員会	原 俊彦	辻岡 寛	12名
		脳死判定委員会	高瀬敬一郎	岡松由記	9名
		小児虐待防止委員会	田中祥一朗	—	23名
		患者行動制限最小化委員会	光安博志	—	4名
		個人情報保護委員会	福村文雄	—	7名
診療の適正化	本村健太	呼吸管理委員会	飛野和則	野見山由美子	21名
		褥瘡管理委員会	幸田 太	橋口晋一郎 冷川 薫	15名
		栄養管理委員会	田口匠平	牧 俊允	11名
		輸血療法委員会	喜安純一	濱井優輔	10名
		診療報酬適正管理委員会	清田雅智	楠元正道 渡邊恵里子	10名
		臨床検査適正化委員会	大石善丈	秋永理恵	11名
がん診療	中島雄一	がん診療連携委員会	本村健太	—	11名
		がん集学治療委員会	古賀 聡	白土基明	15名
		緩和ケア委員会	柏木秀行	石上雄一郎 宮崎万友子	12名

※委員数：委員長、副委員長を除く数（事務局含む）

②看護部常設委員会

委員会名称	委員長	所属	委員数
業務改善委員会 (セル看護委員会)	小松加寿子	南 2A 病棟看護師長	30 名
看護手順・基準委員会	立川 翠	北第五病棟 (NICU・GCU) 看護師長	15 名
教育委員会	乗次瑞穂	人工透析室看護師長	30 名
臨床指導者委員会	姫野美佐子	南 3A 病棟看護師長	31 名
看護研究委員会	田中あづさ	中央第四病棟看護師長	9 名
看護記録委員会	梶原優子	東第六病棟看護師長	10 名

2021年12月31日現在

③医局会 (医局会役員)

医局長	飛野和則 (呼吸器内科)
副医局長	矢田雅佳 (肝臓内科) 由茅隆文 (外科)
会計	松本弥一郎 (連携医療・緩和ケア科)
渉外	末安巧人 (呼吸器内科)
会計監査	江口冬樹 (特任副院長) 高瀬修治 (総務課)
事務	平石美代 (総務課)

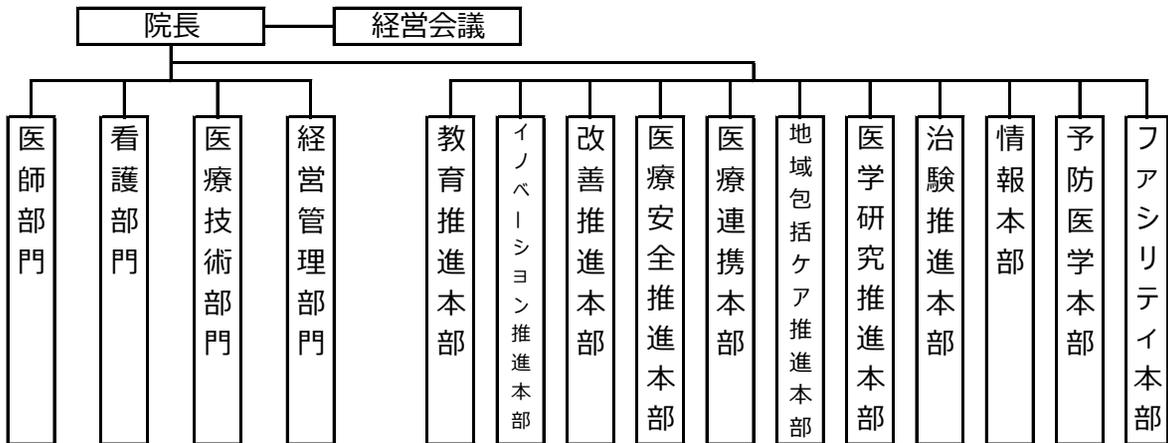
2021年12月31日現在

〔Ⅸ〕飯塚病院概況 他

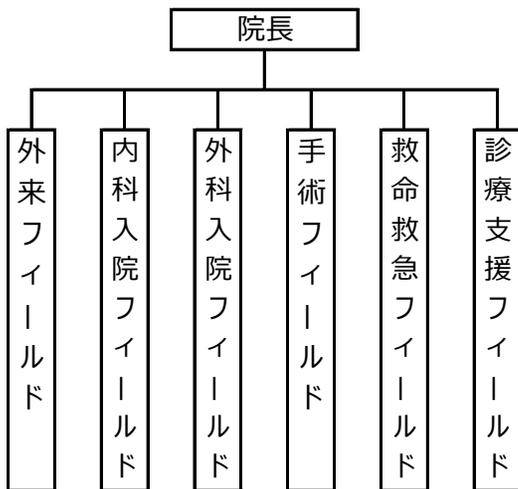
1. 飯塚病院組織図

飯塚病院 組織図

部門・本部



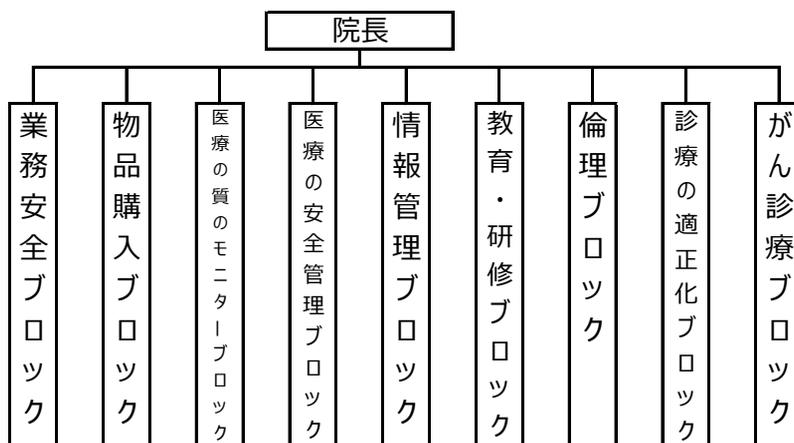
診療フィールド



院長直轄の会議体

住民医療協議会
地域医療支援病院運営委員会
幹部会
日本一のまごころ病院実現諮問会議
経営戦略会議
フィールド長会議
卒後教育評議会
救命救急評議会
手術評議会
イノベーション改善運営会議
地域包括ケア推進会議
デミング賞準備会議
医療事故対策会議

常設委員会



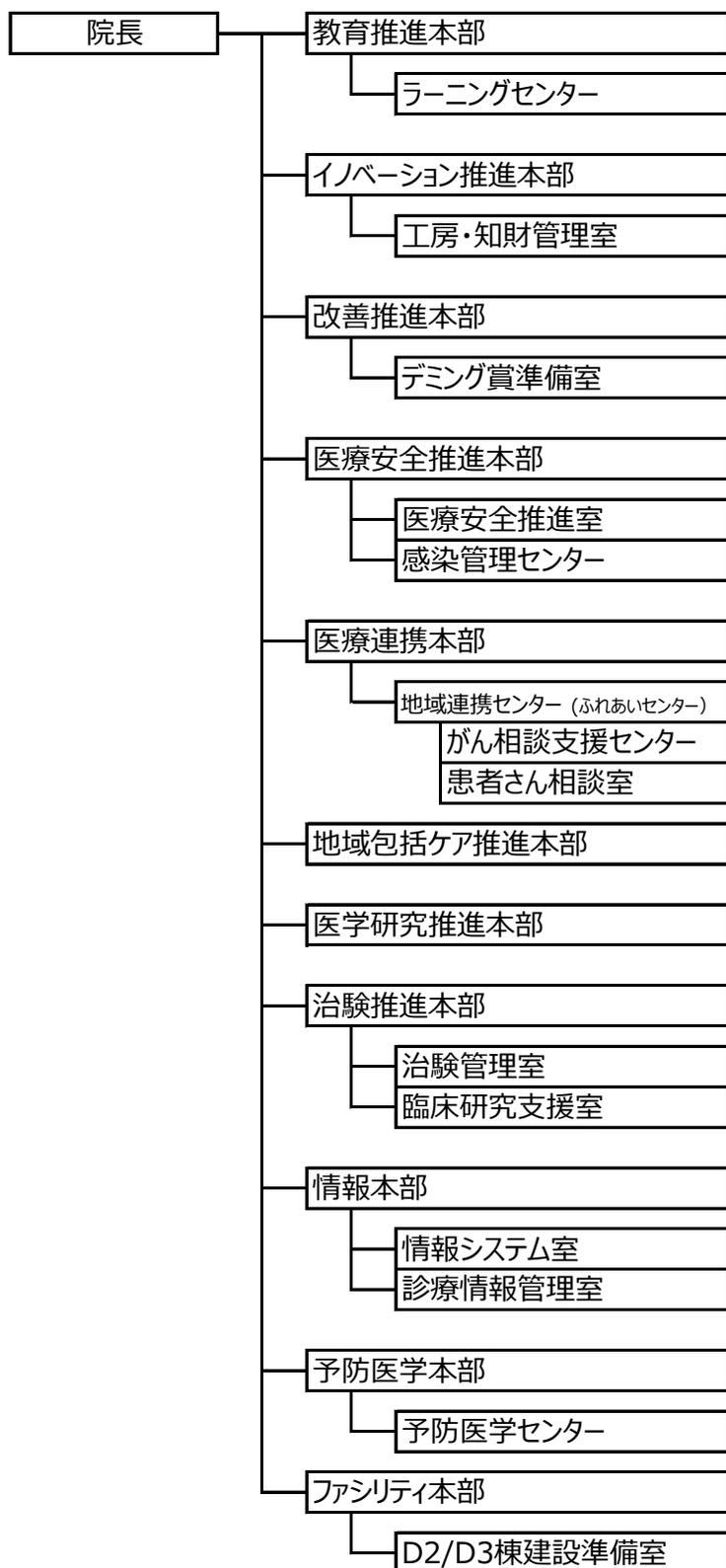
部門

診療現場の生産性、診療の質を担保する上で必要な人材やその他の資源を管理し、将来の方向性、指針などをとりまとめ実行する組織体



本部

院長特命の課題・分野において方針をとりまとめ、部門横断的にマネジメントを行う部署



診療フィールド

診療現場において適正な医療が提供できるよう各診療科・現場内でコミュニケーションを密にとり、現場内の問題を解決していく場

外来フィールド

11A	総合受付 (トリアージセンター)
11B	総合診療科
	感染症科
11D	会計
11E	PET・核医学センター
12A	肝臓内科
	膠原病・リウマチ内科 (膠原病・リウマチセン)
	内分泌・糖尿病内科
	血液内科
	整形外科
12B	腎臓内科
13A	産婦人科
	泌尿器科
	皮膚科
	形成外科
13B	脳神経内科
	外科
	呼吸器外科
	脳神経外科
	麻酔科・ペインクリニック科
	連携医療・緩和ケア科
14A	循環器内科
	呼吸器内科
	消化器内科
	心療内科
	心臓血管外科
	血管外科
14B	内視鏡センター
34	血液浄化センター
50	リハビリテーション科
51C	画像診療科
52A	眼科
52B	耳鼻咽喉科
52D	小児科
	小児外科
52E	歯科口腔外科
52F	漢方診療科 (東洋医学センター)
63	デイケアセンター
71	リエゾン精神科

内科入院フィールド

中央第六病棟
中央第四病棟
C4HCU
南3A病棟
南3B病棟
南2A病棟
入院透析室
南1A病棟
東第四病棟
H3F (がん集学治療センター)
外来化学療法室
西三階病棟 (心身合併症センター)
西二階病棟
西一階病棟
北第八病棟
北第五病棟
NICU・GCU
放射線治療科

手術フィールド

手術センター
外来手術センター
ハイブリッド手術センター
中央手術室
中央材料室
病理科

救命救急フィールド

救命救急センター
救急外来
ICU
H2救急
E4救急
E6救急
E4HCU
高気圧酸素治療室

外科入院フィールド

中央第五病棟
C5HCU
中央第三病棟
東第八病棟
東第七病棟
E7HCU
東第六病棟
東第五病棟
北第七病棟
北第六病棟・MFICU

診療支援フィールド

薬剤部
中央検査部
中央放射線部
栄養部
リハビリテーション部
臨床工学部
医療福祉室
歯科衛生室
臨床心理室

● 機能的センター群

総合周産期母子医療センター
循環器病センター
呼吸器病センター
脳卒中センター
腎センター

常設委員会

法的及び社会的責任を果たすために設置され、病院経営や運営に直結し、期限を定めず定期的な開催を行う会議体

業務安全ブロック	医療ガス安全管理委員会
	放射線安全委員会・特定放射性同位元素防護委員会
	感染管理委員会
	労働安全衛生委員会
	医師の負担軽減・処遇改善委員会
物品購入ブロック	薬事委員会
	資材委員会
医療の質のモニターブロック	ISO委員会
	TQM活動推進委員会
	クリニカルパス委員会
	QI委員会
	CS・ES委員会
医療の安全管理ブロック	急変対応委員会
	MRM委員会
	透析機器安全管理委員会
	病院食サービス委員会
情報管理ブロック	情報システム委員会
	診療情報管理委員会
教育・研修ブロック	研修管理委員会
	図書委員会
	クレデンシャル委員会
	手術室業務改善委員会
	内視鏡センター業務改善委員会
	地域医療支援病院研修委員会
倫理ブロック	倫理委員会
	臨床研究管理委員会
	治験審査委員会
	脳死判定委員会
	小児虐待防止委員会
	患者行動制限最小化委員会
	個人情報保護委員会
診療の適正化ブロック	呼吸管理委員会
	褥瘡管理委員会
	栄養管理委員会
	輸血療法委員会
	診療報酬適正管理委員会
	臨床検査適正化委員会
がん診療ブロック	がん診療連携委員会
	がん集学治療委員会
	緩和ケア委員会

2. 概 要

(2021年12月現在)

名 称：飯塚病院
開 設：大正7年（1918年）8月
開 設 者：株式会社麻生 代表取締役社長 麻生 巖
所 在 地：福岡県飯塚市芳雄町3番83号
病 院 区 分：地域医療支援病院
院 長：増本陽秀
名 誉 院 長：田中二郎
副 院 長：本村健太、中島雄一、森山由香、金澤康範
特任副院長：安藤廣美、山本英彦、鮎川勝彦、井村 洋、江口冬樹、赤星和也、名取良弘、
福村文雄、岩佐紀輝

許可病床数：1,048床（一般978床、精神70床）

敷地面積：46,272.26㎡

延床面積：71,429.87㎡

職 員 数：

医 師	347名
看 護 師	1,080名
医療技術者	575名
事務その他	465名
計	2,467名

病 棟 数：北棟7病棟、東棟10病棟、ハイケア棟2病棟、中央棟6病棟、南棟4病棟、
西棟3病棟、計32病棟

診 療 科 目：44科

肝臓内科 消化器内科 呼吸器内科 呼吸器腫瘍内科 内分泌・糖尿病内科
血液内科 心療内科 総合診療科 膠原病・リウマチ内科 連携医療・緩和ケア科
循環器内科 心不全ケア科 心臓血管外科 血管外科 泌尿器科 外科
臨床腫瘍科 消化管・内視鏡外科 肝胆膵外科 呼吸器外科 呼吸器腫瘍外科
小児外科 腎臓内科 小児科 耳鼻咽喉科 眼科 整形外科 麻酔科
ペインクリニック科 脳神経外科 脳神経内科 病理科 皮膚科 形成外科
リエゾン精神科 産婦人科 画像診療科 放射線治療科 歯科口腔外科
漢方診療科 感染症科 救急科 集中治療科 リハビリテーション科

施設基準届出状況

1) 基本診療料

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
オンライン診療料
一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）
精神病棟入院基本料（15対1）
重度認知症加算（精神入院）
障害者施設等入院基本料（10対1）
看護補助加算（障害入院）
夜間看護体制加算（障害入院）
総合入院体制加算1
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算2（15対1）
急性期看護補助体制加算（25対1）看護補助者5割以上
看護職員夜間配置加算（12対1）
特殊疾患入院施設管理加算
看護配置加算
看護補助加算1
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算2
緩和ケア診療加算
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
医療安全対策地域連携加算
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
抗菌薬適正使用支援加算
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
呼吸ケアチーム加算
後発医薬品使用体制加算3
病棟薬剤業務実施加算1
データ提出加算2
入退院支援加算1及び加算3
地域連携診療計画加算
入院時支援加算
総合機能評価加算
認知症ケア加算1
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
地域医療体制確保加算
地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料1
救急体制充実加算1
特定集中治療室管理料2
早期離床・リハビリテーション加算
小児加算
ハイケアユニット入院医療管理料1
新生児特定集中治療室管理料2

新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料2
緩和ケア病棟入院料1
短期滞在手術等基本料1
短期滞在手術等基本料2

2) 特掲診療料

歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
ウイルス疾患指導料
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導料イ
がん患者指導料ロ
がん患者指導料ハ
がん患者指導料ニ
外来緩和ケア管理料
糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防・ケア指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
地域連携小児夜間・休日診療料2
地域連携夜間・休日診療料
院内トリアージ実施料
外来放射線照射診療料
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
医療機器安全管理料（歯科）
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
在宅療養後方支援病院
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
遺伝学的検査
精密触覚機能検査
骨髄微小残存病変量測定
B R C A 1 / 2 遺伝子検査
先天性代謝異常症検査
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
検体検査管理加算（IV）
国際標準検査管理加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
胎児心エコー法
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査
脳波検査判断料1

神経学的検査
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷試験
CT透視下気管支鏡検査加算
経気管支凍結生検法
画像診断管理加算2
ポジトロン断層撮影
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
血流予備量比コンピューター断層撮影
外傷全身CT加算
心臓MRI撮影加算
乳房MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
がん患者リハビリテーション料
歯科口腔リハビリテーション料2
救急患者精神科継続支援料
精神科作業療法
認知療法・認知行動療法1
精神科ショート・ケア「大規模なもの」
精神科デイ・ケア「大規模なもの」
抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
医療保護入院等診療料
処置の休日加算1(医科点数表第2章第9部処置の通則の5に規定する処置の休日加算1)
処置の時間外加算1(医科点数表第2章第9部処置の通則の5に規定する処置の時間外加算1)
処置の深夜加算1(医科点数表第2章第9部処置の通則の5に規定する処置の深夜加算1)
処置の休日加算1(歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に規定する処置の休日加算1)
処置の時間外加算1(歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に規定する処置の時間外加算1)
処置の深夜加算1(歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に規定する処置の深夜加算1)
硬膜外自家血注入
人工腎臓
導入期加算2及び腎代替療法実績加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
根管内異物除去(手術用顕微鏡加算)
CAD/CAM冠
皮膚移植術(死体)
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)
骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
緑内障手術 (緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)

網膜付着組織を含む硝子体切除術 (眼内内視鏡を用いるもの)
網膜再建術
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)(乳がんセンチネルリンパ節加算1)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(乳がんセンチネルリンパ節加算2)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)(センチネルリンパ節生検(単独))
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
胸腔鏡下弁形成術
経カテーテル大動脈弁置換術
胸腔鏡下弁置換術
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き埋込型除細動器交換術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
経皮的大動脈遮断術
ダメージコントロール手術
胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
手術の休日加算1(医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の休日加算1)
手術の時間外加算1(医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の時間外加算1)
手術の深夜加算1(医科点数表第2章第10部手術の通則の12に規定する手術の深夜加算1)
手術の休日加算1(歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に規定する手術の休日加算1)
手術の時間外加算1(歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に規定する手術の時間外加算1)

手術の深夜加算 1 (歯科点数表第 2 章第 9 部手術の通則の 9 に規定する手術の深夜加算 1)
胃瘻造設術 (経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)(医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に規定する手術)
輸血管理料 I
輸血適正使用加算
自己生体組織接着剤作成術
自己クリオプレシペート作製術 (用手法)
人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
歯周組織再生誘導手術
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
歯根端切除手術 (歯科用 3 次元エックス線断層撮影装置及び手術用顕微鏡を用いた場合)
麻酔管理料 (I)
麻酔管理料 (II)
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
1 回線量増加加算
画像誘導放射線治療加算 (IGRT)
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算
保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算 2
悪性腫瘍病理組織標本加算
クラウン・ブリッジ維持管理料

3) 入院時食事療養

入院時食事療養 (I)

3. 各学会の認定状況一覧

日本小児科学会 研修施設	日本産科婦人科内視鏡学会 認定研修施設
日本皮膚科学会 研修施設	日本急性血液浄化学会 指定施設
日本精神神経学会 研修施設	日本心血管インターベンション治療学会 研修施設
日本外科学会 修練施設	日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設
日本整形外科学会 研修施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 実施施設
日本産科婦人科学会 指導施設	日本消化器内視鏡学会 指導施設
日本眼科学会 研修施設	日本消化管学会 胃腸科指導施設
日本耳鼻咽喉科学会 研修施設	日本カプセル内視鏡学会 指導施設
日本泌尿器学会 教育施設	日本脳卒中学会 研修教育病院
日本脳神経外科学会 連携施設	経カテーテル的大動脈弁置換術関連学会協議会 実施施設
日本医学放射線学会 総合修練機関	日本脈管学会 研修指定施設
日本麻酔科学会 認定病院	関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施 基準管理委員会 腹部ステントグラフト実施施設
日本病理学会 研修認定施設 B	下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の 実施基準による実施施設
日本形成外科学会 認定施設	日本低侵襲心臓手術学会
飯塚・額田家庭医療プログラム (ver.2.0)	日本透析医学会 認定施設
日本消化器病学会 認定施設	日本臨床細胞学会 認定施設
日本循環器学会 研修施設	日本臨床細胞学会 教育研修施設
日本呼吸器学会 認定施設	心臓血管麻酔学会 基幹施設
日本血液学会 専門研修認定施設	日本総合病院精神医学会
日本神経学会 教育施設	一般病院連携精神医学専門医特定研修施設認定
日本腎臓学会 研修施設	日本総合病院精神医学会
日本肝臓学会 認定施設	一般病院連携精神医学専門医研修施設認定
日本糖尿病学会 認定教育施設 I	日本口腔外科学会 准研修施設
日本内分泌学会 内分泌代謝科認定教育施設	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設
日本リウマチ学会 教育施設	日本膵臓学会 認定指導施設
日本アレルギー学会教育研修施設	日本病院総合診療医学会 認定施設
日本感染症学会 研修施設	日本放射線腫瘍学会 認定施設
日本消化器外科学会 修練施設	インペラ補助循環用ポンプカテーテル実施施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構 基幹施設	関連 10 学会構成日本ステントグラフト実施 基準管理委員会 胸部ステントグラフト実施施設
日本小児外科学会 教育関連施設	トランスサイレチン型アミロイドーシスに対する ビンダケル導入施設
呼吸器外科専門医合同委員会 専門研修基幹施設	生殖医療専門医制度研修連携施設
日本周産期・新生児医学会 基幹研修施設 (新生児)	日本門脈圧亢進症学会技術認定教育施設
日本周産期・新生児医学会 暫定認定施設 (母体・胎児)	日本脳卒中学会 一次脳卒中センター認定
日本婦人科腫瘍学会 指定修練施設	日本脳卒中学会専門医認定制度 研修教育施設
日本手の外科学会 手の外科研修施設	日本核医学会専門医教育病院
日本集中治療医学会 研修施設	日本小児科学会 研修支援施設
日本臨床腫瘍学会 研修施設	日本顎関節症 研修施設
日本 IVR 学会 修練施設	
日本東洋医学会 研修施設	
日本緩和医療学会 認定研修施設	
日本外傷学会 研修施設	
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 エキスパンダー実施施設	
日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 インプラント実施施設	
日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A	
日本乳癌学会 認定施設	
日本がん治療医認定医機構 認定研修施設	
日本腹部救急医学会 認定施設	
日本呼吸器内視鏡学会 認定施設	
日本呼吸療法医学会 専門医研修施設	

4. 私たちの理念・方針

「麻生グループ」詳細は「ASO GROUP VISION BOOK」を参照

Vision（未来像）	安心をカタチに生きがいをデザインする ASO グループ
Mission（使命）	社会システムの変革に貢献する
医療事業拡大の方針	麻生グループが病院経営の事業を拡大する方針について（略）

「飯塚病院」

開設の精神	郡民のために良医を招き、治療投薬の万全を図らんとする
経営理念	WE DELIVER THE BEST ～まごころ医療、まごころサービス それが私たちの目標です～
医療の質方針	日本一のまごころ病院
Mission（使命）	○医療・福祉・行政にも影響を与える情報の発信 ○高い医療サービスと健全経営を両立するモデル病院となる ○地域の医療福祉レベルを向上させ、筑豊のイメージアップに貢献する
院長基本方針 (2015.02)	○社会人としての良識に従い各自の責任を全うすること ○患者中心で質の高い最適医療を実践すること ○医の倫理と良心に従い患者の権利の擁護とプライバシーの保護に努めること ○医療の質の向上と安全管理に努めること ○進取の気に溢れるチーム医療を実践すること ○臨床研修病院として国際水準の教育指導を行うこと ○地域基幹病院として救急医療および先進医療に力を注ぐこと ○保健・医療・福祉・介護機関との緊密な連携を図ること ○地域と地球の環境に配慮すること ○健全経営を基盤とすること
2018-2025 年度 飯塚病院 中長期計画	<p>【病院の 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】 Patient First を追求し、選ばれる高度急性期・急性期病院</p> <p>【視点ごとの 2025 年度ビジョン（あるべき姿）】</p> <p>A) 専門医療：トップレベルの専門医療により、筑豊の高度急性期・急性期医療を担う病院</p> <p>B) 救急外来体制：命を救う要（かなめ）として、筑豊に最も進んだ救急医療を提供する病院</p> <p>C) 質と安全：全職員が医療の質と安全の向上・改善に取り組み続ける病院</p> <p>D) 地域連携：地域の医療機関から信頼され、ともに発展する病院</p> <p>E) 人材力：志のあるスタッフが集い、やりがいを持って成長でき、「ここで働きたい、働けて良かった」と思える病院</p> <p>F) 患者経験価値：患者・家族が、全てのプロセスにおいて、「ここに来て良かった」と思える病院</p> <p>G) 健全経営：全職員が厳しくなる外部環境への危機感を共有し、経営に参画する病院</p>

編集後記

編集後記の目的の一つに、編集時に気づいた修正などを明らかにしておくことがある。

本年度は、編集上の大きな変更点はなかったが、2021年4月に拙文を記述後に「年報2020」の変更がされていたことを書き留めておきたい。

職員として飯塚病院の正式表示とは何かと問われたら、日本語表記は「飯塚病院」であって、巷ではしばしば呼称される「麻生飯塚病院」でないことは周知しておくべきかと思われる。一方英語表記は、海外の医療機関などとの関わりで麻生グループの一員であることを強く打ち出すべきという考えに基づいて「ASO IIZUKA HOSPITAL」であり、この意図があるときの日本語表記は「株式会社麻生 飯塚病院」である。飯塚病院年報は昭和63年の創刊時より、その英語表記は「Annual Report of IIZUKA HOSPITAL」だったが、「年報2020」より表題の英語表記が「Annual Report of ASO IIZUKA HOSPITAL」へと変更になっている。その他、職員数の記載を「医師」と「研修医」と分けて書かれていたものを、医師数に纏めたり、副院長の役職を「副院長」と「特任副院長」とに分ける記述変更が行われた。いずれも院長のご指摘での変更である。

2021年もまたCOVID-19の1年であったと振り返ることができ、p.2-4にて当院で行われた対応がわかる。未知の感染症と対峙する際に標準予防策、感染経路別予防策という感染管理の考え方を理解することが重要だが、PPEの着用により職員の不安が緩和されたということは喜ばしいことである。幸い2021年には院内クラスターは発生せずに済んでいる。

飯塚病院年報の歴史を紐解くと1988年に端を発しているが、ハーバード大学Brigham and Woman's Hospitalとの提携、厚生省研修指定病院認定という二つの出来事で面目を一新したとある。当時は病院概要の項目がないものの、病床数1157床、医師83名、職員数1050名であることが詳細に読み込むと解るが、2021年は、病床数1048床、医師数347名、職員数2467名となっていることがp.226をみると一目瞭然である。COVID-19のような医療の負荷に耐えられる組織に成長したといっても過言ではなかろう。富永喜久男院長の「飯塚病院年報発刊に寄せて」を読むと、「年報は病院の単なる宣伝ではなく、活動状況を正しく伝えるという純粋な動機からのものであること」、「内容の選択、精粗、濃淡、高低に色々、批判は起こる」が「そのようなことは今後、修正して行けば足りることで、そのうち、本誌の“特色”も確立されることであろう。」とある。紙面も増えて記述も詳細となり、年報も成長したといえるだろう。これからも創刊時の精神である、「自画自賛するのは慎み」、良い部分も不十分な部分も含めて「すぐれた内容をもって全院が努力している」ことを示しつつ、「本誌を継続するに値する医療の実践」を記せるものとしたい。

篤信好學 守死善道 (泰伯第八)

清田雅智

飯塚病院年報 第34号

2022年6月発行

編集発行：飯塚病院

〒820-8505 福岡県飯塚市芳雄町3番83号

T E L (0948) 22-3800 (代表)

F A X (0948) 29-5744 (代表)

印刷：フジキ印刷株式会社

〒820-0053 福岡県飯塚市伊岐須490-15

T E L (0948) 29-3177

F A X (0948) 24-5234